

熊本県文化財調査報告 第42集

境古墳群・境遺跡

—熊本県八代市岡町小路—

1 9 8 0

熊本県教育委員会

熊本県文化財調査報告 第42集

境古墳群・境遺跡

—熊本県八代市岡町小路—

1 9 8 0

熊本県教育委員会

序 文

熊本県教育委員会では、九州縦貫自動車道建設に伴ない、日本道路公団の委託により、昭和50年度から昭和54年度にかけて松橋～八代間の埋蔵文化財発掘調査を実施しました。

本報告書は、この間に実施した八代市の「境遺跡、境古墳群」に関するものであります。当初古墳の調査に着手し、周溝の調査を進めるうちに、縄文・弥生時代の遺構、中世・近世の住居址が見つかり、複合遺跡であることがわかりました。

本書が埋蔵文化財に対する認識と理解、さらに学術研究上の一助になれば幸いです。

発掘調査の実施に当たりましては、日本道路公団の御理解と御協力をはじめとして、調査指導の先生、地元の方々からの御協力を賜りました。

ここに心からお礼申し上げます。

昭和55年3月31日

熊本県教育長 井 本 則 隆

例 言

- (1) 本書は、熊本県八代市岡町小路字境所在の境古墳群および境遺跡発掘報告であり熊本県文化財調査報告第42集として刊行するものである。
- (2) 調査は熊本県が九州縦貫自動車道建設工事に伴って、日本道路公団との間で取りかわした「発掘調査委託契約」に基づき熊本県教育委員会が実施したものである。
- (3) 調査は両遺跡を昭和51年11月19日から昭和52年10月31日までの間に実施した。
- (4) 発掘調査は村井真輝・上妻信寛・松本健郎・島津義昭・丸山武水・西田道世・松村道博・倉原謙治が担当した。
- (5) 本報告書の執筆は、村井・丸山が担当し、村井が編集した。
- (7) 中世および近世の陶磁器については、馬場強氏の御教示を得た。
- (8) 出土遺物の整理は、県文化財収蔵庫で行い、整理後の遺物写真は白石巖が撮影した。
- (9) 附論は『年の神2号墳』である。古墳の発掘は松本が当り、整理および執筆は松本・勢田広行が行った。
- (10) 各項執筆者名は文末に記す。

本文目次

第 1 章 序 説

1. はじめに..... 1
2. 周辺遺跡から見た地理的歴史的環境..... 3
3. 調査の経過（調査日誌抄）..... 17

第 II 章 境古墳群の調査

1. 古墳群の現状..... 22
2. 古墳群の調査の方針..... 24
3. 2・3号墳の試掘..... 24
4. 境 2 号 墳..... 31
5. 境 3 号 墳..... 63
6. 境 4 号 墳..... 98
7. ま と め..... 106

第 III 章 境遺跡の調査

1. 調査に至る経過と調査の方針..... 109
2. A地区検出の柱穴群および縄文時代の遺構..... 110
3. 竪穴住居址群..... 123
4. 土師器土器溜..... 139
5. B地区柱穴群..... 144
6. 井戸状遺構..... 152
7. C地区柱穴群..... 168
8. B・C地区検出の土塚墓..... 229
9. 製鉄遺構（炉址）..... 234
10. ま と め..... 234

附録 年の神 2号墳

挿 図 目 次

第1図	八代平野地区区分図	5
2	八代平野東縁部の古墳分布図	6
3	江戸時代の八代郡	21
4	境2・3・4号墳・境遺跡地形図	23
5	境2・3号墳トレンチ配置図	25
6	境2号墳トレンチ断面図	26
7	境2・3号墳トレンチ断面図	27
8	境2号墳周溝全体図	29
9	境2号墳東側周溝・前庭部遺物出土状態	30
10	境2号墳石室実測図	33
11	境2号墳（前庭部）出土遺物（須恵器）	35
12	境2号墳（東側周溝）出土遺物（須恵器・土師器）	36
13	境2号墳出土遺物（須恵器・土師器・石鍋）	40
14	境2号墳出土遺物（瓦質土器・近世陶磁器）	43
15	境2号墳出土遺物（近世陶磁器・その他）	45
16	境2号墳出土遺物（鉄製品）	46
17	境2号墳出土遺物（飾身具）	47
18	境3号墳石室検出状態	63
19	境3号墳出土遺物（須恵器）	65
20	境3号墳出土遺物（須恵器）	69
21	境3号墳出土遺物（須恵器・土師器・石鍋・瓦）	72
22	境3号墳出土遺物（瓦質土器）	74
23	境3号墳出土遺物（瓦質土器・その他）	76
24	境3号墳出土遺物（青磁・白磁）	78
25	境3号墳出土遺物（近世陶磁器）	80
26	境3号墳出土遺物（近世陶磁器）	83
27	境3号墳出土遺物（近世陶磁器）	85
28	境3号墳出土遺物（近世陶磁器）	86
29	境3号墳出土遺物（近世陶磁器）	88
30	境3号墳出土遺物（磨石・砥石）	89
31	境4号墳平面図	98
32	境4号墳第1トレンチ断面図	99

第33図	境4号墳第Ⅱ・Ⅲトレンチ断面図	100
34	境4号墳出土遺物(須恵器)	101
35	境4号墳出土遺物(近世陶磁器・瓦質土器)	102
36	境4号墳出土遺物(石器)	103
37	境遺跡(A地区)検出の柱穴群	111
38	境遺跡・縄文土器出土状態(A地区A-3グリッド)	113
39	境遺跡(A・C地区)出土遺物(縄文式土器)	115
40	境遺跡(A地区)検出の縄文式土器	117
41	境遺跡(A地区)出土の遺物(石器)	118
42	境遺跡(A地区)境2号墳出土遺物(石器)	120
43	境遺跡(A地区)出土遺物(染付・白磁・瓦質土器)	121
44	境遺跡(A・C地区)出土遺物(石臼・その他)	122
45	境遺跡竪穴住居址・土師器土器溜位置図	123
46	境遺跡1.2.3.4号竪穴住居址位置図	124
47	1号竪穴住居址	125
48	1号竪穴住居址出土遺物(青磁・瓦質土器)	125
49	2号竪穴住居址	127
50	2号竪穴住居址出土遺物(土師器)	128
51	3号竪穴住居址	130
52	3号竪穴住居址出土遺物(弥生式土器)	131
53	3号竪穴住居址出土遺物(石包丁)	133
54	4号竪穴住居址	134
55	4号竪穴住居址出土遺物(土師器)	135
56	5号竪穴住居址	137
57	6号竪穴住居址	138
58	土師器土器溜検出状態	140
59	土師器土器溜(C地区4-ハグリッド)出土遺物	141
60	土師器土器溜(C地区4-ハグリッド)出土遺物	142
61	B・C地区柱穴群全図	146
62	B地区柱穴群(南半分)	147
63	B地区柱穴群(北半分)	148
64	境遺跡(B地区)出土遺物(近世陶磁器・瓦質土器・石鍋)	149
65	境遺跡(B地区)出土遺物(鉄製器・その他)	151
66	井戸状遺構検出状態	153
67	井戸状遺構断面図	155

第68図	井戸状遺構掘り方と遺物出土地点	156
69	井戸状遺構出土遺物(須恵器)瓦質土器・(近世陶磁器)	158
70	井戸状遺構出土遺物(近世陶磁器)	159
71	井戸状遺構出土遺物(近世陶磁器・その他)	161
72	井戸状遺構出土遺物(砥石)	162
73	井戸状遺構出土遺物(砥石)	163
74	井戸状遺構出土遺物	164
75	井戸状遺構出土遺物	165
76	井戸状遺構出土遺物	167
77	C地区柱穴群(Lpit・Spit)	169
78	C地区柱穴群(Lpit)	170
79	C地区柱穴群(Spit)	171
80	境遺跡(C地区)出土遺物(6-ロ~5-ハグリッド)	175
81	境遺跡(C地区)出土遺物(6-ヘ~6-ニグリッド)	176
82	境遺跡(C地区)出土遺物(7-ニ~8-ハグリッド)	177
83	境遺跡(C地区)出土遺物(8-ニ~9-ニグリッド)	178
84	境遺跡(C地区)出土遺物(9-ニ~7-ホグリッド)	181
85	境遺跡(C地区)出土遺物(9-ホ~9-ヘグリッド)	182
86	境遺跡(C地区)出土遺物(10-ヘ~9-トグリッド・試掘溝)	185
87	境遺跡(C地区)出土遺物(11-ハ・ニ・ホグリッド・一括)	186
88	境遺跡(C地区)出土遺物(菜研)	187
89	境遺跡(C地区)出土遺物(石器・石製品)	188
90	境遺跡(C地区)出土遺物(砥石)	196
91	境遺跡(C地区)出土遺物(金属器)	197
92	境遺跡第1・2号土塚墓実測図	229
93	第3・4・5・6号土塚墓配置図	230
94	第3・4・5・6号土塚墓実測図	231
95	境遺跡(土塚墓)出土遺物	232
96	製鉄遺構(炉址)	233
附論第1図 遺跡位置図		
	1	(1)
	2	(2)
	3	(4)
	4	(5)
	5	(6)
	6	(7)
	7	(7)

表 目 次

第1表	八代平野における縄文時代遺跡地名表 (大野川以南、球磨川以北)	7
2	八代平野における弥生式土器出土地名表 (大野川以南、球磨川以北)	8
3	八代平野東縁部に存在する古墳名一覧表	9
4	境2号墳出土遺物一覧表	49
5	境3号墳出土遺物一覧表	91
6	境4号墳出土遺物一覧表	104
7	1号竪穴住居址出土遺物一覧表	126
8	2号竪穴住居址出土遺物一覧表	129
9	3号竪穴住居址出土遺物一覧表	132
10	4号竪穴住居址出土遺物一覧表	136
11	柱穴からの出土遺物の一例	174
12	境遺跡(B・C地区)出土遺物一覧表	198
13	境遺跡(B・C地区)出土遺物一覧表	220

図版目次

- 図版1 境1号墳
2 境2号墳
3 境2号墳 玄門・周溝
4 境2号墳 周溝
5 境2号墳 遺物出土状態
6 境3号墳
7 境4号墳
8 A地区発掘状態
9 1・2号竪穴居址
10 3・4号竪穴住居址
11 B地区発掘状態
12 B地区検出の柱穴群
13 B地区検出の溝
14 井戸状遺構
15 井戸状遺構
16 C地区遠望
17 C地区検出の柱穴群
18 C地区検出の柱穴
19 土塚墓・製鉄遺構
20 C地区発掘状態
21 C地区土層の観察
22 境2号墳出土遺物（須恵器）
23 境2号墳出土遺物（須恵器）
24 境2・3号墳出土遺物（須恵器）

- 附論図版1 年の神遺跡群全景・年の神
1号
2 墳年の神2号墳石室

- 図版25 境2号墳・境遺跡出土遺物（飾身具
・武具・鉄器）
26 境3号墳出土遺物（須恵器）
27 境3号墳出土遺物（須恵器）
28 境3号墳出土遺物（須恵器・土師
器）
29 3・4号竪穴住居址出土遺物
30 土師器土器溜出土遺物
31 境3号墳出土遺物（青磁・白磁）
32 境3号墳出土遺物（瓦質土器）
33 境3号墳・境遺跡出土遺物
34 境遺跡（A・C地区）出土遺物（縄
文土器）
35 境遺跡（A・C地区）出土遺物（縄
文土器）
36 境3・4号墳・境遺跡出土遺物（石
器）
37 境遺跡出土遺物（磨石・砥石）
38 境遺跡出土遺物
39 境2・3号墳出土遺物（近世陶磁
器）
40 境遺跡出土遺物（染付・他）
41 境遺跡出土遺物（近世陶磁器）
42 境2・3号墳出土遺物（近世陶磁
器）

- 附論図版1 年の神遺跡群全景・年の神1号
墳
2 年の神2号墳石室
3 年の神2号墳石室
4 年の神2号墳出土遺物

第 I 章 序 説

1. はじめに

九州縦貫自動車道建設に伴う埋蔵文化財調査について、熊本県と日本道路公団との契約に従って、熊本県教育委員会は、昭和51年11月19日から昭和52年3月31日まで『境古墳群（2・3・4号墳）』の発掘調査を実施した。調査途中（3月中旬）に縄文時代の遺物、弥生時代以後の竪穴住居址、柱穴列を検出し、これまで知られていない遺跡の存在することが明らかになった。この遺跡に『境遺跡』と名称を与えた。

『境遺跡』は新発見の遺跡であるので、昭和52年度事業として昭和52年4月1日から同年10月末まで発掘調査を行った。

遺構の発掘及び遺物の整理については松本雅明氏（元熊本大学文学部教授）、乙益重隆氏（国学院大学文学部教授）、三島格氏（元福岡市立歴史資料館館長）、馬場強氏（長崎県立美術博物館調査員）、佐藤伸二氏（国立八代工業高等専門学校講師）の指導助言を得た。

関連資料については、江上敏勝氏、富樫卯三郎氏、平山修一氏、高木恭二氏の協力を得た。報告書作成に関して、遺物の整理、洗浄、接合修復、写真撮影、拓本、実測等については、本県文化財収蔵庫で行った。

調 査 の 組 織

調査の責任者	岩崎辰喜	文化課課長（昭和53・54年度）
	合志太助	文化課課長（昭和52・53年度）
	境信三郎	文化課課長（昭和51年度）
	田辺宗弘	文化課課長補佐（昭和54年度）
	真弓袈裟勝	文化課課長補佐（昭和53・54年度）
	田中繁	文化課課長補佐（昭和52・53年度）
	河野宗忠	文化課課長補佐（昭和51年度）
	前田利郎	文化課課長補佐（昭和51年度）
	上野辰男	文化課主幹
	隈昭志	文化課文化財調査係長
調査事務担当者	村上孝司	文化課管理係長（昭和54年度）

調査事務担当者	望野正雄	文化課管理係長（昭和53・54年度）
	松本巽	文化課管理係長（昭和51・52年度）
調査指導助言者	松本雅明	元熊本大学文学部教授
	乙益重隆	国学院大学文学部教授
	三島格	元福岡市立歴史資料館館長
	馬場強	長崎県立美術博物館調査員
	佐藤伸二	国立八代工業高等専門学校講師
	江上敏勝	八代市文化センター準備室
資料提供協力	富樫卯三郎	肥後考古学会会長
	平山修一	宇土市教育委員会社会教育課主事
	高木恭二	宇土市教育委員会社会教育課主事
調査担当者	村井真輝（文化課技師）	上妻信寛（文化課技師）
	松本健郎（文化課技師）	島津義昭（文化課学芸員）
	丸山武水（文化課調査員）	西田道世（文化課調査員）
	松村道博（文化課調査員）	倉原謙治（文化課調査員）
	下村悟史（文化課調査員）	清田純一（熊本商大生）
遺物写真撮影	白石巖（文化課調査員）	
地元協力者	八代市教育委員会	
	旧地権者各位	

2. 周辺遺跡から見た地理的歴史的環境

境古墳群・境遺跡は鞍ヶ岳の西麓のゆるやかな斜面に存在する。当遺跡の行政区は八代市岡町小路である。境2号墳の北側を流れる弥勒川を越えると八代郡宮原町早尾であり、両市町の境界に近接する。

岡町小路は八代市に合併する以前は竜峰村に属していた。竜峰村は明治22年(1889)に6つの村(岡小路村、岡中村、岡谷川村、興善寺村、東川田村、西川田村)が合併して生まれた。旧竜峰村の集落は鞍ヶ岳(海拔541.8m)竜峰山(海拔517.2m)の西麓にそってあり、南北約3km、東西約2.3km、面積約9km²という小村であった。東は東陽村と八代市、西は千丁町、南は八代市、北は宮原町に相接しているため、昭和30年代の初め村民あげての討議を経て八代市と合併した。

旧竜峰村には大きな川はなく、竜峰山系の山はだから流れでる小さい谷川が幾すじもある。これ等の河川の平常時の水量は少ないが勾配が大きいため、台風の到来や梅雨の時にはたびたび氾濫し、多大の被害を村民に与えている。

これ等の小河川は山体の麓に扇状地を多く作り出し、その扇状地どうしがつながった形になっている。それ等の扇状地上に集落が形成されたと見なされる。

ところで境古墳群・境遺跡が位置する八代平野東縁部の遺跡を第1図の地区区分に従って述べてみよう。

第2図は『五ツ穴横穴群』^{註1}の第1章で島津義昭が八代平野周辺の古墳分布について述べる時に『肥後上代文化史』^{註2}からヒントを得て、八代平野を7地区に分けたものである。

- (1) **A地区** 松橋町の南半と小川町に相当する。すなわち、大野川より南、砂川より北の地域で、東は標高200~250mの山塊に限られている。山麓の丘陵は発達せず、すぐ平坦面に移行する。山麓に湧水が多く見られ、貯水池が築かれている。
- (2) **B地区** 砂川から南、氷川までの地域、大略竜北町域に一致するが、一部氷川の右岸が宮原町に含まれる。この地区の丘陵地の背後(東側)には、大きな開析谷が発達している。
- (3) **C地区** 氷川の左岸、宮原町早尾までの地域で、B地区と同様開析谷の発達が著しく、低丘陵が多くみられる。
- (4) **D地区** 竜峰山の北西山麓、竜峰村中に相応する。山麓には発達の進んだ開析谷が多くみられる。
- (5) **E地区** D地区から球磨川右岸にかけての地区で、竜峰山の西南山麓部と球磨川の右岸三角州地帯に相応する。この地区は古代にあっては、球磨川の運んだ多量の土砂により、かな

り西方まで三角州が発達したらしい。

- (6) **F地区** 球磨川から南、日奈久までの地域。北東部から東西に走る直線上の山麓線は中央構造線の南端部（八代・臼杵断層線）に相当する。古代の平野は山麓寄りの小地域である。
- (7) **G地区** 八代平野の西端に存する島状の地区で、かつては島であった。北から産島、大島、高島、小風蔵、大風蔵、水島などがある。ほとんどの島に古墳が築造されている。

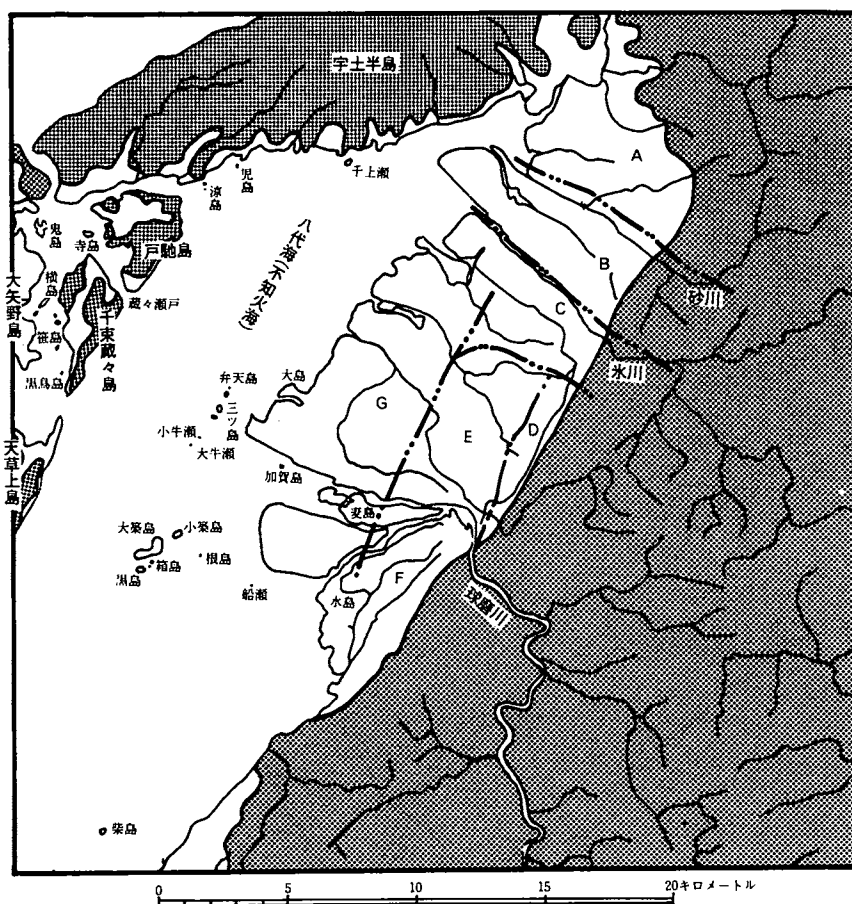
第2図に示された八代平野地区内における縄文時代および弥生時代の遺跡名を第1・2表に示す。縄文時代の遺跡は氷川以北（A・B地区）に著名なものが多い。氷川以南（C・D・E・F・G地区）においては、有佐貝塚以外は小規模の遺跡しか見られない。旧竜峰村においては興善寺の集落（上野医院附近）から磨製の石器と打製の石器片が採集されている。

弥生時代の遺跡は、大野川以南には宇土市やその以北におけるような大規模な遺跡は現時点においては調査されていない。しかも南下するにしたがって、弥生時代の遺跡は少なくなってくる。しかし、松橋町久具遺跡のごときは村落の中に存在し、踏査すると弥生末から中世頃までの土器片が採集され、地元民の話では土器片が多量に出土する畑が有るとのことである。また、八代市井上町鐘楼堂の水田の改良工事中に夜臼式土器や弥生式土器が出土しているので今後の調査が待たれる。その他、球磨川の作り出したデルタには、弥生時代から中世にかけての遺跡が見られる。これ等八代平野における縄文時代、弥生時代の遺跡の分布については、『竜北村史』^{註3}に江上敏勝氏が大きく頁をさいて述べられている。

以上述べたように、八代地方特にD地区には宇土市以北に存在するような大きな縄文時代や弥生時代の遺跡は知られていない。これに反して古墳時代になると第2図に示すように、華を競うように古墳文化が栄える。古墳名は第3表に示す。これ等分布する古墳の数について『竜峯村史』^{註4}には『…その数（古墳の数）はわかっているだけでも150基以上にのぼり、失われたものを加えると200基を上回るといわれ…』と伝える。また旧竜峰村における古墳の分布の状態について、同村史は『東川田の一带では沖積平野部に墳丘をもった円墳や前方後円墳が列をなしているのに対して、竜峰山地の傾斜面には石室墳だけが顕著に見られる。おそらく平野部の古墳と山麓の古墳は年代と系統を異にするものであることがうかがわれる。』と言っている。

同村史がいうように八代郡宮原町から八代市岡町にかけての竜峰山系の西麓斜面には巨石墳が多数分布しているが、川田町東より南の八代市川田町西（竜峰小学校校区）、八代市宮地小学校校区・太田郷小学校校区の沖積平野の水田の中に高塚古墳群（円墳、前方後円墳）が分布する。このことは球磨川がつくったデルタの形成過程と深いかわりあいがあると思われる。

奈良時代にいたっては興善寺町に興善寺が建立され、寺院比定地からは布目瓦は言うに及ば



第1図 八代平野地区区分図

ず、他に多数の遺物が発掘されている。また竜北町高野道と八代市上片町片野川には駅家が置かれたと推論され、岡町一帯は地方政庁存在地に近接した地帯であったと思われる。

室町時代においては、南北朝の争乱以後、名和氏、相良氏、島津氏が入り乱れての戦乱に明けくれた地域であった。江戸時代になり1国1城の制となったが、薩摩に対する軍事的な要所としての八代城は存続された。経済的には干拓による耕地の拡大と人口の増加に従って八代の町は繁栄し、当遺跡近くの集落は、都市近郷農村として拡大した。第3図に近世の八代郡の地⁵図を示す。

(村井)

- | | | | | |
|----|-------------------------|-----------------|-------|-------------|
| 注1 | 五ツ穴横穴群 | 熊本県文化財調査報告書第34集 | 1979年 | 熊本県教育委員会 |
| 2 | 肥後上代文化史 | 乙益重隆 | 1954年 | 日本談義社 |
| 3 | 竜北村史 | | 1973年 | 八代郡竜北村教育委員会 |
| 4 | 竜峯村史 | | 1961年 | 八代郡竜峰村教育委員会 |
| 5 | 肥後国誌・補遺・索引『肥後国絵図・八代郡之図』 | | 1972年 | 青潮社 |
| 6 | 熊本県の条里 | 熊本県文化財調査報告書第25集 | 1977年 | 熊本県教育委員会 |

第1表 八代平野における縄文時代遺跡名表
(大野川以南・球磨川以北)

※ 本表は熊本県埋蔵文化財包蔵地一覧表(県文化課所蔵)竜北村史(昭和48年)中の江上敏勝作成の遺跡一覧表、島津義昭および江本直の御教示を基として作成した。

No	遺 跡 名	所 在 地	備 考
1	上久具貝塚	下益城郡松橋町久具堂前	黒川式系土器・石礫出土
2	仲間貝塚	松橋町両仲間仲間	阿高式土器・石礫出土
3	宮島貝塚	松橋町両仲間掛崎	縄文前期の土器・弥生式土器出土・水田中の微高地上・浅川(二級河川)の流域
4	中小野貝塚	小川町中小野尾崎	縄文中・後期の土器出土
5	四ッ江貝塚	八代郡竜北町吉本道添	縄文前・中期の土器(曾畑式・轟式・南福寺式・阿高式・三万田式等)出土
6	土穴瀬貝塚	竜北町高塚土穴瀬	縄文前・中期の土器(曾畑式・出水式・阿高式・御手洗式)の外に土師器・須恵器も出土
7	段貝塚	竜北町高塚段653	縄文後・晩期の土器出土
8	西平貝塚	竜北町高倉谷郷	縄文早・前・中・後・晩期の土器・石器・獣骨・人骨出土、資料は町立社会教育センター・熊本博物館に保存
9	大野貝塚	竜北町高塚礪原	縄文中・後期の土器(阿高式・出水式・南福寺式等)・石器・貝釧出土、明治12年E・S・モース氏とライマン氏調査
10	有佐貝塚	八代郡鏡町有佐大塚	縄文中・後期の土器(阿高式・出水式・御手洗式)・摩製石斧出土、三島格氏他調査
11	産島貝塚	八代市昭和同仁町産島	縄文早・前期の土器(押型文・曾畑式・ワクド式・黒川式)・獣骨出土
12	郡築十二番町遺跡	八代市郡築12番町29.118	縄文後期の土器・磨製石斧・鹿の角出土
13	鐘楼堂遺跡	八代市井上町鐘楼堂	縄文晩期(夜臼式)の土器・石器出土
14	—	八代市興善寺町 (上野医院附近)	縄文中期以後 磨製石斧(3)打製石器等出土、竜峯村史に紹介
15	岩立C古墳	八代郡宮原町立神字岩立	縄文早・前期 墳丘下部から押型文土器・轟式土器および集石遺構を検出した。(S51年夏)
16	立神ドク遺跡	八代郡宮原町立神	旧石器・縄文早期の包含層を発掘(S51年夏)
17	平原瓦窯址	八代郡宮原町平原	瓦窯址発掘中縄文前期の遺物包含層を検出(S51年)
18	境遺跡	八代市岡町小路字境	縄文前期の土器出土(S52年)

(村井)

第2表 八代平野における弥生式土器出土地

地名表（大野川以南・球磨川以北）

※ 本表は熊本県文化財包蔵地一覧表（県文化課所蔵）竜北村史（昭和48年）中の江上敏勝執筆の「八代の弥生遺跡」、緒方勉の御教示を基として作成した。

No	遺跡名	所在地	備考
1	一丁畑遺跡	松橋町久具一丁畑	弥生後期の土器の外土師器、石器類多量に出土、戦前に石棺も出土したと云う。
2	宮島貝塚	松橋町両仲間掛崎	弥生中期 縄文時代の貝塚
3	豊福城跡	松橋町豊福上城・下城	弥生中期 中世城として有名だが石礫、須恵器、土師器も散布する。
4	高倉遺跡	小川町北部田高倉	弥生後期（野辺田式、免田式）農業貯水池内および周辺に遺物散布
5	小野立田遺跡	小川町南小野立田	弥生後期 高倉遺跡と時代的には大差なし。小野部田小学校校庭
6	有佐貝塚	鏡町有佐大塚	弥生中期（須玖式）有佐大塚古墳（前方後円墳）である。
7	産島貝塚	八代市昭和同仁町産島	弥生中・後期（黒髪式・免田式）、縄文時代の貝塚、箱式石棺3基
8	竹原町遺跡	八代市竹原町	弥生後期（西新町式・野辺田式）須恵器・土師器出土、熊本労災病院敷地内
9	鐘楼堂貝塚	八代市井上町鐘楼堂	弥生中・後期（黒髪式）須恵器・土師器出土
10	白石貝塚	八代市日置町白石2365	弥生中・後期（黒髪式）、須恵器・土師器・瓦（平安時代）出土・通称姫屋敷
11	沖片遺跡	八代市西片町辻	弥生中・後期（黒髪式・野辺田式）人骨（3体）・須恵器・土師器出土
12	東川田遺跡	八代市川田町東	弥生式土器の壺、砂岩製の磨製石斧出土
13	西片町遺跡	八代市西片町	弥生中・後期（須玖式・黒髪式・野辺田式）
14	長田町遺跡	八代市長田町一本橋	弥生中期（黒髪式）岩偶（軽石製）・須恵器・土師器出土
15	荒神塚遺跡	八代市宮地町石原	弥生中期（黒髪式）叩石・須恵器も出土・塚は消滅
16	境遺跡	八代市岡町小路字境	弥生後期 免田式土器を出土した住居址検出

（村井）

第3表 八代平野東縁部に存在する古墳名一覧表

※ 本一覧表は島津義明踏査記録、熊本県埋蔵文化財包蔵地一覧表（県文化課所蔵）竜峰村史、上野辰男の御教示を基として作成した。

No	第2 図 番 号	古 墳 名	所 在 地	単室の巨 石を使用 した横穴 式古墳	備 考
1		孤 塚 古 墳	松橋町両仲間孤塚		畑の中に巨石一枚残存する。
2	1	豊 福 古 墳	下益城郡松橋町豊福栗迫	○	石室露出
3	2	年 の 神 古 墳 (竹崎古墳)	” 竹崎年の神	○	石室露出、倒潰している。結晶質石灰岩他 数種の岩石を使用
4	3	北 平 古 墳	小川町北小野	▲	二枚の巨石が残存する。松本健郎御教示に よる。
5	4	年 の 神 1 号 墳	”	●	昭和33年9月富樫卯三郎・松本雅明調査・ 20体近くの人骨出土、昭和34年5月熊本史 学15・16号に報告
6	5	” 2 号 墳	”	▲	昭和48年県文化課調査(松本健郎担当)、石 室の前半は欠失しているが1号墳にきわめ て類似する。熊本史学15・16号にも記載あ り。本書附論(松本・勢田執筆)
7	6	山 中 古 墳	小川町東小川山中		
8	7	梶毛林 1 号 墳	小川町東小川楮屋林		
9	8	” 2 号 墳	”		
10	9	樋 渡 古 墳	小川町東小川樋渡		
11	10	権 内 古 墳	八代郡竜北町高塚笠松		後期円墳、石材露出
12	11	—	八代郡竜北町高塚		道路側に古墳の石材が存在する。
13	12	高 塚 古 墳	八代郡竜北町高塚西新城		土師器片出土、花岡興輝氏調査、方形周溝墓
14	13	東 新 城 古 墳	” 東新城		前方後円墳
15	14	太 尾 古 墳	竜北町大野太尾		鉄鏃、ひな形鉄斧、刀子、剣出土
16	15	六 反 田 古 墳	竜北町大野六段田1501		大円墳1基、横穴式石室墳

No.	第2 図 番 号	古 墳 名	所 在 地	巨用 石を 使用 した 横穴 式古墳	備 考
17	16	大野窟古墳	竜北町大野芝原1963		横穴式石室の大きさは九州で屈指、『熊本県八代郡大野窟古墳』三島格執筆五ツ穴横穴群1979熊本県教育委員会、九州考古学第19号1963九州考古学会
18	17	古窟古墳	〃		大野窟古墳と隣接、主体部不明
19	18	本山古墳群	〃 本山		円墳？、1号墳破損、2号墳舟形石棺
20	21	姫の城古墳	竜北町大野北川181の4-5		県指定前方後円墳、『野津古墳群』乙益重隆氏執筆、石人石馬研究会墳丘実測、五ツ穴横穴群1979熊本県教育委員会
21	22	物の見櫓古墳	竜北町野津下北山王146		同 上
22	24	中の城古墳	竜北町野津上北山王 88の14		同 上
23	25	端の城古墳	竜北町野津上北山王		同 上
24	23	天提古墳	竜北町大野天提		小型前方後円墳、消滅、石製品出土（衣蓋）
25	18	永田古墳群	竜北町大野永田		小円墳群
26	26	上北山王古墳	竜北町野津上北山王		舟形石棺
27	19	飛石石棺	竜北町大野飛石		箱式石棺墓
28	20	(仮称、大野 飛石古墳群)	竜北町大野飛石		小円墳3基、有田氏所有地内に存在する。
29	45	野津第5号墳	竜北町野津上 北山王171の2		消滅、石製衣蓋、須恵器出土
30	44	岩立A古墳	宮原町立神字岩立		円墳 九州縦貫自動車道関係文化財調査報告書1971熊本県教育委員会
31	43	岩立B古墳	〃		円墳 墳丘の一部と石材1枚を残す。同上
32	42	岩立C古墳	〃	●	円墳 埴輪出土、昭和51年調査、消滅、『五ツ穴横穴群』1979熊本県教育委員会 同上
33	27	下溝口第1号墳	宮原町下立神溝口		円 墳

No	第2 区 番 号	古 墳 名	所 在 地	巨用穴 式古墳 の石室 を使用した	備 考
34	28	下溝口第2号墳	宮原町立神下溝口		円墳
35	29	下溝口第3号墳	〃		円墳
36	40	馬原第1号墳	宮原町立神馬原	○	円墳 石室に凝灰岩を使用
37	39	馬原第2号墳	〃		
38	38	馬原第3号墳	〃		円墳
39		馬原第4号墳	〃		円墳
40		馬原第5号墳	〃		円墳
41	37	立神本村1号墳	宮原町立神本村		円墳
42		立神本村2号墳	宮原町立神本村		円墳
43	34	滑川第1号墳	宮原町立神滑川		円墳
44		滑川第2号墳	〃		円墳
45		滑川第3号墳	〃		円墳
46	47	花立山古墳群	宮原町立神下桂木		
47	30	蓄園第1号墳	宮原町立神蓄園		円墳 『宮原町郷土誌』1959宮原町公民館
48		蓄園第2号墳	〃		円墳
49		蓄園第3号墳	〃		円墳
50		蓄園第4号墳	〃		円墳

No.	第2 図 中 号 番	古 墳 名	所 在 地	墓室の巨用穴 石を使用した 式古墳	備 考
51	31	園の迫第1号墳	宮原町立神園の迫		須恵器、円筒埴輪出土『宮原町郷土誌』 1959宮原町公民館
52	32	園の迫第2号墳	〃		
53	35 ・ 36	九十九塚古墳群	宮原町立神内迫		
54	33	立神川上古墳	宮原町立神川上		
55	48	室の山第1号墳	宮原町今字室		舟形石棺
56		室の山第2号墳	〃		舟形石棺
57	49	桜ヶ岡古墳群	宮原町宮原村木片原		
58	50	一と口坂古墳	宮原町早尾平原一と口坂	●	玄門の一部露出『宮原町郷土誌』1959宮原 町公民館
59	52	平原古墳	宮原町早尾平原		
60	53	大王山第1号墳	宮原町今大王山		
61	54	大王山第2号墳	〃		
62	55	大王山第3号墳	〃		県指定舟形石棺
63	56	峰薬師古墳	宮原町早尾今宮		
64	58	椿古墳	宮宮原町椿山下		
65	65	原田古墳	宮原町中島原田		宮原町において当古墳のみが平野の中に存 立する。
66	51	千椿古墳	宮原町椿小越		
67	59	小越古墳	宮原町椿小越		

No.	第2 区 番 号	古墳名	所在地	単室の巨 形を被用 した式古 墳	備考
68	57	大明神古墳	宮原町柵山下		
69	66	有佐大塚古墳	八代郡鏡町有佐大塚		前方後円墳、縄文中期の貝塚、割石小口積石室、円筒埴輪、三島格氏調査（昭和40年頃）富樫卯三郎氏調査（昭和52年）
70	63	境1号墳	八代市岡町小路境	△	石室の天井部陥没
71	60	境2号墳	〃	○	昭和52年度調査、石室移転復元本書に報告
72	61	境3号墳	〃	△	〃 本書に報告
73	62	境4号墳	〃	△	〃 消滅 本書に報告
74	64	岡城古墳	八代市岡町中古城620		昭和8年頃国道3号線工事の際に破損、船型石棺と推定される。
75	67	岩屋本古墳	八代市岡町中野中上1695	△	横穴式石室、小型、幅1.25m主軸の方向は西に約30°傾く。
76	68	平原1号墳	八代市岡町平原1503	△	玉泉寺の上にあたる畑の中に板状の石1枚残存する。
77	69	平原2号墳	〃 1504		旧観を存しないほどに破損
78	70	平原3号墳	〃 1510	△	石材残存
79	71	平原4号墳	〃 1539の2	△	石材が残存する。
80	74	行西1号墳	八代市岡町中行西1111	○	羨道奥行1.10m幅1.60m高さ1.30m、玄室奥行3.35m幅1.68m高さ1.93m中村三生氏宅の屋敷内にあり、自然石と切石を伴用して石室を構築昭和15年頃鉄地金銅張り馬具残欠出土
81	75	行西2号墳	〃 1115		森本義次氏宅地内にあり、側壁は8枚の板状石を使用して前室と後室を構成する。前室奥行1.45m幅1.65m高さ1.52m後室奥行4.10m幅1.60m天井までの高さ1.60m主軸はほぼ南北
82	76	行西3号墳	〃 1118	○	石室奥行4.78m幅1.50m高さ1.45m盛り土の一部残存する。
83	78	行西4号墳	〃 1130	○	盛り土残存する。自然の巨石を用いた石室幅2m
84	72	玉泉寺1号墳	八代市岡町中行西	△	昭和51年調査、石室掘り方と周溝検出須恵器（7C前半）土師器『玉泉寺古塔碑群』1980熊本県教育委員会

No.	第2 区 番 号	古墳名	所在地	石室の巨用 石を使用した 式古墳	備考
85	73	玉泉寺2号墳	八代市岡町中行西	△	昭和51年調査、石室掘り方と周溝検出須恵器(7C前半)土師器
86	77	山口第1号墳	八代市岡町中山口9030-2	○	石材3枚が残存、石室幅1.7m全体の大きさ不明
87	79	山口第2号墳	〃 1091	○	江戸時代の種山手永会所の跡、石材が露出
88	80	山口第3号墳	〃 1087	△	観音堂の裏手に石材が残存
89		山口第4号墳	〃 1096	△	石室が存在したが石材業者により八代市内に運ばれた
90		山口第5号墳	〃 1097		畑に古墳の石室らしいものが埋没していると伝えるが、外見上は確認できない
91	82	如見第1号墳	八代市岡町谷川如見1358		標高約150m以上の地点にあり、長さ2.55m幅0.55m深さ0.75cmの箱式石棺状を呈する。棺身は板石を鱗ぶきに組んで箱形にこしらえ、蓋石の代りに板石を持ち送り式に組立て屋根のようにする。
92	83	如見第2号墳	〃 1392	○	稲荷さん古墳、石室露出、稲荷神社の小祠に転用奥行2.27m幅1.90m高さ1.30m扉石残存
93	87	門前第1号墳	八代市岡町谷川門前 1254-3		『古墳発現記録』『古塔調査録』前方後円墳、内行花文鏡、変形獣首鏡出土、割石小口積横穴式石室墳と推定される。明治17年組合式箱式石棺発見
94	86	門前第2号墳	〃 1250-3	△	装飾古墳(円心円文)
95		門前第3号墳	〃	△	完全消滅、痕跡もない
96	81	谷川第1号墳	八代市岡町谷川谷川1167	○	板状自然石使用、横穴式単室墳、主軸の方向はほぼ南北奥行4.6m幅2.1m天井までの高さ1.5m封土消失
97	85	谷川第2号墳	〃 1159	○	五枚の板状の岩を加工して使用、横穴式単室墳、主軸の方向はほぼ南北奥行5.75m幅2.20m天井までの高さ1.70m
98	88	谷川第3号墳	〃 1149	△	全体的に損傷著しい。石室の奥行、高さ不明、幅1.95m主軸の方向は第1.2号墳とほぼ同じ
99	84	清水古墳	八代市岡町谷川清水1422	○	石室露出、周溝なし、3区の葬床を持つ、昭和53年文化課調査(松村担当)『清水古墳』1980熊本県教育委員会
100	91	車塚	八代市川田町東車塚		消滅(同名の塚2基あり、1基は完全に消滅、他は畑となり1部残す。実態不明)
101		銭塚	〃		前方後円墳昭和53年文化課調査(江本担当)『車塚古墳』1980熊本県教育委員会

No.	第2 図 中 番 号	古 墳 名	所 在 地	巨 穴 式 墳 の 使 用 を し た 単 室 墳	備 考
102	95	川上 第1号墳	八代市川田町東川上	△	結晶質石灰岩の巨石から成る横穴式単室墳、袖石なし、主軸の方向はほぼS-40°-W奥行3.9m、幅1.5m天井までの高さ0.8m、入口の幅2.3m
103	94	川上 第2号墳	” 1521	△	結晶質石灰岩や他の岩石の巨石から成る横穴式単室墳、全体の奥行4.5m、幅1.6m、天井までの高さ1.4m、入口の幅1.1m入口から約1.8mの奥に左右対称の袖石あり、
104	96	川上 第3号墳	” 1521	△	石室はすっかりこわれている。盗掘にあい副葬品その他の遺物残存せず。
105	92	岡塚 第1号墳	八代市川田町東岡139		岡の坊古墳、前方後円墳、主軸の長さ約40m、前方部市約20m主体部は完全に消滅、中期の古墳の様式をうけつぐであろう。
106	93	岡塚 第2号墳	” 30		前塚、円墳、東西径7.7m南北径12.3m高さ約3m弱内部主体不明、中期古墳の様式を踏襲するものであろう。
107	97	西川田第1号墳	八代市川田町西前田		墳丘は変形しているが現存する。
108	98	西川田第2号墳	”		
109	99	西川田第3号墳	八代市川田町西前田		円墳、廿数年前まで残存したが完全に消滅
110	89	興善寺久塚古墳	八代市興善寺町久塚		
111	100	やぶ天神古墳	八代市東片町	○	石材露出 石室上に祠あり。
112	101	岡の上古墳	”		
113	102	むかいやぶ古墳	”		
114	103	御霊塚古墳	”		
115	104	方見堂古墳	”	△	石材露出、近日中に調査予定(昭和55年中)
116	105	長塚古墳	”		前方後円墳、完全に削平されて蜜柑園化
117	106	八代大塚古墳	八代市東片町下野森		前方後円墳、八代の水田地帯の古墳の内最大、人物埴輪(女性)、頸部発掘
118	—	—	八代市東片町下野森		小円墳、完全に消滅、茶臼山古墳の培墳と思われる。江上敏勝御教示による。

No.	第2 図 中 号 番	古 墳 名	所 在 地	単室の巨用穴 石を備った 式古墳	備 考
119	107	茶白山古墳	〃		三段築円墳
120	109	高取山の上古墳	八代市上片町高取		前方後円墳、墳頂上に熊野社あり、割石小口積横穴式石室
121	108	天神岩古墳	八代市上片町	○	石材露出
122	—	〃	〃	△	凝灰岩の巨石残存
123	111	上片町鬼の岩屋 第1号墳	〃	○	石室露出、他4基ほど近隣に存在したという。
124	113	井上古墳	八代市井上町		封土を失い巨石露出、観音堂をまつる。
125	115	長田町古墳群	八代市長田町白石		円墳、封土を失い石材露出、横穴式石室墳。
126	117	竹原町古墳群	八代市竹原町、井上町 日置町		10基より成る。一部消滅(2、3、4号墳八代市立第2中学校校庭、5、6号墳工場敷地)
127		乙丸古墳群	八代市宮地町乙丸		9基より成る。宮地小と国道3号線の間に分布。
128		階下古墳群	八代市宮地町		12基より成る。
129		産島石棺群	八代市昭和同仁町産島		3基の石棺
130		小嵐蔵山古墳群	八代市嵐蔵町小島辺		第1号墳～第5号墳5基の古墳あり
131		大嵐蔵山古墳群	〃		尾張ノ宮古墳(装飾) 楠ノ木山古墳(堅穴)他13基

(村井)

3. 調査の経過

境古墳群の発掘調査（2・3・4号墳）は、昭和51年11月19日に始まり、昭和52年3月末日に終了した。調査を担当した者は、上妻信寛、村井真輝、丸山武水、倉原謙治である。3基の古墳の発掘調査中に、2・3号墳の隣接地から縄文時代から近世にかけての各種の遺構が発見されたため、新発見の遺跡（境遺跡）の調査は次年度事業として実施されることとなった。

境遺跡の調査は、昭和52年4月初日に始まり、同年10月末日に終了した。調査を担当した者は村井真輝、丸山武水、西田道世、松村道博であり、製鉄址の遺構調査は島津義昭、松本健郎の応援があった。

以下、調査日誌から調査の過程を略記する。

（境古墳群発掘調査）

11月19日 本日より上妻、倉原の2名が調査に入る。境2号墳が位置する上段の水田南端部にプレハブ小屋を建設する。また発掘器材の搬入も終える。

11月22日 地形測量を開始する。作業員不足と視界が悪いため作業が難行する。

12月17日 測量図に等高線を入れる作業を開始する。

12月22日 村井が調査に加わる。

12月24日 地形測量を終わる。

1月10日 2号墳前庭部にて関係者（公団関係者、調査関係者、工事関係者、旧地権者）が集合して墓前祭を行う。終了後古墳上及び周辺の雑木の伐採を開始する。

1月11日 作業員を増員する。蜜柑園の伐採を開始する。樹木は焼却する。

1月14日 樹木の伐採と整理を終了する。2号墳の石室内の瓦礫の除去作業を開始する。

1月17日 2号墳の主軸にそって前庭部に第Ⅰトレンチ（2×10m）を設定する。

1月18日 2号墳東側に第Ⅱトレンチ（2×8m）を設定する。

1月19日 2号墳北側に第Ⅲトレンチを設定する。

1月24日 2号墳石室内の瓦礫中より古墳時代の須恵器片や比較的新しい磁器片が出土しはじめる。2号墳西側に第Ⅳトレンチ、3号墳前庭部に第Ⅴトレンチを設定する。

1月25日 3号墳北側に第Ⅵトレンチ（2×8m）を設定する。

1月26日 3号墳西側に第Ⅶトレンチを設定する。3号墳の発掘を開始する。

1月28日 2号墳の発掘は土の含水量が多く、作業は遅れがちである。盗掘されているため内部はやや乱れている。

2月7日 4号墳位置確認のためトレンチ3本を設定し、発掘を開始する。

- 2月17日 4号墳位置確認調査終了する。
- 2月18日 2号墳東側周溝検出作業を始める。
- 2月22日 2号墳石室の床面検出作業に移る。副葬品（刀子、勾玉等）が出土する。
- 2月23日 2号墳石室内の調査を続行する。管玉、鉄片等を検出する。
- 2月24日 2号墳西側での周溝確認調査を始める。東側周溝端より須恵器を中心とする遺物の出土あり。
- 2月25日 石室内の排土を水洗する。
- 2月28日 2号墳第Ⅰトレンチよりピットを検出する。第Ⅰトレンチをさらに南側に向けて延長する。各トレンチの土層断面図作成作業を開始する。
- 3月3日 2号墳第Ⅰトレンチの拡張部から縄文土器、土師器、須恵器片が出土する。
- 3月7日 調査終了期日が近くなり、実測に主力をおく。第Ⅰトレンチ拡張部から弥生後期の土器が出土し、焼土も認められるので住居址の可能性もある。
- 3月8日 弥生後期の土器に加えて古式土師器も出土したので、重複する住居址の可能性があり、調査の必要がある。
- 3月11日 弥生後期の住居址の壁の部分を一部確認する。さらに調査区域を拡張するため表土の排土作業を行う。
- 3月15日 住居址の覆土から重孤文土器片と石包片が出土する。
- 3月17日 本日より丸山が調査に加わり、実測図作成に当る。
- 3月23日 住居址をはじめとする遺構の分布状況を把握するため2本のトレンチを設ける。B地区に2×7m、C地区に2×16mのトレンチを設定、発掘を開始する。B地区から青磁碗の破片が出土する。
- 3月28日 B・C地区からは中世・近世の遺物（青磁・瓦質土器・陶磁器等）が検出されることから、A地区とは違った遺構の存在が考えられる。
- 3月31日 本年度事業の境古墳群の調査は本日を持って終了する。新発見の境遺跡の発掘調査は4月以後本調査を行うことになった。

（境遺跡発掘調査）

- 4月1日 上妻技師は文化課から鹿本高校教諭として転出する。境遺跡の調査は村井、丸山が境古墳群調査に引き続いて行う。
- 4月5日 境遺跡の調査範囲を確認するための調査を行う。
- 4月11日 B地区に設定したトレンチから検出した遺構は井戸状遺構と考えられる。

4月18日 住居址群のプランが不明瞭であるので土層断面の観察から床面の確認作業を行う。最後に切り合った竪穴住居址の床面の確認ができた。

4月20日 青磁を出土する竪穴住居址のプラン検出を完了する。半分は開墾作業により削り取られている。隅丸方形プランを持つらしい。

4月22日 乾天が続くので遺構検出作業が困難である。住居址の実測、写真撮影を行う。

4月26日 重機を投入して表土排除作業を開始する。

5月1日 B地区から大型のピット列を検出する。中世の遺物も多く検出される。

5月9日 道路公団から工事中仮設道路を建設したいので遺跡調査は仮設道路敷地内から発掘調査を行うように要望がなされる。調査計画を変更して、要望に答えることにする。本日より西田が調査に加わる。

5月10日 重機による排土作業を終了する。竪穴住居址の実測とB地区の井戸状遺構の検出作業を行う。

5月12日 井戸状遺構の検出作業は終了する。散乱する礫群の中に五輪塔の火輪が数個認められる。

5月23日 B・C地区に1辺の長さ5mのグリッドを設定する。

6月8日 井戸状遺構の実測を開始する。

7月18日 B地区柱穴列の検出部分について実測を行う。A地区の竪穴住居址群は4基から成ることを確認する。それらの内1基のみが完全なプランを検出できた。

7月25日 文化課、道路公団、建設業者の三者合同の連絡会議を開く。境2号墳石室は倒壊の恐れ充分に有りとの注意が道路公団からなされた。事故防止のための立ち入り禁止の柵を作り、注意書をたてる。

7月26日 境2号墳移転復元について調査するため道路公団より数名の来訪者あり。仮設道路敷地内の発掘調査を急ぐ。

8月2日 工事中仮設道路の工事始まる。

8月3日 諸般の事情により仮設道路工事は中断される。事故防止のため工事区域と調査区域との間に柵を設ける。

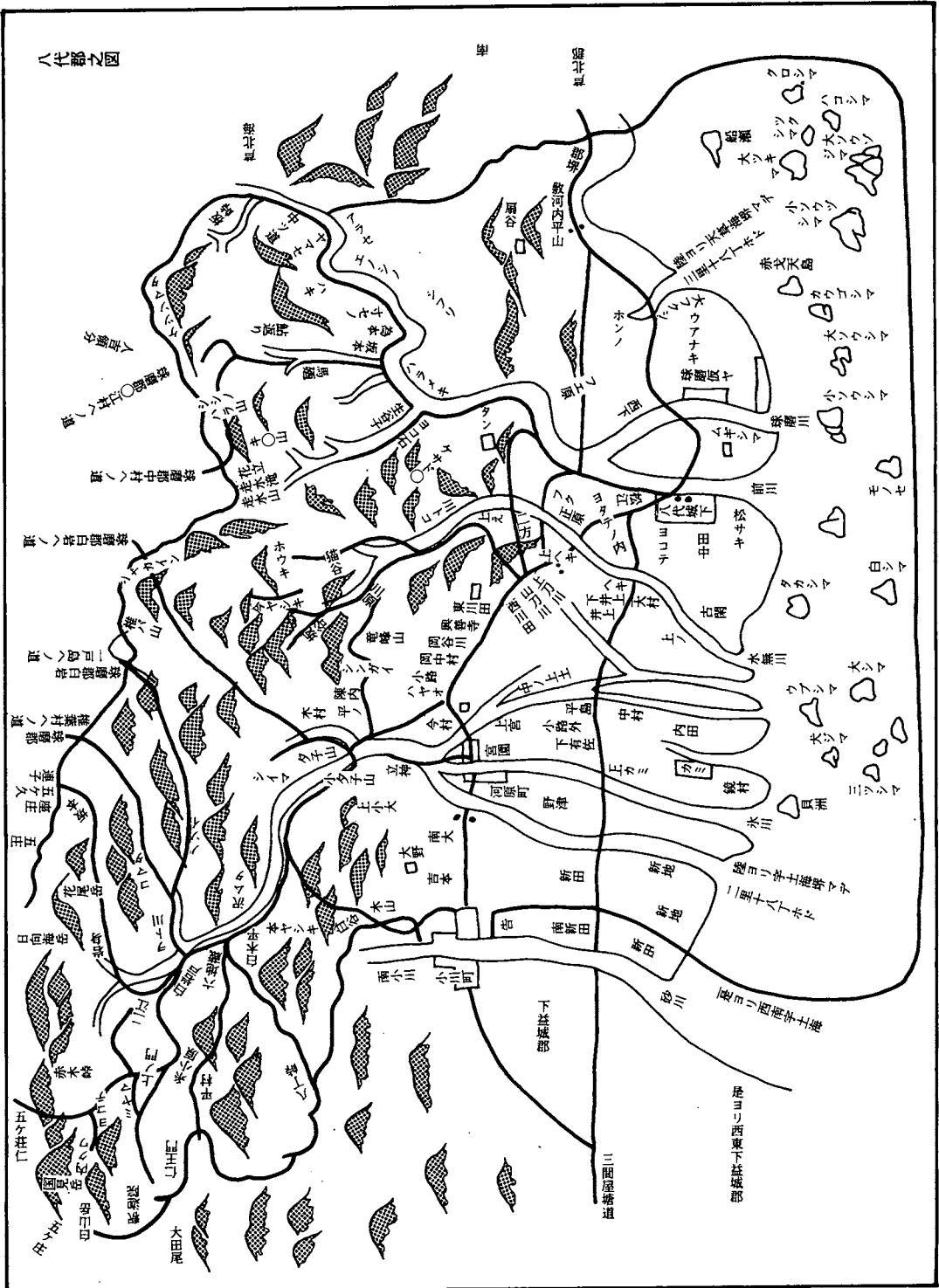
8月8日 本日をもって西田調査員は他遺跡調査に移る。B地区の遺構実測図作成を完了する。C地区から近世の土壌墓らしい遺構を検出する。

8月23日 C地区からの出土遺物は弥生時代から近世のものまであり、遺構中から検出されたものは、小ピット内から出土の糸切底の土師器片のみである。

- 9月5日 C地区柱穴列及び鉄鋸出土地点について、松本の調査参加がある。(同6日)
- 9月12日 C地区北側で土壙4基が検出される。
- 9月20日 文化課、道路公団、建設業者の三者の連絡会議が開かれる。本日より26日まで島津が製鉄址の発掘調査を担当して行う。
- 9月30日 C地区北側で土師器片が多量出土する。遺構は検出されない。
- 10月5日 柱穴の実測及び発掘に全力をそそぐことにする。
- 10月17日 松村の応援を得て、C地区北側検出の土器溜および柱穴列の実測に没頭する。
- 10月25日 終了期日も近まったが未発掘の柱穴があるので、発掘、実測におわれる。
- 10月30日 器材、遺物の搬送のための荷造りを行った後、清掃作業を行う。
- 10月31日 器材および遺物を収蔵庫へ搬送する。その後、ゴミの焼却を行う。

(村井、丸山)

八代郡之図



第3図 江戸時代の八代郡 (肥後国誌より)

第Ⅱ章 境古墳群

1. 境古墳群の現状

本古墳群の所在地は八代市岡町小路字境である。竜峰山系の鞍ヶ岳西斜面の海拔35～50mの間に4基の古墳が散在する。いずれの古墳も巨石を使った石室を持っていたと思われ、石室の石材が露出している。第4図に調査地域の地形図を示す。

1号墳は他の古墳より6～7m高い所に位置し、蜜柑園と墓地との間に存在する。石室の用材は凝灰岩で、天井石は石室の中に陥没している。石室の半分以上は土に埋れていて羨道の方は未開口の可能性も考えらるが、竹が生い繁っているので断言はできない。石室の規模は2号墳と大差はないと考えられる。石室の軸方向は南西である。この古墳は高速道路建設地外に位置し、蜜柑園と墓地の境界となっているため、現状が恒久に維持されるであろうと思われる。

2号墳は2枚の田と1枚の蜜柑園の境界の約40m²ほどの残地に存在する。石室が開口している前面の田の海拔は約40mである。羨道は南西方向に開いていて、東側側壁上部、西側側壁、奥壁、天井、羨道は露出している。天井部には3個の巨石が乗っていたと考えられるが、玄門上部に乗っている1個をのぞいて、他は近くに転落している。石材は花崗岩と変成岩である。石室内には周辺の田畑から出たと思われる礫や遺物が投棄されて充満している。石室内は大正時代か昭和初期に盗掘を受けたとのことであるが、遺物が出土したとの話は伝わっていない。盗掘をうけた当ても現状とあまり大差がない状態であったと、土地の古老は語ってくれた。この石室の上からは八代平野・三角半島・天草の島々・八代海が一望できるので、老人や子供の良い遊び場として親しまれた所である。そのため、所有者の強い希望で、調査後に移転復元が行われた。

3号墳は2号墳の北西15mに位置する。周囲は蜜柑園であり、その中に約90m²ほどのこんもりとしたやぶがある。やぶを切り開いたところ、羨道部の側壁とおもわれる一枚の石が立っていて、石塚となっていた。礫の間には古墳時代から近世にかけての多くの遺物が含まれており、その下から巨石の一部が見えた。この塚を『荒神さん』と地元住民は呼んでいて、塚に生えている竹や木を切る時は事前に酒・米・塩をあげるほどの気づかいようである。

4号墳は境2・3号墳の南西約120m離れた蜜柑園と蜜柑園の境界にある。残存するのは石室の石材と思われる結晶質石灰岩の巨石1個のみである。これに柵をあげて祀ってある。聞くところによると、ここには石室が存在したが、第二次大戦後、庭石として千丁町の方に業者が運んだとのことである。その後、古墳の所有者は病に倒れたので、残った1個の石材を祀った



第4図 境2・3・4号墳、境遺跡地形図

とのことである。石室が存在したという蜜柑園は、『元屋敷』と呼ばれていて、住家があったとのことである。それを示すかのように古井戸が残っている。井戸の直径は約1m、深さは約3mあり、人頭大から拳大ほどの自然礫を円筒形に積み上げて枠組をしてある。4号墳が存在したという畑の隣の畑の西側の畔は、『薩摩街道』と地元民から呼ばれ、島津氏の参勤交代路であったと伝えている。この一帯（宮原町から八代市川田町）においては、高速道路の建設はこの道にそってなされる。現在の国道3号線が建設されたのは昭和10年代であり、それ以前の主要な道路は、境古墳群の眼下にある岡町小路の集落の間を通っている。（村井）

2. 古墳群の調査の方針

前述したように、境古墳群は4基の巨石墳から成っている。いずれも蜜柑園や水田の境界に残存している。1号墳は道路敷地外にあるので調査対象には含まれない。2号墳の石室の保存状態は大変良好であるが、3号墳と4号墳の破壊は非常に進んでいる。特に4号墳は石室の正確な位置がどこなのかさえ明らかでない。そこで、次のように調査の方針を立てた。

- a. 草木を全て伐採し、除去する。
- b. 地形を測量する。
(aとbは諸般の事情で逆になった。)
- c. 古墳の石室の軸方向（推定）とそれに直角方向にトレンチを設定し、墳丘の残存状態および周溝の存否を確認する。
- d. 2号墳は石室の発掘および実測をする。
- e. 3・4号墳は石室の掘り方を検出し、それより、石室の規模を推定する。
- f. 墳丘が残存する時は発掘し、除去する。
- g. 周溝は全面を発掘し、露出させる。
- h. 2・3号墳は、旧地権者の希望で、それぞれの所有地に移転復元をするための資料をそろえる。
- i. 調査実施に当たっては、安全性を優先させる。（村井・丸山）

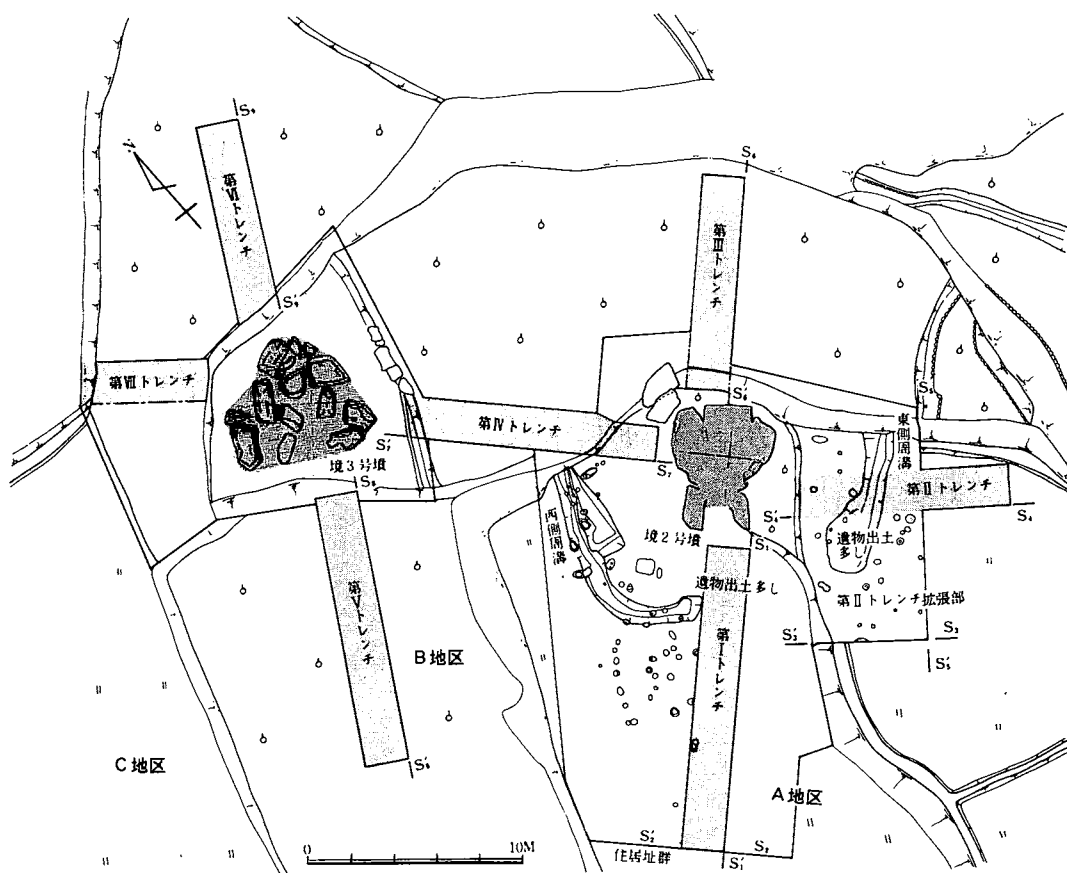
3. 2・3号墳の試掘

第5図境2・3号墳トレンチ配置図、第31図境4号墳平面図にトレンチの位置および断面を観察した位置を示した。設定したトレンチの番号は2号墳と3号墳は近接しているので一連の番号を付し、7本のトレンチを設けた。4号墳は2・3号墳から約120m離れているので別にトレンチ番号を付した。トレンチ番号を別に付したため、断面図の番号も別にS₁~S₉、S₁~

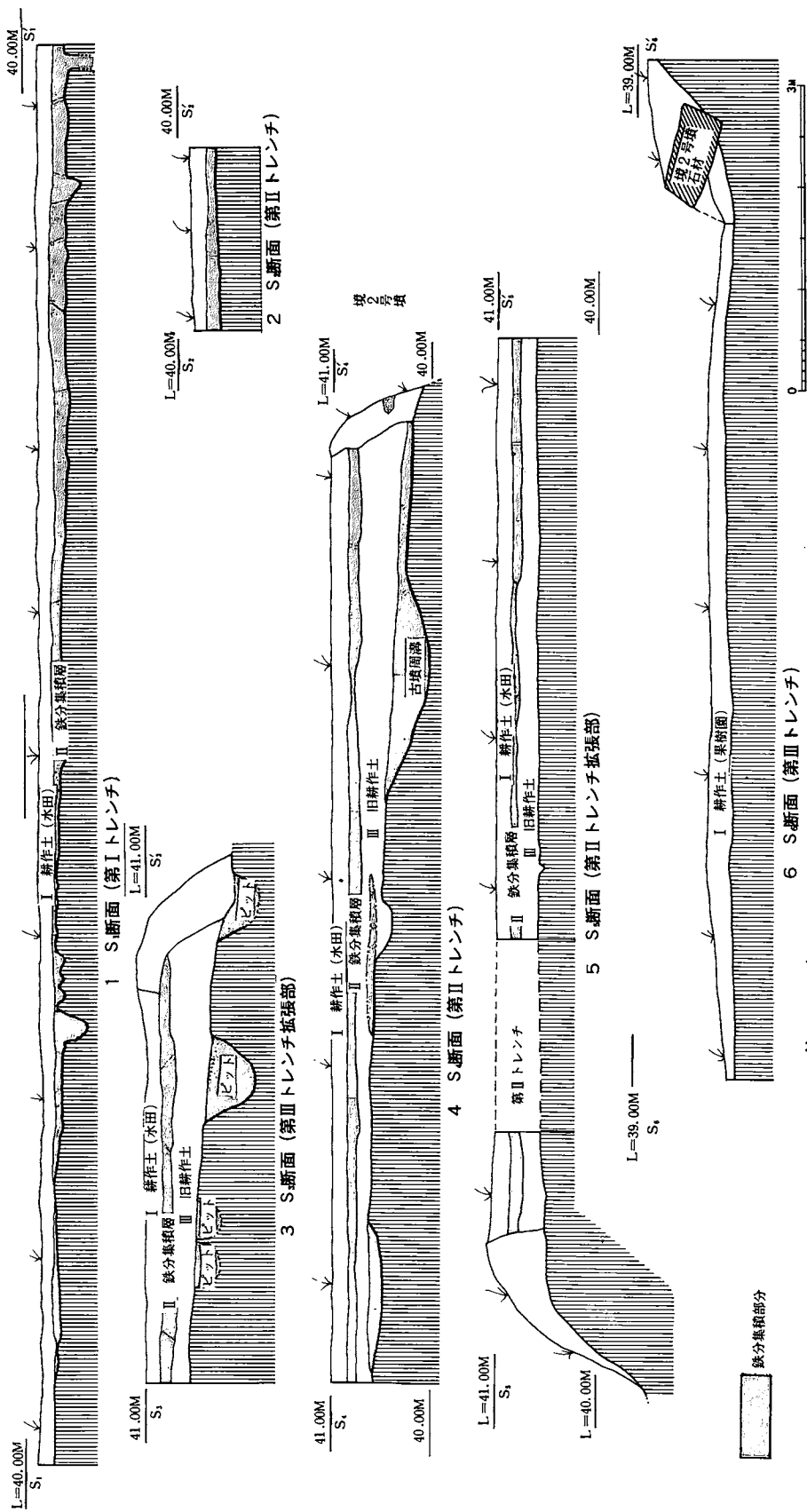
S₀とした。それで4号墳のトレンチについては別に記すことにする。

1) 第Iトレンチ (第6図1)

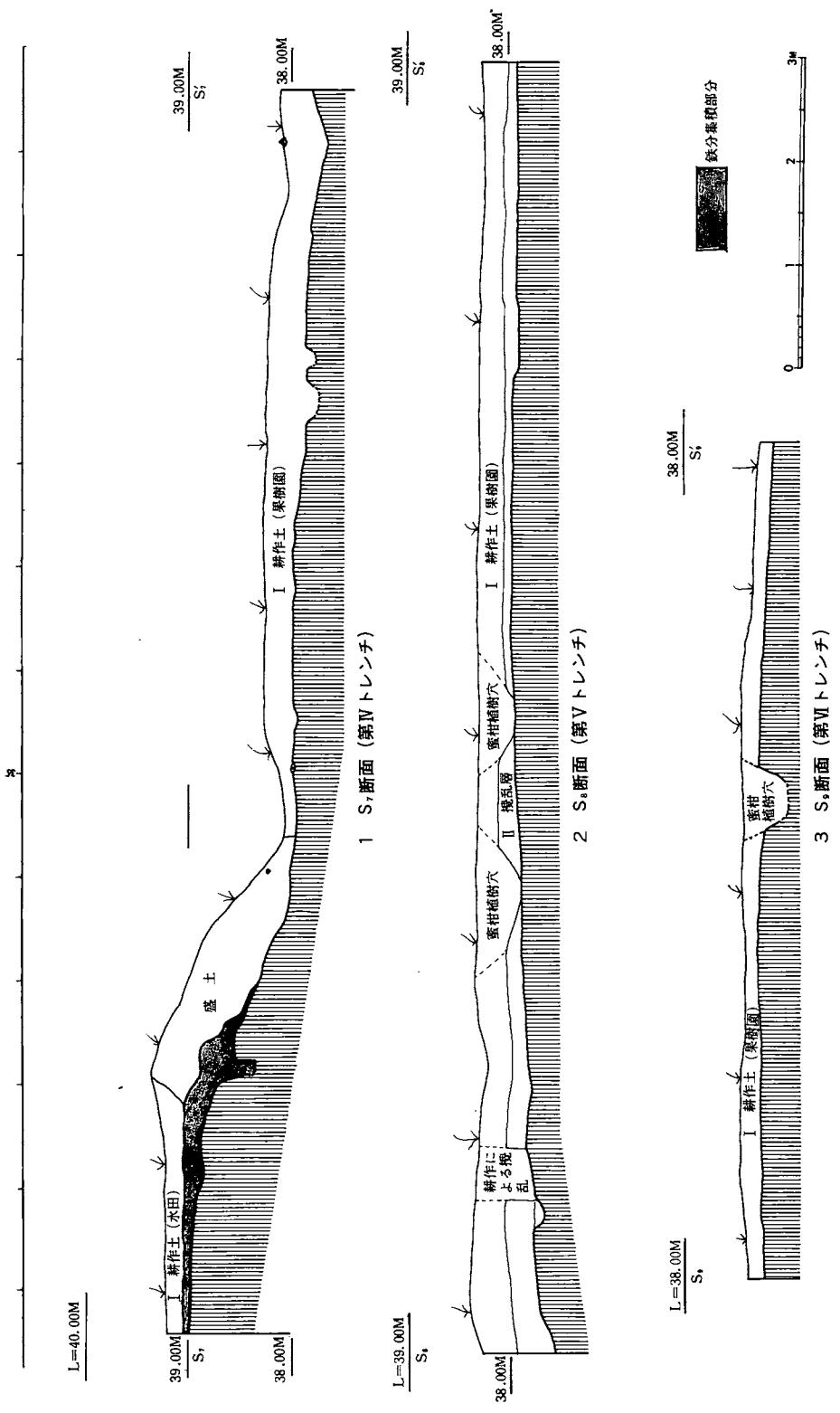
石室の軸方に平行に、前庭部から南西方向に約14m幅2m設定した。土層断面はS₁-S₁'、S₂-S₂'で観察し第6図1・2に示す。前庭部を発掘したために、須恵器が多く出土した。設定した所は水田であり、第I層は18cm前後の耕作土である。耕作土の下は第II層の黒褐色の鉄分集積部があり耕作土とほぼ同じ厚さである。耕作土は重粘土質の土であり、ひじょうに粘性が強く、乾燥するとひび割れを生じ、固くなる。小路字境一帯の水田を牛馬を使って耕したり、しろかきしたり後は、土が湿っている時にすぐ洗ってやらねば牛馬の毛が土といっしょに固まってしまって引きちぎれてしまうということだ。地元の農民はこのことをさして『馬ん毛までかん切る』と表現している。第III層は基盤となっている層で、南西方向に低くなっている。暗褐色の粘性の強い土には、白い大豆大の軟い粒状の物質を含んでいる。耕作土となっている土と元々の組成は大差ないと思われる。基盤となっている土もまた乾燥するとひび割れを



第5図 境2・3号墳トレンチ配置図



第6図 境2号墳トレンチ断面図



第7図 2・3号墳トレンチ断面図

生じひじょうに固くなり、白い大豆大の軟い粒状の物質のところからはげおちるように割れる。この土はこの調査対象区一帯を覆い、厚さは等しくない。この下には変成岩の礫を含む層がある。第Ⅲ層には第Ⅱ層からのピットが見られる。ピットの深さは様々であり、古墳時代だけでなく縄文時代から中世にかけてのものまであり、時代的にも様々である。

2) 第Ⅱトレンチ・第Ⅲトレンチ拡張部 (第6図3・4・5)

2号墳の東側に主軸と直角に長さ10m幅2mの第Ⅱトレンチを設定した。トレンチが周溝にかかったため、第5図に示すようにトレンチを拡張した。この拡張部およびトレンチの断面を S_3-S_3' 、 S_4-S_4' 、 S_5-S_5' の位置で取り、第6図3・4・5に示す。トレンチの設定地は水田であり、第Ⅰ層は約18cmの耕作土、第Ⅱ層は耕作土とほぼ同じ厚さの黒褐色の鉄分集積層、第Ⅲ層は旧耕作土と思われ、第6図3・4に示すように東側がうすく、西の方が厚くなっている、18~44cmの厚さがある。この層の中位や下位に点々と鉄分が集積しており、ピットの大部分や周溝にも鉄分が集積していることから、開墾して水田化する作業が数回に分けてなされたことを示すと考えられる。第Ⅲ層の土色は基盤の土色と同様であるが、粘性がやや弱く、乾燥が進むと固くなって魚鱗状に割れて剥落する。基盤の層は第Ⅰトレンチと同じ性状である。

3) 第Ⅲトレンチ (第6図6)

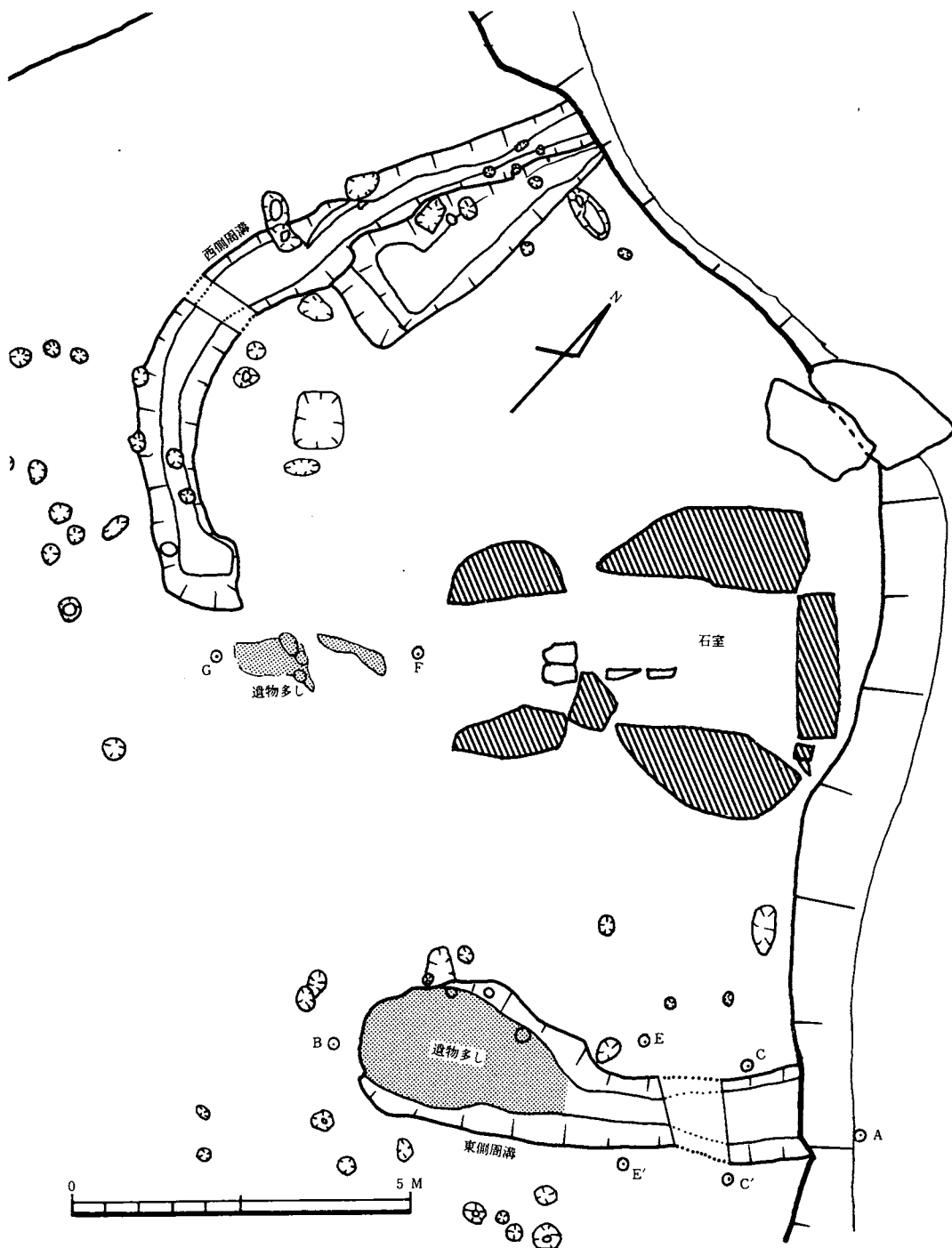
境2号墳の裏側に第Ⅰトレンチと反対方向に石室の主軸にそって、長さ10m幅2mのトレンチを設定した。設定した所は蜜柑園であり、耕作土の下は変成岩の礫を含む基盤である。この礫層は明褐色を呈し、第Ⅰトレンチや第Ⅱトレンチの基盤となっている層の下にある層である。この層は大変厚く弥勒川の河床にも見られる。おそらくは鞍ヶ岳の岩体が浸食をうけて山麓の斜面に堆積した層と思われる。開墾時にかなり削平したと考えられる。

4) 第Ⅳトレンチ (第7図1)

2号墳と3号墳を結ぶように、2号墳の主軸にほぼ直角に北西側に設定した。土層の状態は水田側(2号墳側)においては第Ⅰトレンチ、蜜柑園側(3号墳側)においては第Ⅲトレンチと同様である。水田の畔の盛土は厚く、山の斜面につくられた水田の宿命である漏水の防止に苦心した様子がわかる。それでも漏水したと見えて鉄分の集積層が盛土の下の方にも形成されている。

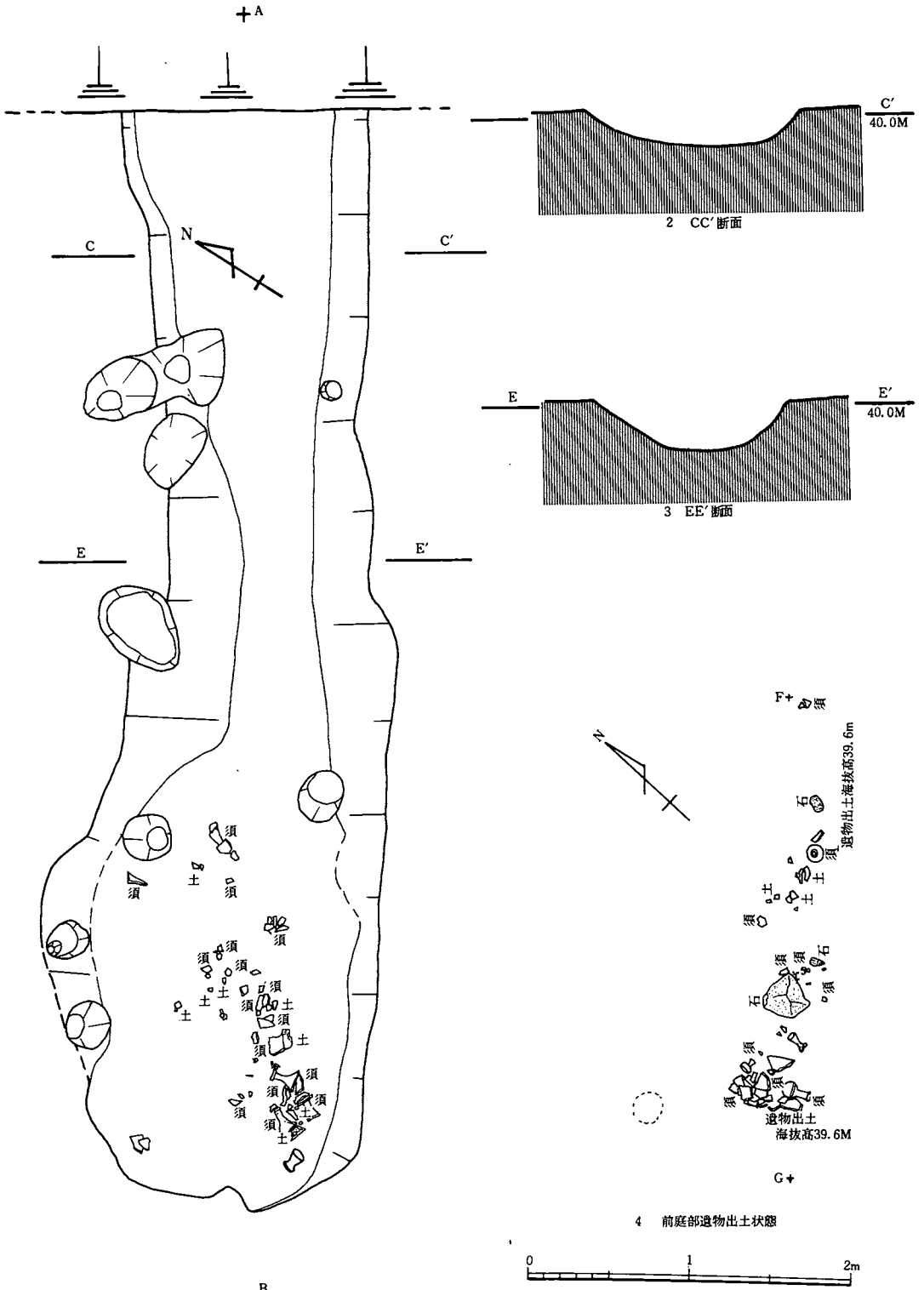
5) 第Ⅴトレンチ (第7図2)

第3号墳の主軸と推定する方向に長さ12.4m幅2mの第Ⅴトレンチを設定した。第Ⅰ層は深さ25cm前後の耕作土であり、蜜柑園化してからはまだ拾数年しか経っていない。第Ⅱ層は攪乱層



第8図 境2号墳周溝全体図

ではあるが最近の攪乱ではなさそうだ。この層から掘り下げたピットがトレンチの反対側の断面には見られる。この層から小片だが中世の遺物と思われる土器片も出土した。基盤となっている層は上段の水田である第Iトレンチの基盤層の最下部と見られる。この層の下に第IIIトレ



1 東側周溝中遺物出土狀態 ^B

第9圖 境2号墳東側周溝、前庭部遺物出土狀態

ンチで見られるような礫層がある。

6) 第Ⅵトレンチ (第7図3)

第Ⅴトレンチの反対方向に3号墳の軸と平行に北東に長さ8m幅2mのトレンチを設定した。設定地は果樹園であり、断面の様子は第Ⅲトレンチと類似する。

7) 第Ⅶトレンチ

第Ⅵトレンチの設定部と耕作土の表面の海拔は、ほぼ同じである。基盤となっている礫層面は地表下60cmにある。3号墳西側はもともと少し低かったと思われ、蜜柑園化する時に埋立てている。埋土と耕作土を合わせて50cm以上あり、数回にわけて整地したと思われる。造成の最下部から寛永通宝が検出されたので、おそらく江戸時代に開墾された可能性がある。(村井)

4. 境 2 号 墳

1) 外部構造 (第8・9図)

① 墳 丘

石室の石材の大部分は露出しているが、東側側壁は埋もれている。封土が残存することを期待したが封土は残っていなかった。周溝の検出状態から、削平が強く行われたと考えられる。そのため、封土は完全に失われたと推定される。第Ⅰ～Ⅵトレンチから見ると墳丘を構築したであろう面よりも下の方まで、この一帯を開墾する時に削平したものと思われる。周溝の廻り方から直径15～16mの墳丘を持っていたと推定される。

② 周 溝

周溝の埋土は黒褐色の土に褐色の鉄分が浸透しているので、周囲の基盤の土とは明確に区別できる。検出された周溝は東側周溝の幅2.2～1.0m深さ0～0.3m、西側周溝の幅0.7～深さ0～0.5mを測る。上方の大部分は削平されたと考えられる。

周溝底は全体的に見ると前庭部の方が高く、背部の方に向かって低くなっている。東側周溝底の傾きは約4%、西側周溝底の傾きは約5%ほどである。全体的な地形からしても、石室の背部の方が低く、後方は弥勒川の谷となっているので、周溝が背部の方に低くなっていることはうなずける。東側周溝は石室主軸を軸として西側周溝と対称になるような位置まで延びていた可能性が考えられるが、開墾により強く削平をうけているためどの位置まで延びていたのか明らかではない。

西側周溝は第8図に示す位置まで延びていて東西の周溝の間は切れているので、前庭部正面にブリッジを持っていたと推定される。

東側周溝からの主な出土遺物は須恵器高坏(4点)と土師器高坏(1点)であり、他は須恵

器片である。出土状態は第9図1に示す。西側周溝からの主な出土遺物は須恵器高坏脚部（1点）、鉄地金銅張り耳飾（1点）、ガラス製丸玉（1点）である。

③ 前庭部

前庭部床面と羨道部床面とは約20cmの比高差が認められる。前庭は羨道部の方がいくぶん高く、外に向ってわずかに低くなっている。床面は固くふみしまっていてなめらかである。前庭の幅は明らかではないが、遺物の出土状態から見て奥行3m・幅2mと考えられる。遺物の出土状態は第9図4に示す。主な出土遺物は須恵器短頸壺、須恵器長頸壺、須恵器高坏、須恵器小形高坏、須恵器甕片、土師器片である。遺物の大部分は上端部が耕作によってこわされている。（村井）

2) 内部構造（第10図）

本墳の埋葬施設は巨石を使って構築された単室の両袖型横穴式石室であり、熊本県南部、特に八代地方では俗に鬼窟式古墳と呼ばれる形態である。埋葬施設の主軸はN-43°-Eにとる。石室の天井は3枚の巨石から成っていたと推定されるが、1枚を残して他は石室の北側に転落し、袖石1枚も欠失している。主な石材の数は側壁4枚、奥壁1枚、天井3枚、袖石2枚から成っている。旧状を保っている天井部と奥壁は変成岩（千枚岩？）であり他は花崗岩である。両岩石とも八代市岡町から八代郡宮原町にかけて露頭を見うける。当古墳の北東を流れる弥勒川河床にも同種の岩石を発見できる。羨道と玄室とを合わせた奥行は5.2m、幅は2.0~2.2mを測る。

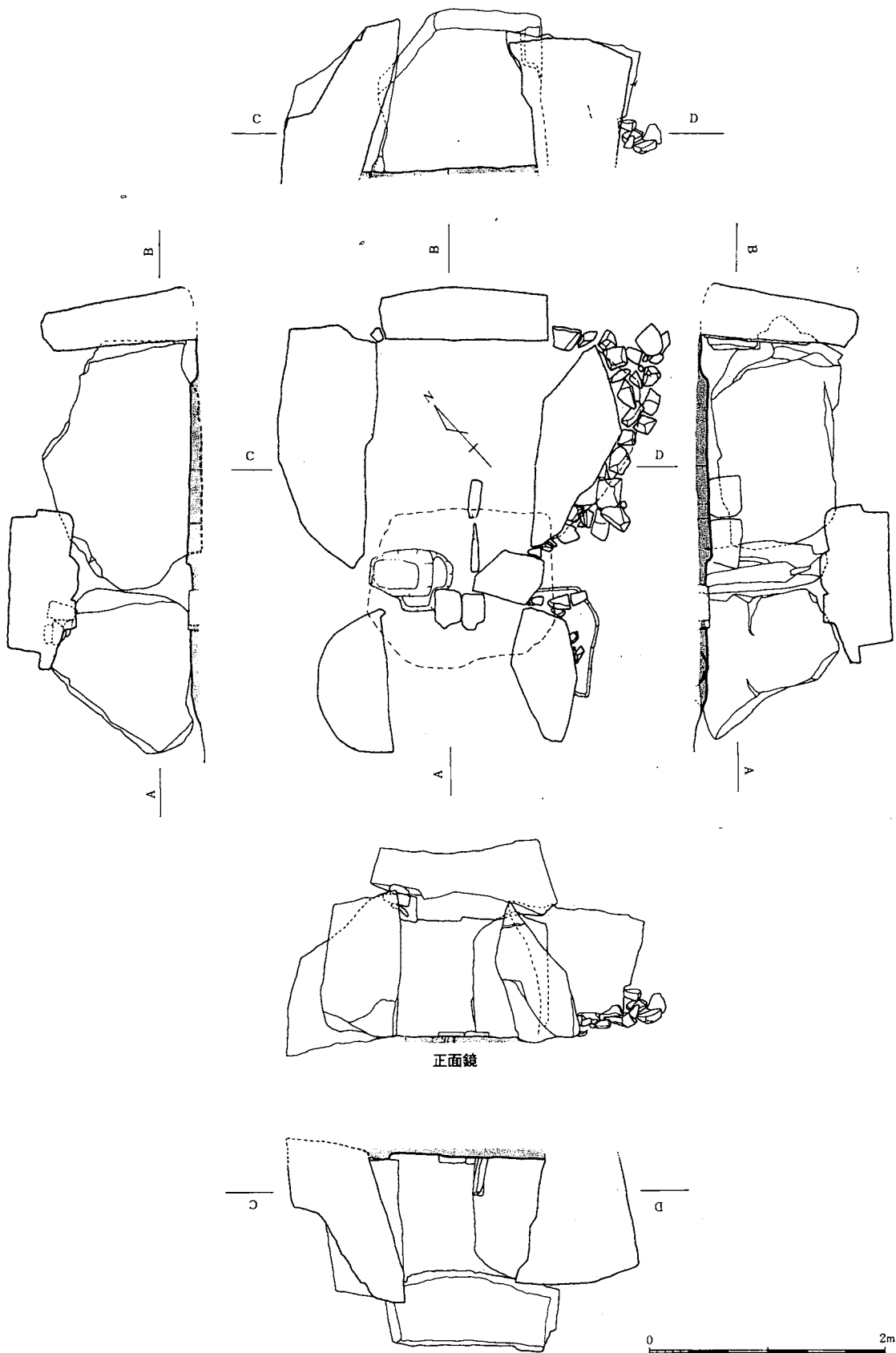
① 石室の掘り方

石室の周辺部については、掘り方を検出すべく注意して発掘したが、開墾によって削平をうけているためか検出できなかった。ただ羨道部東側側壁の外側には掘り方の一部を検出した。奥壁の石材は板状であるが、他の壁材は内面のみ平であり、外面は角ばっていて形が整っていないため、石材の形に合わせて掘り方をつくったと考えられる。東側側壁の裏ごめ石の広がり部分的に検出された掘り方から見て、石材の外側の形に合わせて合わせるようにして外縁に対して0.6~0.4m離れて掘り方をつくったと推定する。掘り方の深さは浅く、石室の基礎工事はなされていない。

② 羨道

羨道の奥行は2m、幅は入口で2m、玄門直前で1.8m、最狭部で1.6mを測る。全体的にはほぼ2mの方形のプランを意図したと思われるが、石材の関係で少しびつになったと思われる。天井は羨道部の半分にかぶさっていて、床面からの高さは約1.5mを測る。

羨道部と玄室は東西2枚の袖石で区分されていたと思われるが、西方の袖石は掘り方を残し



第10图 境2号石室实测图

て石材は欠失している。

玄門の直前には2枚の板状の踏石がひかれている。東側袖石・踏石の位置および西側袖石の掘り方から玄門の幅は約0.5mと推定される。

③ 玄室

玄室の奥行は3.2m、玄門近くの幅2.1m、奥壁近くの幅2.2mを測る。床面から天井部までの高さは1.4~1.7mと推定される。奥壁材は幅2.1m高さ2.0m厚さ0.7mの変成岩（千枚岩？）である。東側側壁材は幅2.6m高さ1.6m、最大の厚さ1.4mの花崗岩である。西側側壁材は幅3.1m高さ2.0m、最大の厚さ1.2mの花崗岩である。これら3個の石材はほとんど加工されていない。天井は石室付近の転石の数と旧状を保っている石材から3枚の巨石で形成されていたと推定する。旧状を保っている石材は1.4×2.0×0.9mの変成岩である。石室を形成している各種の岩石は2号墳裏側の弥勒川河床において多く見うけるものである。床面は前述したように盗掘されており、表面はスコップのようなもので掘り起こされて荒れている。床は粘土床であったと推定される。石室を構築したところの土質自体が粘性の強い土であるため、床にはられた粘土の厚さは明らかではないが、側壁の最下部の様子から0.2m弱と推定される。東側側壁から0.7mはなれて平行に凝灰岩の2枚の石障が旧状を止めていることから東側に幅0.7mの死床が存在したことは明らかである。奥壁側の屍床は奥壁から0.8mはなれて平行に石障のスタンプと思われる浅い溝が約1m残っていた。西側の屍床も床面に石障のスタンプと思われる浅い溝が西側側壁から0.7mはなれて点々と観察された。これらのことから奥に幅0.8m、東西に幅0.7mの三区の屍床と玄門とほぼ同幅の通路を持っていたと推定される。

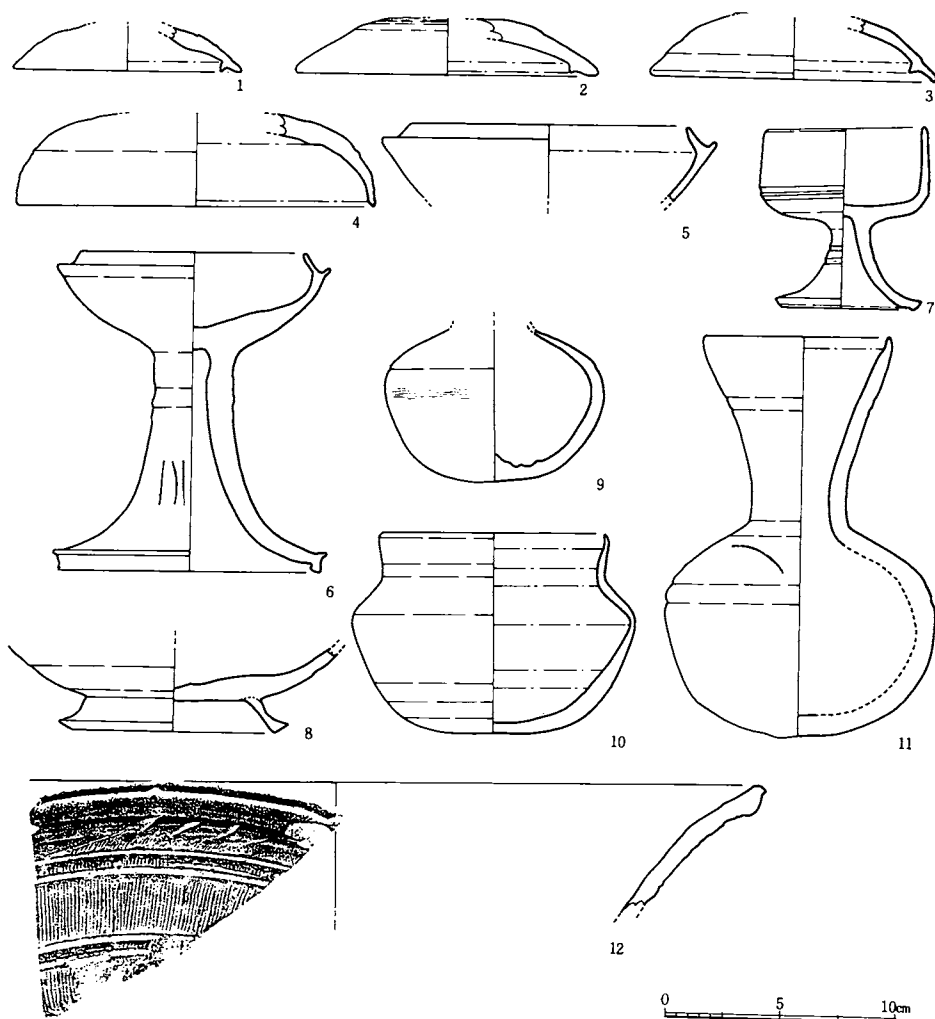
検出した主な遺物はメノウ製勾玉、碧玉製管玉、刀子であるが床面から浮き上がっていて旧状を止めていないと考えられる。須恵器、土師器、青磁等も多数出土したが、これらは投棄された礫の間から検出したものである。 (村井)

3) 出土遺物 (第11~17図)

出土遺物の内で遺構にともなって検出された物は、東側周溝と前庭部から出土した物である。他の遺物は盗掘により攪乱をうけた土中から検出されたり、石室内に投棄された状態で検出された。そのため、東側周溝と前庭部から出土した遺物については図を別にして提示した。また、鉄器と飾身具についても図を別にして提示する。

第11図 境2号墳(前庭部)出土遺物(須恵器)

1. 須恵器坏蓋破片 一括資料である。復元口径10.0cmを測る。ミズビキキによる整形痕が残り、右廻りに回転していることがわかる。胎土中に砂粒を少量含む。焼成は良好であり、色



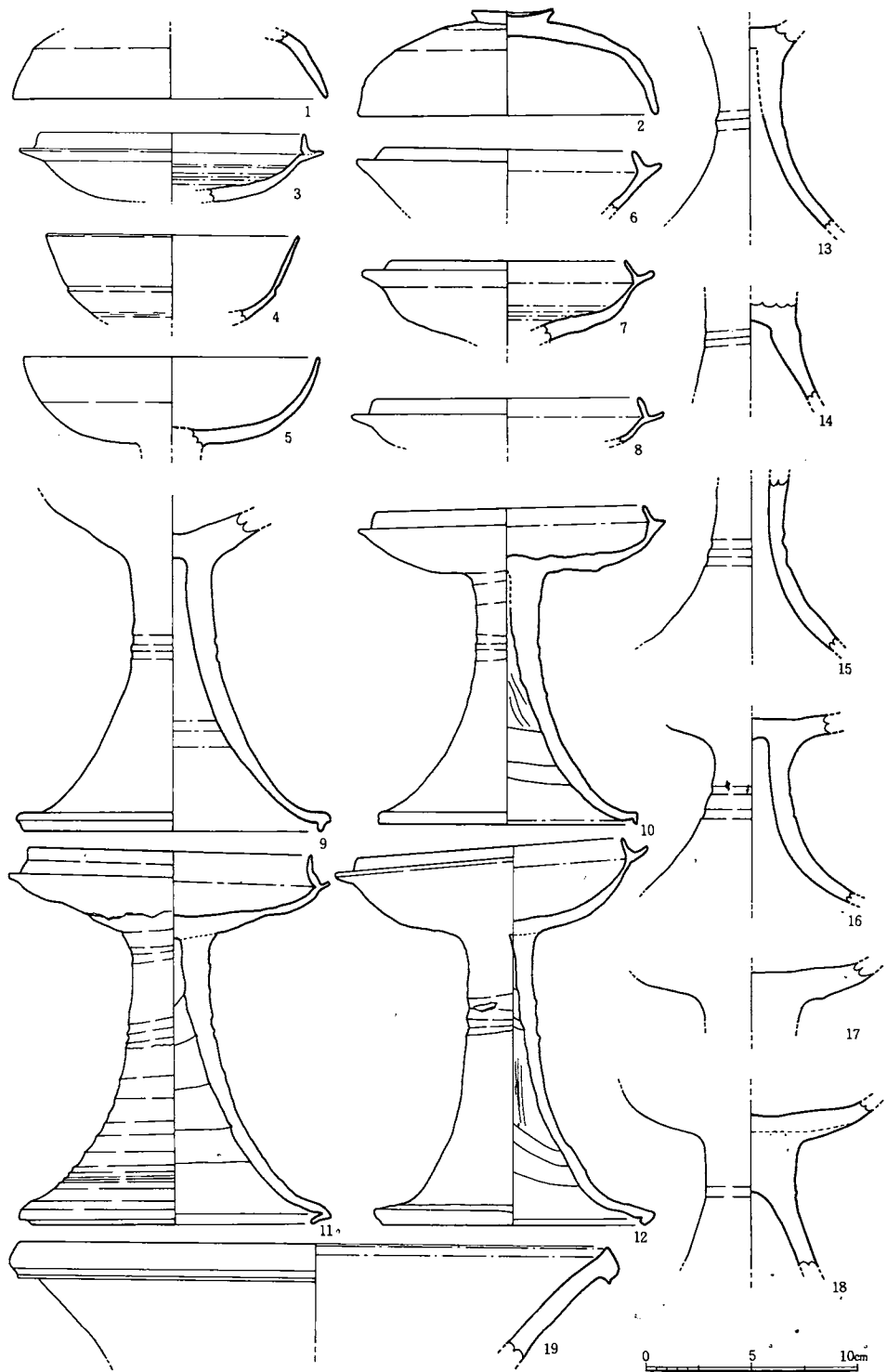
第11図 境2号墳（前庭部）出土遺物（須恵器）

調は青灰色を呈する。

2. 須恵器坏蓋破片 一括資料である。全体の量を欠失する。外面はヘラ削りおよびミズビキによる整形痕が残る。内面にはミズビキきのおとナデによる調整を行っている。轆轤の回転方向は右廻りである。復元口径13.4cmを測る。色調は青灰色を呈し、胎土中に砂粒を含む。

3. 須恵器坏蓋破片 取り上げ番号№8 復元口径12.5cmを測る。内外面にミズビキによる整形痕が残る。焼成は良好である。胎土中に微砂粒を少量含む。

4. 須恵器坏蓋破片 取り上げ番号№6 復元口径16.4cmを測る。内外面にミズビキによる整形痕が残る。整形は全体的に粗雑である。色調は淡灰褐色を呈し、胎土中に砂粒を含む。



第12図 境2号墳（東側周溝）出土遺物（須恵器・土師器）

5. 須恵器有蓋高坏坏部破片 取り上げ番号 μ 8 復元口径(立ち上り部)12.4cm、受部径14.8cmを測る。全体の $\frac{1}{2}$ 弱を残す。色調は灰白色を呈し、微砂粒を少量含む。器面荒れがはげしく、整形痕は見えない。

6. 須恵器有蓋高坏 口径9.8cm、受部径11.9cm、裾部径11.4cm、器高13.9cm、脚部高9.6cmを測る。坏部の内外面にミズビキのあとが残る。坏接合部より1.5cmと2.5cm下方に2カ所のしぼりこんだあとが凹形にのこる。

7. 須恵器無蓋高坏 口径6.9cm、器高7.9cm、裾部径5.8cmを測る。器面にはミズビキのあとが残る。坏部の立ち上り部に2条の凹線、脚部にも2条の凹線が施されている。

8. 須恵器台付壺底部破片 取り上げ番号 μ 8、台部径10.0cm、台部高1.4cmを測る。器表にミズビキのあとが残る。焼成は良好であり、色調は青灰色を呈する。整形は全体的にいいになされている。

9. 須恵器長頸壺 取り上げ番号 μ 9 底面はへら削り、胴部にカキ目および横ナデのあとが残る。頸部より上方は欠失する。内部に右廻りの轆轤による挽きあげのあとがのこる。最大径9.7cmを測る。色調は白灰色を呈し、胎土中に砂粒を含む。

10. 須恵器短頸壺 取り上げ番号 μ 11 全体の $\frac{1}{2}$ を欠失する。口径9.9cm、頸部径9.8cm、最大胴部径12.6cm、器高8.7cm、頸部高1.9cmを測る。底部は平坦に近く、へら削り痕を残す。内外面に横ナデのあとが残る。焼成は良好であり、色調は青灰色を呈する。

11. 須恵器長頸壺 取り上げ番号 μ 3 完形品である。口径8.0cm、頸部径4.2cm、胴部径11.7cm、器高17.5cmを測る。器表および頸部内面に横ナデのあとが残る。底部にはへらによる調整痕が残る。焼成は良好であり、色調は青灰色を呈する。胎土中に微砂粒を含む。

12. 須恵器甕口縁部破片 取り上げ番号 μ 4 内面にはミズビキのあとが残る。外面には2条づつ2組の沈線が廻り、この間にハケ目が残る。ハケ状工具による施文ののちに、沈線を施したと考えられる。推定口径37.6cmを測る。焼成は良好であり、色調は灰色を呈する。胎土中に砂粒を多量に含む。(丸山)

第12図 境2号墳(東側周溝)出土遺物(須恵器・土師器)

1. 須恵器坏蓋 取り上げ番号 μ 9 全体の約 $\frac{1}{2}$ を残す。復元口径14.7cmを測る。外面はへら削りののちナデ調整を行っている。内面にはミズビキによる整形痕が残る。轆轤の回転方向は右廻りである。色調は青灰色を呈し、胎土中に砂粒を少量含む。形態的には下記2に類似すると思われる。

2. 須恵器坏蓋 取り上げ番号 μ 9 口縁部を約 $\frac{1}{2}$ ほど欠失する。頂部に摘を有する。摘の径4cmを測る。摘の中央は周縁より低く、凹形鉤状を呈する。外面には回転へら削り、内面には

指ナデによる調整痕が残る。外面の整形は少し粗雑である。口径 14.4cm、器高 4.9cm を測る。色調は灰色を呈し、焼成は不良である。胎土中に砂粒を含む。

3. 須恵器坏身 一括資料である。復元口径 12.5cm、復元受部径 14.4cm を測る。内外面にミズビキによる整形痕が残る。焼成は良好であり、色調は灰色を呈する。胎土中に微砂粒を含む。

4. 須恵器無蓋高坏 一括資料である。坏部のみを残す。復元口径 12.0cm を測る。坏部の中央近くに 1 条の沈線を施す。内外面にミズビキのあとが残る。焼成は良好であり、一部に自然釉がかかる。色調は黒灰色を呈し、胎土中に微砂粒を含む。

5. 須恵器無蓋高坏 一括資料である。坏部の約 $\frac{1}{2}$ を残す。復元口径 14.0cm を測る。外面にはヘラ削りおよびミズビキによる調整痕が残る。内面はミズビキによる整形がなされている。口縁部の器厚は薄く、口唇部は丸く整形されている。

6. 須恵器有蓋高坏 一括資料である。坏部の口縁が $\frac{1}{2}$ ほど残る。内外面ともに器面あれがはげしい。復元立上り部径 12.0cm、復元受け部径 14.6cm を測る。焼成は不良であり、色調は灰色を呈する。胎土中に微砂粒を含む。

7・8. 須恵器有蓋高坏 7 は一括資料、8 の取り上げ番号は Ⅸ10 である。口径 11.3cm、12.7cm を測る。器表には横ナデによる整形がなされている。焼成は良好である。胎土中に微砂粒を含む。

9. 須恵器高坏 取り上げ番号 Ⅸ11 坏部を欠失する。脚部に 2 条の沈線を施す。焼成は不良であり、色調は灰褐色を呈する。内外面ともに器面荒れがはげしい。胎土中に微砂粒を含む。脚部裾径 14.1cm、脚部高 12.8cm を測る。

10. 須恵器有蓋高坏 取り上げ番号 Ⅸ3 口縁部の $\frac{1}{2}$ 、脚部の $\frac{1}{2}$ を欠失する。脚部に 2 条の沈線を有する。坏部の下面にヘラ削りのあとを残す。他の面はたんねんにミズビキによる整形を行なっている。胎土中に砂粒を少量含む。焼成は良好であり、色調は灰色を呈する。坏部口径 12.9cm、受け部径 14.6cm、脚部裾径 12.4cm、器高 14.8cm を測る。

11. 須恵器有蓋高坏 取り上げ番号 Ⅸ4 坏部と脚部の一部を欠損する。全面に轆轤による整形のあとが残る。坏部口径 13.5cm、受け部径 15.2cm、脚部裾径 13.3cm、器高 17.1cm を測る。焼成は良好であり、色調は青灰色を呈する。胎土中に微砂粒を少量含む。

12. 須恵器有蓋高坏 取り上げ番号 Ⅸ5 坏部口径の一部を欠損するのみである。器表にはミズビキのあとが残る。坏部の見込みには指によるナデ調整がなされている。焼成は良好であり、色調は青灰色を呈する。胎土中に砂粒を少量含む。脚部に 2 条の沈線を有する。坏部口径 12.8cm、受け部径 15.0cm、裾部径 12.5cm、器高 17.9cm を測る。

13. 土師器高坏脚部片 取り上げ番号 Ⅸ2 器面荒れが激しい。2 条の沈線を有する。色調は

明褐色を呈し、胎土中に砂粒は含まない。

14. 土師器高坏脚部片 取り上げ番号 μ 12 上記13に類似する。

15. 土師器高坏脚部片 一括資料である。上記13に類似する。

16. 土師器高坏脚部片 取り上げ番号 μ 1 脚部上方に2条の沈線が廻る。器面の荒れがはげしく、整形の状態は不明である。焼成は不良であり、色調は赤褐色を呈する。胎土中に小礫と砂粒を含む。

17. 土師器高坏 一括資料である。上記16に類似する。

18. 土師器高坏 取り上げ番号 μ 8 上記16に類似する。

19. 須恵器甕口縁部片 取り上げ番号 μ 13 内面に浅い同心円文タタキ、外面に格子タタキのあとが残る。器面荒れがはげしい。焼成は不良であり、色調は淡灰褐色を呈する。復元口径28.0cmを測る。

(丸山)

第13図 境2号墳出土遺物(須恵器・土師器・石鍋)

1. 須恵器坏蓋 石室内の攪乱をうけた土の中より出土する。復元口径10.6cm、器高4.0cmを測る。内外面ともに器面荒れがはげしい。頂部に摘を有するが、きわめて薄く、用をなさない。焼成は不良であり、色調は淡灰褐色を呈する。胎土中に砂粒を含む。

2. 須恵器坏蓋 石室内に投棄された物の中より採集した。復元口径13.5cm、器高2.4cmを測る。頂部にはヘラ削りのあとが残る。内外面ともミズビキのあとがのこる。短かいカエリがつく。

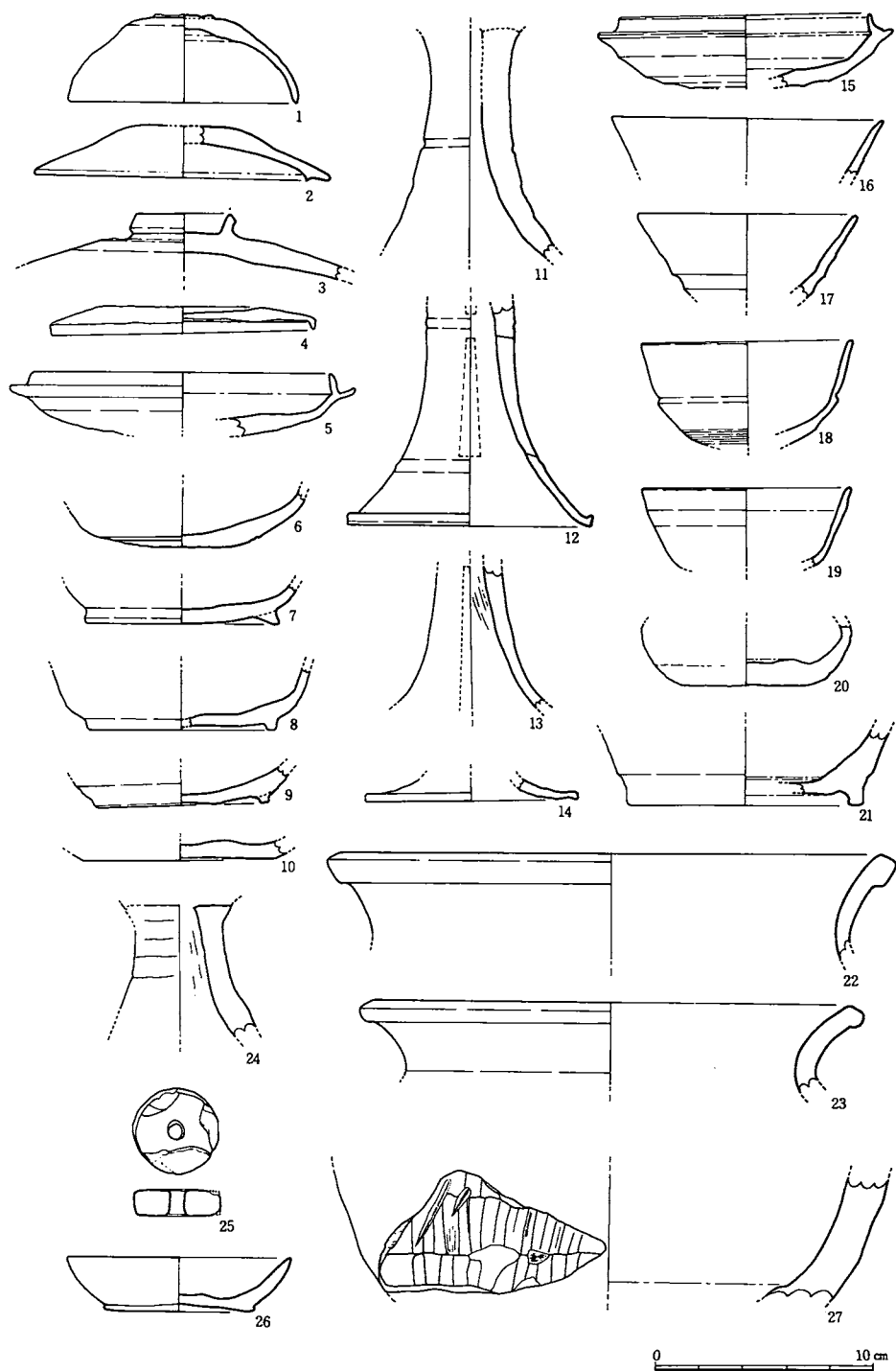
3. 須恵器坏蓋 第1トレンチ西側拡張部より出土した。摘の最大径4.9cm、中央部の深さ0.8cmを測る。内外面にミズビキのあとが残る。

4. 須恵器坏蓋 石室内の攪乱をうけた土の中より出土する。口径12.0cm、器高1.2cm、天井の高さ0.6cmを測る。内外面にミズビキのあとがのこる。

5. 須恵器坏身 口径13.6cm、最大部径(受け部径)15.6cm、立ち上がり部高0.9cmを測る。焼成は良好であり、外面に自然釉がかかっている。胎土中に少量の砂粒を含む。

6. 須恵器坏身内面はミズビキののちナデによる調整を行っている。底面にはヘラ削りのあとが残る。体部もミズビキによる整形を行っている。色調は灰色を呈し、胎土中に微砂粒を含む。

7. 須恵器高台付坏 奥壁の北側(石室外)より出土する。全体の $\frac{1}{2}$ 弱を残すのみである。復元高台径8.8cmを測る。高台内(底面)には回転ヘラ削りのあとが残る。内面はミズビキのあとナデ調整を行っている。高台は外反ぎみに付く。焼成は良好であり、器表の一部に自然釉がかかる。色調は淡灰褐色を呈し、胎土中に微砂粒を含む。



第13图 境2号墳出土遺物 (須恵器、土師器、石鍋)

8. 須恵器高台付坏 一括資料である。全体の $\frac{1}{2}$ 弱を残す。内面にはナデ調整のあとが残る。外面にはヘラによる整形ののち、ナデ調整をしている。復元高台径8.8cm、高台高0.2cmを測る。焼成は良好であり、色調は灰色を呈する。胎土中に微砂粒を含む。

9. 須恵器高台付坏 一括資料である。高台径7.9cmを測る。上記8に類似する。

10. 須恵器坏(?) 第Ⅱトレンチの南側拡張部より出土した。底部の $\frac{1}{2}$ を残す。器面の荒れがひじょうにはげしい。内部にはミズビキのあとが残る。復元底径11.0cmを測る。胎土中に微砂粒を含む。色調は淡灰褐色を呈する。

11. 須恵器高坏脚部片 一括資料である。坏部と裾部を欠失している。外面に1条の凹線がほどこされている。全面にミズビキのあとが残る。

12. 須恵器高坏脚部 石室内に投棄された物の中より出土した。脚部の約 $\frac{1}{2}$ を残す。復元裾部径11.6cmを測る。器表にミズビキのあとが残る。脚部には上下2段のすかしがある。上下のすかしの間には2条の沈線を施している。また下段のすかしの下にも2条の沈線を施している。

13. 須恵器高坏脚部 石室内に投棄された物の中より出土した。上記12に類似する。

14. 須恵器高坏脚部 第Ⅱトレンチより出土する。小型の高坏脚部と思われる。復元裾部径10.0cmを測る。裾部のみ破片である。内外面にミズビキによる整形痕が残る。色調は灰色を呈し、胎土中に砂粒を少量含む。焼成は良好である。

15. 須恵器高坏 第Ⅱトレンチより出土する。東側周溝より出土したと推定される。坏部の $\frac{1}{2}$ を残すのみである。器表にはミズビキのあとが残る。外面の下部には回転ヘラ削りのあとを残す。復元口径11.4cm、最大部径13.6cmを測る。

16. 須恵器高坏坏部と推定される。内外面にナデによる調整痕が残る。色調は灰色を呈し、胎土中に微砂粒を含む。

17. 須恵器高坏坏部 内外面にミズビキのあとが残る。復元口径10.1cmを測る。体部には幅0.7cmの凹帯がまわる。焼成は良好であり、内外面に自然釉がかかる。胎土は緻密である。

18. 須恵器高坏坏部 第Ⅱトレンチ(東周溝中)より出土する。内外面にナデ調整のあとが残る。体部には段を有する。下部にはカキ目が見られる。復元口径9.7cmを測る。焼成は良好であり、内外面に自然釉がかかる。胎土中に微砂粒を含む。

19. 須恵器高坏坏部 石室内へ投棄された物の中より出土する。復元口径9.6cmを測る。器表にはナデによる調整痕が残る。焼成は良好であり、自然釉がかかる。色調は淡灰褐色を呈する。

20. 須恵器壺 西壁の裏側から出土する。底部(内面)には指によるナデのあとが残る。底径5.6cmを測る。

21. 須恵器高台付壺 第Ⅱトレンチの南側拡張部より出土する。高台部の $\frac{1}{2}$ を残す。器面あ

れがはげしい。見込みには横ナデが施されている。復元高台径 11.0cm、高台高 0.5cm を測る。色調は淡灰褐色を呈し、胎土中に微砂粒を含む。

22. 須恵器甕 石室内への投棄物の中から出土する。口縁部の約 $\frac{1}{3}$ を残す。復元口径 26.4cm を測る。内外面に自然釉がかかる。胎土中に微砂粒を含む。

23. 須恵器甕 石室内への投棄物の中から出土する。復元口径 23.2cm を測る。外面にはハケ調整と横ナデのあとが残る。焼成は良好であり、色調は灰色を呈する。胎土中に微砂粒を含む。

24. 滑石製石鍋 石室周辺より採集する。底部近くの破片である。器表には縦に長さ 3cm、幅 0.5~0.6cm の削りのあとが残る。内面にはさっ痕が残る。 (村井・丸山)

第14図 境2号墳出土遺物(瓦質土器・近世陶磁器)

1. 瓦質土器火舎口縁部 復元口径 39.2cm を測る。立ち上り部から口縁部にかけて内傾する。上端部は平坦であり、口唇部は外方にL字形に突出する。外面に1条の突帯が廻る。色調は灰色を呈し、胎土中に砂粒を含む。

2・3. 瓦質土器土鍋 最大部径 34.9cm、26.3cm を測る。取っ手と鏝の部分を残すのみである。色調は灰色を呈し、胎土中に砂粒を含む。

4. 青磁碗 第Iトレンチ西側拡張部の第II層(水田の鉄分集積層)より出土する。復元高台径 7.2cm、高台高 0.8cm を測る。竜泉窯の製品と考えられる。

5. 青磁碗 第Iトレンチ拡張部より出土する。復元高台径 7.2cm、高台高 0.6cm を測る。上記4に類似する。

6. 青磁碗 前庭部より出土する。復元高台径 4.6cm、高台高 0.4cm を測る。見込みと立ち上がり部との境に沈線が廻る。上記4に類似する。

7. 青磁碗 復元高台径 5.4cm、高台高 0.3cm を測る。高台の外表面は2段に削られ、1条の浅い凹線が廻る。

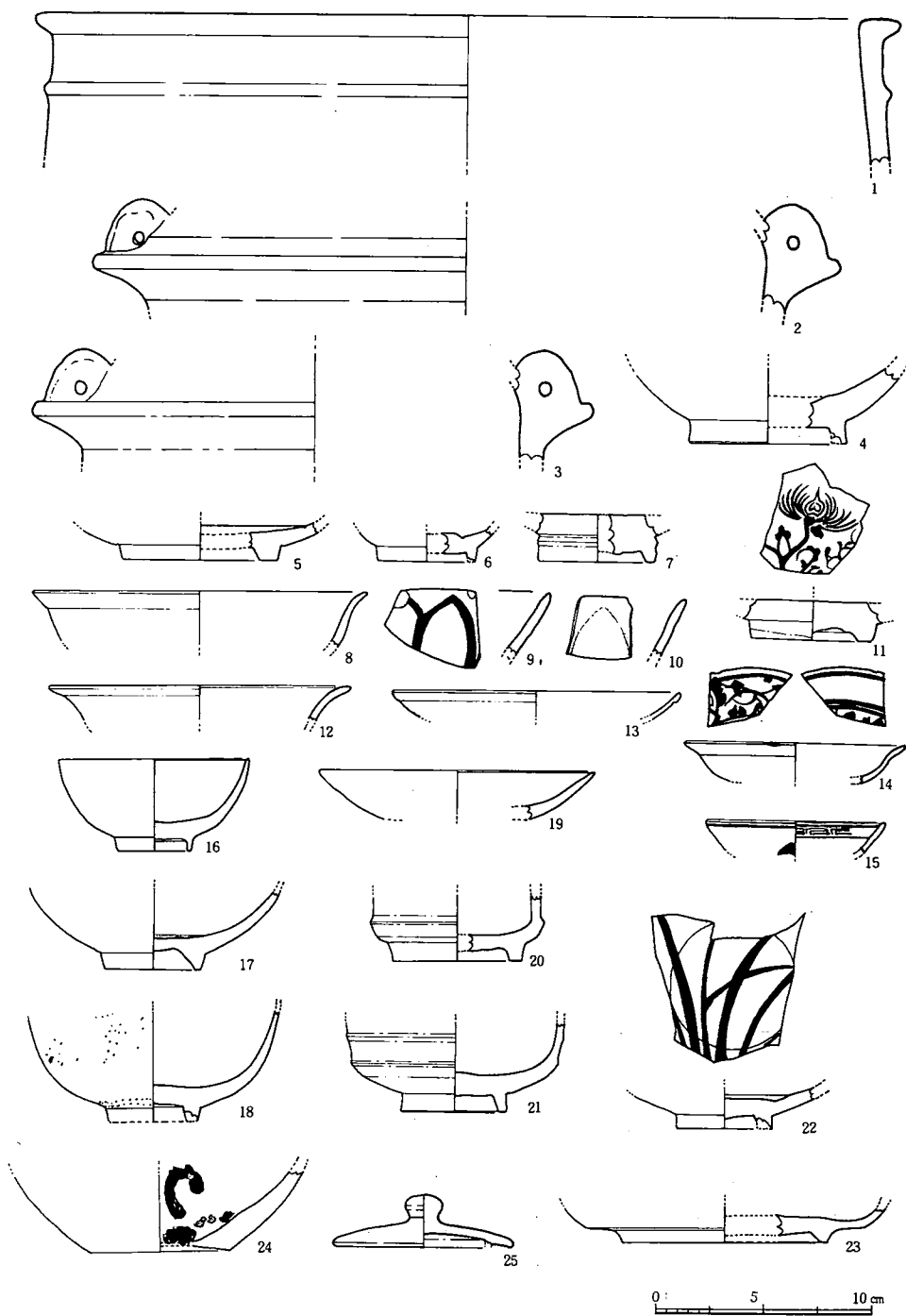
8. 青磁碗 第Iトレンチ西側拡張部より出土する。復元口径 15.4cm を測る。上記4に類似する。

9・10. 青磁蓮弁文碗 第Iトレンチ拡張部の第II層より出土する。小片であるので口径は不明である。竜泉窯の製品と思われる。

11. 白磁印花草花文碗 高台径 5.6cm、高台高 0.4cm を測る。見込みに印花を施す。

12. 白磁碗 復元口径 13.9cm を測る。宋代の白磁と思われる。

13. 白磁皿 復元口径 13.4cm、器厚 0.2cm を測る。口唇部は丸く、玉縁となる。宋代の白磁である。



第14图 境2号墳出土遺物（瓦質土器、近世陶磁器）

14. 輪花染付草花文皿 復元口径10.1cmを測る。内外面に草花文を染付している。明代の染付である。

15. 古伊万里染付酒盃 内面に雷文継ぎを染付している。外面には1条の横線と何かの文様を染付している。口径8.8cmを測る。

16. くらわんか茶碗 口径8.8cm、器高14.2cm、高台径3.4cm、高台高0.5cmを測る。口唇部に口紅がある。器厚は口縁部に比較して、底部が厚い。上釉は透明度の悪い釉がかかる。

17. 碗 高台径4.4cm、高台高0.8cmを測る。唐津焼である。

18. 碗 復元高台径4.1cm、復元高台高0.9cmを測る。唐津焼である。

19. 皿 復元口径12.9cmを測る。口紅がある。素地および釉が上記16に類似する。

20.・21. 香立て 20の各部の計測値は、復元高台径6.1cm、高台高0.5である。21の各部の計測値は、高台径5.0cm、高台高0.8cmである。唐津焼と思われる。

22. 皿 見込みに鉄釉で草花文を描いている。高台径4.4cm、高台高0.4cmを測る。唐津焼である。

23. 皿 素地は灰色を呈する。内面には透明釉がかかる。高台内にはちりめんじわが見える。復元高台径9.5cm、高台高0.4cmを測る。唐津焼である。

24. 瓶 外面には白色の釉（灰釉）がかかる。内面の底部（見込み）には鉄釉の上に白色の釉（灰釉）がかかり、なまこ状になっている。内面の釉は口縁部に釉をかける時に流入したものと推測する。底径6.0cmを測る。武雄南部系の窯の製品と思われる。

25. 土瓶の蓋 古墳周辺の投捨物である。最大部径8.5cm、器器高2.5cmを測る。嬉野焼と推定される。

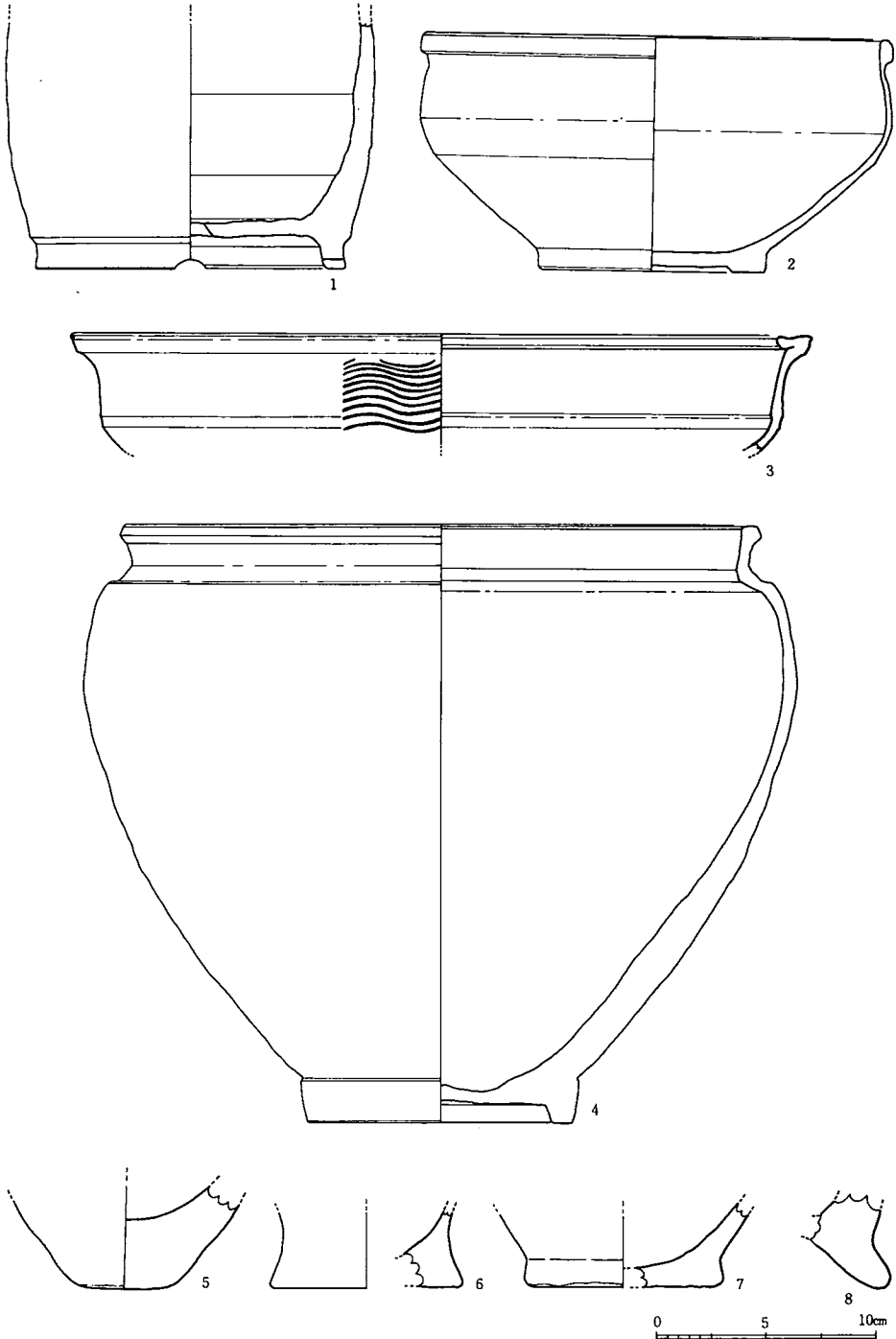
第15図 境2号墳出土遺物（近世陶磁器・縄文土器）

1. 植木鉢 石室内に投棄された物である。胴部径16.9cm、高台径14.2cm、高台高1.5cmを測る。底部の中央に径1.2cmの穿孔がなされている。外面には鉄釉をかけた上になまこ状の白い釉（笹白によく似ている）をかけている。内面は無釉である。

2. 鉢 石室内に投棄された物である。口径21.2cm、胴部径21.6cm、器高10.2cm、高台径10.1cm、高台高0.2cmを測る。内外面に黄緑色～青緑色の釉がかかる。

3. 白釉櫛描色釉流し鉢 石室内に投棄された物である。口径34.1cmを測る。内外面ともに青緑色の釉と白色の釉がかかる。内面には部分的に鉄釉がかかっている。武雄南部系庭木窯の製品である。

4. 甕 石室内に投捨された物である。口径29.0cm、胴部最大径32.8cm、器高27.3cm、高台



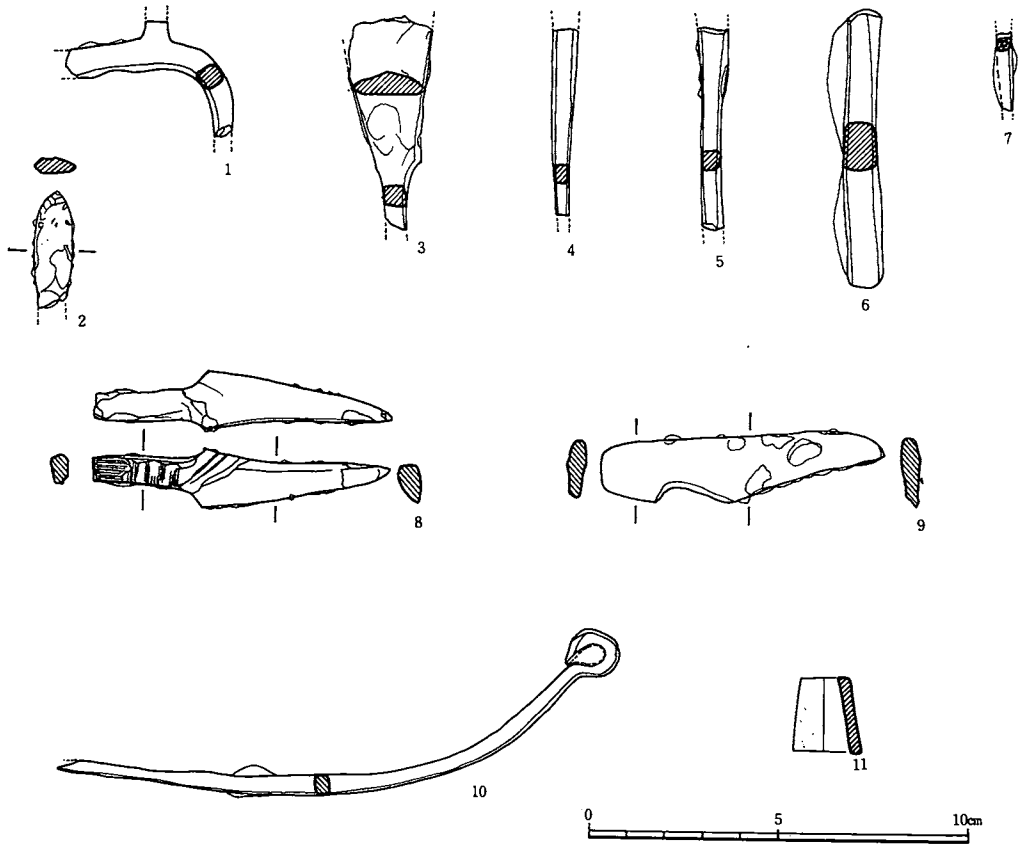
第15図 境2号墳出土遺物（近世陶磁器、その他）

径12.2cm、高台高1.0cmを測る。胴部一面に白色の釉がかかる。武雄南部系庭木窯の製品である。

5. 縄文土器底部 第Iトレンチより出土する。器表は風化して剥離がはげしい。色調は黒褐色を呈し、胎土中に砂礫を含む。尖底であり、上部には貝殻腹縁部による刺突文が施文されている土器と推定される。

6・7. 壺文土器底部 第Iトレンチより出土する。底径8.5cm、8.7cmを測る。器面荒れがはげしい。色調は黒褐色を呈し、胎土中に砂礫を含む。A地区から出土している貝殻腹縁部による刺突文を施文している土器の底部と思われる。この種の土器には平底と尖底の二種が有るようだ。7の整形過程は、まず円板状の粘土板をつくり、その上にひも状の粘土をまき上げたと思なされる。

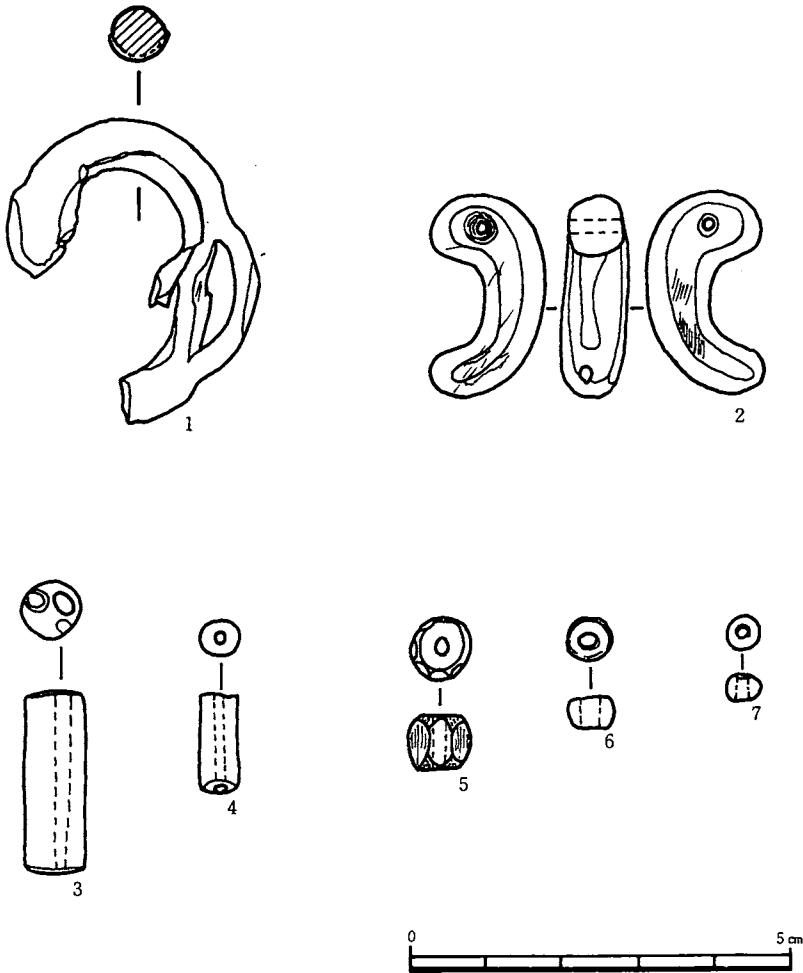
8. 弥生式土器底部 石室内の投捨物中より検出した。色調は褐色を呈し、胎土中に砂を含む。中期又は後期の土器片のようである。 (村井)



第16図 境2号墳出土遺物 (鉄製品)

第16図 境2号墳出土

1. 轡（鏡板）の一部と推定される。楕円形の素環と思われる。断面は1辺が0.6cm.の隅丸方形を呈する。
2. 柳葉形鉄鏃 先端部3.0cmを残す。断面はレンズ状になっている。
3. 平根形鉄鏃刃部 先端と基部を欠失する。断面は二等辺三角形を呈する。茎の断面は1辺が0.5~0.6cmの方形を呈する。
- 4.・5. 鉄鏃の茎と推定される。第Ⅱトレンチより出土する。
6. 鉄片 長さ7.3cm、巾0.8cm、厚さ1.2cmを測る。器種不明である。
7. 鉄鏃の茎と推定される。断面は1辺が0.4cmの方形を呈し、中空になっている。



第17図 境2号墳出土遺物（飾身具）

8. 刀子 全長7.8cm、区部の巾1.5cm、刃渡り5.0cmを測り、平造りである。刃部は片刃である。茎には柄の木片が付着している。棟の重ねは0.5cmを測る。棟は上方に反っている。石室内東側屍床の攪乱された土中より出土する。

9. 刀子片と思われる。片刃であり、研ぎ減りが大きい。茎を欠失している。全長7.5cm、巾1.7cm、刃渡り4.2cmを測る。

10. 不明鉄器 金火箸と思われる。断面は1辺0.4~0.6cmの方形状を呈し、全長16.0cmを測る。上端は径1.3cmの素環がつくられている。

11. 座金 円錐台形状を呈する。径1.2~1.8cm、高さ1.9cm、肉厚0.2cmを測る。(村井)

第17図 境2号墳出土遺物(飾身具)

1. 鉄地金銅張り耳飾 環状を呈したと思われるが、何かの力が加わってのびている。また鉄が錆びて膨張したため、表面の銅と金の被幕が破れている。

2. 琥珀製勾玉 黄色に白い縞文様のはいた勾玉である。石室の床面近く(床面は盗掘によって荒れている)から出土した。穿孔は管切り法によってなされている。紐通しの径は0.3~0.1cm、長さ2.6cm、厚さ0.7cmを測る。

3. 碧玉製管玉 石室の床面近く(勾玉の出土地点の南側)より出土した。出土状態は勾玉と同様である。穿孔は3回行なわれて、2回は失敗したと思われる痕が残る。長さ2.4cm、径1.8cm紐通し穴の径0.2cmを測る。

4. ガラス製管玉 西側周溝のピットの中から須恵器高坏脚部片とともに出土する。長さ1.3cm、径0.5cm、紐穴の径0.1cmを測る。

5. ガラス製切子玉 石室内排土中より出土する。長さ0.7cm、径0.8cmを測る。

6.・7. ガラス製丸玉 石室内排土および古墳近くのピット中より検出する。径0.6cm、0.4cmを測る。
(村井・丸山)

第4表 境2号墳出土遺物一覧表（須恵器・土師器・陶磁器を主体とする）

出土地点	種類	口縁部	頸部	胴部	底部	坏部	脚部	蓋口縁部	蓋天井部	つまみ	その他(不明)	備考
第Iトレンチ拡張部	須恵 甕			46								
	須恵 坏	2			1							底部（平底）
	須恵 高台付坏				1	2						
	須恵 高坏						1					
	須恵 壺	1		5								
	須恵 不明			14								
	弥生 甕						1					
	土師 皿					2						
	土師 不明			10								21 不明（細片）
	陶磁 碗				1							底部（高台部）
	焼土 一										1	
	陶磁 鉢			5								時代不明
陶磁 播鉢				1								
小計		3	0	81	15	2	2	0	0	0	22	
第Iトレンチ北拡張部	須恵 坏								1			
	須恵 高台付坏	2										
	須恵 甕	1										
	須恵 甕	1	1									
小計		4	1	0	0	0	0	0	3	0	0	
第Iトレンチ東拡張部	陶磁 甕	1		1								
	須恵 甕			1								
	土師 不明			2								
	青磁 碗	1										
	青磁 皿				1							同安窯
小計		2	0	4	1	0	0	0	0	0	0	

土地点	種類		口縁部	頸部	胴部	底部	坏部	脚部	蓋口縁部	蓋天井部	つまみ	その他(不明)	備考
第Ⅰ層 第Ⅰトレンチ西拡張部	須恵	高坏	1		1								2 細片 竜泉窯 1
	須恵	甕			1								
	弥生	甕			2								
	土師	皿											
	土師	不明											
	青磁	碗	1										
	焼土	一				1							
小計			1	1	1	1	1	0	0	0	0	3	
第Ⅱ層 第Ⅰトレンチ西拡張部	弥生	甕			1			1				1	破片
	土師	皿				1							灯明
	土師	壺	1										
	土師	甕		1									
	土師	高坏						1					
	土師	不明	2									14	細片3含む
	須恵	高坏					1						
	須恵	壺											
	須恵	甕			1								
	須恵	甕	1	2	21								頸部2の中に自然釉がかかる物1点
	須恵	不明			1								
	瓦質	鉢				1							
	チャート	不明											1
青磁	碗			1				1				1	
小計			4	3	25	2	1	3	0	0	0	17	
第Ⅱ層 第Ⅰトレンチ南	土師	高坏					1						
	小計			0	0	0	0	1	0	0	0	0	0

出土地点	種類	口縁部	頸部	胴部	底部	坏部	脚部	蓋口縁部	蓋天井部	つまみ	その他(不明)	備考
第Ⅲ層 第Ⅰトレンチ 西拡張部	須恵 甕	2		46								胴部46の中に自然釉がかかる物1点 胴部中2はきざみ目凸帯をもつ 重弧 同一個体 (細片) ₃₆ 胴部は胴部片細片 4 3を含む 1 1 38 極細片
	須恵 高坏					3	1					
	須恵 深鉢			5								
	須恵 坏							1				
	弥生 甕	1		5			(脚台) ₁					
	弥生 壺			1								
	土師 壺	1										
	土師 高坏						1					
	土師 甕			2								
	土師 皿				2							
	土師 不明			9								
	青磁 碗	2		1								
	縄文 深鉢			2	2							
	縄文 不明											
一 鉄くず											1	
一 鉄片											1	
不明 不明											38	
小計		6	0	71	4	4	2	1	0	0	80	
第Ⅲ層南 第Ⅰトレンチ 西拡張部	須恵 高坏					1		1	1			4 細片 46 不明46は細片
	須恵 坏											
	須恵 甕			10								
	須恵 不明											
	土師 甕	2	1									
	土師 皿	1			2							
	土師 壺	1										
土師 不明			9								46	
青磁 碗			1									

出土地点	種類		口縁部	頸部	胴部	底部	坏部	脚部	蓋口縁部	蓋天井部	つまみ	その他(不明)	備考
	滑石	一										1	片細
	焼土	一										3	細片
	小計		4	1	20	2	1	0	1	1	0	54	
第Iトレンチ張部拡張	青磁	碗			3								
	陶磁	碗			2								
	チャット	一片										1	
	滑石	鍋	1										
小計		1	0	5	0	0	0	0	0	0	1		
東拡張 第Iトレンチ西拡張部	須恵	甕			2								
	須恵	高坏					1						
	土師	甕	1									13	細片
	土師	不明										1	細片
	須恵	不明											
小計		1	0	2	0	1	0	0	0	0	14		
西拡張 第Iトレンチ西拡張部	須恵	壺	1										
	須恵	坏							2				
	須恵	甕			4								同一個体 自然釉
	土師	皿				1							糸切
	瓦質	不明	1										
	青磁	碗	2										口縁部2の中の1は同安窯
	青磁	皿				1							同安窯
	陶磁	碗	1										
小計		5	0	4	2	0	0	2	0	0	0		
西拡張部ピット内 第Iトレンチ	土師	高坏					1						
	土師	坏	1			5							底部5はヘラ切
	土師	甕		1									

出土地点	種類		口縁部	頸部	胴部	底部	坏部	脚部	蓋口縁部	蓋井部	つまみ	その他(不明)	備考
	土師	不明										2	細片
	須恵	一			1								
	小計		1	1	1	5	1	0	0	0	0	2	
第Ⅰ層 西溝 Iトレン 排水	須恵	甕	1	1									
	小計		0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	
第Ⅱ層 第Ⅲ層 Iトレン チ西 拡張部	須恵	坏	1			1			32				
	須恵	壺	3	4									
	須恵	高坏					23	6					
	須恵	高台付坏	4			7							
	須恵	甕	1	2	16								
	須恵	不明			70								
	瓦質	鉢				2							
	瓦質	不明			2								
	土師	高坏					1	2					
	土師	不明			1							23	細片
	土師	皿				1							ヘラ切
陶磁	碗	1		3	1								
小計			10	6	92	12	24	8	32	0	0	23	
第Ⅰ層 南 Iトレン 住居跡	陶磁	深鉢	1		2	1							
	陶磁	不明			40								
	須恵	甕			1								
小計			1	0	43	1	0	0	0	0	0		
	土師	皿				11							底部11中8は糸切、ヘラ切
	土師	高坏					3	1					
	土師	坏							1				
	土師	不明	1		16							5	不明5は細片

出土地点	種類	口縁部	頸部	胴部	底部	坏部	脚部	蓋口縁部	蓋天井部	つまみ	その他(不明)	備考	
西 拓 張 部 第 I ト レ ン チ	青磁碗	1		9	1							胴部9中3は同安窯	
	須恵甕	5	9	68									
	須恵坏					1			18				
	須恵壺	1	6	2									
	須恵高台付坏	1			2	2							
	須恵高坏				2	2	1						
	須恵不明			15									
	磁器皿	1										染付	
	陶磁碗	2											
	弥生甕			1									
	縄文甕			1									
	縄文不明			1									
	瓦質鉢	1											
	瓦質不明			1									
	焼土一			4									
	鉄器刀子											1	
	一玉											1	直径約3cmの玉
	不明不明	1											時期不明(縄文か?)浅鉢か?
不明不明				2								時期不明(弥生か?)	
陶器不明				3									
小計		14	15	123	17	7	2	19	0	0	7		
西 拓 張 部 南 第 II 層 境 2 号 第 I ト レ ン チ	弥生甕			1			2						
	須恵甕			1									
	須恵坏				1								
	須恵高坏						1						
	土師皿				3								
土師甕	2												

出土点	種類	口縁部	頸部	胴部	底部	坏部	脚部	蓋口縁部	蓋天井部	つまみ	その他(不明)	備考
	土師不明			8								時期不明 (土師か弥生か?)
	瓦質攞鉢			1								
	滑石蓋			1								
	一不明			8								
	小計	2	0	20	4	0	3	0	0	0	0	
境2号第Iトレンチ	土師高坏					1						12 細片 11 細片 口縁部染付、胴部2中1は染付
	土師血				3							
	土師不明											
	須恵不明											
	須恵坏	1										
	須恵高坏						1					
	須恵甕			7								
	青磁碗				1							
	磁器皿				1							
	陶磁碗	1		2								
	小計	2	0	9	5	1	1	0	0	0	33	
境2号I・IVトレンチ	須恵高坏						1					
	須恵甕			4								
	小計	0	0	4	0	0	1	0	0	0	0	
排水溝 境2号第Iトレンチ	縄文深鉢			3								器型不明(脚か口縁?)
	弥生不明											
	弥生甕	1	1								2	
	土師甕			4								
	土師不明			2								
	須恵甕			2								
	小計	1	1	11	0	0	0	0	0	0	2	

出土地点	種類		口縁部	頸部	胴部	底部	坏部	脚部	蓋口縁部	蓋天井部	つまみ	その他(不明)	備考	
西 境 2 号 墳	須	惠 甕			1									
	須	惠 高坏					1							
	須	惠 不明			1									
	小 計			0	0	2	0	1	0	0	0	0	0	
東 境 周 2 号 墳	須	惠 壺	1											
	須	惠 不明			2	32							胴部片	
	須	惠 高坏					11	17	2				1	
	須	惠 坏	10				4						1	
	須	惠 甕	2		20									
	土	師 甕			2									
	土	師 鉄片											1	
	土	師 高坏					2	2						
石	器 敲打器											1		
小 計			13	0	24	32	17	19	2	0	0	4		
境 2 号 墳 石 室 内 (6 ブ ロ ック)	1 ブ ロ ック	不	明 不明	5										
		土	師 皿			2								
		須	惠 不明			1								
		磁	器 不明			1								
	2 ブ ロ ック	不	明 不明										2	極細片(土師か弥生か?)
		須	惠 甕			1								
		土	師 甕			1								
	3	鉄	器 一										1	
		土	師 不明										3	
	4	土	師 甕			1								
		土	師 皿				1							
	5 ブ ロ ック	鉄	片 一										2	
土		師 土 錘										1	(実)	

出土地	種類	口縁部	頸部	胴部	底部	坏部	脚部	蓋口縁部	蓋井部	つまみ	その他(不明)	備考
8	須恵土師	坏皿			2		1					
	小計		5	0	5	5	0	1	0	0	0	9
2前庭 2号墳	須恵	甗		5	5							
	小計		0	0	5	5	0	0	0	0	0	0
南3層 2号墳内	土師	甗	1									
	土師	不明		10								
	弥生	甗					1					
	不明	不明									34	
	瓦質	鉢	1									
小計		2	0	10	0	0	1	0	0	0	34	
ガレキ 2号墳内	土師	坏				1	1					
	須恵	甗	1	1								
	瓦質	火舎		2								
	土師	甗	1									
	陶器	播鉢		1								
小計		2	0	4	0	1	1	0	0	0	0	
北側 2号墳外	須恵	甗		7								
	須恵	高坏				1						
	須恵	播鉢		1								
	瓦質	火鉢		1								
	陶器	甗	1									
小計		1	0	9	0	1	0	0	0	0	0	
	土師	坏									8	破片8うち実例1
	須恵	—									3	

出土地点	種類	口縁部	頸部	胴部	底部	坏部	脚部	蓋口縁部	蓋天井部	つまみ	その他(不明)	備考
境2号墳外西側(土手)	土師高坏						4					
	土師壺又は甗	1									23	
	土師皿				3						1	灯明
	土師不明			27							27	
	須恵甗											
	須恵壺	1										
	須恵不明										7	
	瓦質鉢	2										
	陶碗	3										
	滑石一										5	滑石片
須恵高坏			2	1		1						
陶器甗	5											
磁器不明			4									
小計		12	0	33	4	0	5	0	0	0	74	
境2号墳外周辺表採	縄文深鉢			1								
	縄文鉢			9								
	縄文不明										3	
	土師不明										7	
	須恵壺	1										
須恵不明										2		
陶磁甗	1		1									
小計		2	0	11	0	0	0	0	0	0	12	
2号奥壁墳外	弥生甗			4								
	弥生壺			1								
	瓦質不明			1								
小計		0	0	6	0	0	0	0	0	0	0	

出土地点	種類	口縁部	頸部	胴部	底部	坏部	脚部	蓋口縁部	蓋天井部	つまみ	その他(不明)	備考
2号側壁東外墳	須恵土師陶器	甗		2								把手
		甗		1								
	陶器	壺	1									
	小計	0	1	3	0	0	0	0	0	0	0	
2号北墳裏込	須恵陶器	甗		3	7							近世
	瓦質陶磁	播鉢火舎碗	1		1			2				
	陶磁	碗		1								
	小計	1	3	9	0	0	2	0	0	0	0	
2号西墳裏込	須恵陶器	甗		14								近世
	土師土師土師土師陶磁	甗 皿 不明 坏 高坏 甗 碗		1 1 1 1 1 1		1		1 1			(破片)5 5	
	小計	1	0	16	1	0	2	0	0	0	10	
2号北奥壁裏込	土師土師須恵瓦繩須恵	皿 不明 甗 火鉢 浅鉢 甗			1 1 1 1							菊花文(実1)
			1								1	
	小計	1	1	2	1	0	0	0	0	0	1	

出土地点	種類		口縁部	頸部	胴部	底部	坏部	脚部	蓋口縁部	蓋天井部	つまみ	その他(不明)	備考
境2号墳 第IIトレンチ	土師	高坏					5						
	土師	坏					1						
	土師	不明			6							3	不明3は細片
	土師	壺		2	3								同一個体
	小計			0	2	9	0	6	0	0	0	0	3
境2号墳 第IIトレンチII層	須恵磁器	甕皿 鉄鈷玉	1		1								
	小計		1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1
境2号墳 第IIトレンチ北	須恵陶器	甕壺	1		7								
	土師陶器	鉢	1										
	土師陶器	甕			4								
	土師陶器	不明				1							縄文晩期か?
	陶器	摺鉢				1							
	陶器	碗	1		2								口縁部1は染付
	小計			4	0	14	1	0	0	0	0	0	0
トレンチ北表去層 境2号墳第II	須恵土師	不明			1								
	小計		0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1
境2号墳 第IIトレンチ東	土師	高坏					4	3					坏部3中1は一片丹ぬり
	須恵	高坏						2	6				
	須恵	甕		1	2								
	須恵瓦質	不明	3		1							16	不明16は細片
	土師	不明								1		95	細片

出土地点	種類		口縁部	頸部	胴部	底部	坏部	脚部	蓋縁部	蓋天井部	つまみ	その他(不明)	備考	
	土師	坏											2 黒曜石片	
	土師	碗	1											
	繩文	鉢			1									
	須恵	壺			1									
	須恵	坏												
	—	—												
小計			4	1	5	0	4	5	0	7	0	113		
境2号南墳第2トレンチ	土師	高坏					3						丹ぬり 14 細片	
	土師	甕	1											
	土師	坏							1					
	土師	壺			1									
	土師	不明										14		
	須恵	甕			1									
	チャート片	—										1		
	小計			1	0	2	0	3	0	0	1	0	15	
境2号南墳第2トレンチ	須恵	坏	4							4				
	須恵	甕			2									
	須恵	高坏					7	3						
	須恵	高台付坏	3			1								
	須恵	不明	3		9									
	磁器	碗			1									
	陶器	甕			1									
	鉄片	不明												
	須恵	瓦泉				1								1
	小計			10	0	14	1	7	3	0	4	0		1

出土地点	種類		口縁部	頸部	胴部	底部	坏部	脚部	蓋口縁部	蓋天井部	つまみ	その他(不明)	備考
境Ⅱ号南拡張Ⅲ層 第2トレン	須恵青磁	甕碗	1		3								
	小計		1	0	4	0	0	0	0	0	0	0	
境2号墳一括	磁器	鉢										10	破片(同一個体)
	陶器	甕										5	破片(同一個体)
	磁器	碗	1										
	須恵	高坏					1	2					
	須恵	坏								2			
	青磁	碗	1										
	須恵	不明										2	細片
	須恵	甕			5								
鉄片	不明											7	
スラグ	—											1	
小計			2	0	5	0	1	2	0	2	0	10	
総計			125	38	712	160	84	63	57	21	0	543	1.803

(丸山)

5. 境 3 号 墳

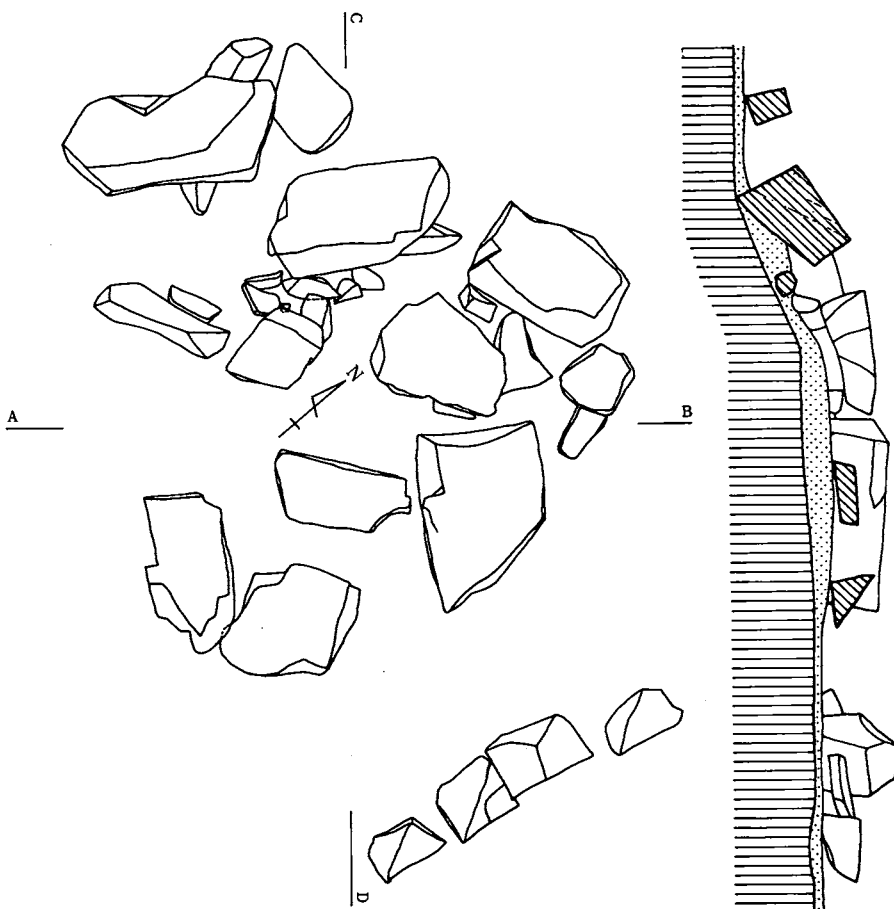
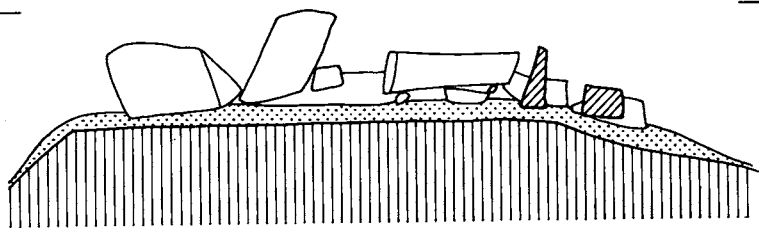
1) 外 部 構 造

雑木や蜜柑が伐採された時点では石室は倒壊しているが旧状を残し、墳丘の一部は残存する可能性があるかのように見えた。そのため墳丘を4分割することも考えて第IV～VIIトレンチを設定した。第IV～VIIトレンチの発掘結果から周溝を持たない古墳であることが明らかになった。また、墳丘と見えたのは石塚であり、石室の石材は後世に投棄したと思われる礫に埋れて

L=39.40M

A —

— B



L=39.40M

第18図 境3号石室検出状態

0 2m

いた。礫の間には須恵器、土師器の外に中世の遺物である瓦質土器・青磁等や、近世の陶磁器も多数含まれていた。遺物の堆積状態は単に投棄された状態であり、最下部からも中世の遺物が出土した。最上部には0.2~0.3mほど腐葉土が堆積して塚全体を覆い、永い年月世人の手が触れられなかったことを良く示していた。

以上述べたように周溝は持たず、封土もすでに失われていることが明らかになった。また古墳の周囲は蜜柑園造成により、旧来の地形は変化しているので、古墳墳丘の大きさはまったく明らかにできなかった。ただこの石塚と蜜柑園の境界が古墳墳丘の一端を示し、円墳であると仮定すると、直径12~13mの墳丘を持っていたであろうと推測される。(村井)

2) 内部構造

第18図に示すように石室をおしつぶしたように石室用材は散乱して検出された。石室は故意に破壊の限りをつくされた感をうけた。石室の規模を明らかにするために調査地一帯を精査したのが、石室の掘り方も明らかにできなかった。石材自体も浮き上がったような状態で検出された。おそらくは石材が乗っているやわらかい黒褐色の土中に掘り方をつくったのであろうと推測する。そのため石室の基礎が弱くて、破壊がより強く進んだものと思われる。

石材の種類はこの一帯で産出する変成岩と花崗岩であり、大部分は2号墳奥壁と同種の岩石である。

石材の枚数と散状から石室の規模を類推すると羨道部奥行0.8m幅1.2m、玄室奥行1.6m幅1.2mの巨石を使った横穴式単室墳であろう。形状は境2号墳よりも清水古墳により類似すると推測する。しかし、あまりにも破壊が進んでいるので古墳の旧状は類推の範囲を出ることができない。礫の間の出土遺物は、現代の遺物が検出されないのに対して、中世・近世の遺物が多数検出される。(村井)

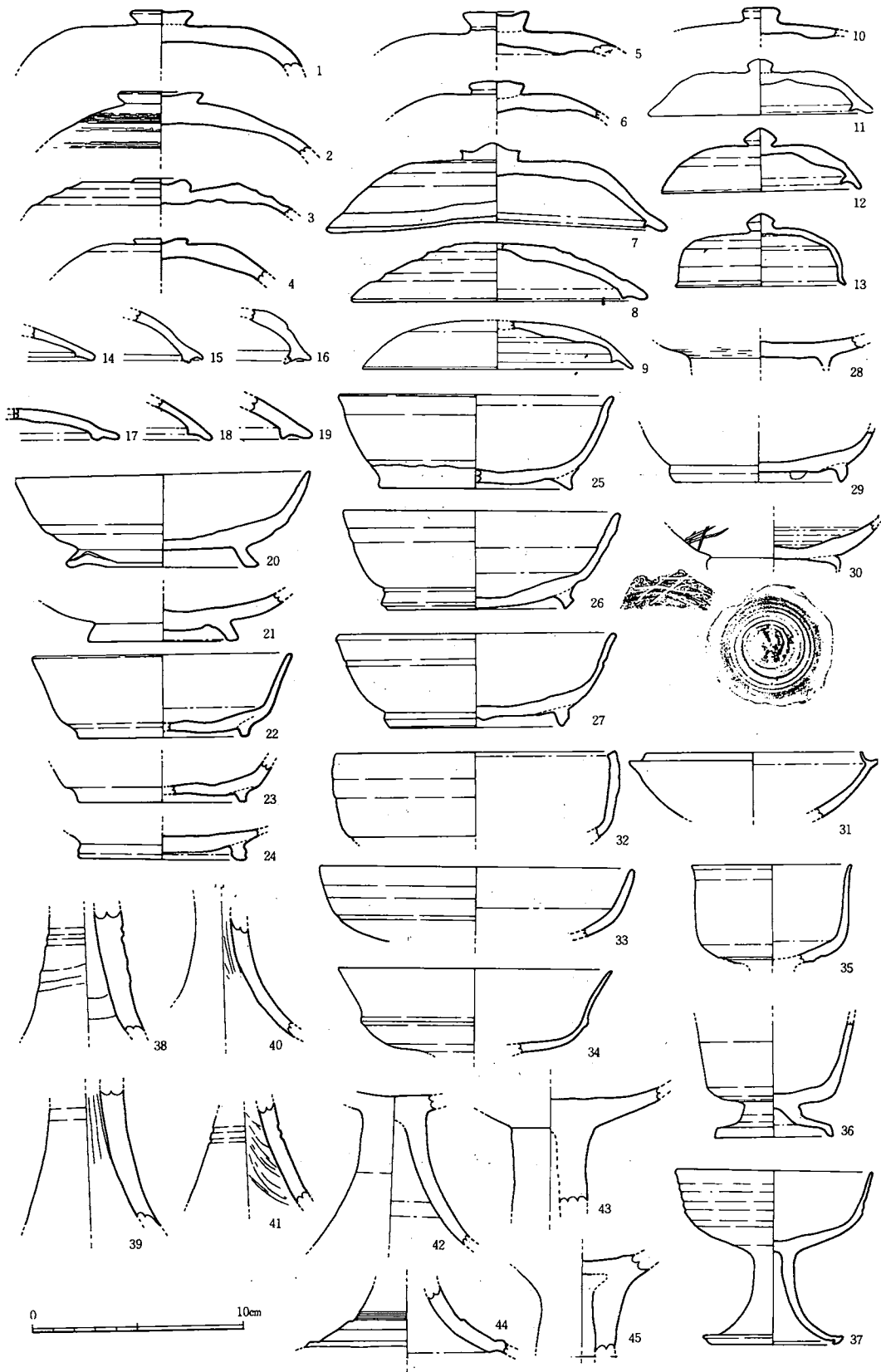
3) 出土遺物

古墳にともなう遺物を旧状を保った状態で検出できなかった。全ての遺物がなにかの原因で移動したり、投棄された状態で検出された。そのため、遺物の実測図は時代別に羅列した。

第19図 境3号墳出土遺物(須恵器)

1. 須恵器坏蓋片 一括資料である。口縁部と全体の $\frac{1}{2}$ を欠失している。内外面ともに器面荒れを生じている。頂部には扁平で中央部がやや窪む釘状の摘を有する。色調は淡灰色を呈し、焼成は良くない。胎土は良質である。

2. 須恵器坏蓋片 一括資料である。器表にはカキ目、器内には指による押圧痕が観察される。頂部には、扁平で中央部が凹形になった釘状の摘(径4cm)を有する。色調は灰褐色を



第19图 境3号墳出土遺物(須恵器)

呈し、焼成は良くない。胎土中に微砂粒を含む。

3. 須恵器坏蓋片 古墳西側より出土する。器表にはカキ目とミズビキによる整形痕が、内面にはミズビキによる整形痕が見られる。頂部には、扁平で中央部が凹形になった釘状の摘を有する。色調は灰白色を呈し、胎土中に微砂粒を含む。

4.・5. 須恵器坏蓋片 口縁部を含めて全体の $\frac{1}{2}$ を失っている。内面はミズビキによる整形痕が、外面はカキ目とミズビキによる整形がなされている。頂部には扁平で中央部が凹形になった釘状の摘を有する。色調は灰白色を呈し、焼成は不良である。胎土中に砂粒を含む。

6. 須恵器坏蓋片 瓦礫内より出土する。器表はカキ目、内面はミズビキとナデによる整形痕が残る。胎土中に微砂粒を含む。

7. 須恵器坏蓋 瓦礫内より出土する。最大径16.3cm、器高4.5cm、天井高2.4cmを測る。胎土、焼成とも良好であるが、焼成によるひずみが見られる。

8. 須恵器坏蓋片 古墳西側より出土する。全体の $\frac{1}{2}$ を残す。復元径14.3cm、復元高2.8cmを測る。器表はヘラ削りとミズビキ、器内はナデによる整形痕が見られる。色調は灰色を呈し、焼成は良好である。胎土中に微砂粒を含む。

9. 須恵器坏蓋片 復元径13.0cm、復元高2.3cmを測る。整形、胎土、色調等は上記11に類似する。

10. 須恵器の壺又は坏の蓋 古墳北側より出土する。内外面に水引、天井部に指ナデによる整形痕が見られる。頂部に宝珠摘の先端がつぶれたような摘を有する。色調は器表は淡灰褐色、器内は灰色を呈する。胎土中に微砂粒を含む。

11. 須恵器壺の蓋 少し荒い整形であり、カキ目とナデによる整形を行っている。頂部に宝珠摘を有する。色調は灰褐色を呈し、焼成は良好である。胎土中に砂粒を含む。最大径10.5cm、器高2.2cm、天井部1.4cmを測る。

12. 須恵器壺の蓋 西側壁際より出土する。全体の $\frac{1}{2}$ を失なう。器外はカキ目とミズビキ、器内はミズビキとナデによる整形がなされている。頂部に宝珠摘を有する。最大径9.4cm、器高3.1cm、天井高1.7cmを測る。胎土中に砂粒を含む。色調は灰色を呈し、焼成は良好である。

13. 須恵器壺の蓋 口縁の一部を欠損する。口径8.0cm、器高3.5cm、天井高2.5cmを測る。頂部に宝珠摘を有する。内面はミズビキ、外面にはカキ目が見られる。轆轤の回転方向は左廻りと推定される。焼成は良好であり、色調は青灰色を呈する。胎土中に少量の砂を含む。

14. 須恵器坏蓋片 古墳西より出土した。カキ目が見られる。胎土中に微砂粒が含まれる。色調は淡灰色を呈する。焼成は良好である。

15.・16. 須恵器壺の蓋と思われる。器表にはカキ目とミズビキおよびナデによる整形痕が

見られる。色調は灰色を呈し 焼成は不良である。胎土中に微砂粒を含む。

17・18・19. 須恵器坏蓋片 上記13に類似する。

20. 須恵器高台付坏 瓦礫内より出土する。全面ミズビキによる整形痕が残る。口径14.0cm、高台径9.2cm、器高4.4cm、高台高0.8cmを測る。高台は端部で開く。色調は器表黒灰色、器内灰褐色を呈し、胎土中に微砂粒を含む。

21. 須恵器高台付坏片 高台径7.2cm、高台高0.5cmを測る。胴部より上を失う。上記19に類似する。

22. 須恵器高台付坏片 古墳西側より出土する。全体の約 $\frac{1}{2}$ を残す。内外面ともにミズビキ、込みはナデによる整形を行なっている。色調は灰色を呈し、胎土中に微砂粒を含む。復元口径12.6cm、高台径8.3cm、器高4.0cm、高台高0.3cmを測る。

23. 須恵器高台付坏片 高台径8.0cm、高台高0.3cmを測る。器形は上記21に類似する。

24. 須恵器高台付坏片 瓦礫内より出土する。底部の $\frac{1}{2}$ を残す。器表はミズビキ、見込み部はミズビキの後、にナデによる整形を行っている。見込みにヘラ記号と思われる傷が見られる。色調は灰色を呈し、胎土中に微砂粒を含む。

25. 須恵器高台付坏片 石室推定地内の排土より出土する。全体の $\frac{3}{4}$ を欠失する。復元口径13.2cm、器高4.5cm、高台径6.3cm、高台高0.3cmを測る。器の内外面ともにミズビキによる整形をしている。口唇部は丸く整形されている。高台部と胴部との接合面が明瞭であり、畳付けの部分は外に開き、少し尖る。色調は灰褐色を呈し、胎土中に微砂粒を含む。

26. 高台付坏 瓦礫内より出土する。約 $\frac{1}{2}$ を欠失している。口径13.3cm、器高4.7cm、高台径8.5cm、高台高0.1cmを測る。内外面ともにミズビキによる整形がされている。器面には横ナデによる浅い凹凸が認められる。外面の $\frac{1}{2}$ は自然釉（暗緑色）がかかる。内面は灰褐色を呈する。高台は「八」の字形に外に開くように胴部に付けられているが、畳付けの部分は内湾するように屈曲している。胎土中に砂粒を含む。

27. 高台付坏 瓦礫内より出土する。約 $\frac{1}{2}$ を欠失する。口径13.3cm、器高4.5cm、高台径8.3cm、高台高0.4cmを測る。形態は上記25に類似する。

28. 高台付坏底部 瓦礫内より出土する。底部の $\frac{1}{2}$ を残す。器表にミズビキのあとが残る。高台はほぼ垂直に付く。色調は淡灰褐色を呈し、胎土中に微砂粒を含む。

29. 須恵器高台付坏底部片 古墳西側より出土する。高台径8cm、高台高0.5cmを測る。形態は上記25、26に類似する。

30. 須恵器高台付坏底部片 西壁ぎわより出土する。器の内外面はミズビキ、高台内側には回転ヘラ削りによる整形痕が見られる。整形痕から、轆轤は左廻りと考えられる。外面の腰か

ら高台脇にかけて、『#』の字状のヘラ記号がある。色調は灰色を呈し、胎土中に微砂粒を含む。

31. 須恵器有蓋高坏坏部 脚部と見込みの部分进行失う。口径10.2cmを測る。ミズビキによる整形痕が認められる。焼成は良好である。

32. 須恵器無蓋高坏坏部と思われる。古墳北側より出土する。内面はミズビキによる整形痕が見られる。口縁部は内湾し、口唇部は内側に傾斜する。復元口径13.5cmを測る。器表には自然釉がかかり、内面は灰色を呈する。胎土中に微砂粒を含む。

33. 須恵器無蓋高坏坏部 石室推定地内排土より出土する。復元口径15.1cmを測る。内外面ともミズビキによる整形がなされている。色調は灰色を呈し、焼成は良好である。

34. 須恵器無蓋高坏坏部片 瓦礫内より出土する。復元口径13.1cmを測る。口唇部は薄く整形され大きく開く。坏部には1条の突帯を作り出している。内外面ともに横ナデを施し、入念に作られている。色調は淡灰褐色を呈し、焼成は良好である。胎土中に砂粒を少量含む。

35. 須恵器無蓋高坏坏部片 古墳西側より出土する。復元口径7.5cm、坏部高4.8cmを測る。口縁部は外反し口唇端部に近づくに従って薄く整形している。焼成は良好であり、色調は青灰色を呈する。胎土中に微砂粒を含む。

36. 須恵器無蓋高坏坏部 古墳西側より出土する。脚部の一部と坏部の上半分を欠失する。脚部裾径5.6cm、脚高1.6cmを測る。坏部に回転ヘラ削り、脚部にミズビキによる整形痕を認める。坏部内面に縦方向の2本の線（ヘラ記号）が刻まれている。色調は灰色を呈し、胎土中に微砂粒を含む。

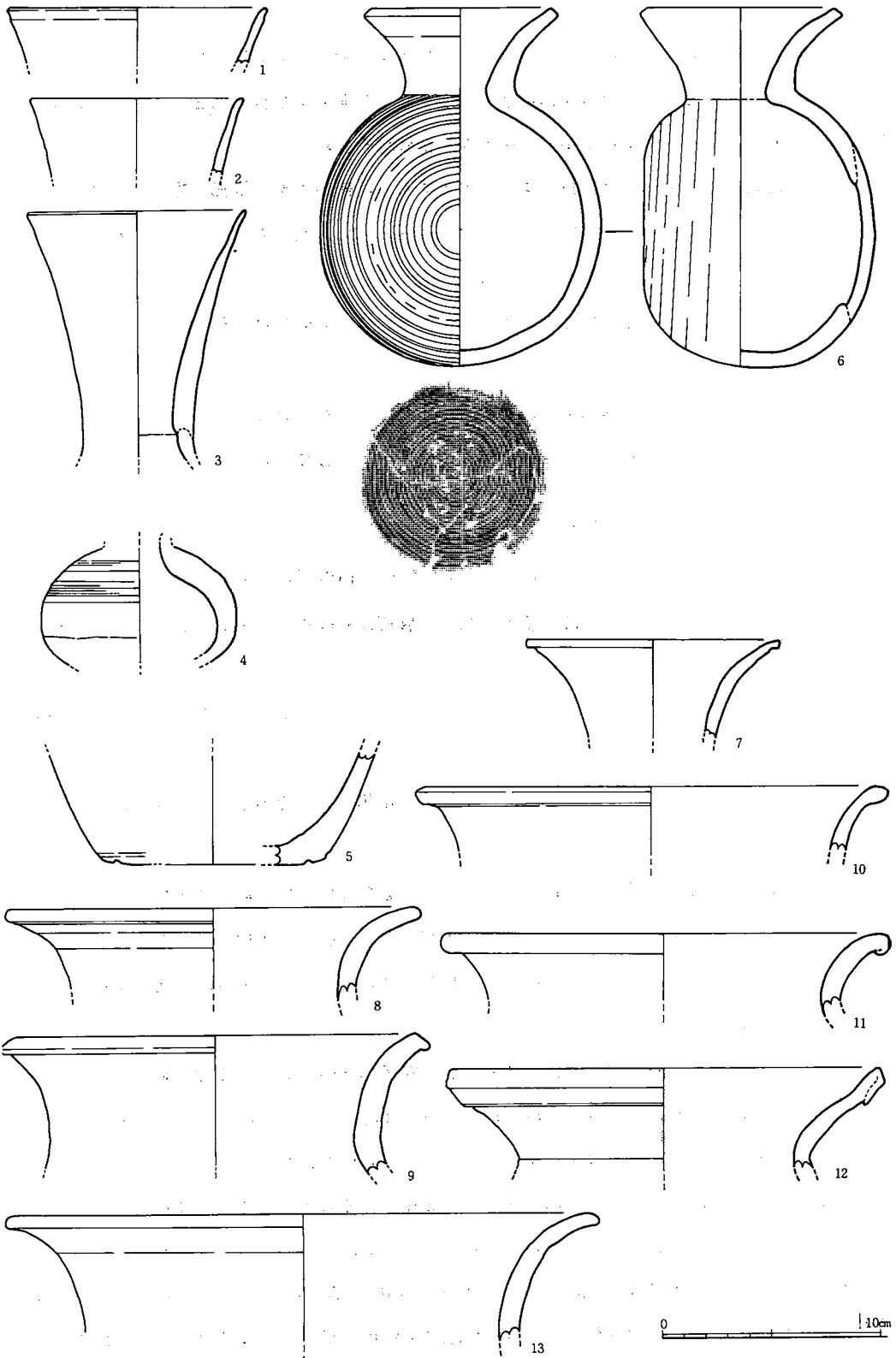
37. 須恵器無蓋高坏 坏部および脚部の半分を欠失する。坏部口径9.7cm、器高8.3cm、脚部裾径6.2cm、脚高4.4cmを測る。坏部器表はナデによる浅い沈線が数条まわる。脚部裾には自然釉がかかり、焼成は良好である。色調は黒灰色を呈し胎土中に微砂粒を含む。坏部内面には著しく鉄分が付着している。

38. 須恵器高坏脚部片 古墳西側より出土する。脚部上方で2条の沈線がめぐる。外面には2～3条のヘラ削りとミズビキによる整形痕が認められる。内面はヘラによる整形がなされている。色調は淡灰褐色を呈し、胎土中に微砂粒を含む。

39. 須恵器高坏脚部片 石室推定地内より出土する。外面にはミズビキ、内面はヘラ削りによる整形痕が認められる。色調は灰色を呈し、胎土中に微砂粒を含む。

40. 須恵器高坏脚部片 古墳西側より出土する。器表にミズビキによる整形痕が認められる。色調は灰色を呈し、胎土中に砂粒を多く含む。

41. 須恵器高坏脚部片 古墳西側より出土する。上方に2条の沈線を有する。内面はヘラに



第20図 境3号墳出土遺物 (須恵器)

よる整形がなされている。色調は灰白色を呈し、胎土中に微砂粒を少量含む。

42. 須恵器高坏脚部片 石室推定地内より出土する。外面および裾部内面にミズビキによる整形痕を認める。色調は灰褐色を呈し、胎土中に微砂粒を含む。

43. 須恵器高坏 石室推定地内排土中より出土する。坏部の大半と脚部の裾を欠失する。坏部の見込みにミズビキによる整形痕が認められ、轆轤の回転方向は右廻りと推定される。色調は灰白色を呈し、胎土中に微砂粒を少量含む。

44. 須恵器高坏脚部 脚部の裾部を残すのみであり、しかも畳付けの部分は欠失している。裾部の強く湾曲する部分に3条の沈線が見られる。

45. 須恵器高坏脚部片 瓦礫内より出土する。坏部の見込みと脚部の上半分を残すのみである。外面にはミズビキによる整形痕が見られる。胎土中に微砂粒を含む。 (丸山・村井)

第20図 境3号墳出土遺物(須恵器)

1. 須恵器長頸壺口縁部片 復元口径12.0cmを測る。内外面にミズビキによる整形痕が見られる。口唇部に近づくに従って薄く整形され、口唇部は丸味を帯びる。焼成は良好であり、色調は灰色を呈する。胎土中に砂粒を含む。

2. 須恵器長頸壺口縁部片 古墳北側より出土する。復元口径9.9cmを測る。器形、色調等は上記1に類似する。

3. 須恵器長頸壺口縁部片古墳西側より出土する。頸部より上部の $\frac{1}{2}$ 弱を残す。形態は1に類似する。

4. 須恵器坏胴部片 瓦礫内より出土する。胴部の $\frac{1}{2}$ を残す。復元最大胴部径9.1cmを測る。頸部以上および底部を欠失しているため形態は不明である。胴部の下位にはヘラ削り、上部にはカキ目が見られる。内面はミズビキによる整形がなされている。色調は淡灰褐色を呈し、胎土中に微砂粒を含む。

5. 須恵器壺底部片 瓦礫内より出土する。復元底径10.5cmを測る。底部の約 $\frac{1}{2}$ を残す。内外面はミズビキによる整形痕が残る。底部には1条の沈線が見られるので、ヘラ切りの際につけられた傷と考えられる。色調は灰色を呈し、胎土中に砂粒を含む。

6. 須恵器提瓶 前庭推定地より出土する。口縁部の約 $\frac{1}{2}$ および肩部の一部を欠失する。体部前面は膨みをもち、同心円状のカキ目が見られ、中央部に十字形のヘラ記号がみられる。背部は平坦になり、ミズビキによる整形をしている。口縁は直上に立ち上がったのちに外反する。口縁部にはナデによる調整が見られる。色調は暗灰色を呈し、口縁部内面および肩部には自然釉がかかる。

7. 須恵器提瓶口縁部片 西壁ぎわより出土する。復元口径11.8cmを測る。口縁部の約 $\frac{1}{3}$ を残す。全面に自然釉がかかっているので、整形の様子は不明である。焼成は良好であり、色調は暗緑色を呈する。胎土中に砂粒を含む。

8. 須恵器甕口縁部片 西壁際より出土する。復元口径19.3cmを測る。器表の一部にはタタキによる整形の後にナデを施している部分を見うける。内外面ともにミズビキによる整形痕を残す。口縁の上部は強く外反し、口唇部は丸く整形されている。色調は灰色を呈し、胎土中に微砂粒を少量含む。内面には自然釉がかかる。

9. 須恵器甕口縁部片 瓦礫内より出土する。復元口径22.8cmを測る。内外面にミズビキによる整形痕が残る。焼成は不良である。胎土中に微砂粒を少量含む。

10. 須恵器甕口縁部片 瓦礫内より出土する。復元口径22.0cmを測る。口唇部は丸く肥厚する。内外面に横ナデによる整形痕が残る。色調は灰色を呈し、胎土中に微砂粒を含む。

11. 須恵器甕口縁部片 瓦礫内より出土する。復元口径21.0cmを測る。口唇部は外に折り曲げて、丸く肥厚するように整形している。内外面とも横ナデによる整形を行っている。焼成は良好であり、口唇部および内面に自然釉がかかる。胎土中に微砂粒を含む。

12. 須恵器甕口縁部片 瓦礫内より出土する。復元口径19.6cmを測る。口唇部は粘土を折り曲げて肥厚させ、断面が隅丸の長形状を呈するかのよう整形している。内外面ともミズビキによる整形痕が残る。胎土中に小礫および砂粒を含む。

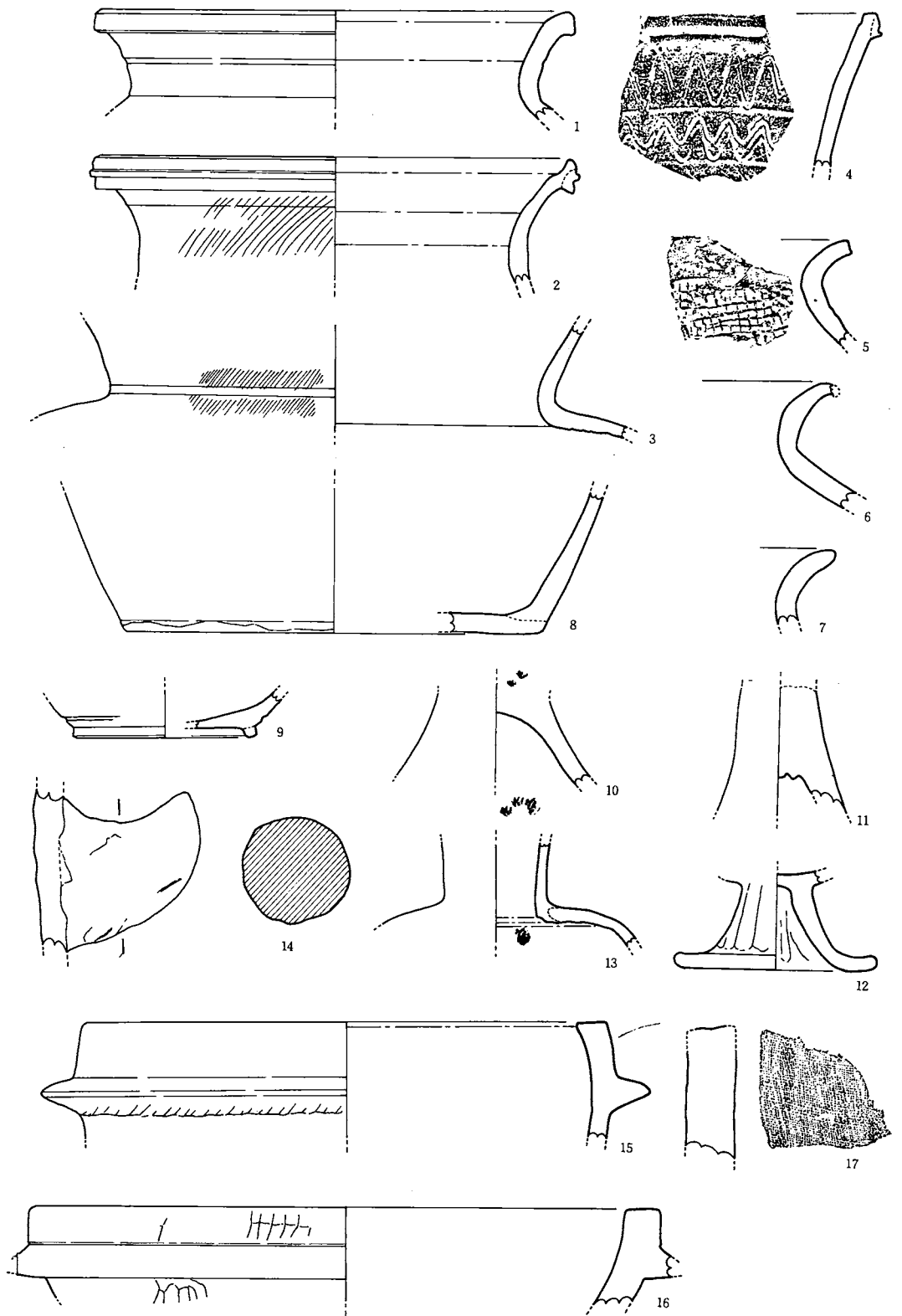
13. 須恵器甕口縁部片 西壁際より出土する。器面荒れが激しいが、一部にタタキ目が残る。色調は灰白色を呈し、胎土中に微砂粒を含む。 (丸山・村井)

第21図 境3号墳出土遺物(須恵器・土師器・石鍋)

1. 須恵器甕口縁部片 瓦礫内より出土する。復元口径22.4cmを測る。内外面ともミズビキによる整形痕が見られる。外面には1条の浅い沈線が廻る。色調は淡灰色であり、内面に自然釉が少量附着する。胎土中に微砂粒を少量含む。焼成は良好である。

2. 須恵器甕口縁部片 古墳西壁際より出土する。復元口径22.3cmを計る。外面に斜行するハケ調整のあと横ナデ、内面に轆轤による整形痕が認められる。口縁には突帯の貼付があり、肥厚し、さらに一条の突帯が上方に廻る。色調は灰色を呈し、焼成良好である。胎土には微砂粒を含む。

3. 須恵器甕頸部片 瓦礫内から出土する。頸部径は21.2cmを測る。口唇部および肩部以下は欠失している。口縁部外面には斜行するハケ調整、肩部外面は細いタタキのあと横ナデ整形が見られる。口縁部内面はミズビキ、肩部内面は同心円文状タタキによる整形痕が見られる。



第21图 境3号墳出土遺物 (須恵器・土師器・石鍋・瓦)

色調は淡灰褐色を呈し、焼成は良くない。胎土中に微砂粒を含む。

4. 須恵器甕口縁部片 瓦礫内から出土した。器表には二段の波状文が細いヘラ状工具により施されている。口唇部は折り曲げ、その上に1本の沈線を施している。焼成は良好であり、内外面に自然釉がかかる。色調は灰褐色を呈し、微砂粒を含む。

5. 須恵器甕口縁部片 古墳前庭部推定地付近より出土する。外面には格子のタタキが見られる。頸部より上部はタタキによる整形のあとナデ調整を行っている。

6.・7. 須恵器甕口縁部片 瓦礫内より出土する。内外面ともにミズビキによる整形がなされ、口唇部は丸く形が整えられている。色調は淡褐色を呈し、焼成は良好である。胎土中に微砂粒を含む。

8. 須恵器甕底部片 瓦礫内より出土する。復元底部径20.0cmを測る。内外面とも格子タタキによる整形の後に、ナデおよび押圧による整形がなされている。胎土は良質であり、焼成は良好である。色調は外面暗灰色、内面褐色を呈する。

9. 土師器高台付坏底部片 瓦礫内より出土する。復元高台径8.9cm、高台高0.5cmを測る。器面荒れを生じている。色調は赤褐色を呈し、胎土中に微砂粒を含む。

10. 器種不明 瓦礫内より出土する。弥生式土器の脚台付の甕の脚部の可能性が強いが、土師器のようにも見える。器面荒れ激しい。

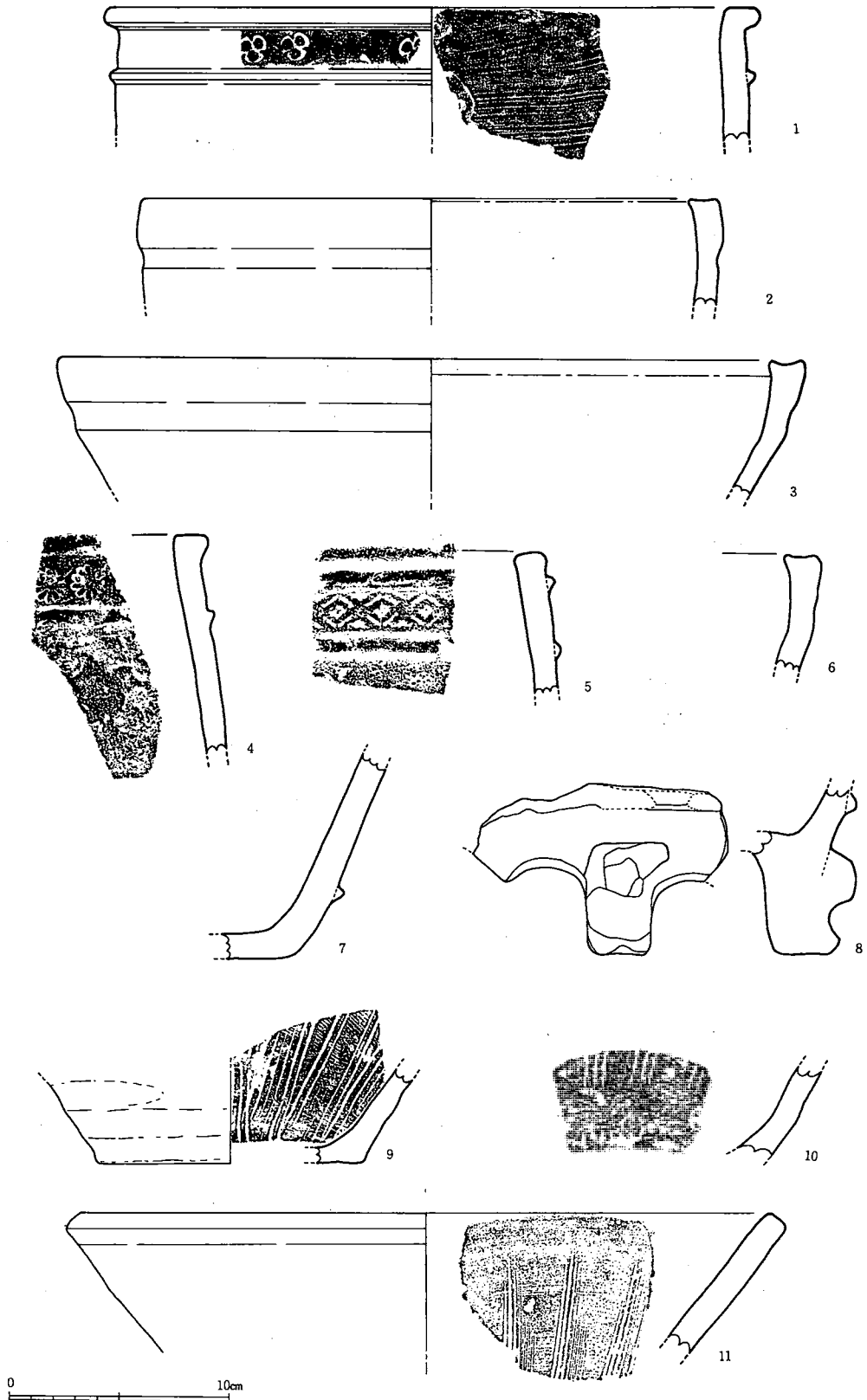
11. 土師器高坏脚部片 瓦礫内より出土する。器表および脚部内面にヘラ痕を残す。色調は赤褐色を呈し、胎土中に微砂粒を含む。

12. 土師器高坏脚部片 古墳西側より出土する。脚部裾径9.6cm、脚部高4.0cmを測る。坏部を欠失する。坏内面はヘラ削りによる整形をしている。脚部外面は下から上に向けて巾1.3cm内外のヘラ削りによる整形がなされている。脚部裾は内外ともに横ナデを施している。脚内面は横方向にヘラ削りのあとが見られる。色調は淡褐色を呈し、胎土中に微砂粒を含む。

13. 土師器長頸部片 瓦礫内より出土する。頸部は体部に差し込んだあと指ナデによって接合している。内面はナデによる整形を施している。器表は器面荒れは激しいが、丹による彩色が見られる。胎土中に少量の砂粒を含む。

14. 土師器甕取手 古墳西壁際より出土する。器面には指による整形痕が見られる。色調は暗褐色を呈し、胎土中に多量の砂粒を含む。

15. 滑石製石鍋片 古墳西側より出土する。復元口径25.0cmを測る。口唇部は平坦に削っている。鏝の断面は三角形を呈しているが、端部はほぼ丸くなっている。鏝は端部から体部の方向へ削っている。器面は外面より内面の方がなめらかに仕上げられている。口唇部は体部の立ち上がりよりも内湾する。



第22図 境3号墳出土遺物 (瓦質土器)

16. 滑石製石鍋片 古墳北側から出土した。復元口径 30.2cm、器厚約 2.0cmを測る。口唇部は平坦に削っている。内面は丹念に仕上げられており、外面には縦方向に削りがみられる。鏝は口唇部端より1.8cm下位にまわる。

17. 平瓦破片 古墳北側より出土する。片面に布目痕を有する瓦で厚さは2.3cmを測る。胎土は所謂瓦粘土であるが、微砂粒を含んでいると思われる。焼成は良好であり、色調は淡黄灰色を呈する。 (丸山)

第22図 境3号墳出土遺物(瓦質土器)

1. 瓦質土器火舎口縁部片 瓦礫内より出土する。復元口径29.6cmを測る。口縁部全体の約 $\frac{1}{5}$ を残す。外面には横ナデによる調整ののち、三星形の印文を施す。内面は横方向にハケ状工具による調整痕が残る。口唇部より3cm下方に、1条の突帯を有する。色調は淡褐色を呈し、胎土中に微砂粒を含む。

2. 瓦質土器火舎口縁部片 西壁際より出土する。復元径13.2cmを測る。口縁部は胴部に対して、多少内湾する。器面(内外面)には横ナデによる調整痕が残る。色調は灰色を呈し、胎土中に砂粒を含む。

3. 瓦質土器火舎口縁部片 瓦礫内より出土する。復元口径 17.2cmを測る。口縁円周の $\frac{1}{15}$ を残すのみであり、胴部以下は完全に欠失する。立ち上がりは、こね鉢と類似するが口縁部は少し内湾する。口唇部は胴部より肥厚し中央部が凹形になる。内外面とも横ナデによる調整痕が残る。胎土中に微砂粒を含む。

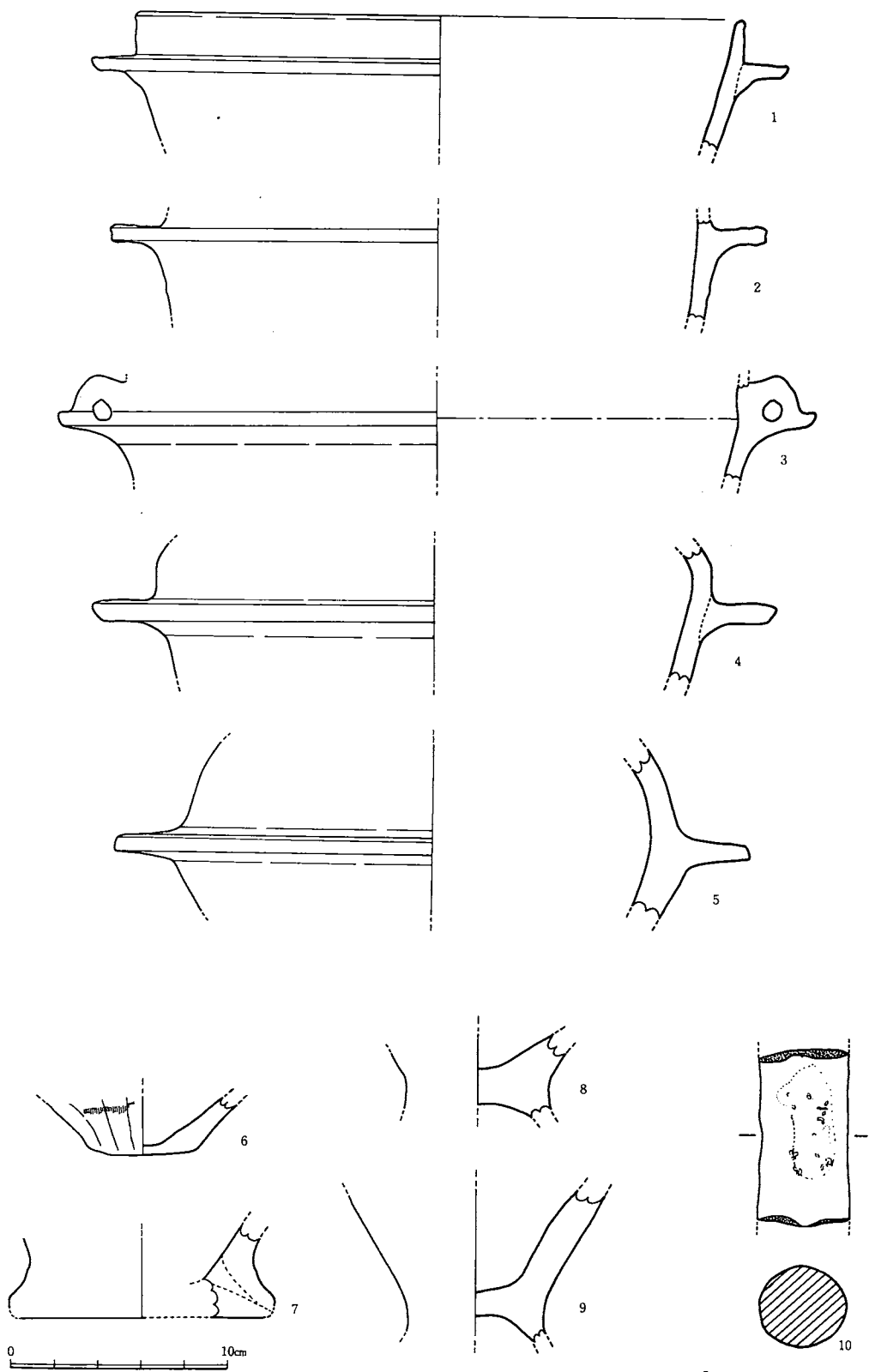
4. 瓦質土器火舎口縁部片 瓦礫内より出土する。口唇部より3.5cm下方に1条の突帯を有する。突帯と口唇部との間に印花(菊花文)がある。上記1に器形は類似するが、口縁部の内径は1より大きいように思われる。

5. 瓦質土器火舎口縁部片 石室推定地の西側より出土する。器厚1.3cmを測る。口唇部より1.2cm、4.3cm下に巾0.8cm、高さ0.3cmの2条の突帯を有する。2条の突帯の間には釘貫文状の印文が横に連続して施文されている。口唇部の上面はほぼ平坦である。色調は褐色を呈し、胎土中に砂粒を含む。

6. 瓦質土器火舎口縁部片 石室推定地の西側より出土する。上記3に類似する。

7. 瓦質土器火舎底部片 瓦礫内より出土する。器厚1.5cmを測る。外面にはヘラ削りと横ナデ、内面にはナデによる調整痕が見られる。底部から2.8cmの高さに、巾0.7cm、高さ0.4cmの1条の突帯を有する。色調は淡灰褐色を呈し、胎土中に砂粒を含む。

8. 瓦質土器火舎脚部片 瓦礫内より検出する。内外面に横ナデによる整形痕が見られ、ま



第23図 境3号墳出土遺物（瓦質土器・その他）

た脚部はヘラ削りによる整形がなされている。色調は暗褐色を呈し、胎土中に砂粒を含む。

9. 瓦質土器擂鉢底部片 西壁際より出土する。復元底径12.2cmを測る。外面には横ナデと指の押圧による調整痕が見られる。内面は横ナデによる調整の後、6条を1単位とする櫛状工具によって擂鉢の目が立てられている。内面立ち上がり部付近は擂鉢の目が磨滅している。色調は淡灰色を呈し、胎土中に微砂粒を含む。

10. 瓦質土器擂鉢片 瓦礫内より出土する。底部近くの破片である。上記9に類似する。

11. 瓦質土器擂鉢口縁部片 西壁際より出土する。復元口径31.7cmを測る。外面はハケ状工具による細かな調整痕が見られる。口唇部は横ナデによる調整がなされている。内面はナデ調整の後、底面から口縁部の方向へ、7条を1単位とする櫛状工具によって擂鉢の目が立てられている。色調は淡灰色を呈し、胎土中に微砂粒を含む。 (村井・丸山)

第23図 境3号墳出土遺物（瓦質土器・その他）

1. 土製鍋口縁部片 瓦礫内より出土した瓦質土器片である。復元口径28.3cm、鏝の巾2.2cmを測る。器表は横ナデ整形、内面はハケ状工具による調整を行なっている。鏝の下部には煤が付着している。胎土中に微砂粒を含み、色調は淡褐色を呈する。

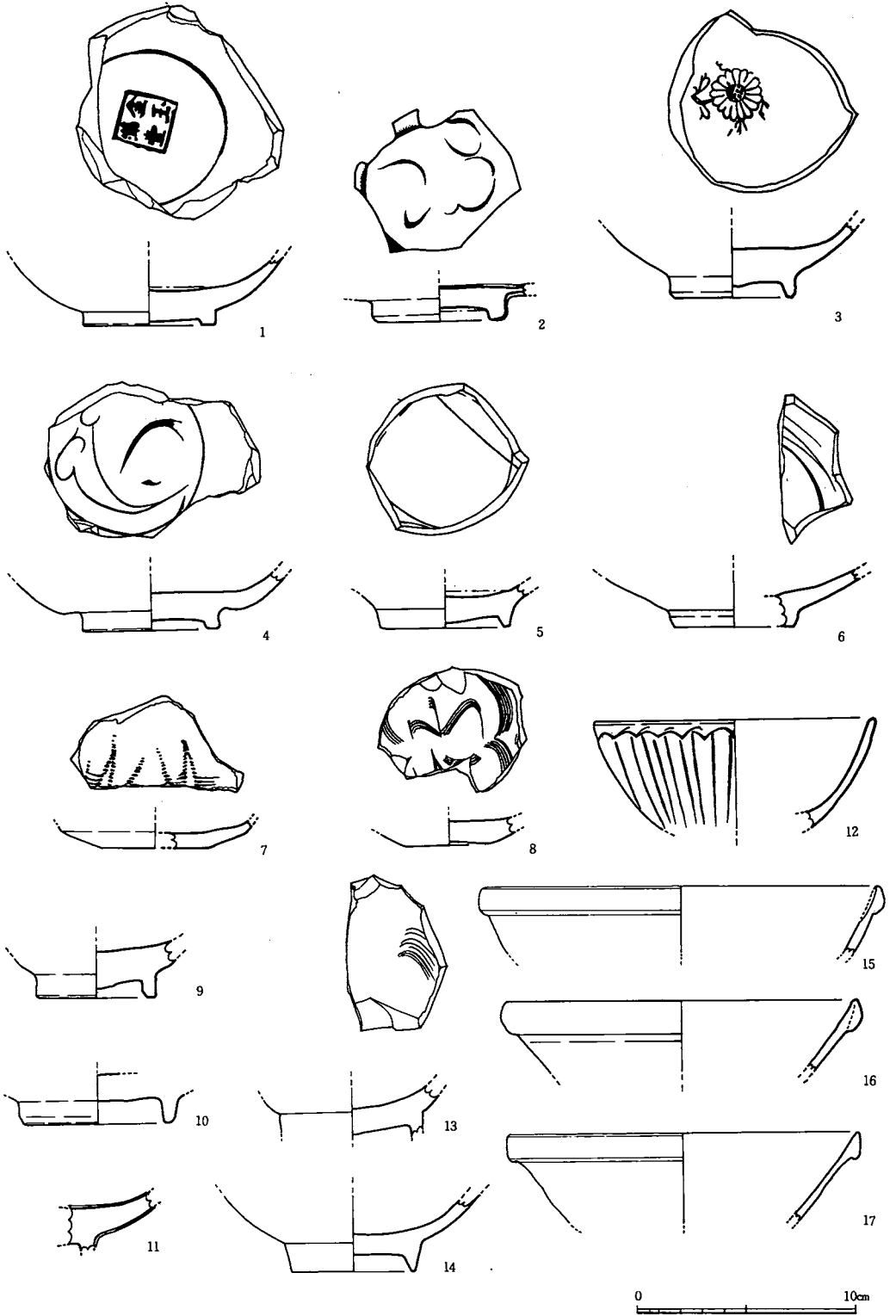
2. 土製鍋片 瓦礫内より出土した瓦質土器片である。鏝のついている部分における内径24.4cm、鏝の巾2.4cmを測る。内外面とも横によナデの整形痕が観察される。色調は淡褐色を呈し、胎土中に微砂粒を少量含む。

3. 土製鍋把手部片 古墳北側より出土した瓦質土器片である。把手部分の復元内径28.0cmを測る。把手は2個付くと思われる。内外面ともに横ナデ整形が見られる。色調は暗灰色を呈し、胎土中に砂粒を含む。鏝の下方には煤が付着している。

4. 土製湯釜 瓦礫内より出土した瓦質土器片である。最大内径24.0cm、器厚1.0cm・鏝の巾3.1cmを測る。内外面ともに横ナデを施している。色調は淡褐色を呈し、胎土中に砂粒を多く含む。

5. 土製湯釜 古墳瓦礫内より出土した瓦質土器片である。最大内径20.2cm、器厚1.1~1.6cm、鏝巾3.3cmを測る。内外面とも横ナデ整形を行っている。色調は灰褐色を呈し、胎土中に砂粒を多く含む。

6. 弥生土器甕底部 古墳西壁ぎわより出土する。底面は径約5cmの円形の平底である。見込みの部分は丸く尖りぎみに深くなっている。内外面とも器面荒れが激しいが、外面にはハケ目とヘラ削りによる整形痕が残る。ヘラ削りは、底の方から口縁の方に行われている。色調は黒褐色を呈し、胎土中に石英質の砂粒を含む。弥生時代の後期末と推定される。



第24図 境3号墳出土遺物（青磁・白磁）

7. 弥生土器甕底部片 瓦礫内より出土する。底部復元径12.3cmを測る。底部は数回（最底2回）粘土をはり付けて造形している。器表には縦方向のヘラ削り、器内には横ナデによる整形痕が見られる。色調は赤褐色を呈し、胎土中に石英質の小礫や砂を含む。

8. 弥生土器甕脚部片 古墳瓦礫内より出土する。内外面ともに器面荒れが激しく、整形痕は認められない。器厚が厚く、色調は淡褐色を呈する。胎土中に砂粒を含む。

9. 弥生土器甕底部片 古墳西壁際より出土する。内外面とも器面荒れが激しい。色調は赤褐色を呈し、胎土中に微砂粒を含む。

10. 窯道具 石室推定地内の排土中から検出した。長さ8.0cm、径4.2cmを測る円筒状の土製品である。外面には茶褐色の自然釉が認められる。 (村井・丸山)

第24図 境3号墳出土遺物（青磁・白磁）

1. 青磁印花文字文碗 瓦礫内より出土する。見込みに『金玉満堂』の文字がはっきりと見える。高台径6.1cm、高台高0.2cm、器厚0.4~1.5cmを測る。竜泉窯系の青磁と思われる。

2. 青磁劃花文碗 瓦礫内より出土する。高台径5.9cm、高台高0.6cmを測る。竜泉窯系の青磁と思われる。

3. 青磁印花菊花文碗 瓦礫内より出土する。見込みに菊花文が見える。高台径5.4cm、高台高0.5cmを測る。竜泉窯系の青磁と思われる。

4. 青磁劃花文碗 瓦礫内より出土する。高台径6.2cm、高台高0.4cm、器厚0.6~1.3cmを測る。竜泉窯産と思われる。

5. 青磁劃花文碗 瓦礫内より出土する。高台径6.1cm、高台高0.3cmを測る。見込みに劃花文の一部が残る。同安窯産と思われる。

6. 青磁劃花文碗 瓦礫内より出土する。復元高台径5.5cmを測る。同安窯産と思われる。

7. 青磁劃花文皿 古墳東側より出土する。復元底径0.5cmを測る。見込みに猫描き手による劃花が見られる。同安窯産と思われる。

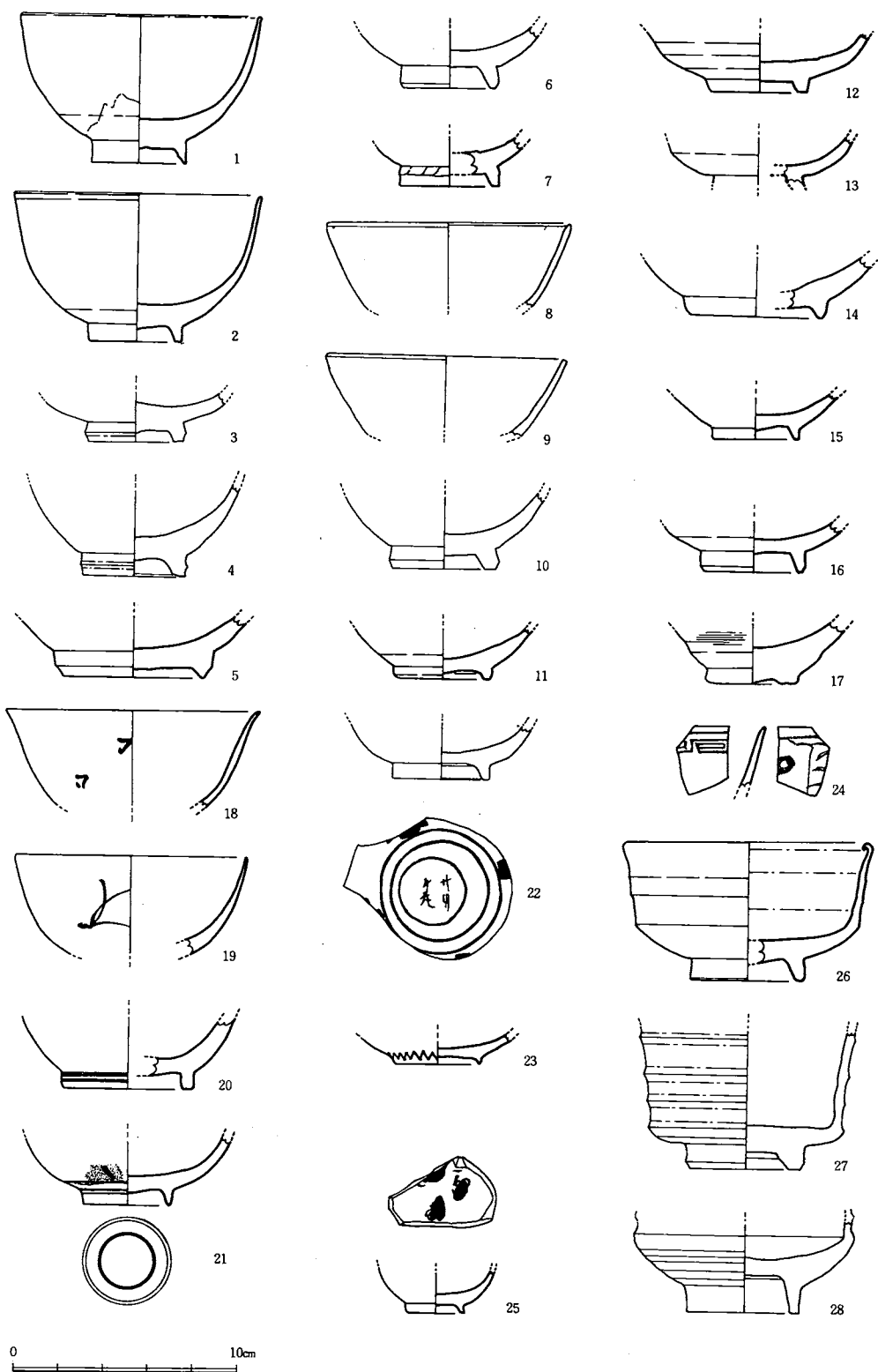
8. 青磁劃花文皿 古墳東側より出土する。底径4.0cmを測る。上記7と類似する。

9. 青磁碗 瓦礫内より出土する高台径5.6cm、高台高0.4cmを測る。竜泉窯産と思われる。

10. 青磁碗 古墳西側より出土する。高台径6.8cm、高台高2.1cmを測る。竜泉窯産と思われる。

11. 青磁碗 石室推定地西側より出土する。釉が厚くかかっている。竜泉窯産と思われる。

12. 青磁蓮弁文碗 瓦礫内より出土する。口径12.8cmを測る。釉の色は青緑色を呈する。蓮



第25图 境3号墳出土遺物（近世陶磁器）

弁は線刻になっている。15～16世紀（明代）の竜泉窯産と思われる。

13. 白磁劃花文碗 瓦礫内より出土する。見込みに猫描き手による刻花が見える。胴部より上と高台畳付けの部分を欠失している。宋代同安窯産と思われる。

14. 白磁碗 瓦礫内より出土する。高台径5.7cm、高台高0.8cmを測る。畳付けの部分の巾が高台基部に対して、非常に狭くなっている。上部を欠失しているが玉縁の碗と推定される。

15～17 白磁玉縁碗瓦礫内より出土する。復元口径18.2cm、16.1cm、16.0cmを測る。宋代の白磁である。 (村井)

第25図 境3号墳出土遺物（近世陶磁器）

1. 碗 外面に緑釉（銅釉）、内面に灰釉がかかる。口径10.7cm、高台径4.2cm、器高6.6cm、高台高0.7cmを測る。嬉野焼内野山窯製と思われる。

2. 碗 口径11.1cm、高台径4.1cm、器高6.6cm、高台高0.6cmを測る。上記1に類似する。

3. 碗 高台径4.2cm、高台高0.4cmを測る。内外面ともうっすらと緑釉（銅釉）がかかる。高台の外面は二重に削っている。嬉野焼内野山窯製と思われる。

4. 碗 高台径4.6cm、高台高0.6cmを測る。内面に灰釉、外面に緑釉（銅釉）がかかる。高台の内面も外面も二重に削っている。上記3に類似する。

5. 碗 高台径6.3cm、高台高0.4cmを測る。内面に灰釉がかかる。上記3・4に類似する。

6. 碗 高台径4.2cm、高台高0.9cmを測る。内外面ともに薄い緑釉（銅釉）がかかる。上記3に類似する。

7. 蛇目剥碗 高台径4.6cm、高台高0.6cmを測る。灰釉がかかる。嬉野焼内野山窯製と思われる。

8. 微外面に明褐色釉、内面に透明な釉がかかる。口径11.0cmを測る。

9. 碗 内外面ともに黒褐色釉（鉄釉）がかかる。口径10.8cmを測る。

10. 碗 内外面ともに鉄釉がかかる。高台径4.6cm、高台高0.6cmを測る。

11. 碗 灰オリーブ色の釉が内外面にかかる。高台径4.2cm、高台高0.2cmを測る。

12. 蛇目剥碗 内外面に乳白色の釉（灰釉）がかかる。高台径4.3cm、高台高0.5cmを測る。

13. 碗 高台脇の一部を残すのみである。内外面に灰釉がかかる。

14. 碗 復元高台径5.8cm、高台高0.4cmを測る。

15. 碗 内外面ともに乳白色の釉（灰釉）がかかる。高台径3.8cm、高台高0.4cmを測る。

16. 碗 内外面に緑灰色の釉（銅釉）がかかる。嬉野焼内野山窯製のように思われる。

17. 碗 黒褐色の鉛釉（鉄釉）がかかる。唐津天目茶碗の底部のようである。高台径4.1cm

を測る。高台内面の整形はほとんどなされていない。

18. 古伊万里染付碗 外面胴部に青い染付がある。上釉は薄い青味を帯びている。口径11.3cmを測る。

19. 古伊万里染付草花文碗 胴部に蘭の葉を描いたような青い染付がある。上釉は青灰白色を呈する。口径10.4cmを測る。

20. 古伊万里染付碗 高台に2条の横線が廻る。上釉は薄い青味を帯びる。復元高台径5.8cm、高台高0.6cmを測る。

21. 古伊万里染付碗 高台と高台脇に3条の横線が廻り、草花文の一部と思われる青色の染付が見られる。また高台内にも径2.6cmの円文が染付られている。高台径3.9cm、高台高0.6cmを測る。

22. 古伊万里染付碗 明の染付を写したものである。高台内に『大明年製』の文字を文様的に染付をしている。高台径4.5cm、高台高0.7cmを測る。江戸時代中期の百間窯の製品である。

23. 古伊万里染付碗 高台から高台脇にかけて、鋸歯文状の染付がある。器表には貫入が見られる。高台径3.9cm、高台高0.3cmを測る。

24. 古伊万里染付草花文碗 外面に草花文、内面に雷文を青色で染付している。

25. 古伊万里染付酒盃 口縁部を欠失する。見込みに草花文と思われる青色の染付がある。上釉は青味を帯びる。高台径2.7cm、高台高0.4cmを測る。

26. 香立て 口縁部から胴部中央部にかけて灰釉がかかる。内面および胴部下半分は無釉である。復元口径10.9cm、復元高台径5.2cm、器高6.2cm、復元高台高0.7cmを測る。唐津焼と思われる。

27. 香立て 口縁部を欠失する。外面に鉄釉がかかる。高台径5.1cm、高台高0.8cmを測る。唐津焼と思われる。

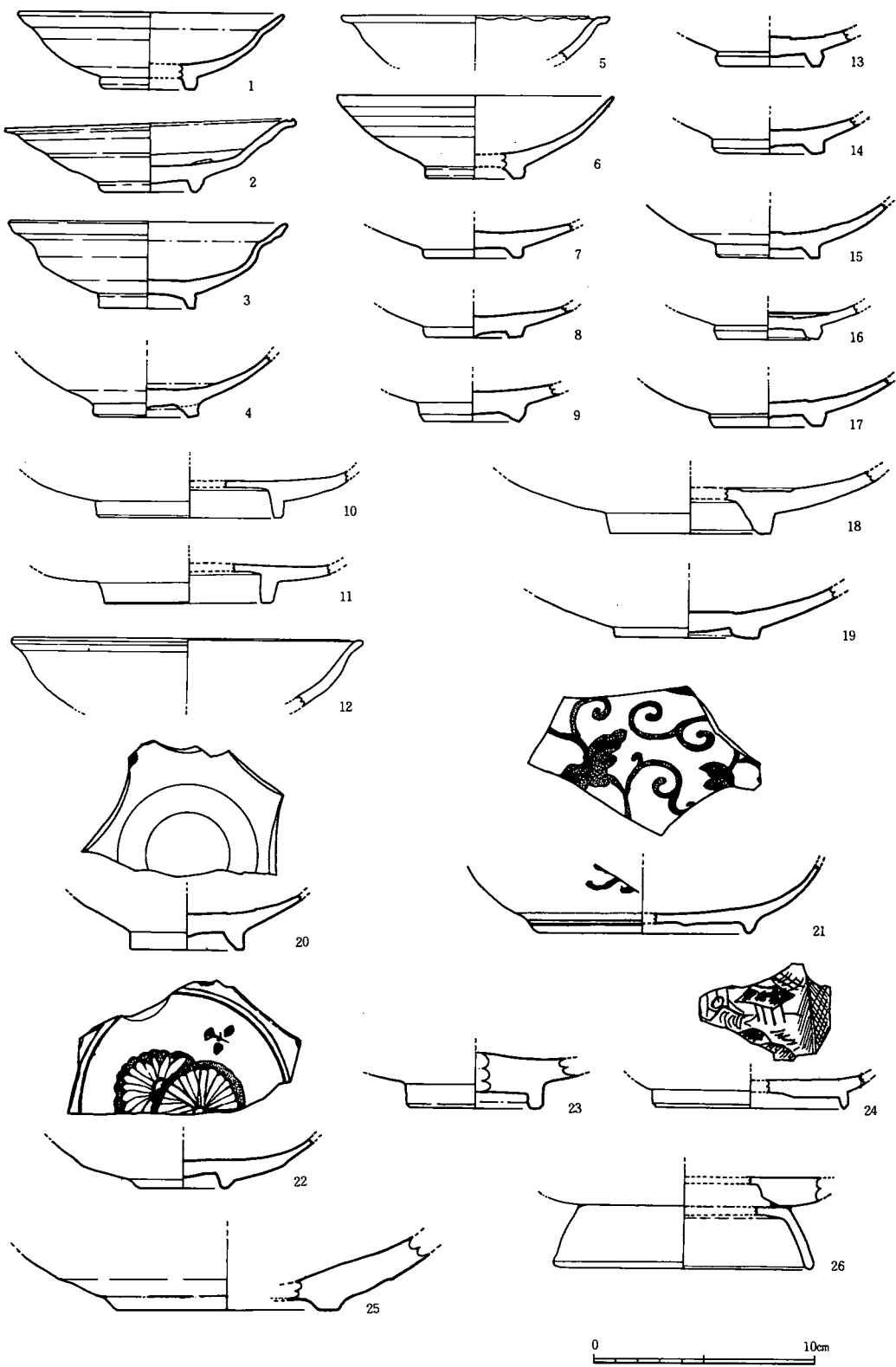
28. 香立て底部のみを残す。見込みに鉄釉がかかる。上記27・28と類似する。(村井)

第26図 境3号墳出土遺物(近世陶磁器)

1. 蛇目剥皿 瓦礫内より出土する。復元口径12.1cm、器高3.5cm、高台径4.2cmを測る。内外面とも灰釉がかかる。

2. 蛇目剥皿 口径13.2cm、器高3.1cm、高台径4.3cm、高台高0.4cmを測る。口唇部上端に凹形のくぼみがある。

3. 蛇目剥皿 西壁際より出土する。口径12.6cm、器高4.0cm、高台径4.5cm、高台高0.6cmを測る。内外面とも灰釉(乳白色の釉で1部に緑青色の部分あり)がかかる。



第26图 境3号墳出土遺物（近世陶磁器）

4. 蛇目剥皿 西壁際より出土する。高台径 4.7cm、高台高 0.5cmを測る。上記3に類似する。
5. 輪花皿 内外面とも黒褐色の釉（鉄釉）がかかる。復元口径12.4cmを測る。
6. 皿 石室推定地内より出土する。復元口径12.2cm、器高3.8cm、復元高台径4.4cm、高台高0.4cmを測る。
7. 蛇目剥皿 西壁際より出土する。内面灰釉、外面銅釉がかかる。高台径 4.5cm、高台高 0.4cmを測る。嬉野焼内野山窯製と思われる。
8. 皿 内外面とも灰釉がかかる。高台径4.4cmを測る。高台内面に兜巾状の盛り上り有り。見込みには、3ヶ所に目跡が見られる。
9. 皿 内外面とも（高台内面にも）灰釉がかかる。見込みに目跡が残る。高台径 4.4cm、高台高0.4cmを測る。
10. 蛇目剥皿 内外面に灰釉がかかる。高台内面は強く削り込まれていて、見込みの器厚は薄く整形されている。復元高台径8.4cm、高台高1.4cmを測る。嬉野焼内野山窯製と思われる。
11. 蛇目剥皿 内外面に黒褐色の釉（鉄釉）がかかる。復元高台径 7.7cm、高台高 1.3cmを測る。器形は上記10に類似する。嬉野焼内野山窯製と思われる。
12. 皿 口径15.8cmを測る。内外面ともに灰釉がかかる。
13. 蛇目剥皿 西壁際より出土する。緑釉（銅釉）がかかる。高台径 4.8cm、高台高 0.4cmを測る。嬉野焼内野山窯製と思われる。
14. 蛇目剥皿 瓦礫内より出土する。緑釉（銅釉）がかかる。高台径5.0cm、高台高0.3cmを測る。嬉野焼内野山窯製と思われる。
15. 蛇目剥皿 西壁際より出土する。内面に灰釉、外面に銅釉がかかる。高台径 4.6cm、高台高0.4cmを測る。嬉野焼内野山窯製と思われる。
16. 蛇目剥皿 内面に銅釉、外面に灰釉がかかる。高台径4.6cm、高台高0.4cmを測る。嬉野焼内野山窯製と思われる。
17. 蛇目剥皿 内外面ともに灰釉がかかる。高台径5.0cm、高台高0.4cmを測る。嬉野焼内野山窯製と思われる。
18. 蛇目剥皿 内面に黄褐色の釉（鉄釉）、外面に乳白色の釉（灰釉）がかかる。復元高台径7.4cm、高台高1.5cmを測る。
19. 蛇目剥皿 高台径6.6cm、高台高0.3cmを測る。上記18に類似する。
20. 古伊万里蛇目剥染付皿 高台径5.3cm、高台高0.6cmを測る。内面の一部に青色の染付が

見られる。

21. 古伊万里染付唐草文皿 内外面に青色の染付がある。復元高台径9.5cm、高台高0.4cmを測る。

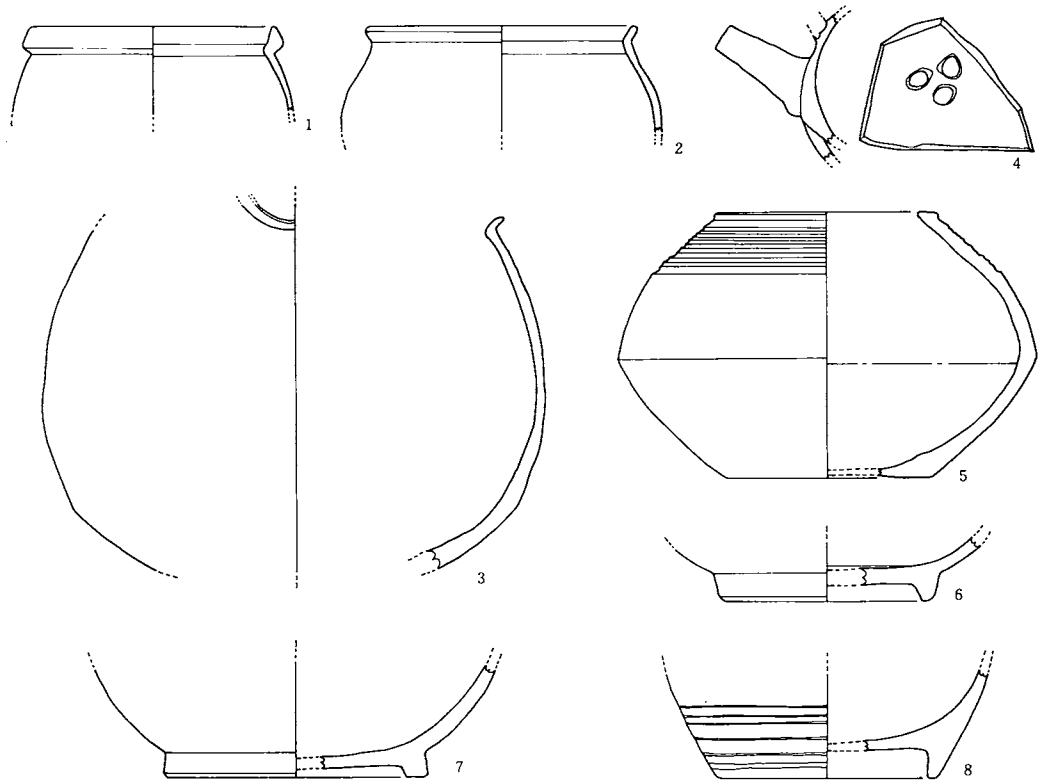
22. 古伊万里染付草花文皿 見込みに青色の菊花文の染付がある。高台径4.1cm、高台高0.5cmを測る。

23. 古伊万里皿 黄灰色の釉がかかる。復元高台径6.0cm、高台高0.8cmを測る。

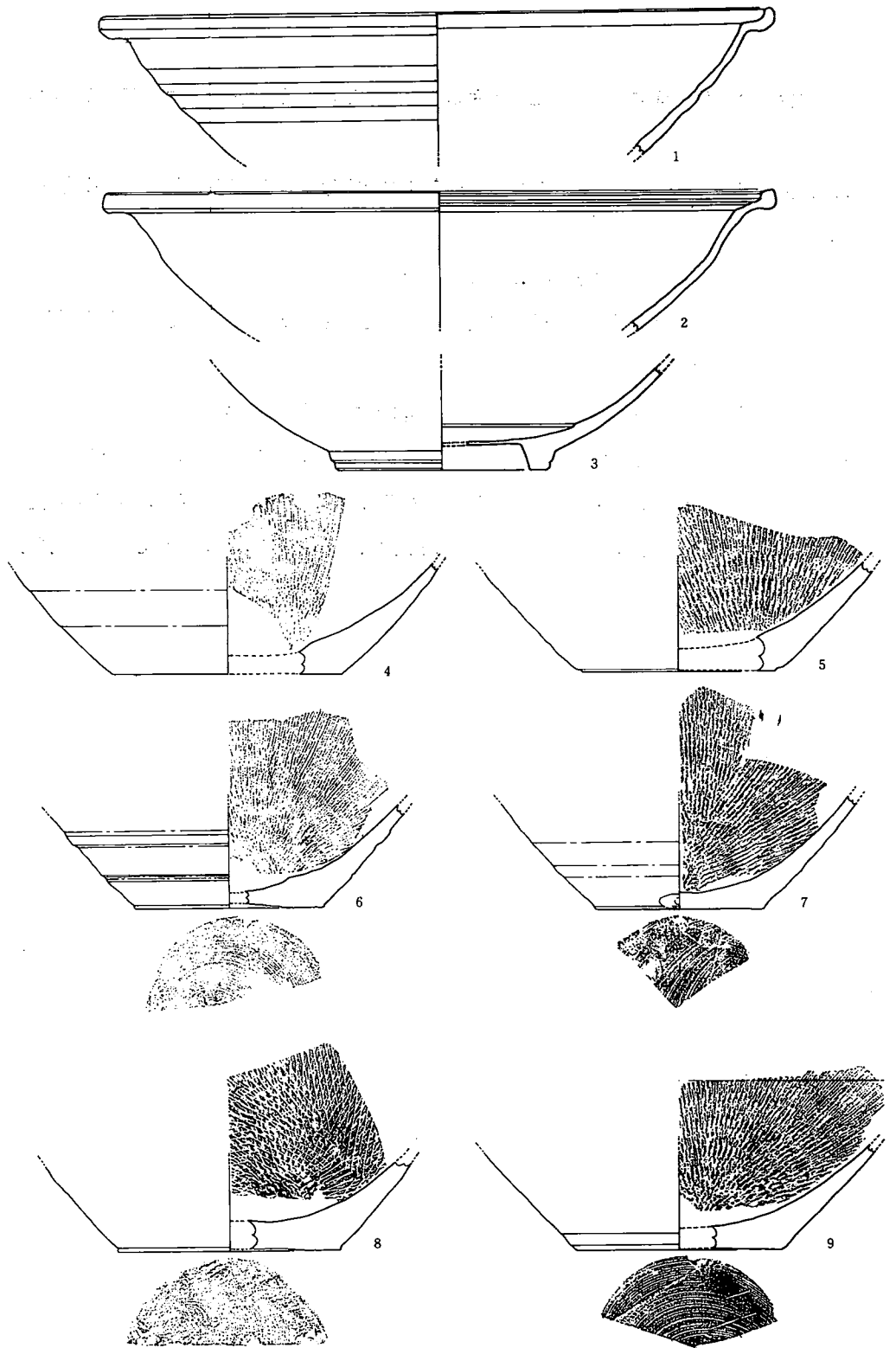
24. 古伊万里染付山水文平鉢 見込みに山水文を青色一色で染付している。復元高台径8.5cm、高台高0.7cmを測る。

25. 古伊万里白磁鉢 復元高台径10.2cm、高台高0.5cm、器厚1.6cmを測る。

26. 唐津台鉢 素地は黄褐色を呈し、上釉は透明である。献上唐津であり、椎峰窯の製品であろう。江戸中期以前に比定される。上部(鉢)と脚部は釉薬によって接合されている。大変ていねいな作りであり、最上等の品である。復元脚部径11.6cm、脚部高2.9cmを測る。(村井)



第27図 境3号墳出土遺物(近世陶磁器)



第28图 境3号墳出土遺物 (近世陶磁器)

0 10 20cm

第27図 境3号墳出土遺物（近世陶磁器）

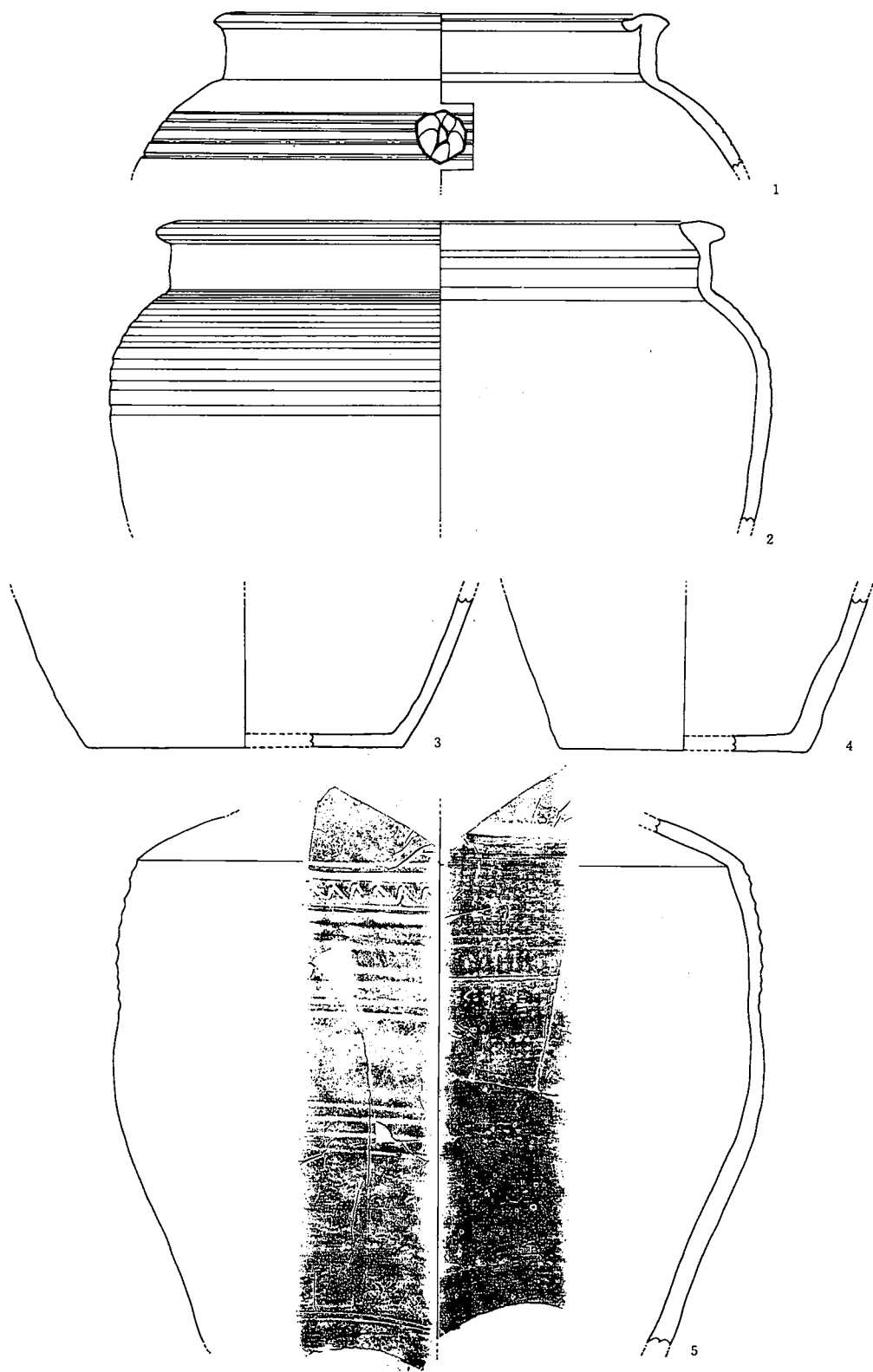
1. 壺片 復元口径9.7cmを測る。一見須恵器のような色調を示す。焼き締め良好で、外面にうっすらと土釉がかかる。窯は不明である。
2. 壺片 復元口径10.7cmを測る。内外面に黒褐色の釉（鉄釉）がかかる。武雄南部系黒牟田窯の製品と思われる。
3. 壺片 器高不明、最大胴部径19.9cmを測る。口縁は片口状の注口がついていたと考えられる。外面には黒褐色の釉（鉄釉）がかかる。武雄南部系の窯の製品の可能性が高い。
4. 青土瓶 注口部のみを残す。外面に緑色の釉（銅釉）がかかる。嬉野焼内野山窯の製品である。
5. 土瓶 底部および注口部を欠失する。復元口径8.7cm、復元底径8.1cm、復元胴部最大径16.5cm、器高10.5cmを測る。胴部中央部より上方には鉄釉がかかる。武雄南部系黒牟田表窯製である。
6. 徳利片 外面に黒褐色の釉（鉄釉）がかかる。内面は無釉である。復元高台径8.0cmを測る。武雄南部系黒牟田窯の製品と思われる。
7. 徳利 復元高台径10.2cmを測る。上記6に類似する。
8. 刷毛目化粧瓶 明褐色から黄褐色の釉をかけた上に白色の釉が横位に刷毛目状にかかる。平戸藩木原系の窯の製品と考えられる。江戸中期あるいはそれよりのぼる。元禄時代をくだらないと思われる。 (村井)

第28図 境3号墳出土遺物（近世陶器）

- 1.～2. 平鉢 底部を欠失する。口径40.6cm、41.6cmを測る。庭木窯製である。
3. 平鉢 口縁部と見込みの一部を欠く。復元高台径13.0cm、高台高1.4cmを測る。庭木窯製である。
- 4.～9. 襷鉢 底部の破片である。全て素焼である。底面には糸切りの痕が残る。底径は13.8cm、11.7cm、11.3cm、10.2cm、13.6cm、12.5cmを測る。ともに出土した陶磁器の多くが佐賀県で焼れた物が多いので、武雄南部系の製品と考えられるが、地元の窯の製品の可能性も考えられる。 (村井)

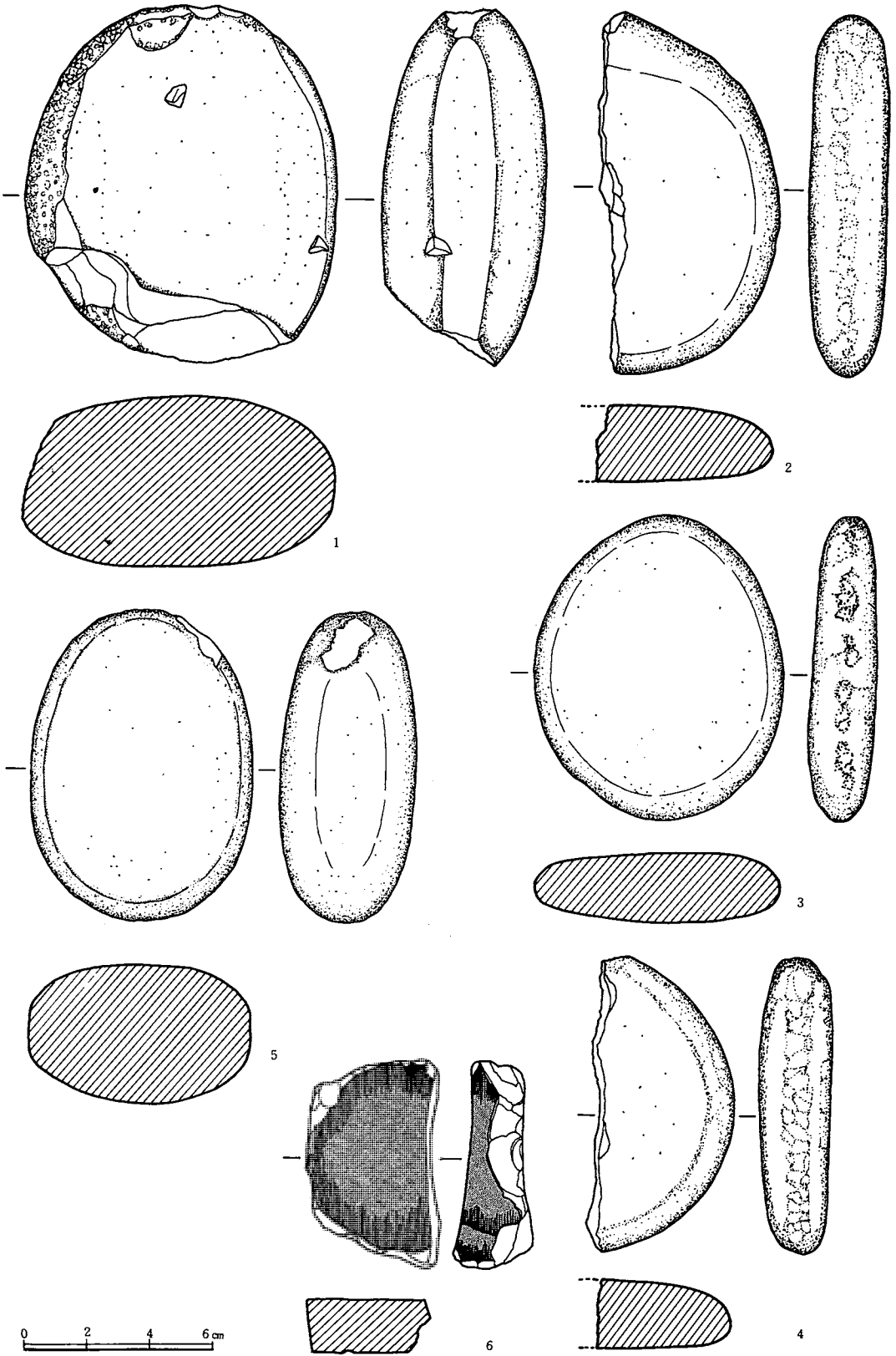
第29図 境3号墳出土遺物（近世陶器）

1. 甕 土釉をかけて焼成している。焼成は良好であり、よく焼きしまっている。肩部には粘土板を指で押圧して梅花を形取ったような花をつけている。口縁部にはミズビキきによる整



第29图 境3号墳出土遺物（近世陶磁器）

0 10 20cm



第30图 境3号墳出土遺物（磨石·砥石）

形痕が見える。口径24.6cm、頸部径26.7cmを測る。

2. 甕 外面に土釉をかけている。内面にはタタキによる整形痕が残る。頸部から口縁部にかけてミズビキによる整形痕が残る。口径31.2cm、頸部径33.2cmを測る。

3.・4. 甕 いずれも底部の破片である。焼成および素地は2と3、1と4が類似する。復元底径19.3cm、15.0cmを測る。

5. 甕 外面に土釉、内面に鉄釉をかける。内面に格子タタキの痕が残る。肩部径37.2cm、胴部最大径39.8cmを測る。 (村井)

第30図 境3号墳出土遺物(石器)

1. 瓦礫内から出土した。磨石や敲石として使用されたと思われる。表面は磨研され、側面には敲打痕が一面に見られる。一部欠失しているが、長さ11.2cm、巾9.9cm、厚さ5.3cmを測る。

2. 瓦礫内から出土した。安山岩の扁平礫である。表面はなめらかであり、磨石として使用された可能性が強い。長さ11.4cm、現存巾5.6cm、厚さ2.4cmを測る。

3. 瓦礫内から出土した。扁平礫であり、一部に敲打痕が見られるので、敲打器として使用したと考えられる。長さ9.6cm、巾7.8cm、厚さ2.2cmを測る。

4. 砂岩の扁平礫であり、磨石や敲石に使用された可能性が強い。長さ9.4cm、巾4.2cm、厚さ2.2cmを測る。

5. 表採品である。安山岩の磨石である。表面に磨研の跡が見られる。長さ9.8cm、巾7.0cm、厚さ4.3cmを測る。

6. 瓦礫内から出土した。破壊された古墳に投棄されたものと考えられる。3面を研面として使用している。研面は中央部が凹形になっている。長さ5.7cm、巾4.5cm、厚さ1.7cmを測る。 (村井)

第4表 境3号墳出土遺物一覧表（須恵器・土師器・瓦質土器・陶磁器等）

出土地点	種類	口縁部	頸部	胴部	底部	坏部	脚部	蓋縁	蓋天部	つまみ	その他(不明)	備考	
石室推定地内	須恵	甕	4	3	36								
		壺	1		9							同一個体	
		坏				1		1		1		縁辺部欠失	
		坏蓋	2		1						1	裏表自然袖	
		高台坏				1	2						
		不明			4								
地内	土師器	皿				9						1	底部…灯明皿、丹塗
		壺	1		5					1			丹塗
		坏蓋					1	1					
		高坏											
		甕	1	2	2							1	
瓦質土器	鉢			2	2								
	火舎	2											
	不明			5									
青磁陶	碗	1			1								竜泉窯製
	皿				1								
陶磁器	皿				3								
	甕	2	1	5	3								
	鉢	2		1	1								
	摺鉢			1									
	壺			3									
	碗	1		4	2								底部…染付有り
	不明			4									

出土地点	種類	口縁部	頸部	胴部	底部	坏部	脚部	蓋口蓋	縁天井部	つまみ	その他(不明)	備考
	弥生砂岩	壺一		1								重孤文施す 1 石器?
小計			19	6	110	24	3	5	1	1	1	5
石室推定地内排土	須恵器	壺 甗	3	3 8								
	土師器	壺 碗 皿 不明	1 1	4 13	5							丹塗
	瓦質土器	不明		1								
	陶磁器	擂鉢 皿 甗 碗 不明		1 1 1 2	1 1							近世
	弥生	甗					1					
小計			6	0	34	6	0	1	0	0	0	0
瓦礫中(投棄物)	須恵器	甗	1	2	136							
		擂鉢		1								
		高坏				7	4					
		壺	2	2	3							1 坏部…カエリ部1、底部…高台
		坏				2	3					
		提瓶			4							全体の✕弱残存
		坏蓋	2						1			
	不明	1									全体の✕弱残存	
	高台坏										1	

出土地点	種類	口部	縁部	頸部	胴部	底部	坏部	脚部	蓋縁	蓋天部	つまみ	その他(不明)	備考
	土師器 不明 高坏 皿 壺				10 1 4				2			1	実測済み 底部…灯明、丹塗
	瓦質土器 火舎 土鍋 不明 播鉢 甕 碗				2 1 6 2 20 4								口縁部…うち3片同一個体、 胴部…うち9片同一個体
	青磁 碗	1											
	陶磁 播鉢 皿 甕 鉢 壺 碗 不明	6 13 12 1 3 3		11 22 35	1 7 12							1	口縁部…うち、 2、2片同一個体 胴部…うち、6片同一個体 口縁部…うち、6片同一個 体、破片のみ残存 胴部…うち、4、3片同一個体
	弥生 壺 甕				1 1								重弧文らしい
小計		53	7	274	35	10	6	0	1	0	8		
西壁	須恵器 壺 甕 坏	1 3				1							
	土師器 壺 甕			1		1							丹塗 胴部…取手

出土地点	種類	口縁部	頸部	胴部	底部	坏部	脚部	蓋縁	蓋天井部	つまみ	その他(不明)	備考
西壁	瓦質土器	火舎	1									
		摺鉢	1			2						
		鉢	1									
	陶磁器	摺鉢	1									
皿					15							2 口縁部…染付、破片… $\frac{1}{2}$ 欠損
碗		4			2							土瓶に取手を付ける穴の部分、注口部
土瓶 不明				2								1 別個体が釉により付着
弥生	甕				1	1						
小計			12	1	3	21	0	1	0	0	0	4
石側室 外西側	須恵器	壺										完形 1
	瓦質土器	土製鍋	1									取手部を含む破片
小計			1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
第2層張	須恵器	甕			5							
		壺			1							
	土師器	甕			3							
不明				1								
小計			0	0	10	0	0	0	0	0	0	0
石北側 外	須恵器	高坏			1							一部坏と接合する
		甕	1		5							
		坏	1									
		長頸壺	1									1 $\frac{1}{2}$ 残存
	高坏											
土師器	坏蓋											5 同一個体(つまみつき)
	不明											2

出土地点	種類		口縁部	頸部	胴部	底部	坏部	脚部	蓋縁	口蓋	天井部	つまみ	その他(不明)	備考
	瓦質土器	土鍋 火舎			1 3									把手、スス付着
	滑石	石鍋	1											
	陶磁器	壺 碗	1										1	
	瓦	布目瓦											1	細片平瓦
小計			5	0	10	0	0	0	0	0	0	0	11	
前庭部 推定地	須恵器	甕 壺			5 1									
	土師器	高台坏 不明				2								高台部
	瓦質土器	火舎	1											
	陶磁器	甕 碗 不明	1 2		2 2 1									
小計			5	0	10	3	0	0	0	0	0	0	0	
西裏込	土師器	高坏						1						
小計			0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	
裏込 目	須恵器	甕 壺			16 1		1							
	土師器	甕 不明	1			2								
	陶磁器	甕			1									
小計			1	1	19	1	0	0	0	0	0	0	0	

出土地点	種類	口縁部	頸部	胴部	底部	坏部	脚部	蓋縁	口蓋部	天井部	つまみ	その他(不明)	備考
東裏込	須恵器	甕壺	1	2									
	土師器	不明		1	1								
	瓦質土器	火舎鉢 不明	1	1	2								
小計			2	1	8	0	0	0	0	0	0	0	
石室外	第3トレンチ	須恵器	甕坏 不明		3					1			3
		土師器	不明										1
	陶器	甕		1									
	磁器	碗	1	2									
小計			2	0	6	0	0	0	0	1	1	4	
第4トレンチ	須恵器	坏甕 不明		3						3			2 蓋2
	土師器	皿 不明		2									1 破片
	陶磁器	擂鉢 甕 不明		1	1	4							
小計			0	0	10	1	0	0	0	2	0	3	
	須恵器	甕		7									

出土地点	種類	口縁部	頸部	胴部	底部	坏部	脚部	蓋縁	蓋天井部	つまみ	その他(不明)	備考
側壁東	土師器	高坏		3			3					胴部…1片は丹塗
		不明		1								
	陶磁器	摺鉢		1								近世
	碗		1	1								
小計		0	0	13	1	0	3	0	0	0	0	
一括	須恵器	甕		16								
	陶磁器	摺鉢		1								
小計		0	0	7	0	0	0	0	0	0	0	
総計		106	16	514	146	13	20	1	5	1	35	

(丸山)

6. 境 4 号 墳

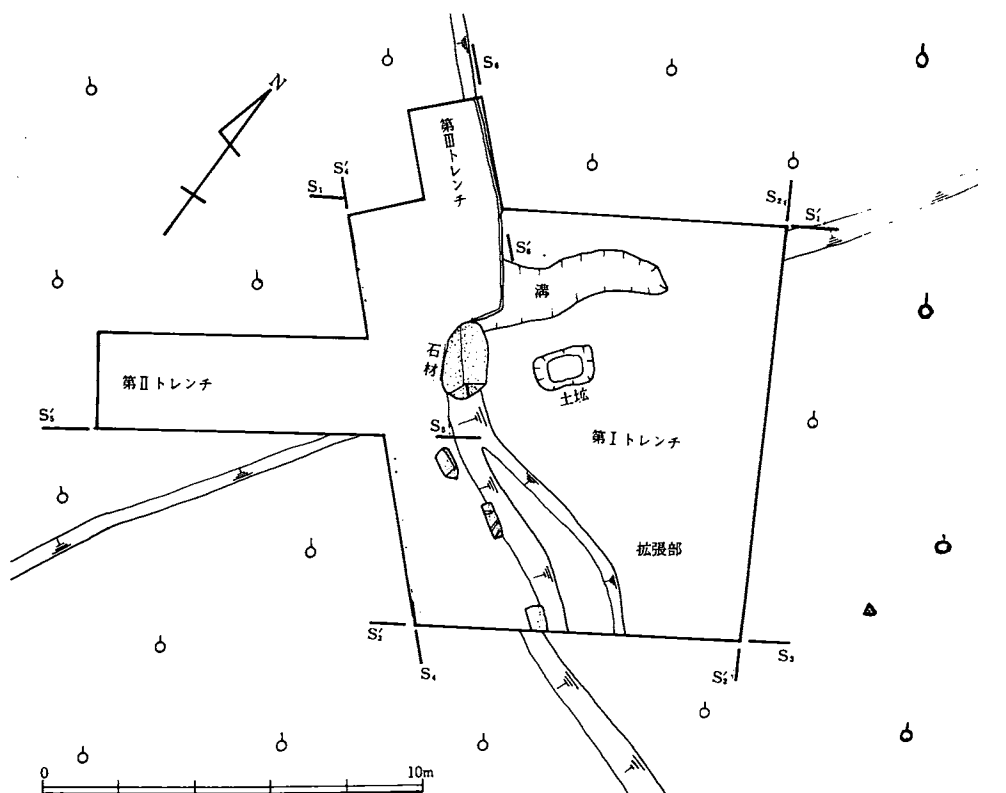
1) 4号墳の試掘（第31図）

4号墳の石室の用材は前にも述べたように戦後、造園業者の手によって運び出されてしまった。現在残存するのは結晶質石灰岩の巨石1個である。そのため石室の存在した確かな位置が明らかではない。遺跡近くの村人は残存する巨石附近に『窟』があったと言うので、第31図に示すように残存する巨石を中心にして交差するように第Ⅰ～第Ⅲトレンチを設定し、第Ⅰトレンチと第Ⅲトレンチを拡幅して発掘した。

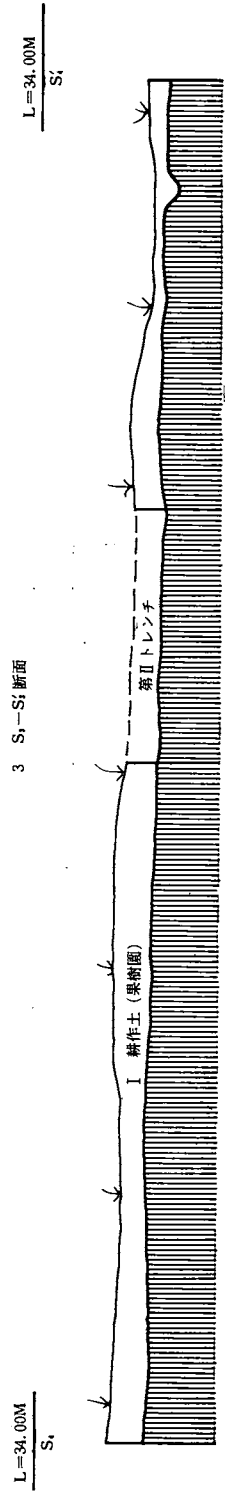
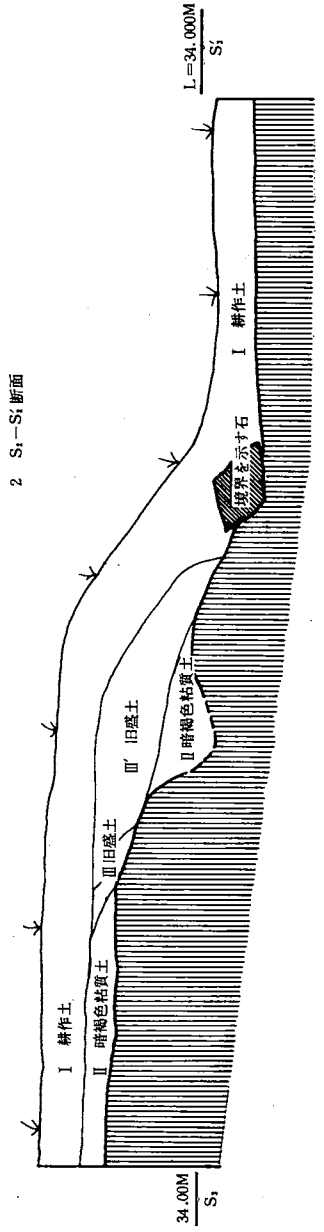
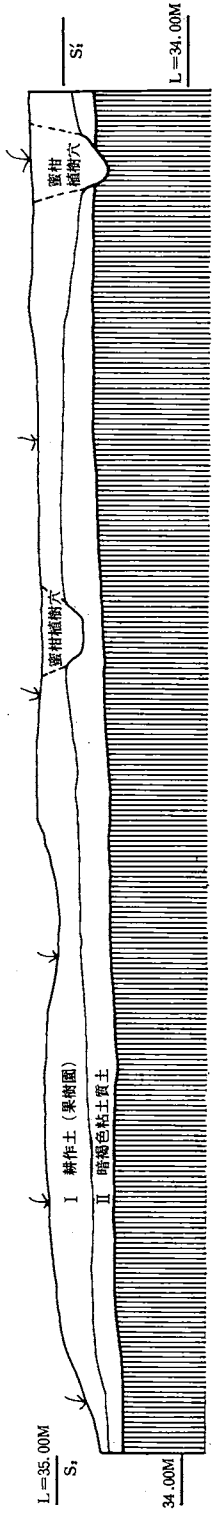
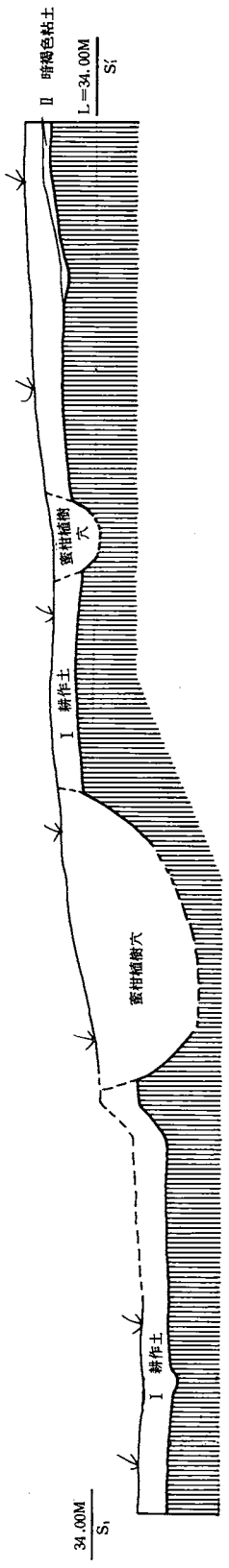
土層の断面は $S_1-S'_1$ 、 $S_2-S'_2$ 、 $S_3-S'_3$ 、 $S_4-S'_4$ 、 $S_5-S'_5$ 、 $S_6-S'_6$ の位置で観察した。以下各観察結果を述べる。

① $S_1-S'_1$ 断面（第32図）

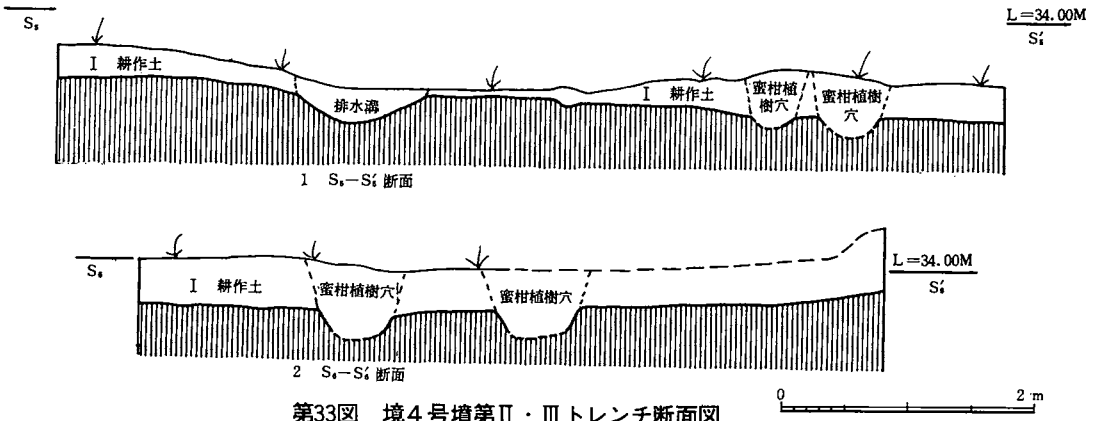
南西方向に傾斜した二枚の蜜柑園の断面である。上段の畑の端と下段の畑の間には約 $0.3m$



第31図 境4号墳平面図



第32図 境4号墳断面図



第33図 境4号墳第Ⅱ・Ⅲトレンチ断面図

の落差がある。厚さ $0.2m$ ほどの耕作土の下は、3号墳の第Ⅴトレンチで観察された土層と同類の黄褐色の粘性の強い土が基盤となっている。

② $S_2-S'_2$ 断面 (第32図2)

4号墳発掘地区は段の高い方の蜜柑園は『元屋敷』と呼ばれていて、古井戸がある。この畑は南西方向に傾斜している。

第Ⅰ層は耕作土であり $0.2\sim 0.4m$ の厚さを測る。土の粒子は細かく有機物を多く含む。地形や耕作土層の様子から土はかなり移動している様子であり、蜜柑園造成時に整地されたと思われる。第Ⅱ層は暗褐色の粘性の強い土であり、耕作されると第Ⅰ層と同様の状態になると考えられる。基盤の層は第32図1と用様の黄褐色の土層である。

③ $S_3-S'_3$ 断面 (第32図3)

$S_2-S'_2$ 断面に対してはほぼ直角方向の断面である。上段と下段の畑の比高差は約 $1.3m$ ある。上段の耕作土と下段の耕作土は同質で高い方の土を下方に削り落したようになっている。第Ⅰ層の耕作土の下の第Ⅱ層は暗褐色粘質土であり、耕作によって削平をうけている。第Ⅰ層と第Ⅱ層の土は元来同一層の土であろうと推定される。これらの土が低い方に埋められて第Ⅲ層や第Ⅲ'層が形成されたと考えられる。このことから上段の畑地は少なくとも3回は削平を強くうけるような造成作業があったと考えられる。第Ⅲ'層の下に第Ⅱ層の暗褐色粘質が埋まった溝状の所は人為的に形成されたものではないようだ。基盤となっている層は他と同様に黄褐色土層である。

④ $S_4-S'_4$ 断面 (第32図4)

$0.1\sim 0.3m$ の耕作土層の下に黄褐色の基盤層がある。 $S_2-S'_2$ 断面に見られた第Ⅱ層暗褐色粘質土は見られなかった。畑の境界近くの削平が強く行われた部分であるためであろう。

⑤ S₅-S'₅断面、S₆-S'₆断面（第33図）

S₅-S'₅、S₆-S'₆ 両断面ともにS₄-S'₄ 断面と同様に耕作土の下は基盤の黄褐色土層である。

以上①～⑤に各断面の観察結果を述べたが、古墳に関する何等の遺構も検出されなかった。

（村井）

2) 4号墳の発掘

第Iトレンチと第IIIトレンチを第31図に示すような範囲に拡張したところ、耕作土の下方から第32図2で言う第II層暗褐色粘質土と基盤層に掘り込まれた溝と土壇が検出された。溝は広い所で1m以下、長さは2.5m以下、深さは0.2m以下であり上部は削平されている。

溝中からは遺物は検出されない。溝の断面はゆるやかなU字形となっている。この溝附近は畑の境界となっているので、そのための溝とも考えられる。古墳の周溝であるならばもっとV字形になると思われる。

土壇は0.8m×0.5mの長方形のプランを持ち、深さは0.5mを測る。土壇中には有機物が腐敗したような土が充満していた。土の様子から家庭排水の吸水壇と考えられる。

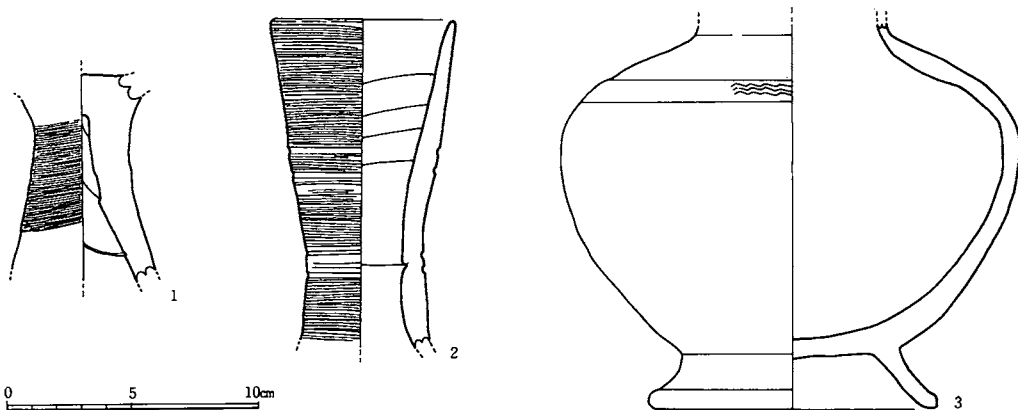
出土遺物としては土師器片や須恵器片があるが、小片であり実測にたえうる物は少なかった。おそらく整地作業により土が大きく移動したためであろう。

以上述べたように、4号墳は存在したのであろうが、古墳に関する遺構は何等検出されなかった。そのため、規模は明らかにできなかった。

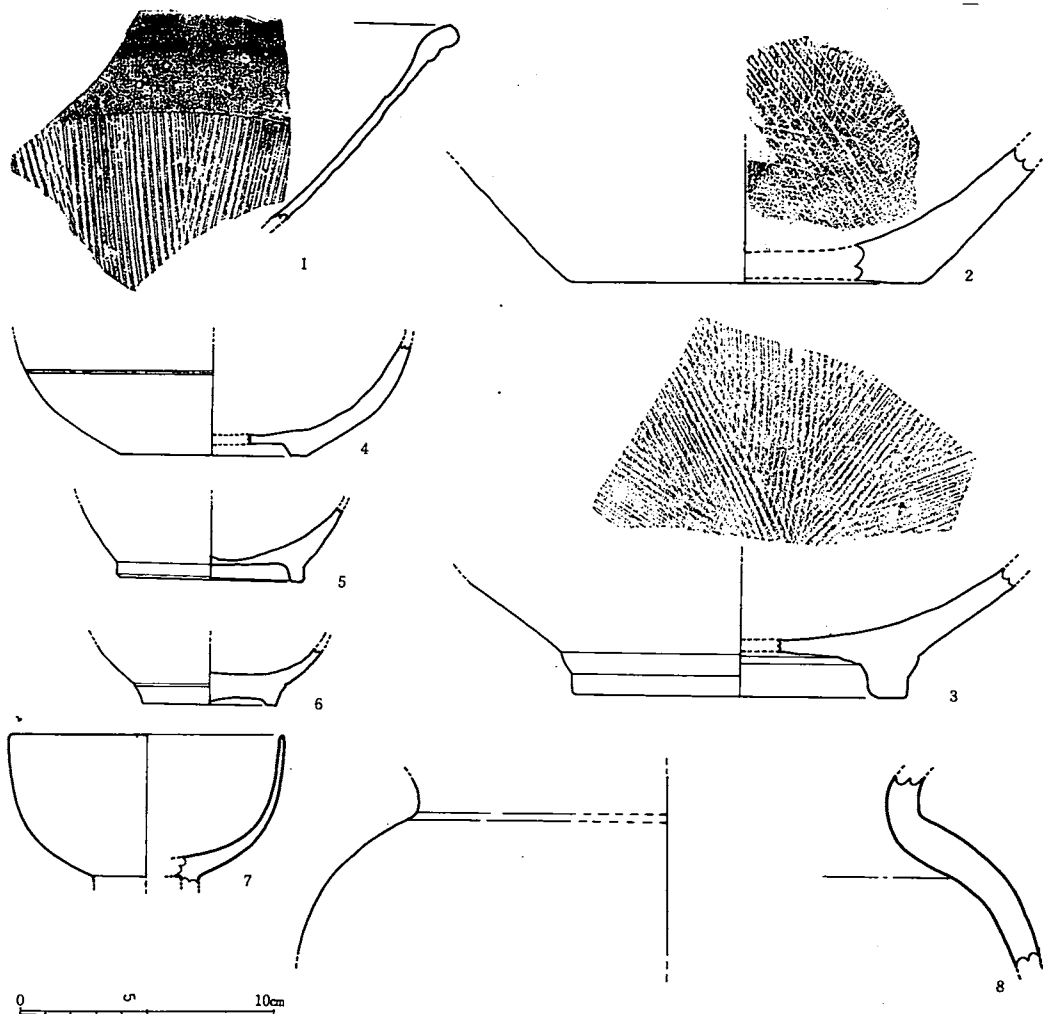
（村井）

3) 出土遺物

上記に示すように古墳にともなうたしかな遺構は検出されなかった。しかし、出土遺物は2号



第34図 境4号墳出土遺物（須恵器）



第35図 境4号墳出土遺物（近世陶磁器・瓦質土器）

墳や3号墳に比較すれば少ないけれど、時期的にはほぼ同じ時期と思われる遺物が出土した。当古墳のある蜜柑園は『元屋敷』と呼ばれていることから、江戸時代または明治時代初期までは家屋が存在した可能性がある。そのことを示すかのように近世の陶磁器が出土した。（村井）

第34図 境4号墳出土遺物（須恵器）

1. 須恵器高坏脚部 坏部と脚部の裾を欠失する。外面にはカキ目が残る。内面には削りのあととナデのあとが残る。焼成は良好である。
2. 長頸壺の頸部 胴部以下を欠失する。外面にはカキ目が残る。内面にはミズビキによる整形痕が見られる。焼成・胎土ともに良好である。口径7.2cmを測る。
3. 須恵器台付壺 頸部より上方を欠失する。色調は赤褐色を呈し、胎土中に白色の造岩鉱

物を含む。外見的には土師器のようにも見える。器面は荒れて、磨耗している。肩部には帯状に波状文が廻る。台部の裾部最径11.1cm、台部の高さ2.0cm、胴部大径17.8cmを測る。(村井・丸山)

第35図 境4号墳出土遺物(近世陶磁器)

1. 播鉢 口縁部だけの破片である。玉縁状を呈し、器厚は薄い。外面には土釉をかけ、口縁には鉄釉がかかる。時代、窯ともに不明である。

2. 播鉢 復元底部径13.9cmを測る。ら内面には9~10条を1単位とする目が立てられている。3号墳に投棄されていた播鉢片と同類である。

3. 播鉢 高台がついているので時代が新らしいような感じもうける。復元高台径13.0cm、高台高1.7cmを測る。焼成は非常に良好である。

4. 瓶 底部に近くには釉がかかっている。高台径7.3cm、高台高0.4cmを測る。高台の削り出しの様子から江戸時代中期あるいはそれ以前の遺物と考えられる。

5. 瓶 高台径7.3cm、高台高0.6cmを測る。高台は内外面から削り出している。江戸時代中期以後の遺物と考えられる。古伊万里であろう。

6. 瓶 高台内面が兜巾状に尖出している。高台径5.2cm、高台高0.1cmを測る。武雄南部系の窯の製品であろう。

7. 碗 口径10.7cmを測る。灰釉と鉄釉がかかる。嬉野焼内野山窯の製品である。第Iトレンチから出土する。

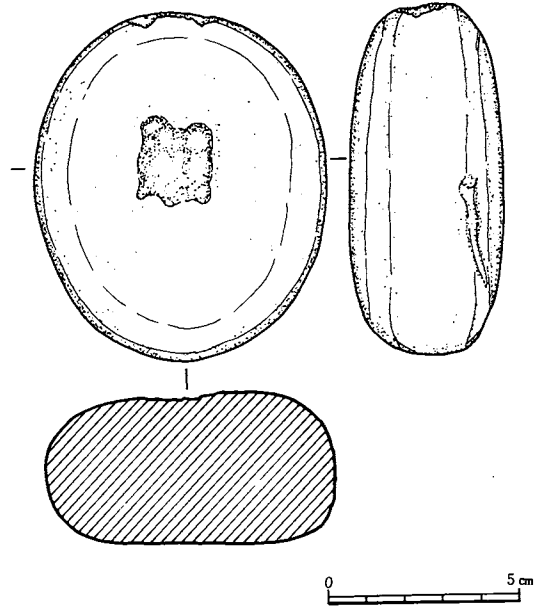
8. 瓦質土器甕 復元頸部径29.8cmを測る。器面があれいている。第Iトレンチから出土する。

(村井)

第36図 境4号墳出土遺物

第Iトレンチ拡張区南側の盛土中より出土した。安山岩製の磨石であり、全体を研磨している。図に示すように表面中央部に敲打痕が見える。楕円形状を呈し、長径4.1cm、短径7.7cm、厚さ4.2cmを測る。

(村井)



第36図 境4号墳出土遺物(石器)

第6表 境4号墳出土遺物一覧

出土地点	種類	口縁部	頸部	胴部	底部	坏部	脚部	蓋口えん部	蓋天井部	つまみ	その他(不明)	備考
境4号墳	陶器 播鉢			1	1							
	陶器 甕			1								
	陶器 碗	1										
	磁器 壺			1	1							同一個体
	— —											1 時期不明
小計		1	0	3	2	0	0	0	0	0	1	
境4号墳 トレンチ 拡張部	瓦質 鉢	1		1								
	須恵 台付壺											1. 胴部と及び、頸部を欠失
	須恵 高坏						1					
	縄文 深鉢			2								
	土師 壺	1	1									
	土師 皿				4							細片
	土師 一										11	
	陶器 皿				1							
	磁器 碗	1										
	鉄 一											1 鉄片
	須恵 甕		1	11								胴部11中2は同一個体
	須恵 壺			1								
	陶器 播鉢	1		6	1							
	陶器 甕	1										
	陶器 小鉢							1				
	弥生 甕											
陶器 碗			1									
須恵 坏									1			
陶器 壺	1											
陶器 碗				1								

出土地点	種類		口縁部	頸部	胴部	底部	坏部	脚部	蓋えん	蓋天井部	つまみ	その他(不明)	備考
	瓦質陶器	甕鉢	1		1	1							口縁1と胴部1は同一個体
	小計		7	2	25	7	0	2	0	1	0	12	
境4号II層トレン	—	—			1								時期不明
	小計		0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	
境4号南トレンチ拡張	須恵土師瓦質	甕壺皿坏	3		1	1							糸切 同一個体
	小計		3	1	4	1	0	0	0	0	0	0	
境4号III層赤土トレンチ拡張	土師陶器	皿坏不明高深揺鉢	1			5							糸切り及びへら切り 8細片 近世
	小計		1	0	3	5	0	1	0	0	0	8	
総計			17	5	58	21	0	5	0	1	0	33	140

(丸山)

7. ま と め

境2・3号墳は発掘終了後、旧地権者と道路公団との話し合いによって、古墳の隣接地に移転復元されて、保存されることになった。

境4号墳もまた、発掘終了後、隣接地に石材を保存することになった。

境1号墳は最初に述べたように、現状を維持している。この古墳の石室天井部は陥没し、羨道部は土中に埋没しているので、今後も人の手を加えないかぎり、立派に保存されるであろう。

1) **古墳の年代** 発掘した3基から出土した古墳に関する遺物の大部分は須恵器である。特に2号墳の東側周溝および前庭部から出土した須恵器は旧状を保って検出された。これ等の須恵器から考えて、境2号墳はA D 6世紀末から7世紀初頭に構築されたと推定される。

境3号墳からは旧状を保った状態で検出された遺物はない。発掘された須恵器は2号墳より検出した須恵器と同類であることから、古墳の構築された年代はA D 6世紀末から7世紀初頭と推定される。

境4号墳からの出土遺物は少量である。遺構も開墾により破壊が進み、明らかにすることができなかった。しかし、古墳が存在したことはまちがいなさそうである。出土遺物の中で、赤焼けの須恵器（台付壺）が目につく。これはA D 7世紀初頭から中葉頃の遺物と推定される。この点から、境2・3号墳と時代的に差異はないと考えられる。

境2・3・4号墳の使用された期間については不明である。しかし、2・3号墳から出土の須恵器はA D 7世紀代に比定されるものが大部分である。このことから7世紀代中葉頃まで墓地としての機能が有ったと推測する。

2) **古墳の形態** 境2号墳は周溝のまわり方から、直径15～16mの円墳と推定され、前庭部前方にブリッジを持つと考えられる。石室は方形に近い平面形であり、3区の屍床を持っている。羨道には天井があり、石室の奥行に対して短い。玄関の両方に袖石が立つ。袖石の上方に梁石が有ったかどうかは不明である。床は粘土床である。

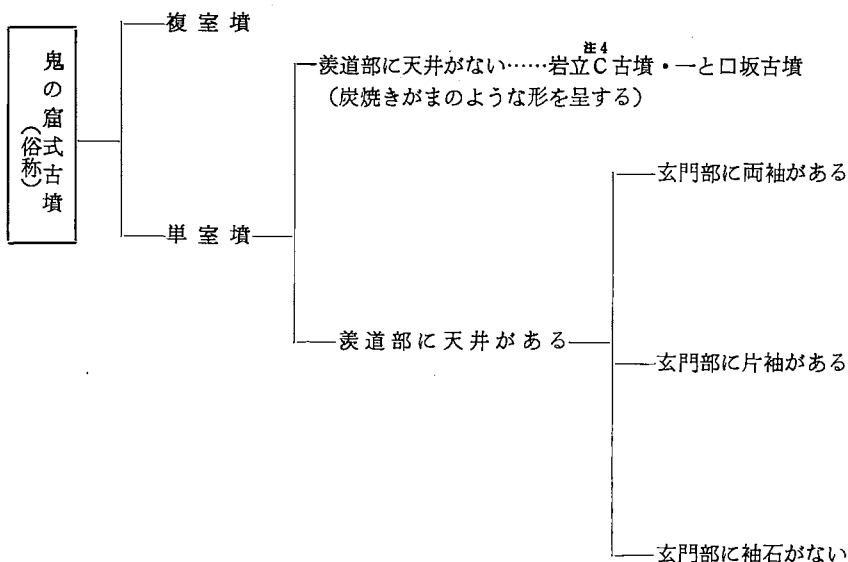
境3号墳の石室は、石材の数および大きさから境2号墳より少し小さいが、形態的には同類と推定される。

3) **古墳の構築** 八代平野の東縁部に多数分布する単室の巨石墳の石材の大部分は露出している。境古墳群もこの例にもれない。封土を失う要因としては開墾による掘削と雨水による封土の流失小さいことが考えられるであろう。特に後者については、石室の大きさに対して墳丘がとと、封土の版築の方法に問題が有ると考えられる。また、石室の大部分が倒壊している要因

としては、封土を失ったことと、石室を構築するに当って基礎工事をていねいしていないことが推測される。境2・3号墳とも、石室の掘り方を明らかにできなかったのは、表土に石材を建てるための掘り方を浅くつくったのみで、石材周辺の版築や裏込め石の埋納をほとんどしなかったことが考えられる。

4) 類似の古墳 境古墳群と類似の石室を持つ古墳は玉泉寺古墳群^{註2}や清水古墳^{註3}がある。玉泉寺古墳群の石室は完全に消滅していたが、石室の掘り方や周溝が発掘され、遺物も多数出土している。清水古墳は境2号墳より小規模であるが3区の屍床を持ち、周溝は持たないようである。石室の周辺を試掘しているが、周溝は確認されていない。

境古墳群と類似の巨石墳を八代地方で俗に『鬼の窟』と呼ぶ人が多い。この種の巨石墳の中にも少数ながら複室墳が存在するということである。しかし、ほとんど大部分が単室墳であり、外見から分類すると下記のようなになる。



上記の分類の中で、玄門部の袖石の有無で形態的に3種に分類されている。しかし、境2号墳の袖石は片袖であったが、発掘したところ、もう一方の袖石が失なわれていることが明らかとなった。

袖石が片方のみあるいはないということについて、八代地方の古墳を多く観察されている佐藤伸二氏から次のような御教示を得た。俗に鬼の窟式古墳の大部分は単室墳で、玄門部に両袖を持つ形が主流である。片袖あるいは袖石を持たないと見られている石室は、構築時において

両袖であったと推測されるが、（梁石がはめ込まれたようなL字状の切り込みが残ることから）後世に袖石を欠失したと考えられるものが多い。この御意見は、境2号墳の例に示されるように、傾聴する必要がある。

石室を構成している石材は、古墳が存在している地域において採集される岩石と他の地域から運ばれてきた岩石がある。主な岩石名をあげると、凝灰岩、砂岩、結晶質石灰岩、千枚岩、花崗岩、安山岩等である。特に安山岩は他の地域から運ばれてきた岩石であり、注意をひく。

以上、境2・3・4号墳の発掘結果のまとめとして、これ等の古墳の俗称である『鬼の窟式古墳』について思いつくまま特徴を羅列した。しかし、『鬼の窟式古墳』については、八代平野東縁部に多数分布することは知られているが、多くは語られていない。今後の学究の成果を期待したい。

（村井）

注1 小田富士雄『九州の須恵器年図表』世界陶磁器全集2 日本古代 小学館 1979

注2 『玉泉寺古塔碑群』熊本県文化財調査報告第44集 1980 熊本県教育委員会

注3 『清水古墳』熊本県文化財調査報告第41集 1980 熊本県教育委員会

注4 『五ツ穴横穴群』熊本県文化財調査報告第34集 1979 熊本県教育委員会

第Ⅲ章 境遺跡の調査

1. 調査に到る経過と調査の方針

境古墳群調査の終了も近くなり、2号古墳の前庭部に設定した第Ⅰトレンチで概に検出していたピット数個の性格等を確認する意味で両側及び南側に拡張部を設けた。この発掘作業は3月末に到って弥生後期と思われる土器片と石包丁の検出により、何らかの遺構検出が想定されることから、新たに遺構確認のトレンチを設定することにした。この確認トレンチは第Ⅰトレンチの延長線上南端部ではほぼ直交する2×7mのもので、このトレンチの第Ⅱ層（鉄分集積層一水田耕作土直下）より土師器片の出土もあり、又完形に近い壺の出土もあったことから時代の異なった住居址等が重複して存在することが予想された。しかし、境古墳群の発掘調査期間は3月末までであることから、遺構、遺物の分布範囲のみを明確にするために、上記のトレンチの他、中段と下段の水田にそれぞれ1本のトレンチを設定した。

調査は年度末の追い込みで各古墳の実測図作成を行う一方、周溝、前庭部の遺物出土状態の実測図作成と遺物取り上げ作業を行っていたが、遺構確認作業にも全力を投入した。この結果上段に設けたトレンチでは、弥生後期の住居址の他、古墳時代の住居址が確認された。また、中段のトレンチからは中世の土師器片、瓦質土器・陶器片の出土があり、性格不明の落ち込みもみられる。下段のトレンチでは、黒色土を埋土とし土師器片を含む小柱穴と、方形の大型の柱穴が確認された。この結果から、中段と下段の全域に、住居址及び柱穴群が存在することが考えられるので、昭和52年度事業として新たに発掘調査をすることとなった。また、上段の一部では、縄文式土器片も出土し、これらの遺構検出も規定された。しかし、この三段の畑は近年では果樹園と水田として調査前まで耕作されていた上、近年までの間に数度に渡る改田が行われている。地形は地下げ、崖部の切り落とし等がなされている結果、旧状はすでに失われているため、良好な状態での遺構検出は望めないのが実情である。したがって境遺跡の発掘調査は52年3月末までに試掘調査を実施し、本調査は52年4月より開始することとなった。調査の方針は下記のa～1のようにした。

- a. 昭和51年度中に境古墳群発掘調査及び境遺跡試掘調査を終了する。
- b. 昭和52年度の事業として境遺跡の発掘調査を実施する。
- c. 調査員及び調査機材は境古墳群の調査から引き継ぐ。
- d. 遺跡は3段に関連された水田と果樹園に広がっているので、上段をA地区、中段をB地区、下段をC地区と呼ぶ。

- e. A地区の表土排除作業は人力で行う。A地区からは 竪穴住居址群、縄文時代の遺物遺構、ピット群の検出される可能性がある。
- f. A地区の縄文時代の遺物遺構が検出されると予想される所にはA-1～D-3の12個のグリッドを任意に設ける。
- g. B・C地区の表土（耕作土）はバックホーとブルドーザーを使って全域を排除する。
- h. B・C地区には表土排除後に高速道路のセンターグイ（S T A 139+68.348）と側クイを基軸として、5×5 mのグリッドを設定し、北から南に向けて1～11、西側から東に向けてイ～リの名称を与える。
- i. B・C地区においては各グリットごとに遺構の検出・実測および遺物の取り上げを行う。
- j. 排土はC地区の南側から西側にかけてと境2号墳の後背部（弥勒川近くの窪地）に投棄する。排土の流出防止のため積み上げの角度に注意するとともに排土をブルドーザーで十分に踏み締める。
- k. 遺構の実測図は1/10～1/50の間の縮尺で作図する。
- l. 調査対象面積は約2500m²とする。 （村井・丸山）

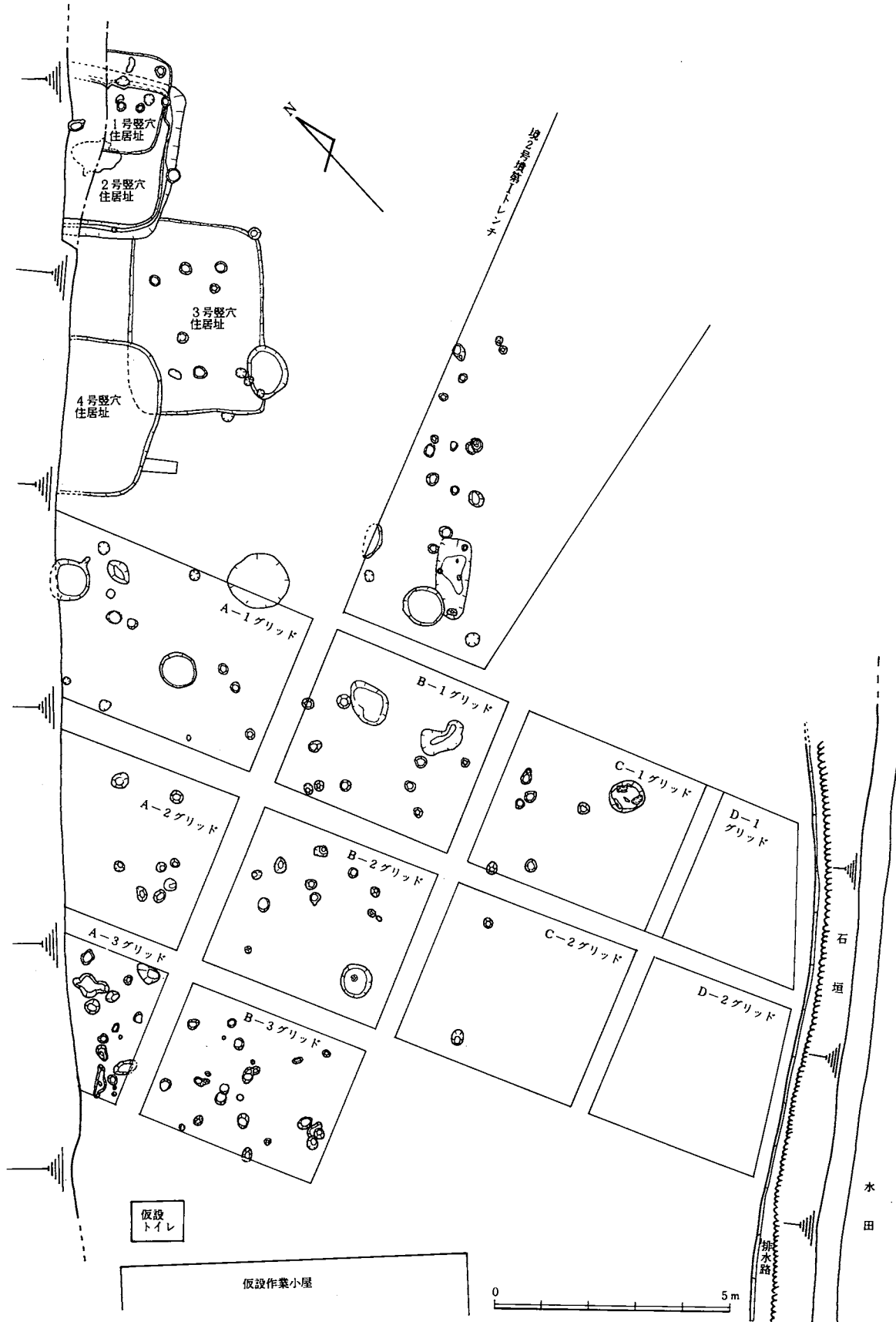
2. A地区検出の柱穴群および縄文時代の遺構

1) 柱穴群（第 37図）

境2号墳の第Iトレンチを拡張することにより、竪穴住居址群（1～4号）および柱穴群を検出した。

A地区から検出した柱穴群は径0.3m前後の小型のものが大部分である。その間に径0.7～1.3mの浅いフライパン状のくぼみは第37図に示すように、A地区全体に分布する。掘り込みの面は、第II層又は第III層の上面と思われる。柱穴の年代は古墳時代から中世にかけてである。柱穴からの出土遺物としては、須恵器片、糸切り底の土師器片（細片）が主である。柱穴の並び方から何かの建造物を想定しようと努力したが、何も明らかにできなかった。

竪穴の住居址より西側からは、縄文土器が東側よりも多く出土し、水田の鉄分集積層（第II層）よりも下の層（第III層）が遺物包含層であることに気付いたので、A-1～D-2グリッドを設定して発掘した。第III層の上部には弥生時代以後の遺物を包含し、それより以下は、縄文早期または前期の遺物包含層である。しかし、この層を2層に区分することは土の性質上不可能のように思われた。包含層の土色は、暗褐色を呈し、粘性の強い土である。乾燥すると硬く



第37図 境遺跡 (A地区) 検出の柱穴群

なり、ひびわれが多く出来る。土中には、小豆から大豆大の白い軟い粒状の物質を含む。これは下方にゆくに従って密になる。

各グリッドとも上述したのと大差はない。 (村井)

2) 縄文時代の遺構 (第38図)

A-3グリッドの南西(仮設トイレの近く)から、第38図に示すような遺構が検出された。第Ⅲ層には自然の状端態で岩石は含まれない。この集石の間から、風化のばげしく進んだ土器片を検出した。土器の焼成のようすや胎土から、A地区から検出されている貝殻の腹縁で施文されている土器と同類と思われる。また、集石を構成している礫は自然礫であるが、火をうけたと思われる変色やひび割れがある。岩石の種類としては花崗岩と安山岩である。花崗岩はこの遺跡の近くに露頭が見られ、近くの川床から転石を採集できる。しかし、安山岩の自然礫はこの遺跡の近くから採集できない。最も近い場所としては、宇土半島である。 (村井)

3) 出土遺物 (第39~44図)

出土遺物の大部分は土器片である。色調は褐色を呈し、胎土中に多くの砂粒と黒色造岩鉱物を含む。器形は円筒状を呈するように思われる。外面には燃糸文あるいは貝殻腹縁による刺突文が施されている。器形および施文法から縄文時代早期に比定される遺物と考えられる。

土器以外の出土遺物として、チャート製の彫器状石に注目したい。これは第38図に示した遺構の近くから検出したものである。

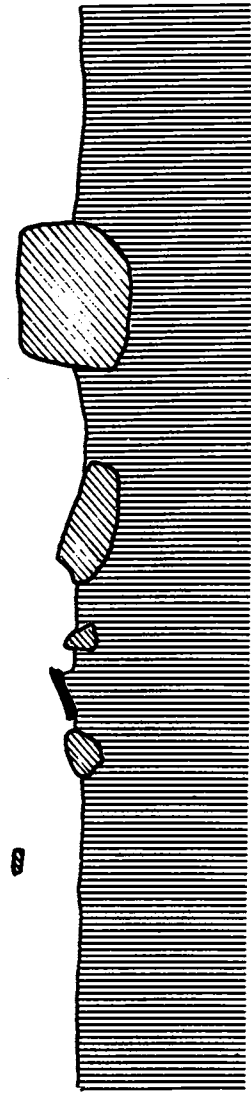
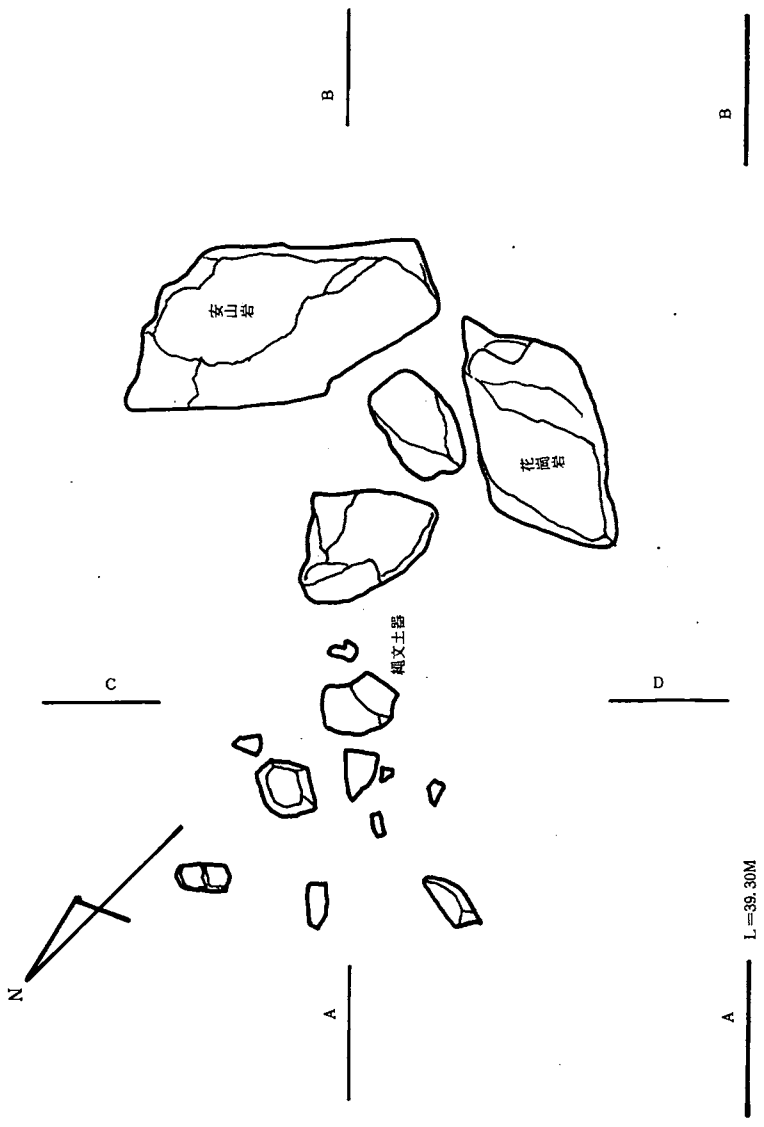
弥生時代以後の遺物は、第Ⅰ・Ⅱ層から出土したものと表採品である。

第39図 境遺跡(A・C地区)出土遺物(縄文土器)

1. A-3グリッド第Ⅲ層より出土する。色調は外面明褐色、内面黒褐色を呈する。胎土中に白色の砂粒・黒色の造岩鉱物およびチャートの小片が含まれる。外面には口縁に平行するようによくすじもの沈線が見える。条痕文または燃糸文と思われる。施文法については、風化が進み器面が魚鱗状に剥落しているため、明らかでない。円筒状の縄文土器の口縁部であり、復元口径16.7cm、器厚1.0cmを測る。

2. A-1グリッド第Ⅲ層より出土する。色調は黒褐色を呈する。胎土中に砂粒(径約0.2cm)および黒色の造岩鉱物を含む。円筒状の縄文土器の口縁部と推定される。外面には貝殻の腹縁部による刺突文が施されている。口径20.0cm、器厚1.1cmを測る。

3. A-3グリッド第Ⅲ層より出土する。色調は外面褐色、内面黒褐色を呈する。胎土中に白色の小礫(最大径0.3cm)と黒色の造岩鉱物を含む。外面には貝殻の腹縁による刺突文が施



第38図 境遺跡縄文土器出土状態 (A地区A-3グリッド)

されている。全体的に器面はひじょうに荒れている。円筒状を呈する縄文土器の口縁部と推定される。復元口径24.0cm、器厚1.1cmを測る。

4. C地区（4一ハグリッド土師器土器溜）より出土する。A地区出土の縄文土器と類似するので、ここに提示する。色調は黒褐色を呈し、胎土中に白色の砂粒と黒色の造岩鉱物を含む。円筒状の縄文土器の口縁部と推定される。外面には、口縁に平行に巾約0.2cmの沈線が0.2～0.4cm間隔で施文されている。燃糸文土器と推定されるが、条痕文土器とも考えられる。器表は風化して、魚鱗状に剥落する。復元口径32.3cm、器厚1.0cmを測る。

5. A地区の一括資料である。色調は褐色を呈し、胎土中に白色の小礫（最大径0.3cm）および黒色の造岩鉱物を含む。外面には貝殻の背部による条痕文を口縁に平行に施している。円筒状を呈する貝殻条痕文土器の口縁部と推定される。器厚は1.8cmを測る。

6. C地区（4一ハグリッド土師器土器溜）より出土する。色調は黒褐色を呈し、胎土中に白色の砂粒および黒色の造岩鉱物を含む。外面には貝殻の腹縁による刺突文が施されている。内面には施文されていない。円筒状の縄文土器の口縁部と考えられる。器厚1.5cmを測る。

7. A一3グリッド第Ⅲ層より出土する。色調は外面黒褐色、内面褐色を呈する。胎土中に白色の砂粒および黒色の造岩鉱物を含む。全体的に風化が進んでいる。円筒状の縄文土器の口縁部である。器厚1.2cmを測る。

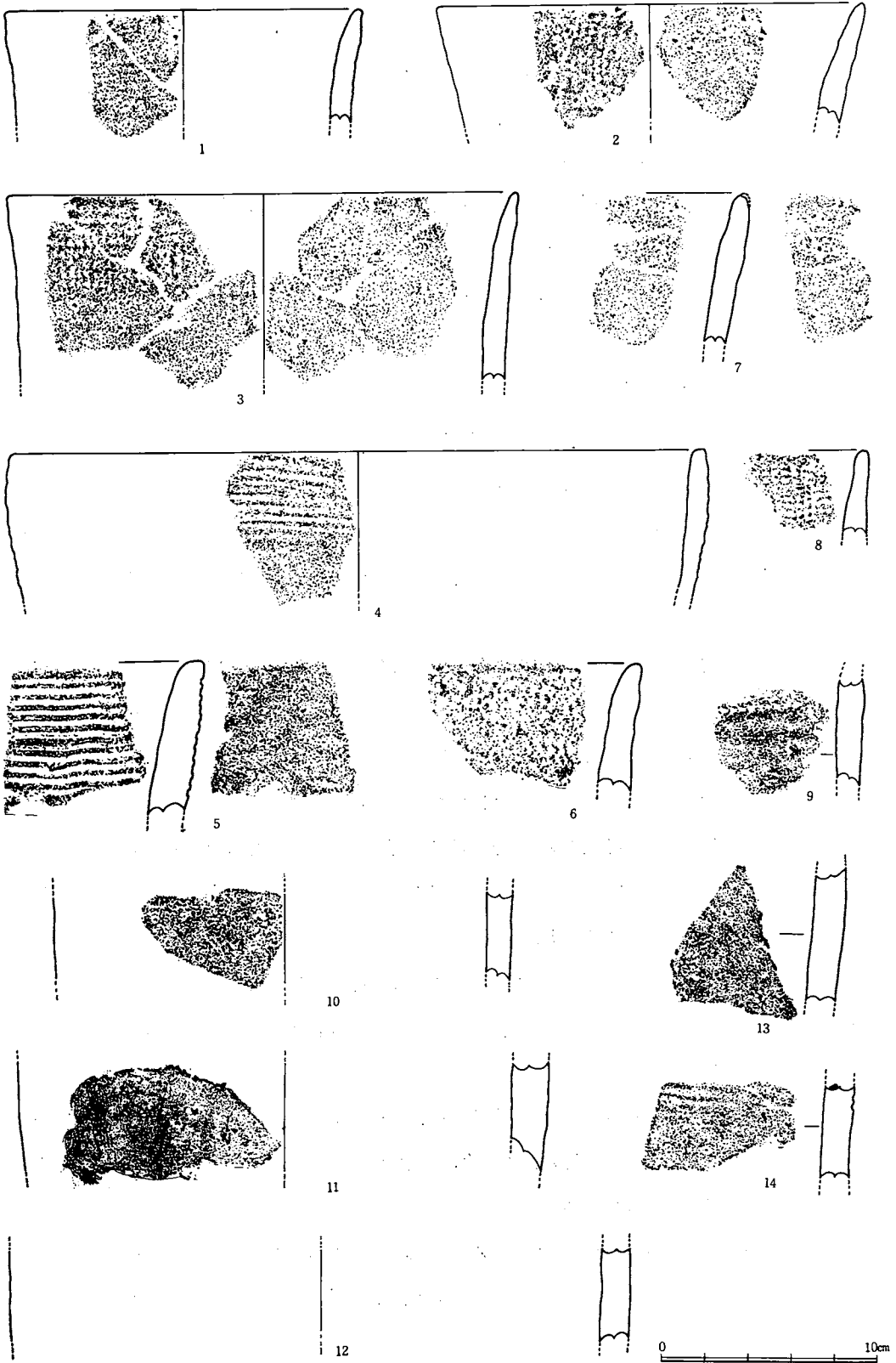
8. C地区（4一ハグリッド第Ⅱ層）より出土する。第Ⅱ層は水田の鉄分集積層であり、この層中からは磁器（古伊万里）も出土している。色調は褐色を呈する。外面には貝殻の腹縁による刺突文を施す。胎土中に石英や長石からなる砂粒を含む。器厚は1.0cmを測る。

9. 境2号墳の西側より採集する。円筒状を呈する縄文土器の頸部付近の破片と推定される。上端には貝殻の腹縁による刺突文が施されている。色調は褐色を呈する。胎土中に砂粒および黒色の造岩鉱物を含む。

10. A一2グリッド第Ⅲ層（取り上げ番号Ⅷ4）より出土する。色調は褐色を呈する。胎土中に白色の砂粒と黒色の造岩鉱物を含む。器面荒れがはげしい。円筒状を呈する縄文土器の胴部と推定される。復元径21.4cm、器厚1.2cm、を測る。

11. A一3グリッド第Ⅱ・Ⅲ層の1一括資料である。色調は外面赤褐色、内面黒色を呈する。胎土中に白色の小礫（最大径0.4cm）、微砂粒および黒色の造岩鉱物を含む。円筒状を呈する縄文土器の胴部と思われる。復元径24.7cm、器厚1.5cmを測る。

12. A一2グリッド第Ⅲ層（取り上げ番号Ⅷ2）より出土する。色調は褐色を呈する。胎土中に石英質の砂粒と黒色の造岩鉱物を多く含む。器面荒れがはげしい。円筒状を呈する縄文土器の胴部と推定される。復元径29.0cm、器厚1.4cmを測る。



第39图 境遺跡 (A·C地区) 出土遺物(縄文土器)

13. A-1グリッド第Ⅲ層より出土する。色調は外面褐色、内面黒褐色を呈する。胎土中に小礫および黒色の造岩鉱物を含む。小礫の最大径は0.5cmを測る。縄文土器の胴部と思われる。器表ははげしく風化している。

14. 8-3グリッド第Ⅲ層より出土する。色調は外面黒褐色、内面明褐色を呈する。胎土中に白色の小礫（最大径0.7cm）、砂粒および黒色の造岩鉱物を含む。外面には2条の横線が施され、その上方にも平行に施文がなされているように見える。条痕文あるいは撚糸文と推定されるが、器面荒れがはげしいので明らかでない。円筒状を呈した縄文土器の胴部と思われる。復元径37.7cm、器厚1.3cmを測る。

（村井）

第40図 境遺跡（A地区）出土遺物（縄文土器）

1. A-3グリッド第Ⅲ層より出土する。色調は外面褐色、内面黒色を呈する。胎土中に白色の小礫（最大径0.4cm）、砂粒および黒色の造岩鉱物を含む。風化して、器面が荒れてい色る。円筒状の縄文土器の底部に近い部分と推定する。復元径は上端18.7cm・下端17.4cm、器厚は1.3cmを測る。

2. A-3グリッド第Ⅲ層より出土する。色調は外面黒褐色、内面褐色を呈する。胎土中に白色の砂粒と黒色の造岩鉱物を含む。円筒状の縄文土器の底部に近い部分と思われる。復元径は上端22.6cm・下端20.7cm、器厚は1.2cmを測る。

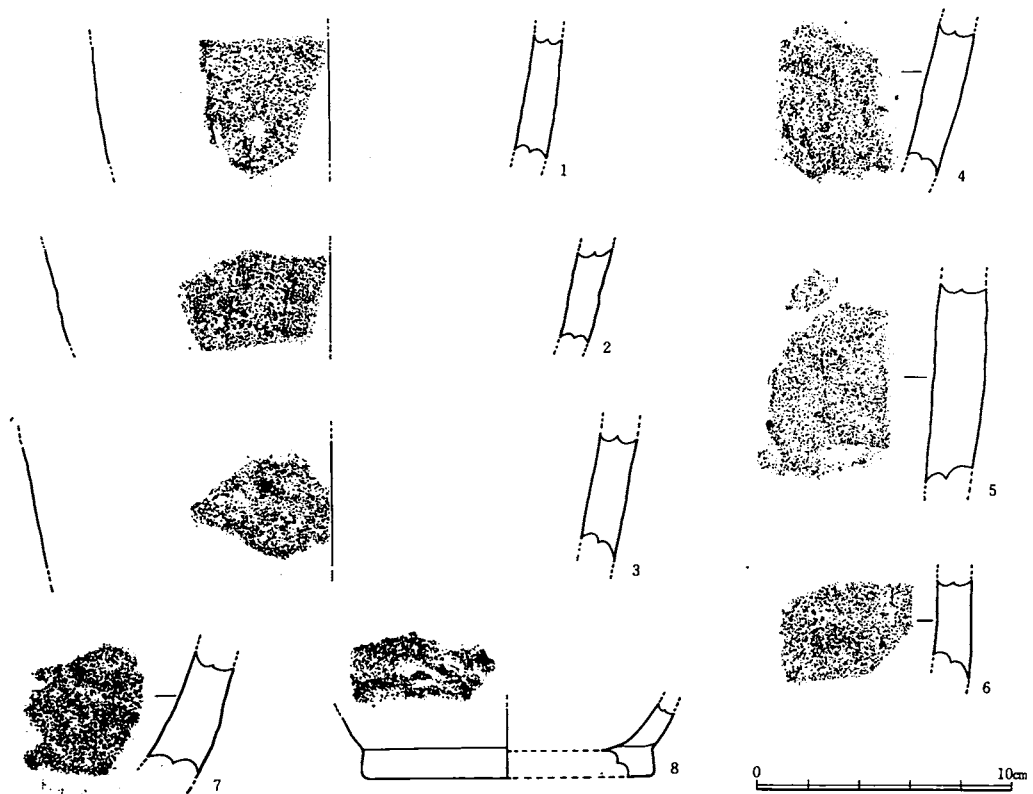
3. A-2グリッド第Ⅲ層（取り上げ番号63）より出土する。色調は外面褐色、内面黒褐色を呈する。胎土に白色の砂粒と黒色の造岩鉱物を含む。内外面とも器面が荒れている。円筒状を呈する縄文土器の胴部であり、胴部でも下方に位置すると推定される。復元径は上端24.5cm・下端22.6cm、器厚は1.5cmを測る。

4. A-1グリッド第Ⅲ層より出土する。色調は赤褐色を呈する。胎土中に石英の多い砂粒を混入している。円筒状の縄文土器の胴部と思われる。器表は風化が進み、器面が薄く剥落する。器厚1.5cmを測る。

5. A-3グリッド第Ⅲ層より出土する。色調は褐色を呈する。胎土中に白色の小礫（最大径0.4cm）、砂粒および黒色の造岩鉱物を含む。器表は風化が進んでいる。円筒状の縄文土器の胴部と思われる。器厚は1.9cmを測る。

6. A-3グリッド第Ⅲ層より出土する。色調は外面明褐色、内面褐色を呈する。胎土中に砂粒を含む。器面は非常に荒れている。円筒状の縄文土器の胴部である。器厚は1.4cmを測る。

7. B-1グリッドの第Ⅰ・Ⅱ層の一括資料である。色調は褐色を呈し、胎土中に砂粒を含



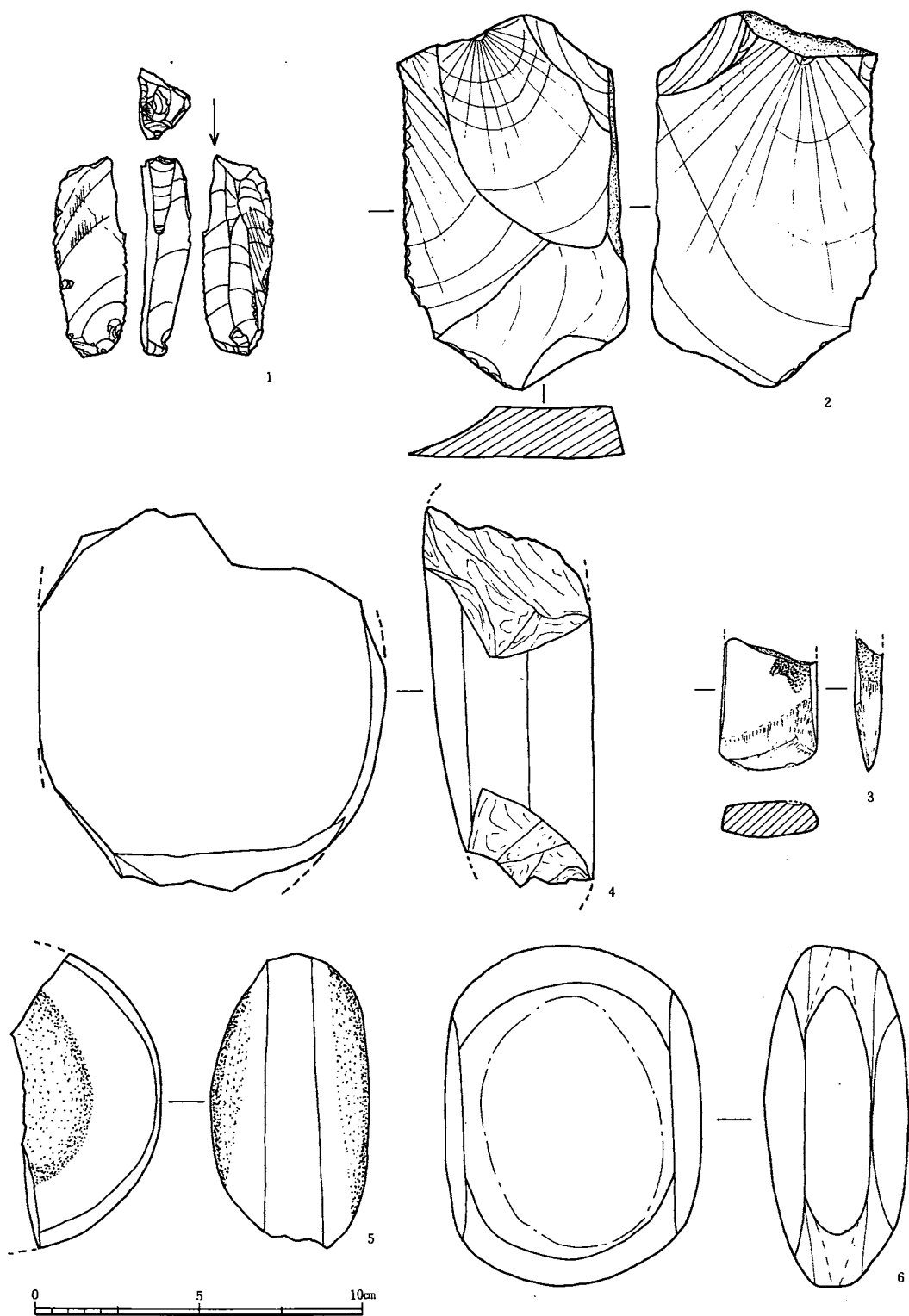
第40図 境遺跡 (A地区) 検出の縄文土器

む。器面荒れがはげしい。縄文土器の胴部でも底部に近い部分と推定される。

8. B-1グリッドの第I・II層の一括資料である。色調は褐色を呈し、胎土中に砂粒および黒色の造岩鉱物を含む。器面荒れがはげしい。縄文土器の底部である。上記1~7と比較すると、器厚は薄い、胎土および焼成は類似するので、上記の土器と同種の土器の底部と推定される。製作方法としては、円形の粒土板上に紐状の粒土を輪積みしたと推定される。復元底径11.6cm、底部器厚1.1cm、立ち上り部器厚0.9cmを測る。 (村井)

第41図 境遺跡 (A地区) 出土遺物 (石器)

1. A-3グリッド第III層 (鉄分集積より下層・縄文土器包含層) より出土する。チャート製の彫器状石器である。断面はほぼ正三角形となり、各辺は2.2cm・1.8cm・1.7cm、長さ6.1cmを測る。調整面を持つ石核から剥取った縦長剥片の縁部を調整し、彫器剥離を行って彫刻刀面を作り出している。この利器の中央部から基部にかけての各稜の部分には、現寸の図でも表わ



第41图 境遗址 (A地区) 出土遗物 (石器)

せないような小さな剥離をして基部調整をしている。貝殻腹縁による刺突文土器を出土する層より出土した。

2. A-1グリッド第Ⅲ層の貝殻腹縁による刺突文土器に伴って出土した剥片である。硬い砂岩であり、熱変成作用を受けた砂岩とも考えられる。天草の白岳砂岩層の岩石と色がよく似ているが、砂粒が小さいように見える。右図の左辺に小さな剥離が見られるので、この部分を刃部とする利器として使用された可能性も考えられる。

3. 境2号墳の西側の第Ⅲ層から出土する。磨製の片刃石斧である。刃部のみで基部を欠失しているので全長は不明であり、巾3.0cm、厚さ0.8cmを測る。刃部は石斧の軸に対して、直角方向と平行方向に研ぎ出されている。

4. A-1グリッド第Ⅲ層から出土する。安山岩の磨石であり、器表はよく研磨されていたようだが、所所に赤変した部分があり、風化も進んでいるので火を受けていると思われる。現存長11.5cm、巾10.5cm、厚さ4.9cmを測る。

5. A-1グリッド第Ⅲ層から出土する。安山岩の磨石であり、側縁部がよく研磨されている。器表の風化が激しく、色の変化の様子から火を受けたと考えられる。全体の $\frac{1}{3}$ を欠失している。現存長9.0cm、巾4.6cm、厚さ4.8cmを測る。

6. A-3グリッド第Ⅲ層（縄文包含層）から出土する。安山岩の磨石であり、器表は研磨し、器形を整えている。器面の色の変化から火をうけたと考えられる。長さ10.5cm、巾7.9cm、厚さ4.4cmを測る。
(村井・下村)

第42図 境遺跡（A地区）・境2号墳出土遺物（石器）

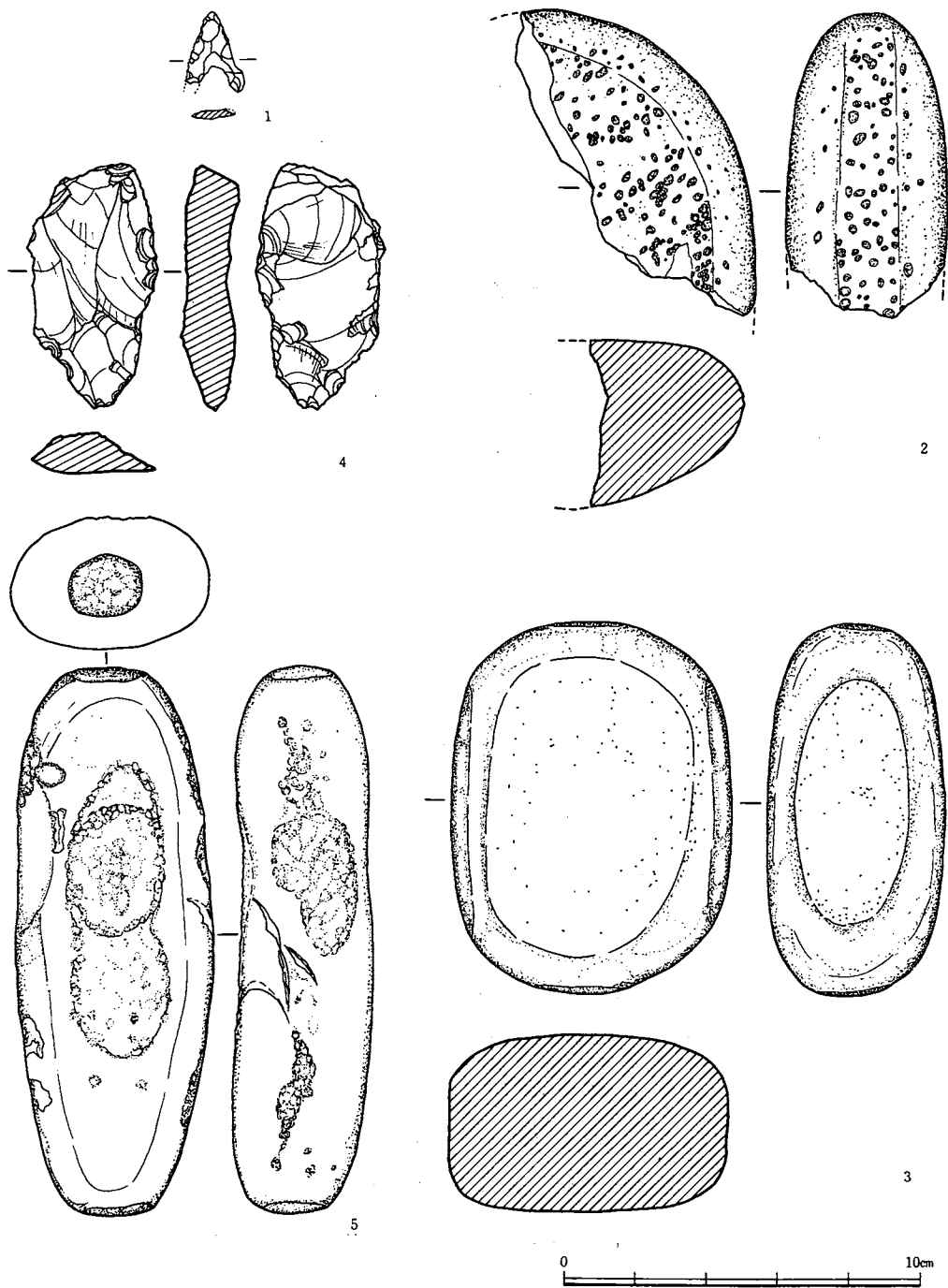
1. 石礫 黒曜石製であり、長さ2.3cm、巾1.7cm、厚さ0.3cmを測る。

2. 磨石 A-3グリッド第Ⅲ層（縄文包含層）より出土する。破片であり、旧状は不明である。多孔質の安山岩であり、使用痕が両面に見られる。

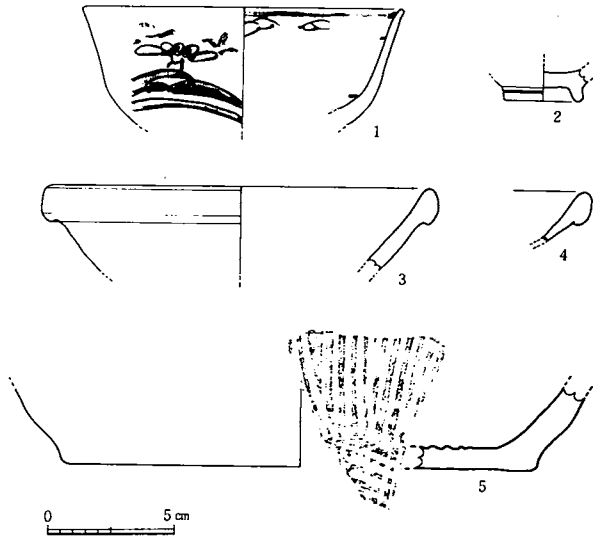
3. 磨石 A-3グリッド第Ⅲ層（縄文包含層）より出土する。安山岩製であり、長さ10.3cm、巾7.9cm、厚さ5.0cmを測る。両面と側面（6面全体）を充分に使用している。

4. 削器 境2号墳の一括資料である。チャート製であり、長さ6.9cm、巾3.6cm、厚さ1.1cmを測る。背面右側辺に大小の剥離が加えられ、このままで削器として使用されたものかも知れない。主要剥離面側のバルブははっきりしない。

5. 敲打器 境2号墳東側周溝中より出土した。背面・側面および頭部に敲打痕が観察される。長さ15.4cm、巾5.7cm、厚さ3.8cmを測り、石棒状を呈する。
(村井・下村)



第42图 境遗址 (A地区) 境2号墳出土遺物 (石器)



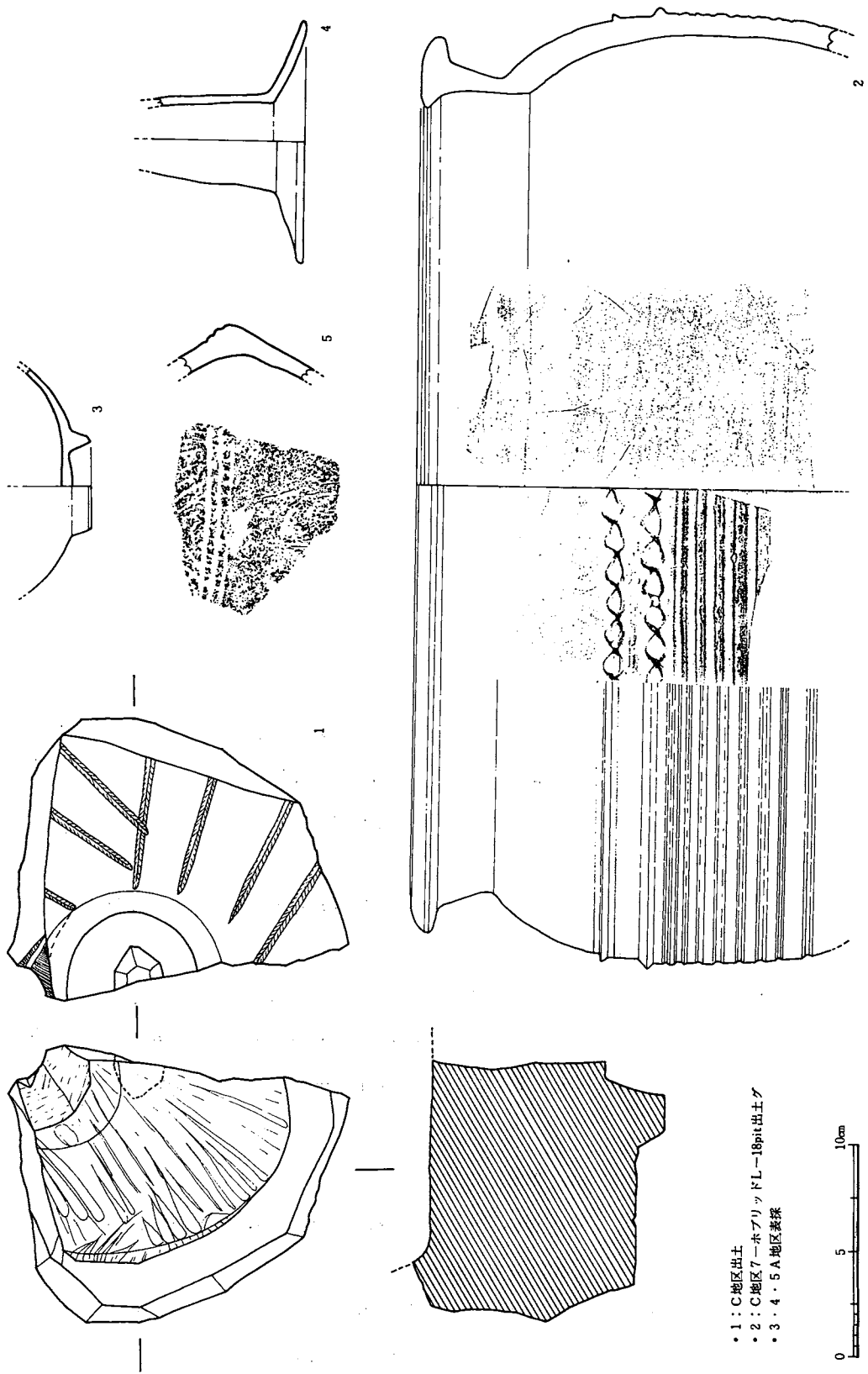
第43図 境遺跡 (A地区) 出土遺物 (染付・白磁・瓦質土器)

第43図 境遺跡 (A地区) 出土遺物

1. 古伊万里染付草花文碗 A-2グリッドII層 (水田の鉄分集積層) より検出する。口径12.6cmを測る。内外面ともに青色の濃淡二色の釉 (呉須) で草花文を染付している。
2. 古伊万里染付酒盃 住居址確認第1トレンチより検出する。高台径3.0cm、高台高0.5cmを測る。高台部に青色の染付がある。上部は欠失している。
3. 白磁碗片 住居址確認トレンチ第II層 (水田の鉄分集積層) より検出する。復元口径15.2cmを計る。宋白磁の玉縁の碗片である。
4. 白磁碗片 A-2グリッドII層より検出する。上記3と同種である。
5. 瓦質土器播鉢 A地区第II層 (水田の鉄分集積層) より検出する。復元底径18.6cm、器厚0.9~1.2cmを測る。内面には櫛状工具により、5本を1単位とする鉢播の目が立てられている。
(村井)

第44図 境遺跡 (A・C地区) 出土遺物

1. 引き臼 C地区表探全体の約 $\frac{1}{2}$ を残す。周辺部が割れているので復元径も不明である。軸を入れる穴の一部が見られる。硬い凝灰岩製である。
2. 甕 クーホL 18ピットの底から出土した。復元口径 (内径) 35.2cm、復元頸部径38.0cm 肩部器厚1.3cmを測る。外面には粘土紐によりをかけた形の二条の貼付け突帯と8条以上の凹



- 1 : C地区出土
- 2 : C地区7-ホアリッドL-18pit出土
- 3・4・5 A地区表探

第44図 境遺跡 (A・C地区) 出土遺物 (石臼・その他)

線が施されている。内面にはタタキ痕が残る。胎土は水籤されている。馬場強氏の御教示によると、江戸中期頃の備前焼であろうとのことである。

3. 碗 表採高台径4.1cm、高台高0.9cmを測る。高台内面は外面より深く削られている。器表には灰釉がかかっている。

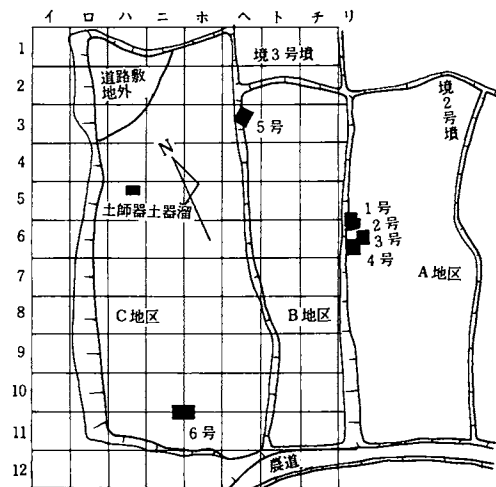
4. 高坏脚部 A地区B-3グリッドより採集する。裾部径11.2cm、器厚0.4cmを測る。坏部の接合部ちかくを絞っているようである。

5. 壺片 A地区表採の壺の肩部である。外面には免田式土器の特徴である重弧文が見られる。器面荒れが激しい。3号堅穴住居址からは、脚台付壺や石包丁が出土しているので近くに弥生時代の他の遺跡の存在も考えられる。(村井)

3. 堅穴住居址群

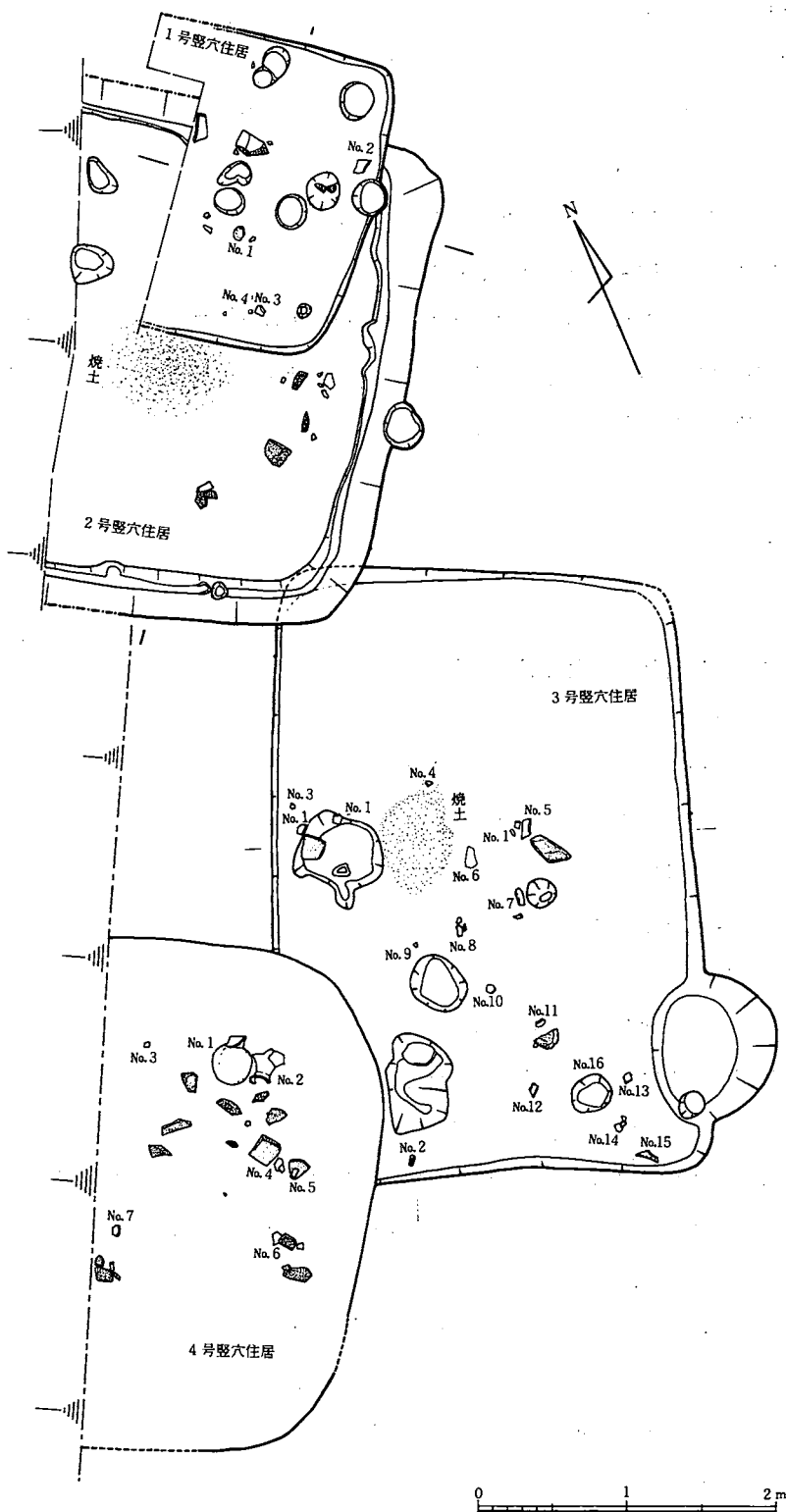
堅穴住居址は遺跡全体で6基の発掘されたがこの中で4基はA地区の水田下より検出され、1基はB地区北側の段落ち部にて検出された。他の1基はC地区の南端近くから検出された。これらの遺構検出は、境古墳群調査に関して設けた2号墳前庭部の第1トレンチで遺物が検出されたことに端を発したものである。

これらの遺構は、地形の旧状変更がなされていないならば、さらに多数の発見があったと考えられる。このことは、3号と6号堅穴住居址を除いていずれの遺構も段々畑の崖部に位置して検出されており、結果的に住居址の $\frac{1}{2}$ 以上を欠失していることから推測できる。A地区の4基は1号から4号まで互いに切り合っている上に、水田耕作と後世の柱穴列によって上層部は攪乱を受けている結果、掘り込みの深かった2号を除いて他の3基は壁部の一部を残している程度であった。個々の堅穴遺構は2・3・4号が比較的時期の差異がなく、それぞれ焼土の検出あるいは、土器・石器類の検出状態からみて、住居として一応の判断が可能である。1号堅穴住居址は、その形態からみて堅穴住居址として、やゝ規模が小さく、住居としての機能に欠けている傾向にある。



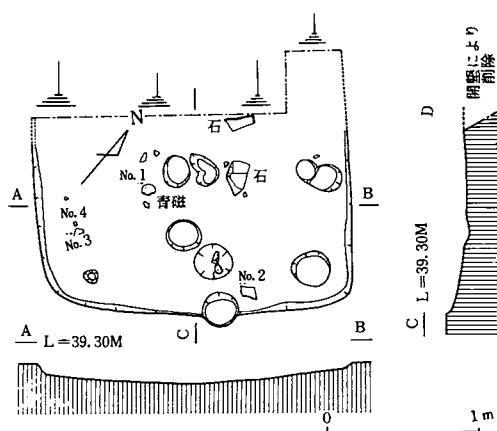
第45図 境遺跡堅穴住居址・土師器
・土器溜位置図

A地区の遺構検出概要は上記のごとくである。また、B地区では、北側は果樹園、南は水田



第46图 境遺跡1・2・3・4竖穴住居址位置图

耕作が営まれていたが、攪乱の度合は、果樹園側が激しく、ミカンの植樹帯がいたるところに検出された。この中で5号竪穴住居址は、掘り込みの状態も浅く、出土遺物も土師器数片のみであった住居址の大半を欠失し、遺物は少ないが竪穴住居址と考えられる。



第47図 1号竪穴住居址

C地区から検出した6号竪穴住居址は中世末あるいは近世初頭の柱穴群の南側にある。上部は耕作によって削平され床面を残すのみである。床面近くからの出土遺物は、須恵器が検出され、ピットも中世、近世、およびこの住居址のものまで混じっており年代を決定しがたい。

遺跡全域からみると、これら住居址に関連した弥生式土器・及び土師器・石器類の出土は、さほど多くはない。C地区の西側は、高所の土を押して、水田面積を拡張した結果、遺物の包含も比較的によく、縄文・弥生・土師・須恵あるいは瓦質土器から、陶磁器まで、かなりの時代差を有する遺物が散在していた。

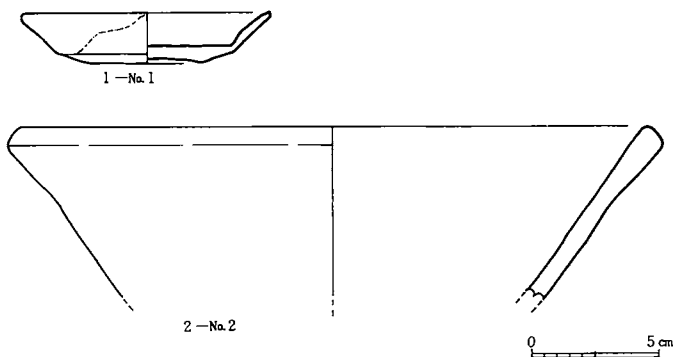
(丸山)

(1) 1号竪穴住居址 (第47図)

A地区水田址において第Ⅲ層上面にてプランの検出がなされた。水田耕作によって上部層が攪乱された結果、竪穴の壁部はほとんど削平されている。崖の近くに位置しているため、~~ま~~以上欠失して検出されたが、現状からの判断では隈丸方形プランを呈するものと思われる。

検出部分の計測値は、長径2.1m、現状における深さ15cmである。床面の状態はほぼ平坦であるが、大小9個のピット

が検出された。柱穴と考えられるが、No.1のピットで床面から63cmを計るほかは、いずれも28cm~42cmと比較的浅い。床面では自然礫2個がみられるが、使用痕はみられず後世の

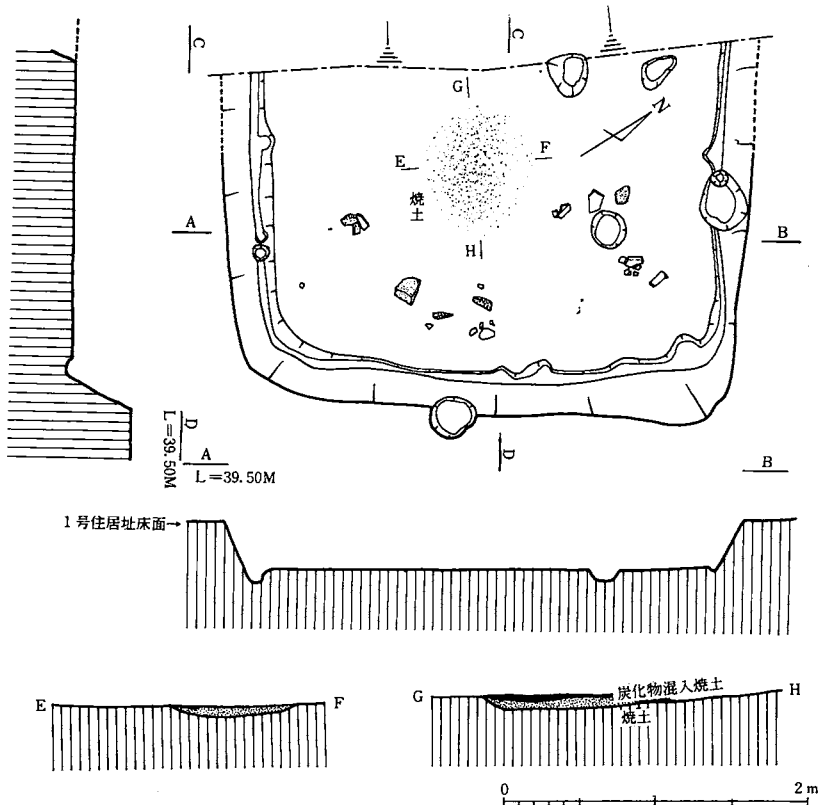


第48図 1号竪穴住居址出土遺物(青磁・瓦質土器)

第7表 1号住居址出土遺物一覽表

取上げ 順	図版 番号	種	類	口縁部	頸部	肩部	胴部	底部	不明	備	考
1	48-1	青磁	皿								同安窯
2	48-2	瓦質	鉢								底部破片
3		瓦質	鉢								
4		青磁	碗								口縁部破片(竜泉系)
		弥生 土師	黒髮式甕型 土器	1							
		土師	高 杯							2	
		土師	壺		1	1			4		
		須恵	杯	1						1	
		須恵	胴 部						1		
		土師	杯 (皿)						12	12	
		瓦質		1						5	
		青磁								1	
		不明								18	
		黒曜石									1
		炭化物									少量
		土師								1	丹彩

(丸山)



第49図 2号竪穴住居址

落込みとも考えられる。

主な、遺物は、須恵質土器片2、土師器片5、及び同安窯産とみられる青磁皿1と同類の青磁片1である。この竪穴住居址は、2号竪穴住居址に切り合って検出された。(丸山)

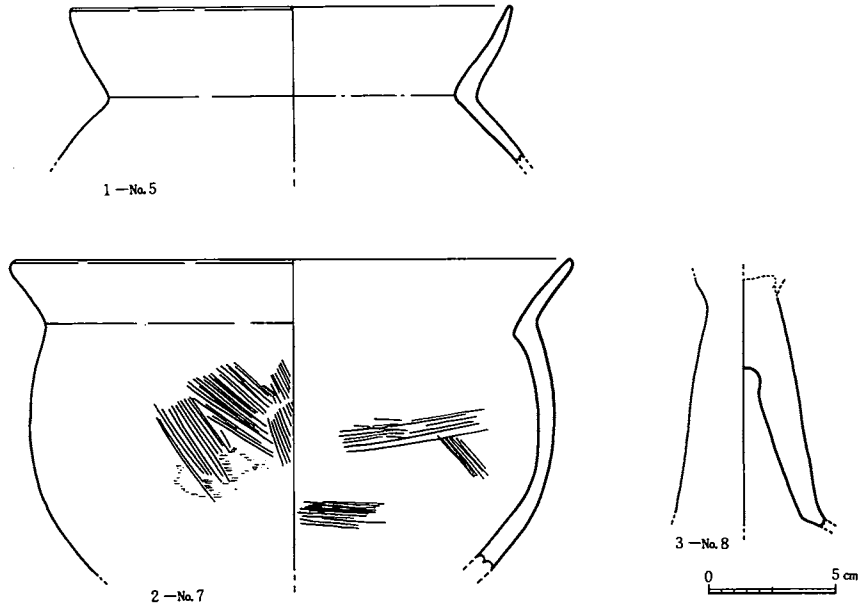
第48図 1号竪穴住居址出土遺物

1. 青磁皿 取り上げ番号№1 口縁部径10cm、器高2cm、底部径4.5cmを計る。底部から口縁部にかけてはロクロ使用によるヘラ切りによる稜線を有する。釉は底部付近ではみられない。色調は、暗緑色を呈する。

2. 瓦質土器こね鉢 取り上げ番号№2 復元口縁部は24.3cmを測る。器内面では斜行するハケ目痕がみられ、また、外面には縦のタキキを残す。胎土には小石粒が多く混入されている。焼成は普通で、色調は灰白色を呈する。(丸山)

(2) 2号竪穴住居址 (第49図)

1号竪穴住居址と切り合った形で検出された。しかし1号竪穴住居址の掘り込みが浅いため



第50図 2号竪穴住居址出土遺物(土師器)

に、1号竪穴住居構築による破壊からは免れた。しかし上段(A地区)の水田の西側端に位置しているため、西側は欠失している。検出された部分からみて、隅丸方形プランをとるものと考えられる。検出部分では長径3.45m、深さ33cmを測る。床面では3個のピットと北側の壁に側して1個、東側の掘り込み線上でピット1個が検出されたがいずれも住居址の柱穴と考えられる。また、ほぼ中央部から70×80cmの範囲で焼土が検出された。これは炉址と思われるが周辺部に配石等はみられず、掘り窪めた部分を炉として使用したものと思われる。その他2号竪穴住居址では壁部直下において巾約10cm内外、深さ10cmを測る周溝が床面を囲む状態にめぐらされており、壁面に板を並べて立てたと考えられる。竪穴の掘り込み等については、他の竪穴住居址の検出状態が良好でなく、その傾向を把握するまでに至らないが、この2号竪穴住居址の場合65°の角度をとる。

内部からは少量の土師器片が出土しているが細片が多い。上面では重弧文土器片1点が出土しているが、混入と考えられる。(丸山)

第50図 2号竪穴住居址出土遺物

1. 土師器壺 取上げ番号 65 口径17.4cm、器厚(頸部)0.7cmを測る。口縁部は『く』の字状に外反したのち、やや丸味を帯びて少し内湾する。口唇部に近づくに従って薄くなる。胎土は淡黄褐色を呈し、砂粒を含む。内外面とも器面荒れが激しく焼成は悪い。

2. 土師器壺 取上げ番号 67 口径22.0cm、胴部の器厚0.8cmを測る。口縁部は『く』の字

第8表 2号住居址出土遺物一覧表

取上げ №	図版 番号	種	類	口縁 部	頸部	肩部	胴部	底部	脚部	不明	備	考
		縄文					2	1			} 一層分	
		青磁		2	2		36			43		
		瓦質					1					
		土師質								4		
		縄文								4		
		弥生		4	3		※20		4	45	黒髪(後) ※タキあり ハケ目あり	
1			不明 胴部破片				1					
2			不明 胴部破片				6					
3			不明 胴部破片				5					
4			不明 胴部破片				5					
5	50-1		壺、口縁部	1								
6			不明 胴部破片				2					
7	50-2		甕、口縁部～胴部	1			4					
8	50-3		高坏、胴部						1	3		

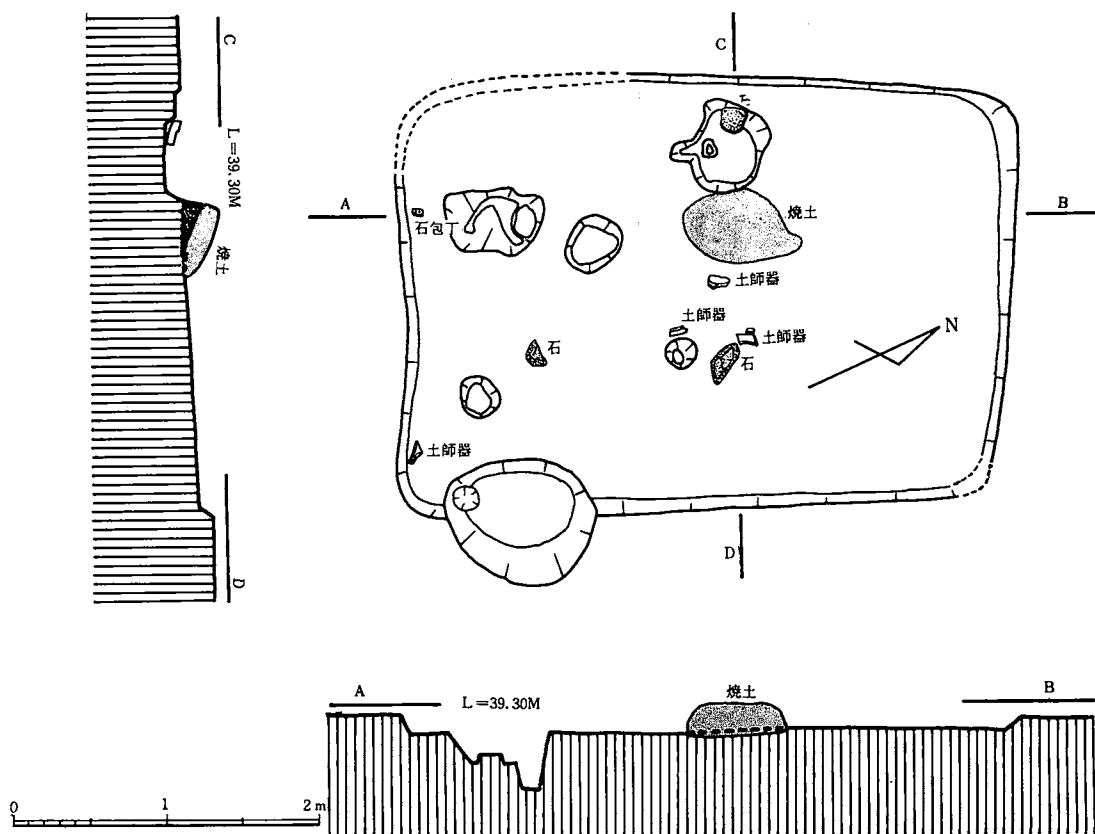
(丸山)

状に外反する。口縁部（外面）は横ナデ、頸部以下（外面）にハケ目を残す。内面には斜行するハケ目が一部に残る。胎土は茶褐色を呈し、石英砂粒を多量に含む。焼成は不良であり、内外面とも器面荒れが激しい。

3. 土師器高坏脚部 取上げ番号Ⅷ8 現存高約10cmを測る。坏部と裾部を欠く。脚部内面にヘラ削りの痕をわずかに残す。胎土は赤褐色を呈し、石英砂粒を含む。焼成は不良であり、内外面とも器面荒れが激しい。

(3) 3号竖穴住居址 (第51図)

長方形プランを呈する竖穴住居址である。2号及び南に位置する4号によって、北側コーナーと西側コーナーの一部をカットされた状態で検出されたが、段落ち部による欠失はまぬがれている。ほぼ全体のプランが検出されたが、1・2号竖穴住居址と同様に上層部は攪乱を受けている。壁の上部は耕作により削平されているため床面に近い部分が残存する。3号住居址は、境2号古墳第1トレンチの掘り下げによって、最初に確認された遺構である。長方形プラン



第51図 3号竖穴住居址

ンをとるこの遺構は6基の中では最も古く考えられる。形状は長径4 m、短径2.9mを測る。床面は比較的堅く踏み固められた状態にある。床面では4個のピットが認められるがいずれも床面より20~30cmと比較的浅い。また、南東側コーナー近くでは、半円形の張り出し部があり、この部分はフライパン状にやや掘り窪められた状態がうかがえる。この窪みは竪穴内部での貯蔵穴的機能はないと考えられる。竪穴住居址の中央部西側には多量の焼土が堆積していた。この焼土は多少床面から浮いた状態を示すので、この位置が炉址であったとは断言できない。

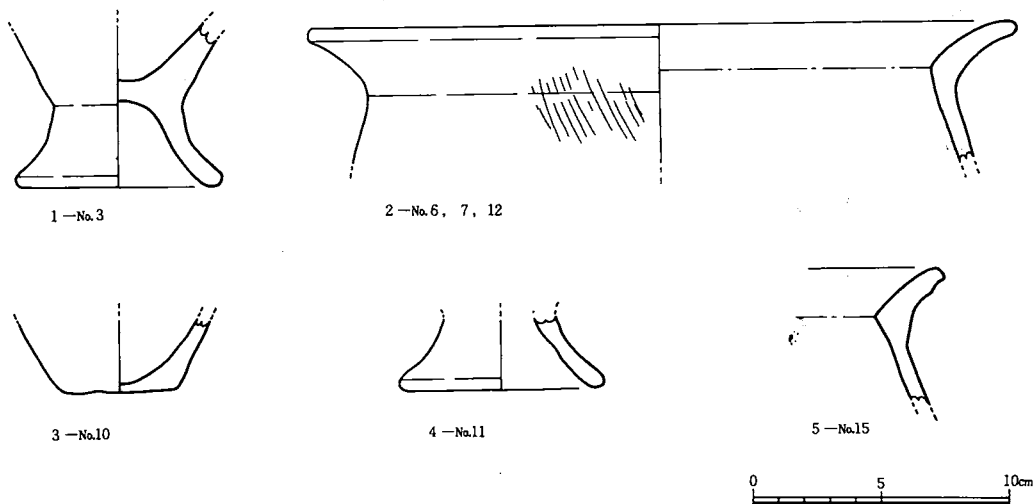
検出部分にみる竪穴の掘り込み状態は約5cm、と浅く当初の深さについては不明瞭である。出土の遺物は、トレンチを掘り下げた際の弥生及び土師器片をはじめ、床面上から、石庖丁1点及びその未製品1点の他、甕型土器等である。 (丸山)

第52図 3号竪穴住居址出土遺物

1. 脚台付壺の脚部 取上げ番号 №3 脚部裾径7.9cm、脚台高3.4cm、器厚0.8~1.4cmを測る。色調は明褐色を呈する。内外面ともに器面荒れが激しい。胎土中に微砂粒を含む。弥生式土器。

2. 甕の口縁 取上げ番号 №6・7・12 口径27.6cm、器厚0.6~1.1cmを測る。口縁部は『く』の字状に外反し腰部より肥厚し、口唇部は丸味を帯びる。器表は櫛状工具を使用して調整した痕が一部に残る。色調は赤褐色を呈する。胎土中には砂粒を含む。弥生式土器。

3. 甕の底部 取上げ番号 №10 底部径4.4cm、器厚0.4~0.9cmを測る。色調は褐色を呈し



第52図 3号竪穴住居址出土遺物(弥生式土器)

第9表 3号住居址出土遺物一覧表

取上げ 順	図版 番号	種 類	口縁部	頸部	肩部	胴部	底部	不明	備 考
1		弥生 壺				1			
2		不明					1		
3		甕						1	
4	52-1	脚台付壺	1						
5		不明					4		
6	52-2	甕	1						片部にハケ目あり
7	52-2	甕	4						12と同一個体
8		甕形土器				1	1	1	
9		不明				1			
10	52-3	甕						1	
11	52-4	甕形土器				11	※2		※うち1つは鉢
13		不明				1			
14		不明					5		
15	52-5	甕形土器	1						
16		不明				(細片) 35			
17	53-1	石器 石庖疋未製品							㊦欠失
18	53-2	石庖疋完形品							
		縄文	※2				2		※黒川式
		弥生	7	3	※2	(細片) 65 44	(甕形) 7		※免田式
		土師 坏						3	1
		黒曜石							2
		チャート							1
		粘板岩 (未製品)							1

(丸山)

胎土中に砂粒を含む。焼成不良であり、内外面ともに器面荒れが激しい。弥生式土器。

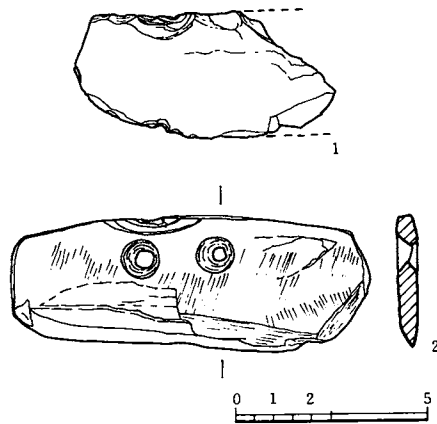
4. 脚台付壺の脚部 取上げ番号 μ 11、脚部裾径8.0cm、器厚0.8cmを測る。第52図1に色調胎土ともに類似する。弥生式土器。

5. 甕の口縁 取上げ番号 μ 15口縁は『く』の字状に外反する。色調は外面暗褐色、内面は淡褐色を呈する。胎土中に石英質の砂を多量に含む。焼成は不良であり、器面荒れが激しい。弥生式土器。 (丸山)

第53図 3号住居址出土の石庖丁

1. 石庖丁の未製品と思われる。長さ5.6cm、幅3.3cm、厚さ0.5cmを測る。欠損部を加えるとすれば、下図2と全長に大差はないと推測される。荒く割っただけで研磨痕は見られない。石材は粘板岩と思われる。

2. 取上げ番号 μ 2 背部が幾分丸味を持った長方形型の石庖丁である。長さ9.5cm、巾3.5cm、厚さ0.5cmを測る。裏面には整形時の研磨痕が多く残っている。刃部は両刃であるが、表側が強く研ぎ込まれている。紐通し穴は2孔あり、両面から管切り法により穿孔している。孔の径は0.5cm・

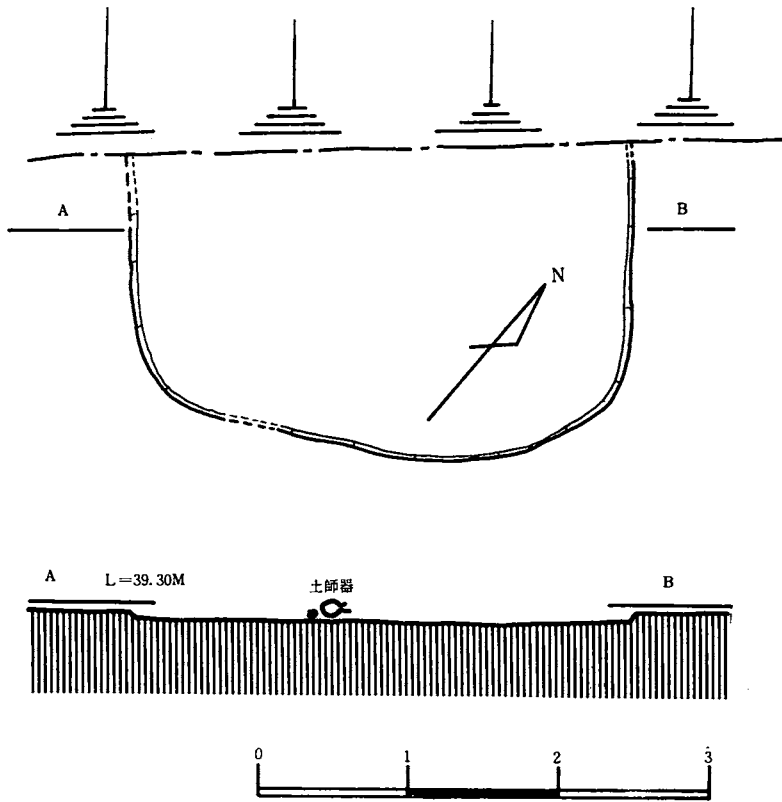


第53図 3号竪穴住居址出土遺物(石庖丁)

0.4cmを測る。裏面には失敗した管切りの痕が見られる。右側面にも刃部状に研ぎ込みがある。石材は粘板岩である。 (村井・下村)

(4) 4号竪穴住居址 (第54図)

3号住居址の南西コーナー部に切り合って検出されたが1・2号竪穴住居址同様に全部の $\frac{1}{2}$ 強を欠失している。残存部での長径は3.38mを計る。隈丸方形をとると考えられる。上部層の攪乱によって壁部は南東側コーナーの一部を残すのみで掘り込みの状態等は不明である。床面は平坦状をなし焼土・ピットの検出はなされなかった。床面上からは大小13個の自然礫が不規則に検出された。床面の状態は礫を含むローム層にあり比較的堅い。内部からの出土遺物は少量であるがほぼ完型に近い壺1個と高坏の脚部破片等がある。 (丸山)



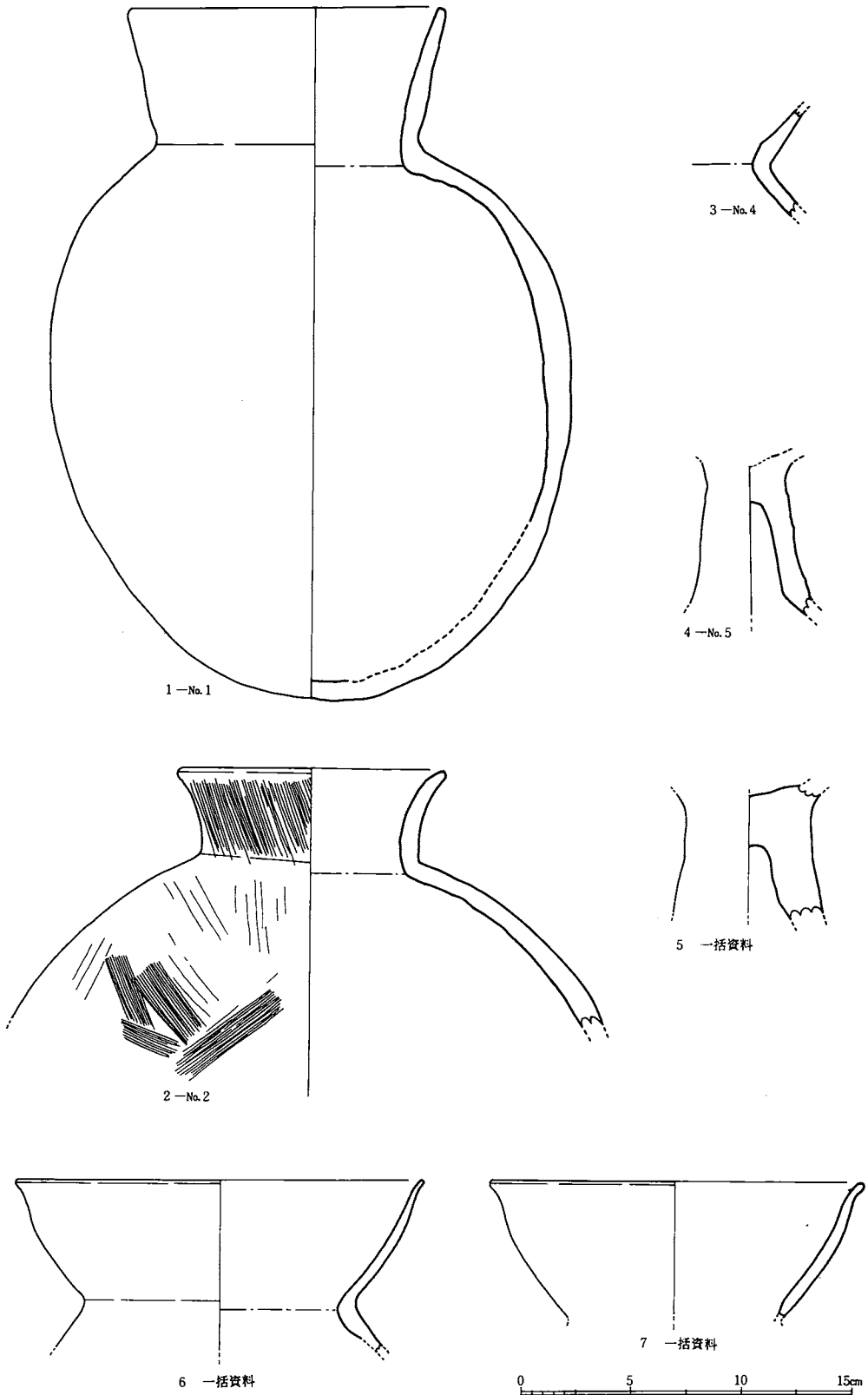
第54図 4号竪穴住居址

第55図 4号住居址出土遺物（土師器）

1. 壺 取り上げ番号№1 口径14.2cm、器高31.3cm、器厚0.4~1.4cmを測る。口縁部の一部を欠失するのみで、ほぼ完形である。口縁部は開き頸部はしまり、胴部は卵形を呈する。『く』の字状に立ち上がる口縁部にはあまり屈曲はなく、口唇部は丸味を帯びる。肩部の器厚は薄くなり、胴部の器厚は肥厚する。肩部には『升』字状のヘラ記号がある。内面の一部には斜めにヘラ削り痕がわずかに残る。色調は明褐色を呈し、胎土中に石英質の砂粒を多く含む。焼成は不良で焼むらが見られる。器面荒れは激しい。土師器。

2. 壺 取上げ番号№2 口径12cm、器厚1.1cmを測る。背部が張り胴部はふくらむ口縁はほぼ垂直に立ち上がった後に外反する。端部は丸味を帯びる。器面にはハケによる調整痕が残っている。色調は淡褐色を呈し、胎土中には砂粒を多く含む。焼むらが見られ、器面荒れも激しい。土師器。

3. 壺の口縁 取上げ番号№4 色調は暗褐色を呈し、胎土中に微砂粒を多く含む。焼成は不

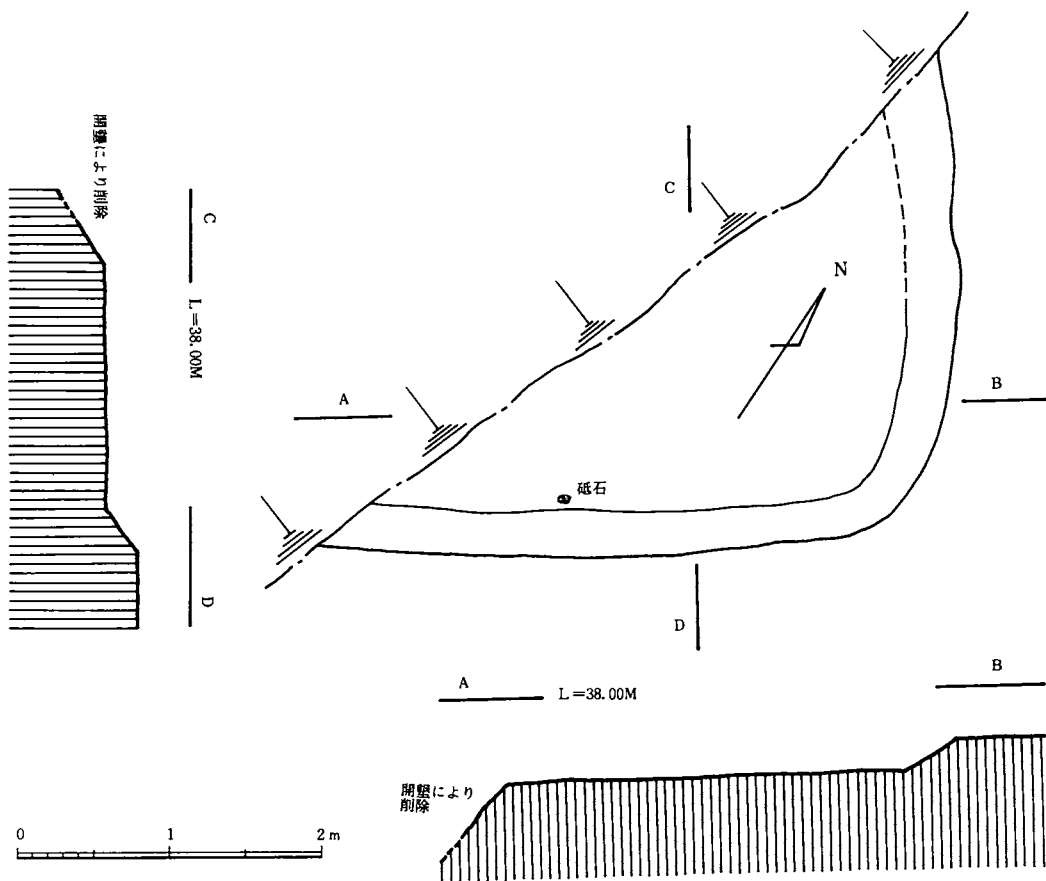


第55圖 4号住居址出土遺物(土師器)

第10表 4号住居址

取上げ №	図版 番号	種 類	口縁 部	頸部	肩部	胴部	底部	脚部	不明	備 考	
1	55-1	壺、ほぼ 完形								『升』字状のへら記号 あり	
2	55-2	壺	※1							※口縁～肩	
3		不明	1				3				
4	55-3	壺			2	(細片10) 16					
5	55-4	高 坏							1		
6		壺	1		1	3					
7		不明			1						
		縄 文				1			2	} 上 層	
		弥 生					※1				※甕形土器
		土 師	3	8	1	(細片80) 43		(高坏) 1	44		
		須 恵				2					
		瓦 質	1					1			
		土師質						1			
		縄 文	1			28		(脚底) 1			
		土 師	2	1	2						
		チャート								1	
		縄 文	1			1			2	} 上 層	
		弥 生					※1				※甕形土器
		土 師	5	9	3	(細片108) 43		(高坏) 1 (脚底) 1	44		
		土師質						1			
		須 恵				2					
		瓦 質	1					1			
		チャート								1	

(丸山)



第56図 5号竪穴住居址

良であり、器面荒れが激しい。土師器。

4. 高坏の脚部 一括資料。残存高7.0cm、径(坏部下)3.6cmを測る。器面荒れが激しく、表面が剥離している。坏部と裾部を欠損する。色調は赤褐色を呈し、胎土中に砂粒を含む。焼成は不良である。土師器。

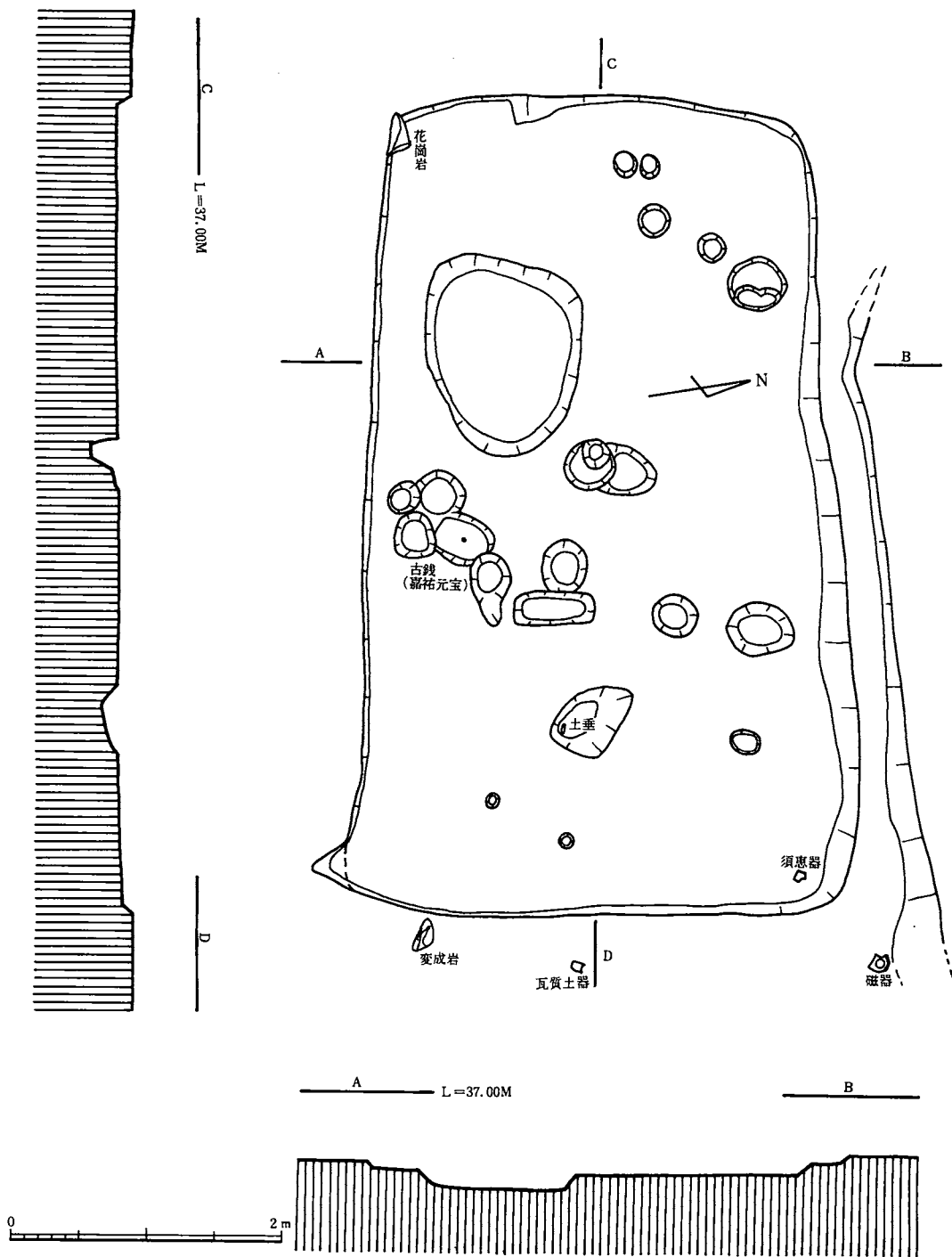
5. 高坏の脚部 一括資料脚部径は5.8cmを測る。上記5に類似する。土師器。

6. 壺の口縁部 一括資料口径18.6cm、口縁部高5.6cm、最大器厚0.9cmを測る。『く』の字に立ち上がる口縁部は上図1・2に比較して長く、器厚は薄く、外に丸味を帯びて広がり、口唇部はわずかに外反する。色調は赤褐色を呈し、胎土中に微砂粒を含む。焼成は良好である。土師器。

7. 壺の口縁部 復元口径17.0cm、口縁部高6.5cmを測る。上図7と類似する。土師器。(丸山)

(5) 5号竪穴住居址(第56図)

B地区北側の崖部(切り落とし部)にて検出されたものであるが、人為的な崖部の切り落とし



第57圖 6号豎穴住居址

によって、遺構の $\frac{1}{2}$ 以上を失って正確な数値はやや不明である。掘り込みは、他の住居址同様斜めに掘り込まれ、約10cmを計る内部床面は平坦状を呈し、柱穴・焼土等の検出はなされず、遺物もわずかに土師器細片数点に限られており、古墳期おげる竪穴住居址と想定されるものの確証はない。

(6) 6号竪穴住居址(第57図)

下段(C地区)のピット群の南端部、グリッドでいうと10-ニ・10-ホ・11-ニ・11-ホに当り、4グリッドにまたがった形で存在する。

遺構はC地区の基盤層となっている黄褐色の礫混りの層に掘り込まれた形で検出された。上の層は水田の耕作土と褐色の鉄分の集積層であり、この遺構中にも鉄分が集積していた。全体の平面形は3.8×6.0mの長方形を呈するが、東側の辺より西側の辺が約0.7mほど短い。掘り込みの深さは14cmであり、上部は削平されたと思われる。床面はほぼ水平である。床面からは大小様々の21個のピット(径12~50cm、深さ10~30cm)とフライパン状の浅い掘り込み(12×15×12cm)が検出された。出土遺物としては、南西の角から花崗岩の自然礫(最大部30cm)、北東隅から須恵器片(器種不明)、2個の別のピットの底から土垂と古銭(嘉祐元宝、11C)が出土した。またこの遺構の周辺部(東側)から変成岩の自然礫・瓦質土器・磁器(近世・皿の底部)が検出されている。

床面から検出された21個のピットのうち、この遺構にともなうピットか、あるいはC地区に多数検出された小型の円形のピット群に属するものであろうが、判別はできないので古銭および土垂は当遺構にともなうものかどうかは明らかでない。

また竪穴住居址の北東隅から検出した須恵器片も器種は不明であり、時代は明らかでない。

(村井)

4. 土師器土器溜

1) 遺構の検出状態(第58図)

C地区の表土(第I層)と鉄分集積層(第II層)を排除したところ、4-ヘグリッドから土師器を多量に含む部分が検出された。第II層を排除して、遺構を検出すると、第58図に示すような凹地に土師器が多量に投棄された状態が明らかになった。当初は住居址の可能性を考えて発掘したが、遺構の存在する所の旧表土は、北側に傾斜し、崖の端部近くに当り、小さな谷状の窪地であることを示していた。このことから、竪穴住居址ではないと考えられる。(村井)

2) 出土遺物

出土遺物の大部分は土師器と自然礫である。土師器は破片となっており、接合してみても、底

部や頸部を欠損しており、使用不能なものを
 投棄したものと考えられる。自然礫は遺
 跡附近に産出する変成岩と花崗岩である。
 その他の遺物として第39図に示した縄文早
 期に比定される土器片が含まれていた。

第59図 土師器土器溜 (C地区・4-ヘグ
 リッド) 出土遺物

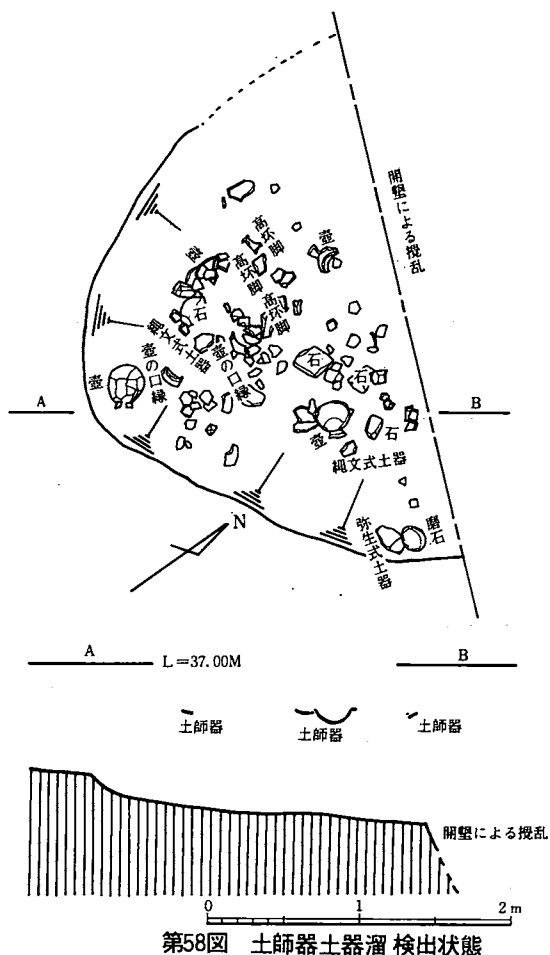
1. 壺 取上げ番号№1 口径16.2cm、
 頸部径 13.1cm、胴部最大径 22.2cm、器高
 24.9cm、口縁部高3.0cm、器厚0.4~0.7cmを
 測る。口縁部は『く』の字状に外反し、口
 唇部は少し垂直に立ち上がり、丸味を帯び
 る。器面は非常に荒れており、整形痕は認
 められない。色調は明褐色を呈し、胎土中
 に石英質の砂粒を含む。土師器。

2. 壺 取上げ番号№2 口径16.8cm、
 頸部径13.5cm、胴部最大径21.4cm、口縁部
 高3.2cm、器厚0.3~0.7cmを測る。口縁部
 は『く』の字状に外反し、器表はややふく
 らみ肥厚する。口唇部は丸く整形されてい

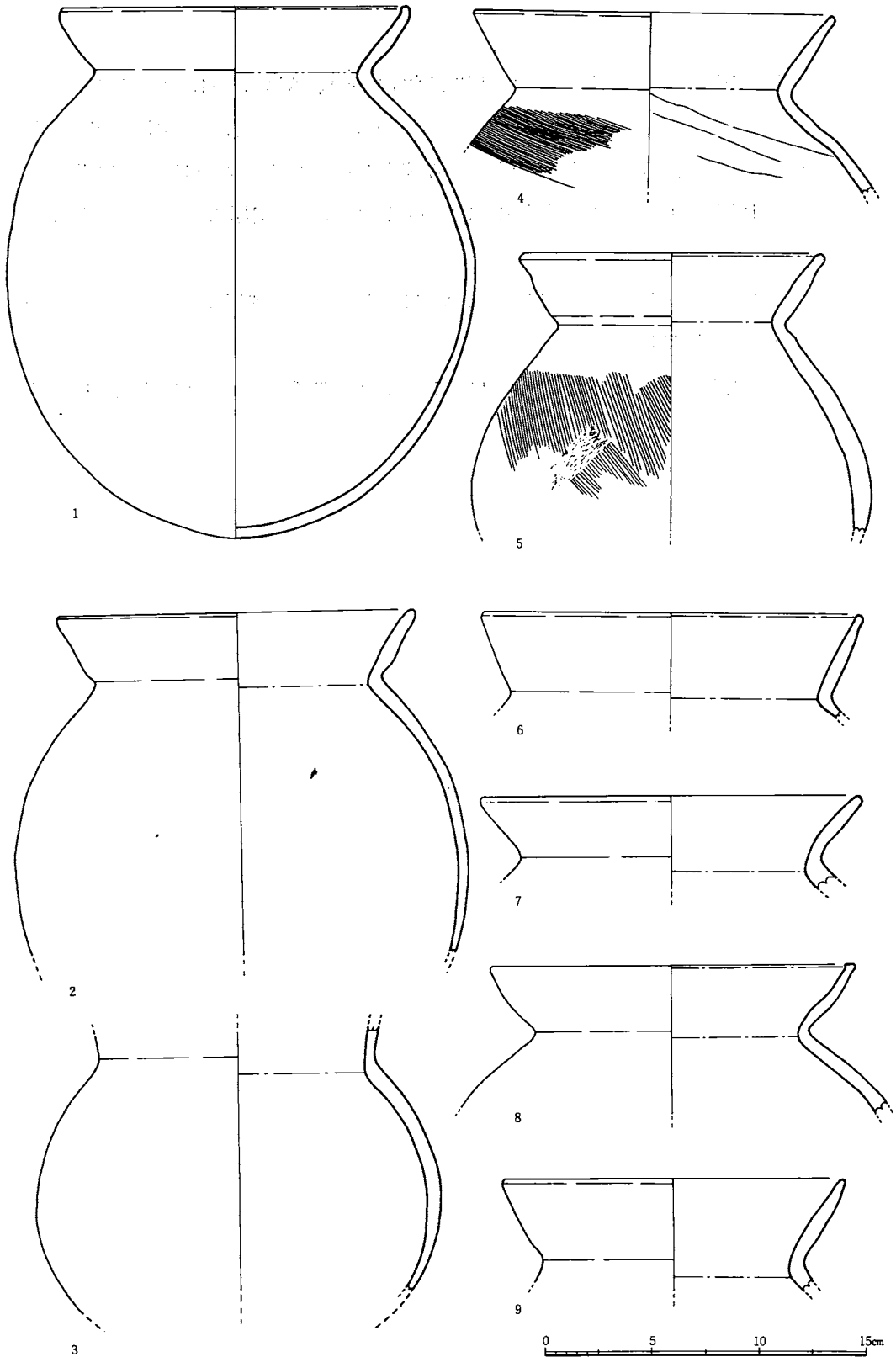
る。内外面ともに器荒れが激しく整形痕は残っていないが、全体的に丹念に仕上げられている。内外面ともに器面荒れが激しく整形痕のようで均整がとれた器形である。色調は明褐色を呈し、焼成は不良である。胎土中に石英質の砂粒を含む。土師器。

3. 壺 取上げ番号№3 頸部径13.0cm、胴部最大径19.0cm、器厚0.4~0.8cmを測る。口縁部および胴部下位を欠失する。口縁部の立ち上がりはほぼ垂直に立ち上がる。口唇部は欠失していて不明である。胴部は下方にゆくに従って器厚は薄くなる。器面荒れは激しく整形痕は残っていない。色調は暗褐色を呈し、胎土中に砂粒を含む。焼成は不良である。土師器。

4. 壺 口径16.8cm、頸部径 13.0cm、頸部高 3.6cmを測る。外面はハケ状工具による整形痕が認められる。内面はヘラ状工具による整形痕が認められる。口縁部の立ち上がりは上記2に類似する。



第58図 土師器土器溜 検出状態



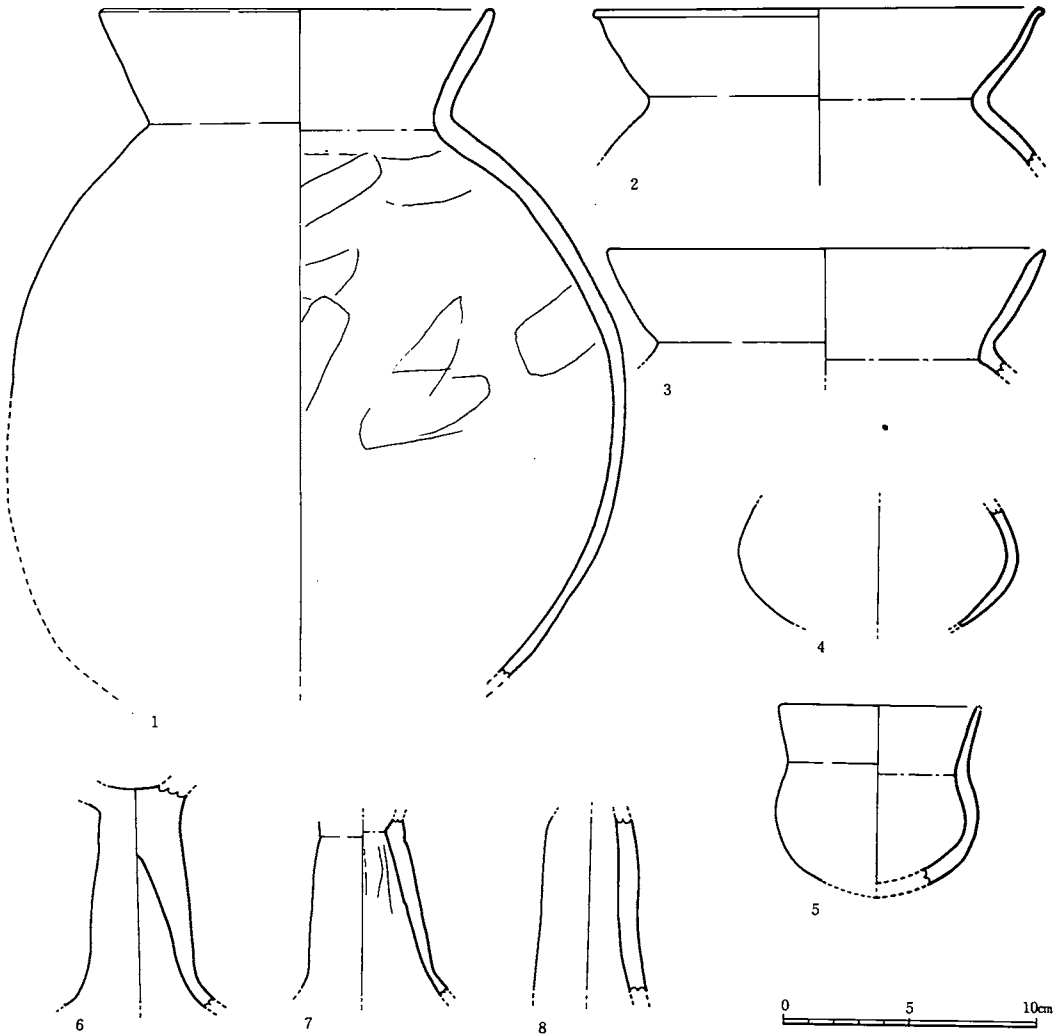
第59図 土師器土器溜 (C地区4-ハグリッド) 出土遺物

5. 壺 口径14.0cm、頸部径10.6cm、胴部最大径18.8cm、器厚0.5~1.0cm、頸部高3.4cmを測る。外面にはハケ状工具による整形痕が胴部に残る。口縁部から肩部にかけて横ナデを施している。内面の整形痕は器面荒れが激しいため不明である。肩部のはりがない。土師器。

6. 壺口縁部 口径17.8cm、頸部径15.1cm、口縁部高3.7cm、器厚0.4~0.7cmを測る。上記2に類似する。土師器。

7. 壺口縁部 口径17.8cm、頸部径14.2cm、口縁部高2.9cm、器厚0.5~1.0cmを測る。上記2に類似する。土師器。

8. 壺 口径17.0cm、頸部径12.8cm、口縁部高3.1cm、器厚0.4~0.7cmを測る。口唇部上端



第60図 土師器土器溜 (C地区4-ハグリッド) 出土遺物

は少し平になっている。上記1に類似する。土師器。

9. 壺口縁部 口径12.2cm、口縁部高3.9cmを測る。上記2に類似する。土師器。

(村井・丸山)

第60図 土師器土器溜 (C地区・4一ハグリッド) 出土遺物

1. 壺 口径15.7cm、頸部径12.2cm、胴部最大径24.4cm、口縁部高4.5cm、器厚0.4~0.9cmを測る。胴部および底部を欠失している。口縁部の内側は少し丸味を帯びて外反している。器表はハケ目調整の後、ナデが施されたと推測される。内面は荒いヘラ削りがなされている。色調は内外面ともに暗褐色を呈し胎土中に石英質の小礫や砂を含む。土師器。

2. 壺口縁部 復元口径17.6cm、頸部径13.4cm、口縁部高3.6cm、器厚0.3~0.5cmを測る。口縁部は薄く整形され、外にゆるやかにふくらみ、口唇部は丸く、外反している。器面は荒れているが整形もていねいに、なされているようだ。色調は明褐色を呈し、胎土中に微砂粒を含む。土師器。

3. 壺口縁部 復元口径17.3cm、頸部径13.4cm、口縁部高3.7cm、器厚0.4~0.6cmを計る。口縁部は器厚がほぼ一定しており、外側にふくらんでいる。口唇部はゆるやかに丸く整形されている。内面は器面荒れが激しいので整形の様子はわからない。器表は横ナデの整形痕が認められる。色調は淡褐色を呈し、胎土中に砂粒を含む。土師器。

4. 小型丸底壺胴部片 復元胴部径11.0cm、器厚0.2~0.5cmを測る。肩部外面にハケ目がわずかに残るが、内外面ともに器面荒れが激しく、整形の跡の観察は困難である。色調は暗褐色を呈し、胎土中に砂粒を少量含む。土師器。

5. 小型丸底壺片 推定口径7.8cm、復元頸部径7.2cm、推定器高7.6cm、推定口縁部高2.3cm、器厚0.3~0.6cmを測る。胴部に対して口縁部は薄く整形されている。色調は明褐色を呈し、胎土中に微砂粒を少量含む。土師器。

6. 高坏脚部片 坏部と裾部を欠失している。器面荒れが激しく、整形の跡は観察不能である。色調は淡黄褐色を呈し、胎土中に砂粒を含む。土師器。

7. 高坏脚部片 坏部接合面より少し下に、軽いしぼりがある。脚部内面には右廻りに指によるナデ又はヘラ痕が見られる。器面荒れが激しく整形についての詳細は不明である。色調は淡黄褐色を呈し、胎土中に微砂粒を少量含む。土師器。

8. 高坏脚部片 坏部および裾部を欠失している。坏部の接合部より下を強くしぼっているため外にふくらみを有する。色調は褐色を呈し胎土中に砂粒を含む。土師器。(村井・丸山)

5. B地区柱穴群

1) 遺構

境3号墳南西側に位置する。旧状は蜜柑園と水田であった。第61図にB・C地区から検出した柱穴群の全体を図示した。第62図にB地区の南側半分（水田・井戸状遺構を除く）を、第63図に北側半分（蜜柑園）を図示した。B・C地区検出の柱穴の海拔高および遺物の数については第12・13表に示す。

B地区南側半分の水田の耕作土および鉄分集積層を排除したところ、柱穴群と井戸状遺構が検出された。

第62図に示すように、柱穴には方形または長方形のプランを持つものと、ほぼ円形の小さなプランを持つものに二分できる。方形または長方形のプランを呈する柱穴には『L-番号』の名称を、小さい円形のプランを持つ柱穴には『S-番号』の名称をつけた。

『L-番号』の柱穴からは青磁、白磁、古伊万里、古唐津等が出土する。このことから、中世末から江戸時代中期頃の柱穴群と判断される。柱穴の並び方としては、ほぼ南北に1列に並ぶのが見られるが、それに直交する方向の柱穴列を確定できない。その上に、対応する柱穴を確定できないので建物の復元は現時点では不可能である。また、柱穴群に切り合う形で、近世の墓墳が9-トグリッドから検出され、8・9・10-トグリッドの西側半分は開墾により削り取られたと推定されることから、ますます建物の復元を困難にしている。柱穴と柱穴との間隔は1.2m~2.1mの間であろうと推測される。8-トL-5と9-トL-1からは、柱根が腐敗してできたと思われる空洞が検出された。

『S-番号』の柱穴からは、遺物が出土しなかったものも多いが、糸切り底の皿の細片が出土する中世の柱穴と近世の遺物を出土するものがある。このことから、中世の柱穴と江戸時代の柱穴が存在することがわかる。

8-ト~10-トグリッドにかけての柱穴群の東側には、1・2・3・6号溝が設けられている。1~3号溝は東側の崖からしみ出る水を流すために掘られたものと考えられる。3本の溝があるのは、B地区が拡幅されるに従って、東側にうつつていったものと考えられる。6号溝は建物周辺の排水路と考えられるが、末端部が切れているので実態は不明である。各溝の深さは0.1~0.3mを測り、全体的に7号溝の方に傾いている。7号溝は5号溝を切るような形で、C地区の方へ流れており末端部の高さは、C地区の表土と同レベルとなる。5号溝の末端部のレベルもC地区の表土と同レベルとなる。

井戸状遺構については、本章の6に述べる。

B地区北半分の蜜柑園の耕作土および埋土を排除したところ、第63図に示すような大型の方形の柱穴群と小型の円形の柱穴群が検出された。前述したように、大型の柱穴に『L』、小型の柱穴に『S』の付号を付けた。10号溝より東側の大型の円形および方形の柱穴は、他の柱穴と比較して浅い。この一帯には蜜柑の成木と幼木が交互に植えられており、耕作土は東側が浅くなっていたので、蜜柑の植樹墳の可能性が強い。また、10号溝より西側の柱穴であってもきわめて浅い穴については、上記の理由から、蜜柑の植樹墳の疑いが残る。この地区の蜜柑の植樹墳は、基盤に礫層があるため、礫が出土する上面で掘るのをやめている。

B地区北半分の地区から検出した柱穴の中で、3-トL-2・3-トL-3・4-トL-3・4-トL-4・5-トL-3が直線的に並び、大きさも大きく、深さも深い。しかし、対応する柱穴が定まらない。柱と柱の間隔は1.8~2.1mと推定される。他の大型の柱穴についても一列に並ぶ柱穴群を基軸として、それに対応する柱穴を定めようと努力したが、対応する柱穴を確定できなかった。

大型の柱穴からの出土遺物の中には、中世から近世の遺物（瓦質土器・土師器・青磁・白磁・古伊万里・古唐津）がまじって出土する。このことから、これ等の柱穴は近世中期以前の柱穴群と考えられる。

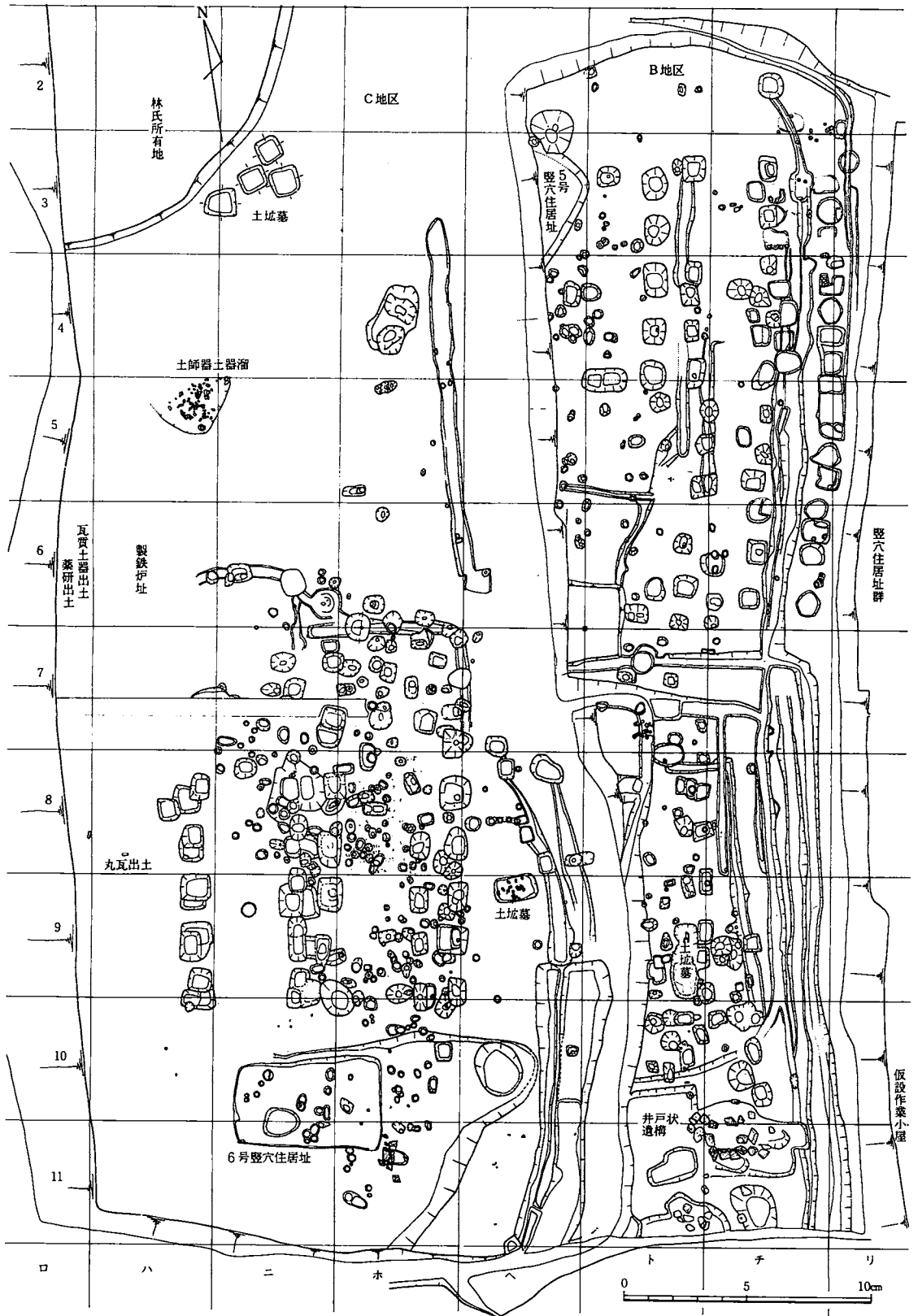
円形の小型の柱穴の埋土は、色が暗褐色を呈するものが多く、土師器片を含んでいたことから、中世の柱穴群と思われたが、中世のものと同近世のものが有ることが、埋土に含まれる古伊万里片からわかった。

2-へ~8-へグリッドにかけての西側は南半分の例と同じように開墾によって削り取られているため、柱穴群の一部は消失していると考えられる。

10号溝と3号溝は、前述の7号溝につながっている。また、3号溝は10号溝を7-チグリッドにおいて、切っている。10号溝より東側の崖の間は、開墾によって削平されたと推定される。3号溝は東側の崖からしみ出る水を排水する溝と考えられるので、建物は3号溝より西側に建っていたと考えられる。11~16号溝は、各建物の周辺の排水路と考えられるが、建物が復元できないので、どの建物に付随するか明らかでない。各溝の深さは0.1~0.3mを測る。

2) 出土遺物

上にも述べたように、柱穴および溝の中から中世から近世にかけての遺物が出土した。しかし、出土した遺物の量はC地区と比較すると、きわめて少量である。この地区からの主な出土



第61図 B・C地区柱穴群全体図

N

7-チ

8-チ

No. 7

一吹陸

二吹陸

No. 5

S-1

S-1

S-2

No. 2

No. 4

No. 1

No. 3

L-2

三吹陸

7号溝

No. 8

No. 10

No. 9

四吹陸

S-3

No. 22

L-4

S-1

L-1

L-2

S-4

L-1

S-5

S-4

L-1

L-5

S-2

L-6

L-4

L-3

L-7

L-6

L-8

L-2

L-1

No. 12

L-6

S-2

S-1

L-6

L-7

瓦質土器

五吹陸

玉出土

No. 14

No. 15

No. 16

石なべ

L-10

S-2

L-9

S-7

S-3

L-2

No. 13

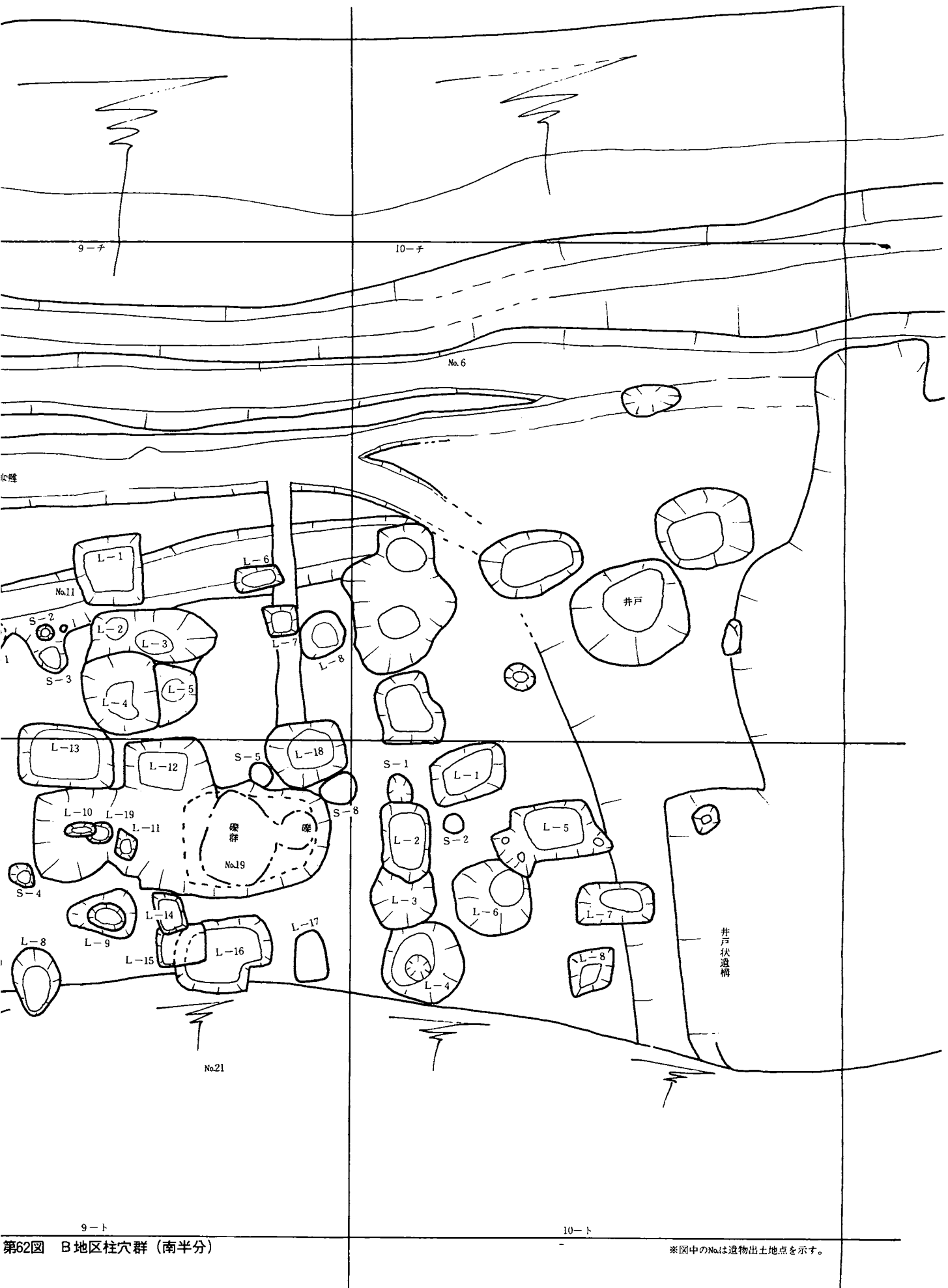
No. 17

No. 18

L-3

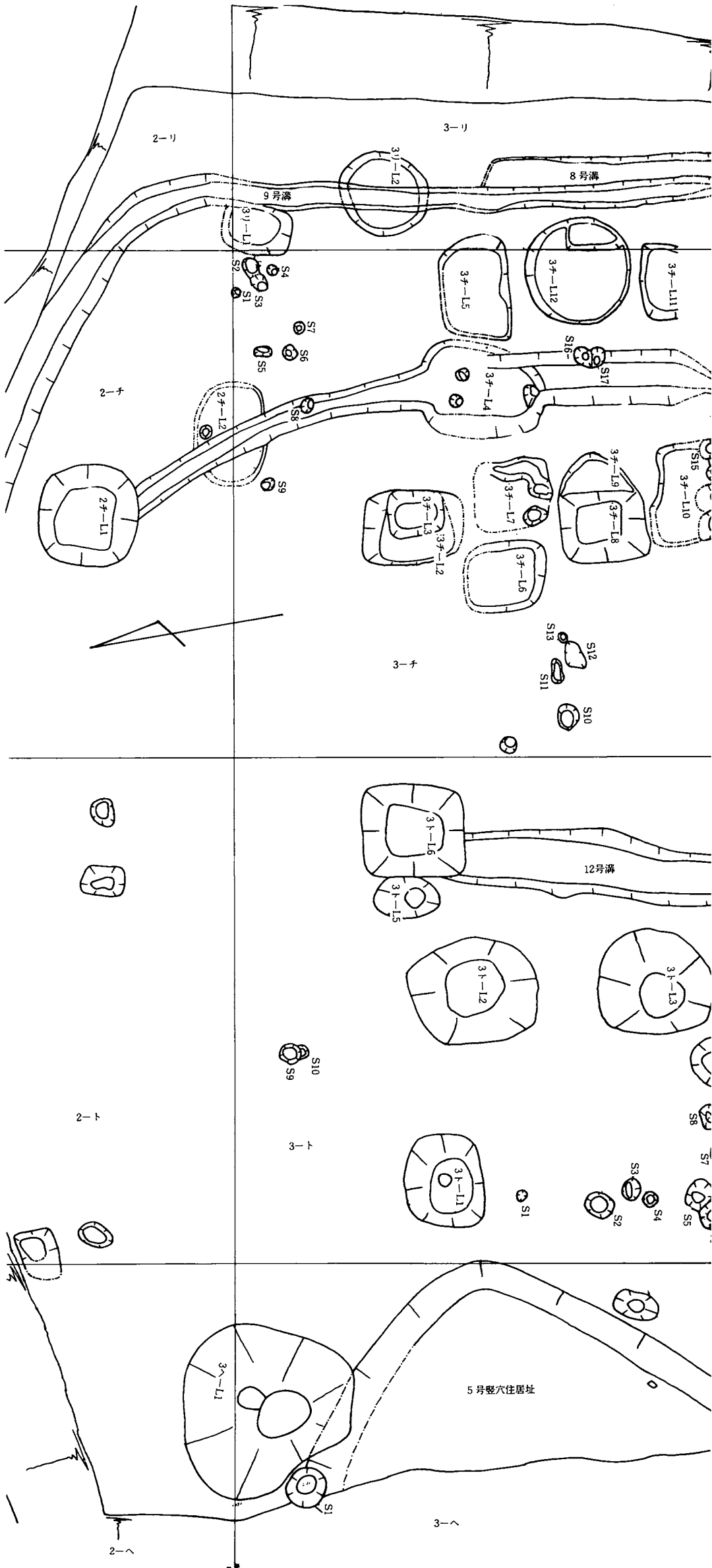
7-ト

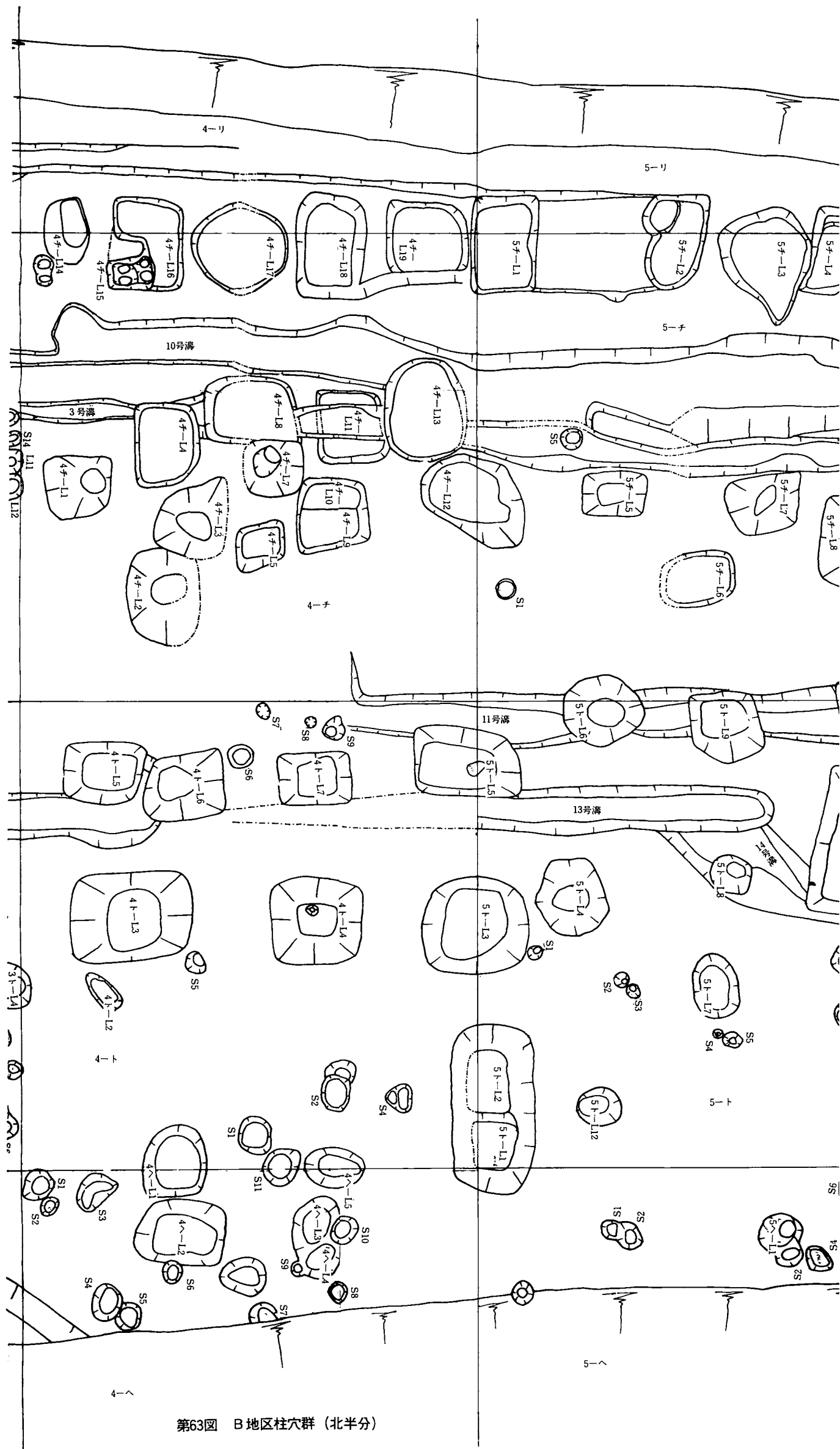
8-ト



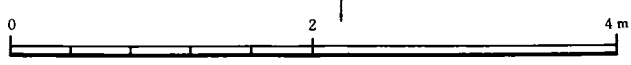
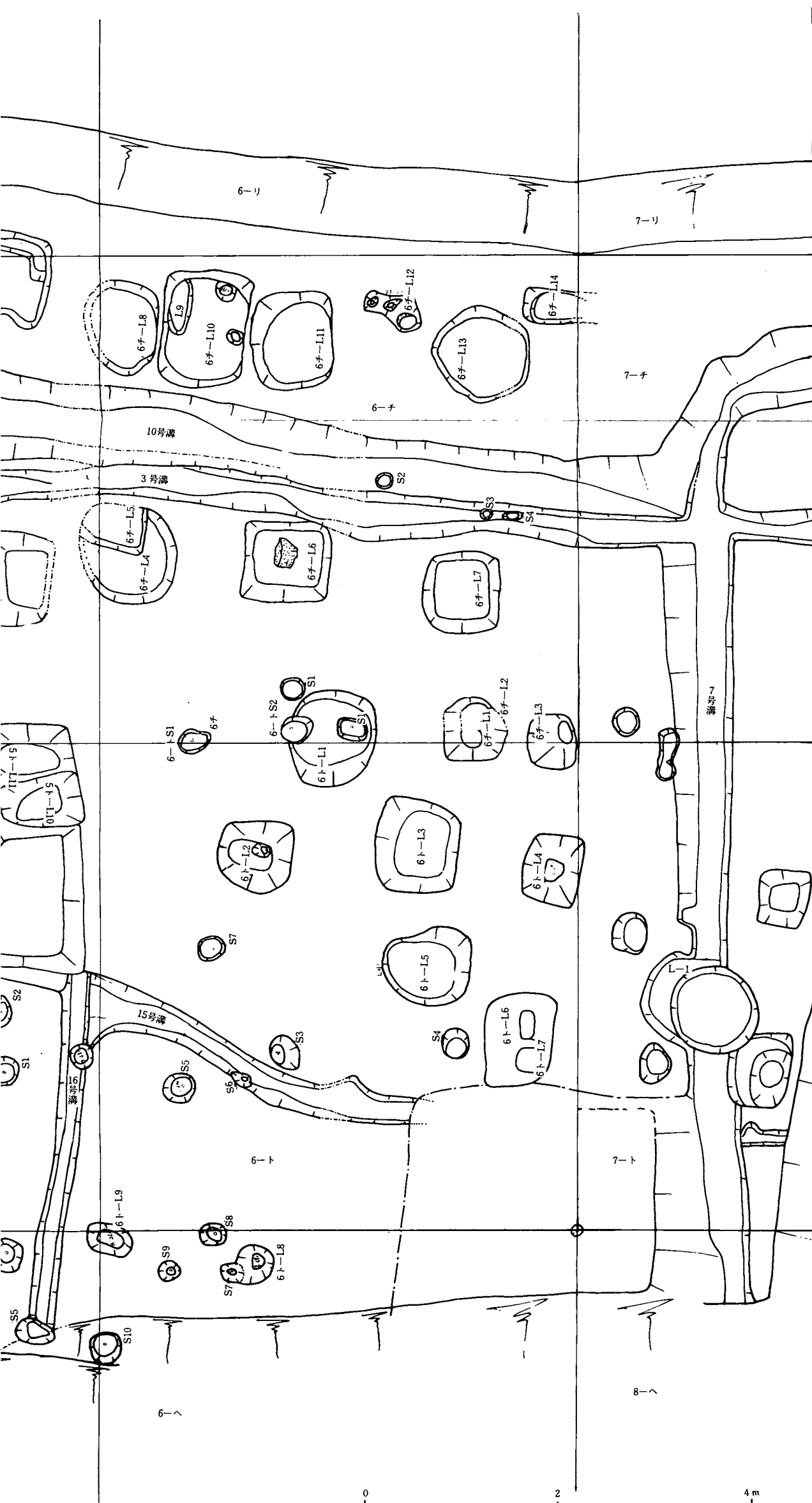
第62図 B地区柱穴群(南半分)

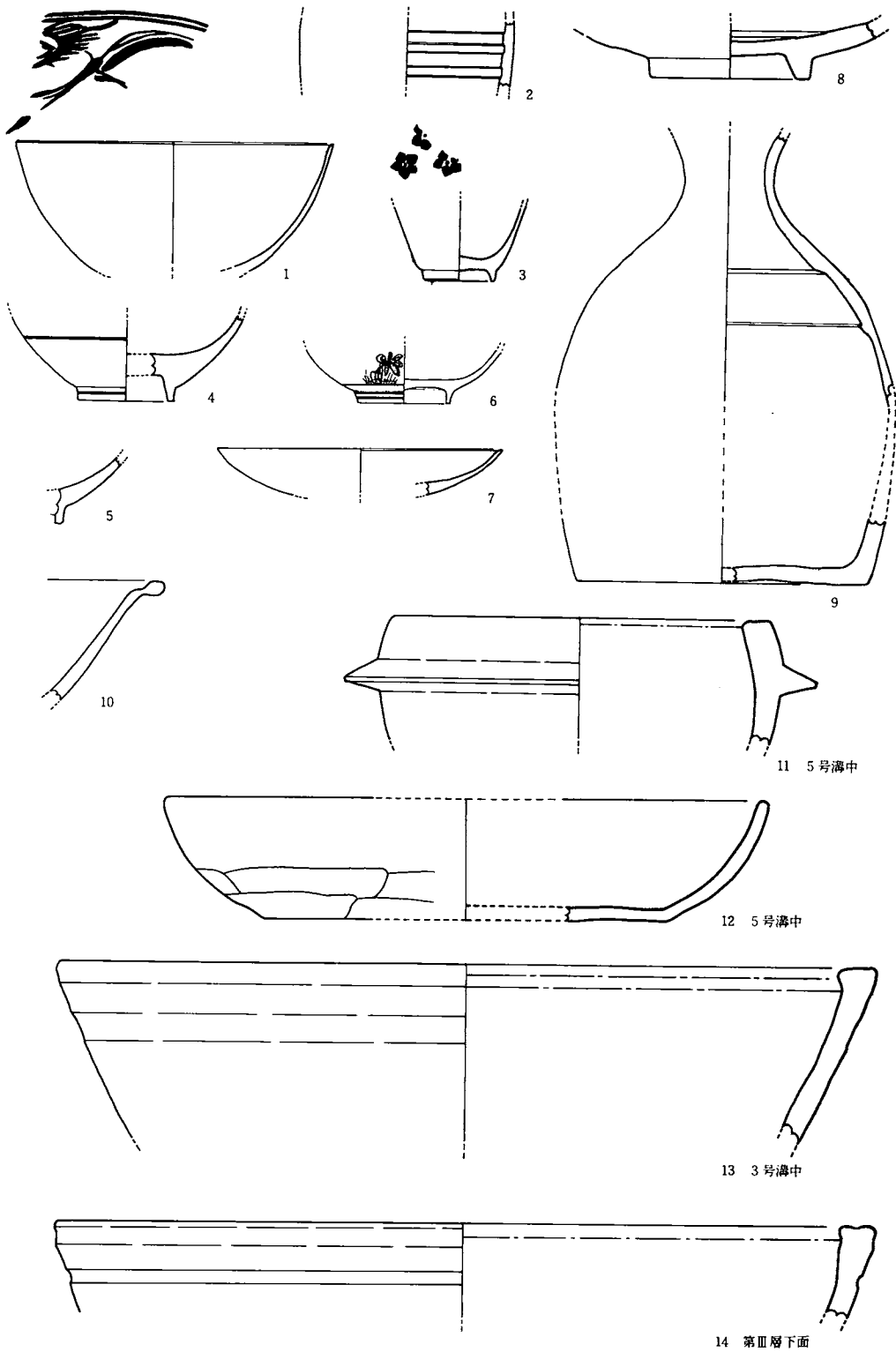
※図中のNoは遺物出土地点を示す。





第63図 B地区柱穴群（北半分）



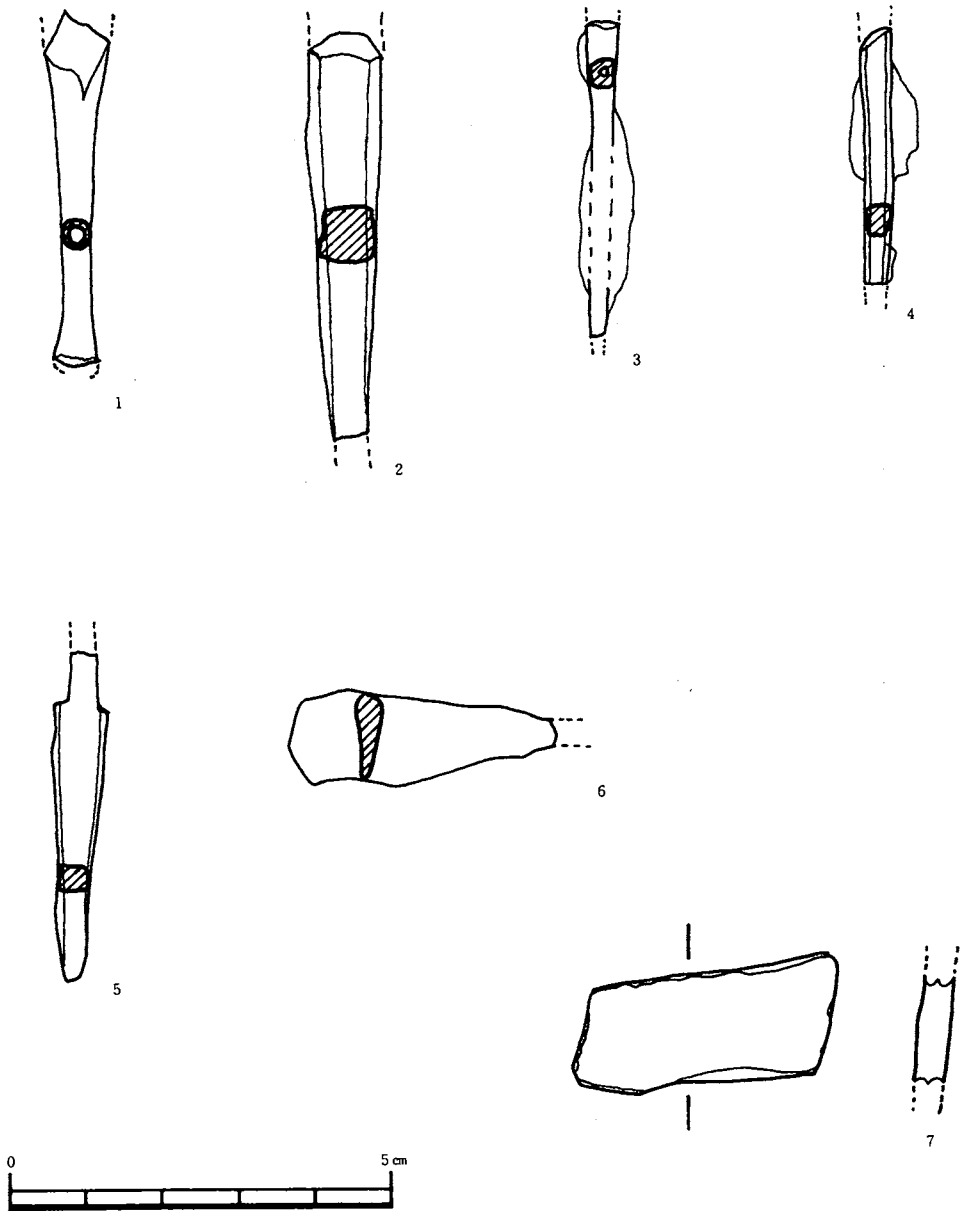


第64图 境遺跡 (B地区) 出土遺物 (近世陶磁器·瓦質土器·石鍋)

遺物は、瓦質土器、滑石製石鍋、古伊万里染付等である。特に注目したのは、6—チL—7（?）から検出した緑釉の陶器片である。これは第65図7に示す。この遺物は近世の遺物とともに出土した。

第64図 境遺跡（B地区）出土遺物

1. 古伊万里染付飛竜文碗 外面および見込みに青色の染付あり。復元口径14.2cmを測る。上釉は薄くかかっている。江戸中期の製品である。
2. 古伊万里青磁瓶B地区（南半分）のピット群の間の1号溝中取り上げ番号 №7、海拔37.38mより出土する。波佐見窯の製品である。胴部復元径9.2cmを測る。
3. 古伊万里染付酒盃 B地区（南半分）の3号溝中（取り上げ番号 №1、海拔37.26m）より出土する。高台径3.2cm、高台高0.5cmを測る。外面には桔梗の花を意匠化したような文様を青い呉須で染付している。百間窯製の製品である。
4. 古伊万里染付碗 9—トグリッド土壙墓に切り合った柱穴又は土壙墓の遺物である。波佐見窯製の青磁とよく似た上釉がかかる。胴部と高台部に横線を染付している。復元高台径4.3cm、高台高1.2cmを測る。
5. 古伊万里染付碗 緑釉陶器を出土した柱穴の中より出土する。
6. 古伊万里染付草花文碗 7号溝の中にある7—トグリッドL—1（取上げ番号 №12）より出土する。外面には立ち上り部から高台部にかけて3条の横線とアヤメを意匠した図案を染付している。復元高台径4.2cm、高台高0.6cmを測る。
7. 古伊万里白磁皿 B地区（南半分）4号溝中（取り上げ番号 №8、海拔37.14m）より出土する。口径12.8cmを測る。
8. 蛇目剥皿 B地区（南半分）3号溝中（取り上げ番号 №5、海拔37.29m）より出土する。内面に銅釉、外面に灰釉がかかる。蛇目剥の部分の段差がなくなるようにすりへらしている。使用によってすりへったというよりもむしろ意図的に砥石のようなものですりへらしたと考えられる。高台径7.2cm、高台高1.0cmを測る。嬉野焼内野山窯の製品である。
9. 雲助 9—トグリッド（取り上げ番号 №20、海拔37.67m）より出土する。外面に土釉がかかる。頸部径4.0cm、復元胴部径15.2cm、復元底径12.9cm、推定器高21cmを測る。徳利の可能性も考えられる。多多良窯の製品である。
10. 鉢 上記5と同一の柱穴より出土する。庭木窯の製品である。小片であるため口径は不明である。



第65図 境遺跡（B地区）出土遺物（鉄製品・その他）

11. 滑石製石鍋 5号溝内の8-トグリッドL-10ピット中（取り上げ番号 \mathcal{N} 16）より出土する。口径 17.0cm を測る。

12. 瓦質土器盤 5号溝中（8-トグリッド取り上げ番号 \mathcal{N} 15）より出土する。復元口径 27.2cm 、復元底径 18.2cm 、器高 5.5cm を測る。内面はナデ、外面は口縁から胴部中央までは横

ナデそれ以下はヘラ削りによる調整痕が残る。底部には木目が残る。色調は暗灰色を呈し、胎土中に細砂粒を含む。

13. 瓦質土器火舎 3号溝(7一チグリッド、取り上げ番号62)中より出土する。復元口径37.0cmを測る。内外面とも器面荒れがはげしい。外面は体部から口縁にかけて大きく広がり、口唇部は平坦に整形されている。内面では口縁部近くで内湾ぎみに立ち上る。胎土中に微砂粒を含む。

14. 瓦質土器火舎 III層中から検出する。口径36.6cmを測る。 (村井・丸山)

第65図 境遺跡(B地区)出土遺物

1. きせるの吸い口 緑錆を生じて、両端部を欠損している。井戸状遺構の近くから出土した。長さ4.7cmを測る。

2. 鉄片 器種不明である。断面はほぼ方形状を呈する。両端部を欠損している。井戸状遺構の近くから出土する。長さ5.4cm、巾0.4~1.0cmを測る。

3・4・5 B地区の一括資料である。鉄釘とも鉄鏝の茎とも見える。断面はほぼ方形状を呈する。

6. 刀子 B地区の一括資料である。刀子の一部のように見える。

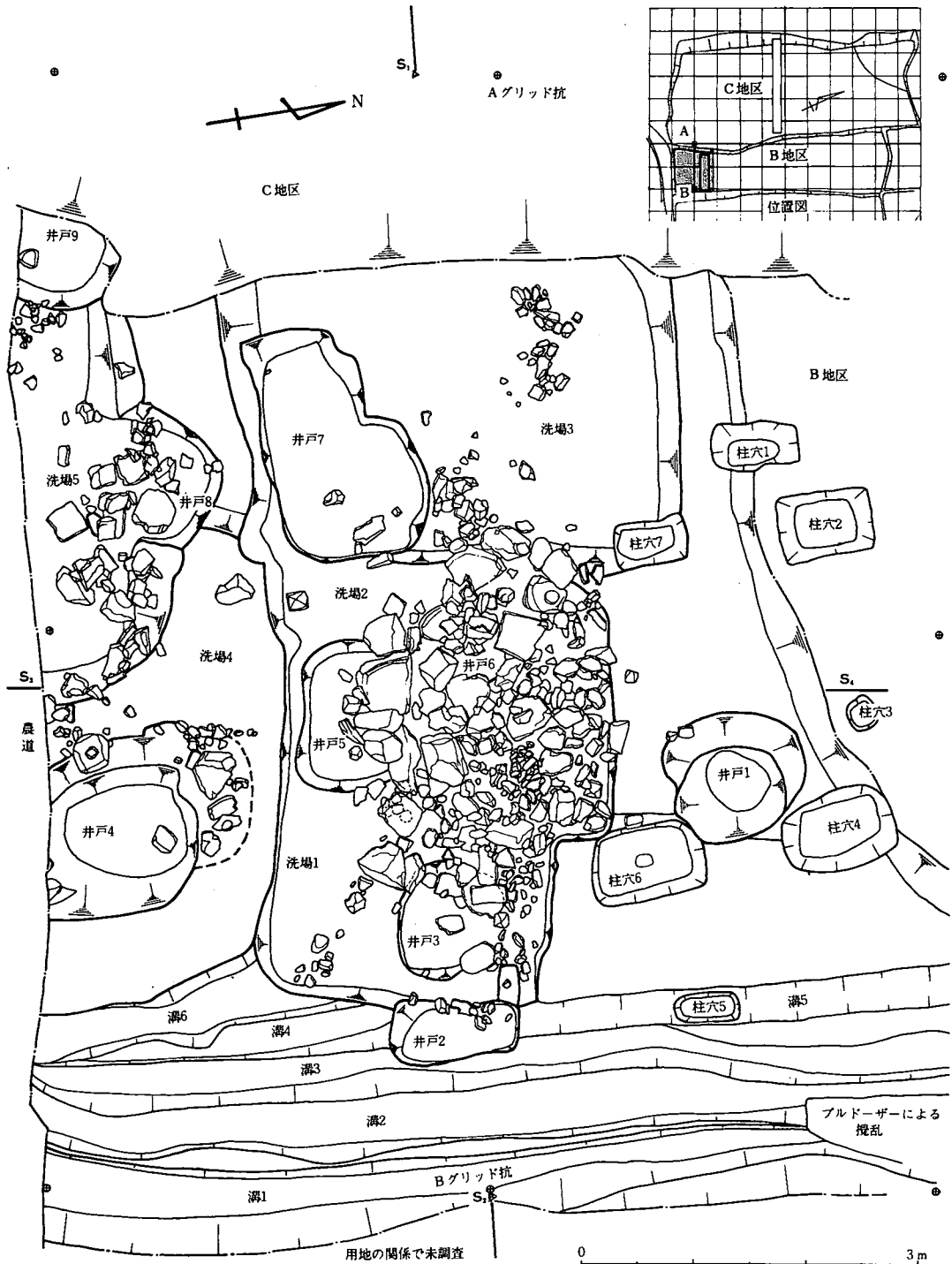
7. 陶器片 B地区(北半分)の大型の柱穴から出土する。胎土黄褐色を呈し、焼きしまりはあまい。外面には緑色の釉がかかる。内面に釉がかかっていないので、瓶であろうと考えられる。中国の南部あるいは東南アジア付近で焼かれた陶器に類似すると思われる。日本国内産の陶器と比較すると異質である。同一の柱穴からは近世陶磁器が出土した。 (村井)

6. 井戸状遺構

B地区南端部近くに設定した境遺跡の試掘トレンチからピット状の掘り込みが検出され、中から礫に混って瓦質土器(こね鉢の口縁部)が出土したので、周辺部を発掘したところ第66図に示すような井戸と洗い場を持つ水場であることが明らかになった。

この遺構は6グリッド(10一ト・10一チ・11一ト・11一チ・12一ト・12一チ)にわたって広がる事が明らかとなった。しかし12一ト・12一チ、グリッドに当る部分には農道と農業用水路があるため諸般の事情から発掘を断念し、第66図に示す範囲の調査に止めた。

第66図は井戸状遺構を検出した状態を示す。最初に検出した井戸を井戸1として上方から下方へ井戸9まで番号をつけた。また井戸の側の平坦な部分は洗い場と思われるので、これにもまた洗場1から洗場8まで番号をつけた。



第66図 井戸状遺構検出状態

井戸 および 洗場は基盤の層となっている 黄褐色の礫混りの 粘性の強い土に掘り込まれている。井戸状遺構をおおっていた石材は当遺跡周辺に産出する変成岩と花崗岩が主であるが中に砂岩や凝灰岩が見られ、砥石や五輪塔が混じる。これらの石材は井戸の淵石・洗場の踏石・井戸に流入する土砂や表流水防止の石垣として使われていたと推定される。散乱する石材の大部分は井戸3～6の北側を保護するための石垣に使われていたと思われる。これらの石材の堆積の状態は第67図に示す。

第Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ層は耕地を造成することによってできた層と思われる。第Ⅰ層は耕作土であり、崖下に位置するために水はげが悪く青緑色の土色を呈する。

第Ⅱ層は黄褐色土粒を含む埋土であり、地山の礫が多く混じる。しかし当遺構上は水田であり鉄分が集積しているため黒褐色を呈する。第Ⅲ層は黄褐色土粒を含むが第Ⅱ層より少ない。礫は第Ⅱ層よりも多い。全体的に見ると第Ⅱ層にほぼ類似するが、褐鉄鉱の広がりや砂礫の密度で判別される。

第Ⅳ層は井戸状遺構が埋没することによって生じた層と考えられる。包含される土は第Ⅲ・Ⅱ層と類似するが、褐鉄鉱・自然礫・石材の包含状態から判別できる。

第68図に第Ⅳ層を排除した状態を示す。図中の●印は遺物の出土地点である。涌水は井戸1・2・3・4・5・6からあり、井戸2・3の涌水が最も多い。

井戸1の涌水は発掘中に雨でも降らねば流れ出ることはないが、流れ出た水は洗場3に流れる。

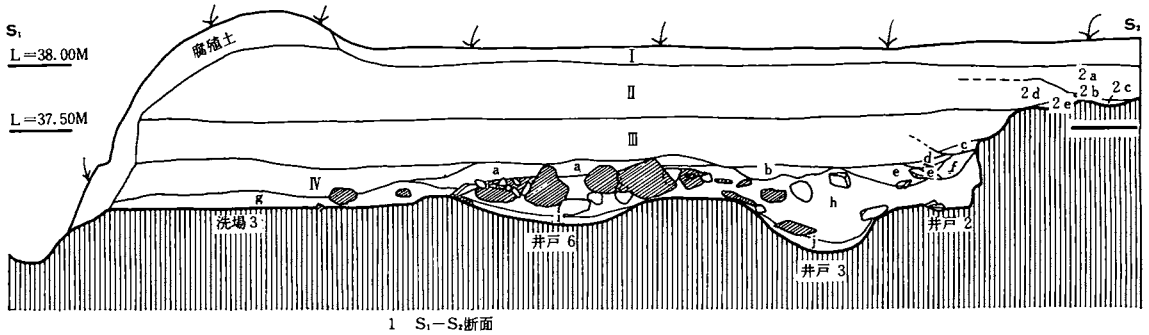
井戸2・3の涌水は洗場1・井戸5・井戸6・洗場2・井戸7・洗場3の順に流れる。

井戸4の涌水は洗場4・井戸8あるいは洗場5に流れる。

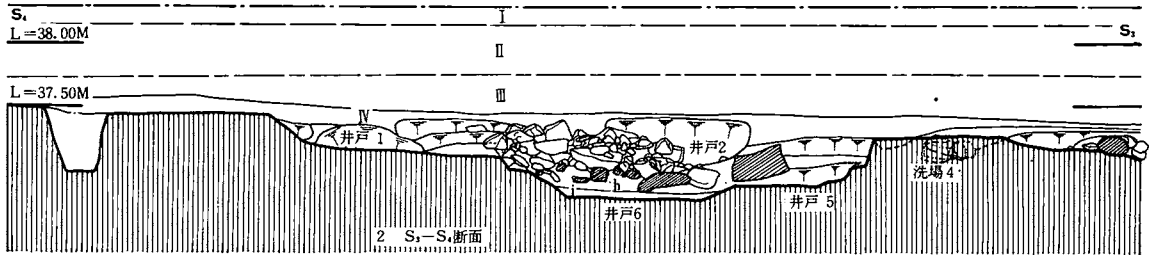
涌水の流れと遺構の並び方から見て三つのグループに分けられるようである。

第1のグループの井戸1の掘り方は、上縁部はほぼ円形であり、 $1.40 \times 1.08m$ と $0.84 \times 1.0m$ の二重になっており、上縁部の海拔は $37.0m$ 、最深部は $366.7m$ を測る。全体的には円推台状を示す。柱穴2・4・6・7の位置からこの井戸状遺構上には、四本柱のおおい屋があったと推定される。

第2のグループは井戸2・3から洗場3までである。井戸2の掘り方は $1.2 \times 1.0m$ の長方形であり深さは $0.4m$ である。井戸3の掘り方は上縁部は $1.3 \times 1.2m$ 、深さ $0.6m$ の円推台状を呈する。涌水の量を確保するために二重に掘削されたものであろう。またこの2つの井戸を守るために北側に石垣が築かれたと考えられる。洗場1は平坦であるが井戸5・6があるため、井戸2・3には水くみ以外にはあまり立ち入らなかったと考えられる。井戸5・6・7は涌水をたくわえるために掘られたと思われる。洗場3からは多くの遺物（磁器・砥石等）が検出され



1 S₁-S₂断面



2 S₃-S₄断面

第67図 井戸状遺構断面図

0 2m

- | | | |
|--|---|--|
| <p>I 現水田耕作土(青緑色)</p> <p>II 黒褐色土(黄褐色土粒を含む。地山の礫多し。)</p> <p>2a 黒褐色土(黄褐色土粒を含む)</p> <p>2b 黄褐色土(地山の移動層)</p> <p>2c 暗褐色粘土層</p> <p>2d 2aと同じ(境には黄褐色土と褐鉄鉱層あり)</p> <p>2e 褐鉄鉱層</p> <p>III 黒褐色土(IIにほぼ同じ)</p> <ul style="list-style-type: none"> ●黄褐色土粒を含む ●II層より黄褐色土粒は少ない。 ●礫はII層よりも多い。特に境界の所に多い。 ●II層との境界は褐鉄鉱の広がりや砂礫の密度で判別した。 | <p>IV II、III層に類似する。</p> <p>(褐鉄鉱の包含状態で判別)</p> <p>a 黒褐色の砂礫層</p> <p>(ブロック的黒紫色の粘土)</p> <p>b 褐鉄鉱土</p> <p>c 褐鉄鉱土</p> <p>(黄褐色土を含む)</p> <p>d 黒褐色土</p> <p>(黄褐色土を含む)</p> <p>e 暗褐色土</p> <p>(粘質土)</p> | <p>f 黄褐色土</p> <p>(礫を多く含み、暗褐色土を含む)</p> <p>g 灰青色の砂層</p> <p>(礫を含む)</p> <p>h 黒青色粘質土</p> <p>i 褐鉄鉱層</p> <p>j 砂鉄層</p> |
|--|---|--|

ることから、洗いや刃物ときの場所として使用されたと考えられる。

第3のグループは井戸4から井戸9までである。井戸4の湧水量は少ないが、洗場4とした周辺部に集まった水をたくわえる形になっている。井戸8はいくらか水をたくわえる働きも残されているが、洗場5が拡充される時に削除されて本来の機能がなくなったと思われる。洗場5は洗場3と同様の機能があったであろう。井戸9は井戸7と同様な状態であったろうと推定するが、開墾によって削平されている。

以上3つのグループに分けて井戸および洗場について述べたが、この遺構のように湧水を水の使用目的に合わせて水上の方から飲用、食品および食器の洗浄、洗濯、牛馬用と多目的に使用している水場は現在でも近隣の集落の中に残され、また使用されている。土地の人々はこのような場所を「アリャコ」と呼び、一カ所の水場をだいたい十数軒で使用しているようだ。

第IV層に含まれる石材の平面と断面を観察するに、これ等の石材を使ってつくられた石垣は何かの事情で短期間に倒壊して、井戸および洗場を埋没させてしまった可能性が強い。

井戸1・2・3・4の東側には溝1～5の5本の溝が掘られている。溝1はこの土地が耕地

化する時、崖ぎわの排水のために掘られたものと推定する。他の4本はおそらく、井戸に流れ込む表流水を防ぐために掘られたと思われる。溝2・5はこの遺構の北側ピット群の方へ延びている。

(村井)

第69図 井戸状遺構出土遺物

1. 須恵器甕の頸部破片 胴部との接合部で剥離し、口縁部を欠失している。復元径は上端35.2cm、下端26.2cm、器厚1~2cmを測る。外面には2条の凹線が2段(計4本)に、平行に廻る。その間にヘラ状工具による細長い斜線が施されている。斜線の間隔は約1m、長さ2~2.5cmを測る。施文方法としては右上から左下へ約45度の角度で、右廻りに引いている。それで土器を左廻りにゆるやかに回転させて施文したと考える。器面はカキ目による調整の後に上記のような施文を行なっている。内面には横ナデが見られる。胴部との接合部付近には指による押圧およびナデの跡が強く残っている。

2. 須恵器無蓋高坏の坏部 無蓋高坏の坏部と推定したのは外面に3条の凹線を胴部に施していることと、立ち上りの角度から推定する。胎土は緻密であり、焼成も良好である。

3. 須恵器高台坏底部 上部は完全に欠失して底部のみ残る。高台径6.7cm、高台高0.1cm、底部中央の器厚0.8cmを測る。貼付高台の内面は指で横ナデを施し、胴部と密着させている。胎土は緻密であり、焼成も良好である。

4. 瓦質土器盤 取上げ番号4636・37 口径31.0cm、器厚0.9~1.9cmを測る。胎土中に砂粒および黒色の造岩鉱物を含む。

5. 瓦質土器盤又はこね鉢の口縁部 器厚1.2cmを測る。胎土中に砂粒を含む。

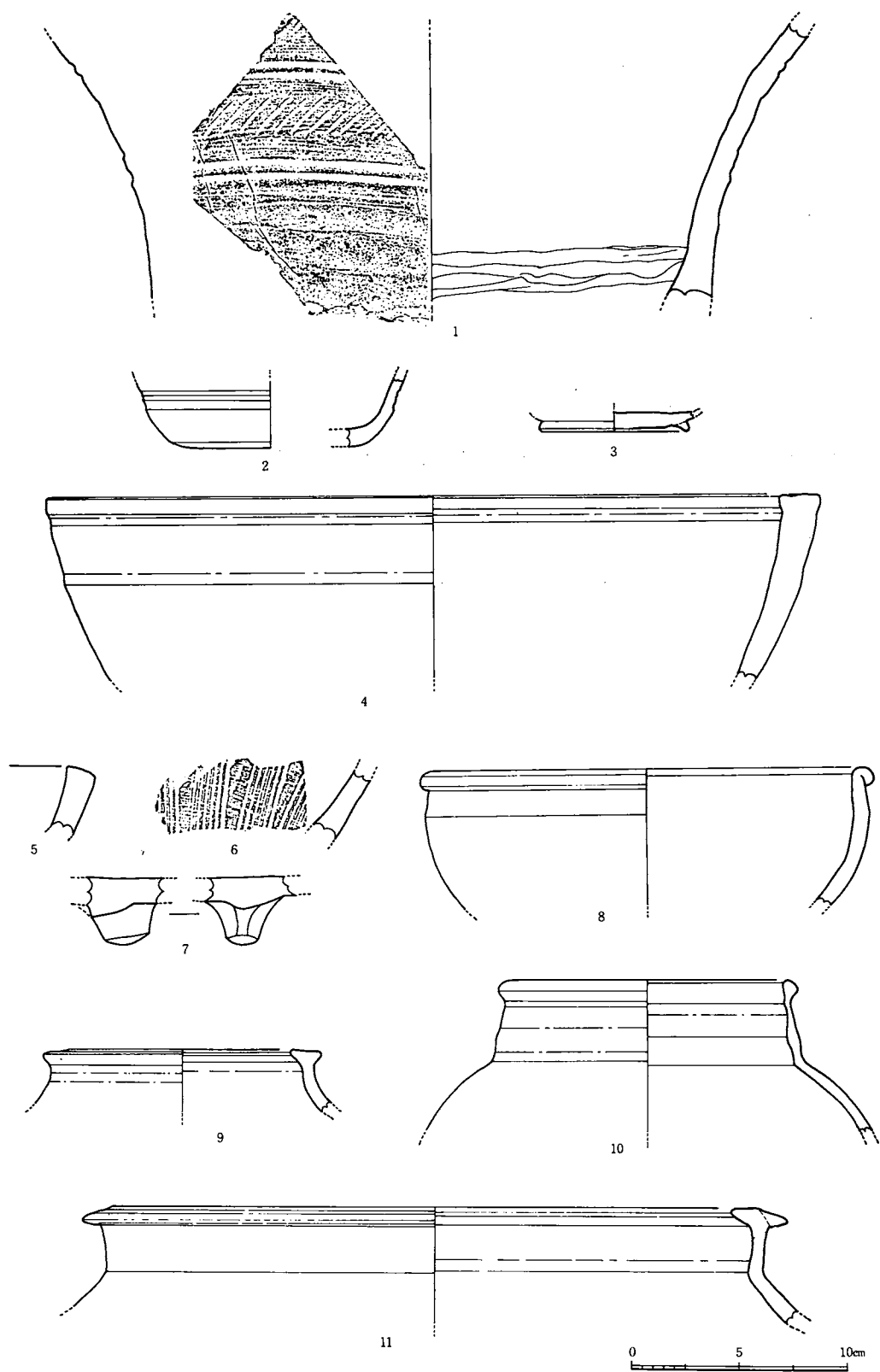
6. 瓦質土器搦鉢の胴部 器厚0.9~1.2cmを測る。胎土中に砂粒を含む。内面には6条を1単位とする搦鉢の目が観察される。

7. 瓦質土器火舎脚部 脚の長さ2cmを測る。火舎底部の厚さは約1cmである。円錐台をまにした形態をとり、胎土中には砂粒を含む。

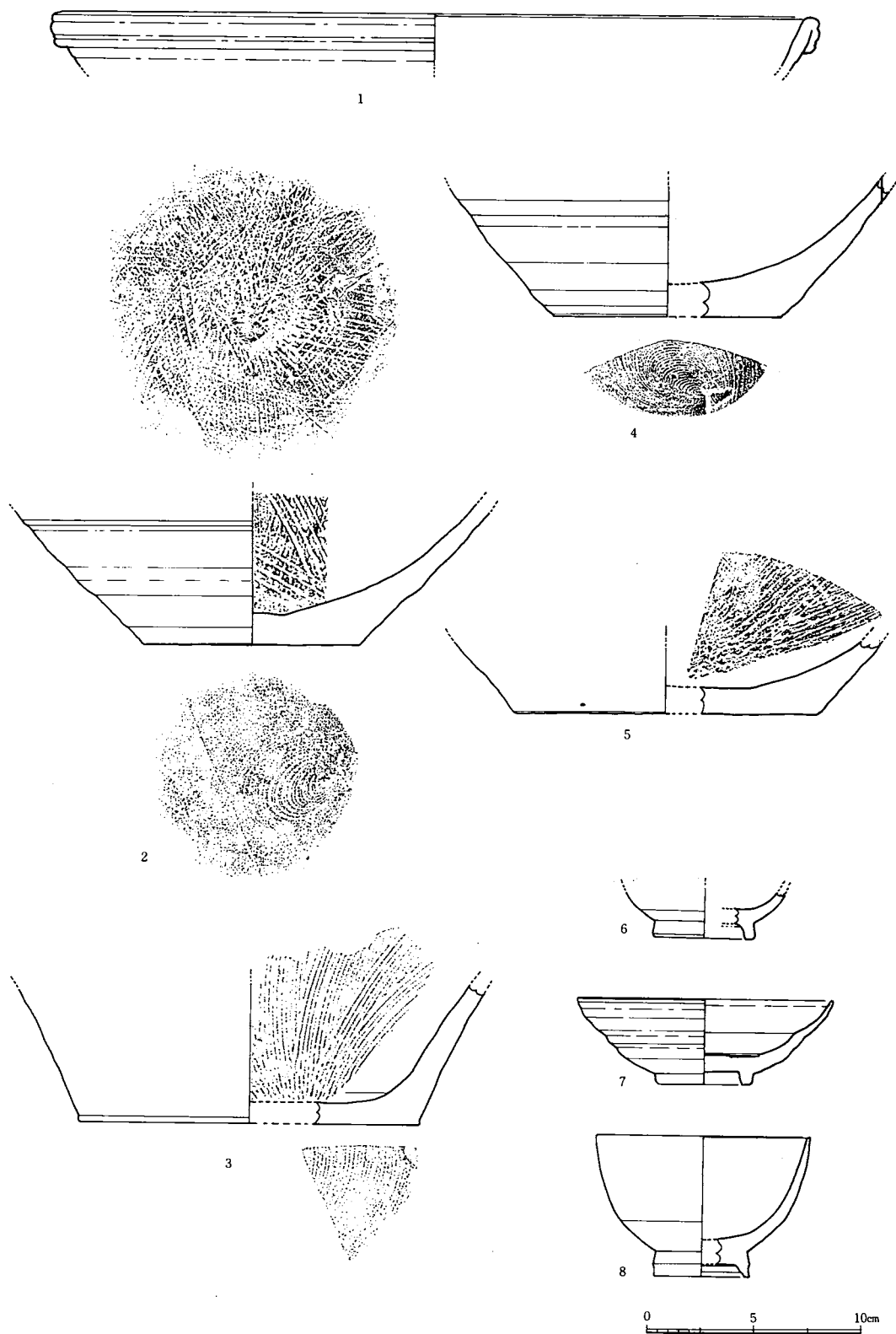
8. 陶器片口 口径20.2cm、器厚0.7cmを測る。口縁は玉縁であり、底部を除いて器表には褐色の釉(鉄釉)がかけられている。注口部を欠くので全体的な形から片口と推定した。素地は灰色を呈する。武雄南部系の窯の産と思われる。

9. 陶器壺口縁 口縁内径10cm、器厚0.6cmを測る。器面には横ナデが見られる。胎土は褐色を呈し、土釉がかかる。口唇部の内面は磨耗しているため陶器の蓋がセットとなっていたと思われる。井戸の埋土より採集した遺物である。武雄南部系の窯の産と思われる。

10. 緑釉陶器壺 口縁径13.0cm、器厚0.5cmを測る。外面全面と頸部の内面上方に緑色の釉



第69圖 井戸状遺構出土遺物 (須恵器・瓦質土器・近世陶磁器)



第70図 井戸状遺構出土遺物 (近世陶磁器)

(銅釉)がかかっている。口唇部には緑釉がうっすらと残っているが、磨耗して剥ぎ取られている。内面の胴部以下には黒褐色の釉(鉄釉)がかげられいたと推定する。素地は赤褐色を呈する。嬉野焼内野山窯の産と推定される。

11. 陶器甕口縁部 口縁内径13.8cm、器厚0.6cmを測る。器面はナデ調整がされている。釉薬は鉄釉であり、素地は褐色を呈する。武雄南部系の窯の産と推定される。(村井)

第70図 井戸状遺構出土遺物

1. 擂鉢の口縁 取上げ番号A633 礫層の下より検出する。口径35.4cm、器厚0.6cmを測る。外面には土釉がかかり、玉縁状に粘土をおり返して製作している。

2～5 擂鉢の胴部から底部 底面径10～16cm、器厚0.7～1.7cmを測る。内面には6～10本を1単位とした擂鉢の目が立てられている。素焼きであり、硬く焼き締まっている。底面には糸切りのあとが残る。

6. 碗の破片 復元高台径4.7cm、高台高0.7cm、器厚0.4～0.7cmを測る。素地は黄褐色を呈し、釉薬は透明である。網目状に貫入も見られる。

7. 蛇目剥皿 口径11.9cm、器高4.0cm、高台径4.4cm、高台高0.6cmを測る。素地は明褐色を呈する。釉薬は灰釉と思われる。嬉野焼内野山窯の製品と思われる。

8. 銅釉碗 復元口径10cm、器高6.6cm、高台径4.5cm、高台高0.6cmを測る。外面には銅釉、内面には灰釉がかかっている。高台は2段に削り出されている。胴部に対して底部の器厚は3倍近く厚い。(村井)

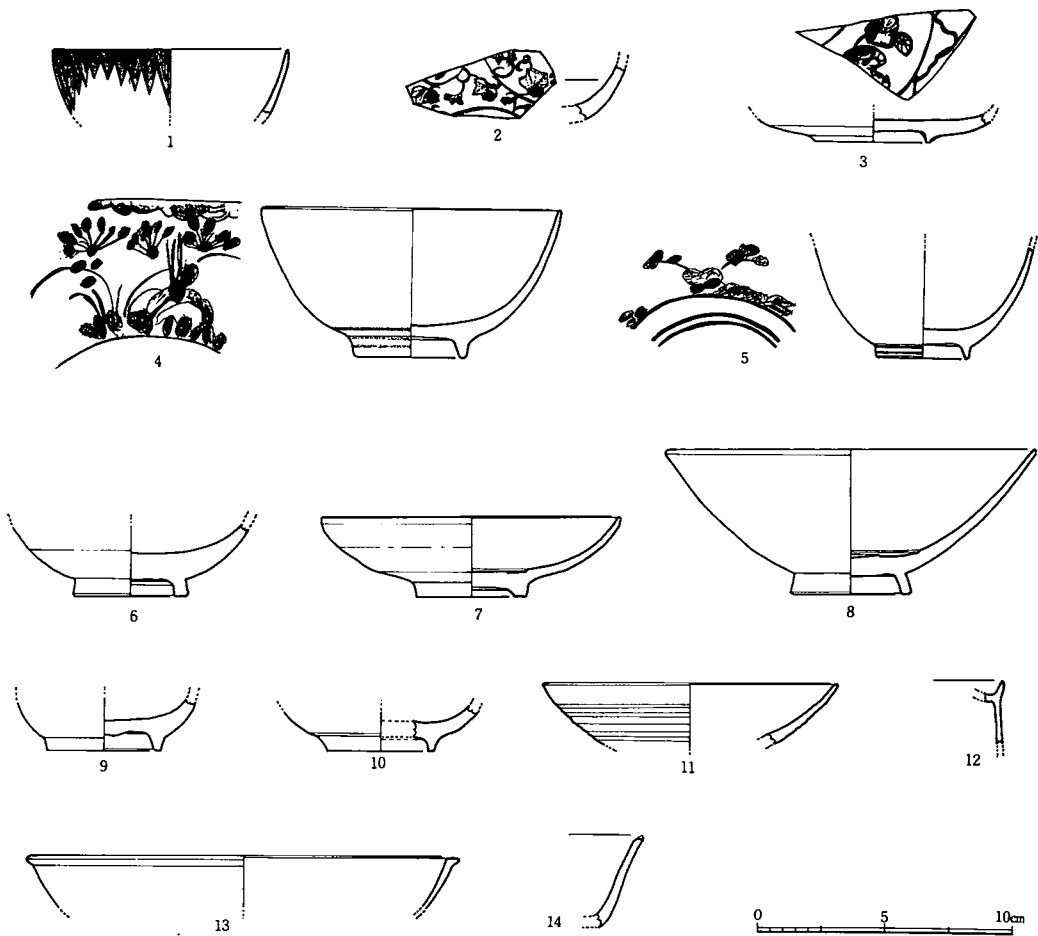
第71図 井戸状遺構出土遺物

1. 古伊万里染付碗 復元口径9.3cmを測る。素地は白く良質で焼成も良い。呉須の青色も美しい。鋸歯状の文様も一筆づつよく描かれている。江戸時代中期と思われる。

2. 古伊万里染付唐草文磁器片 器種は皿と思われるが明らかでない。内面に濃淡二種の青色を上手に使い分けて唐草を描いている。呉須・素地ともに良質である。江戸時代中期と思われる。

3. 古伊万里染付草花文皿 高台径4.5cm、高台高0.4cmを測る。内面に濁りのある青緑色の釉(呉須)で梅花を描いている。内外面ともに上釉は透明度が高く、網目状の貫入がある。

4. 古伊万里染付草花文碗 口径12.0cm、器高5.9cm、高台径4.6cm、高台高1.3cmを測る。外面には草花と3本の横線が濁った青色で描かれている。上釉の透明度も良くない。外山もしくは大外山の製品と思われる。江戸時代中期の製品と推定される。



第71図 井戸状遺構出土遺物(近世陶磁器・その他)

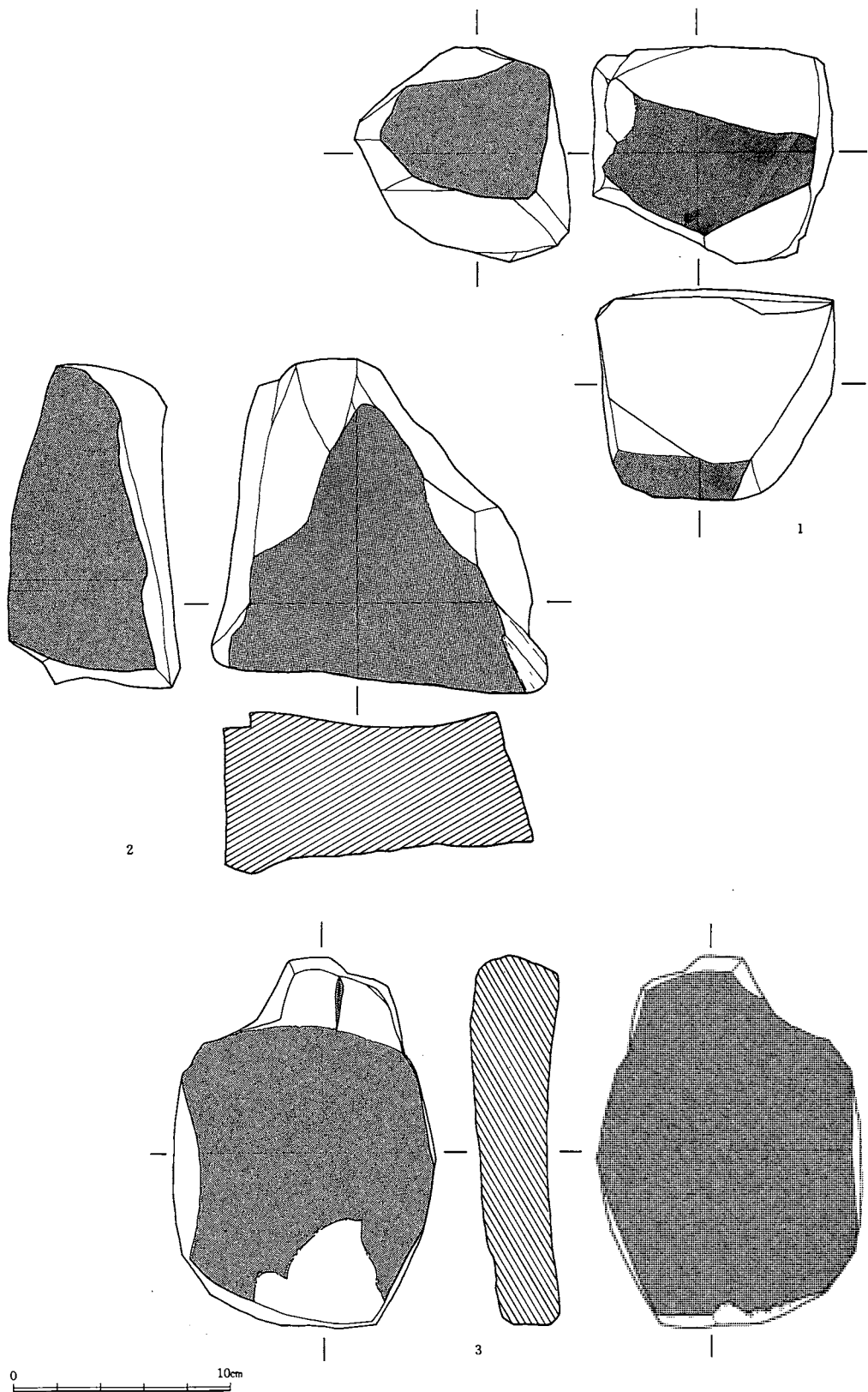
5. 古伊万里染付草花文碗 取上げ番号№34 高台径3.6cm、高台高0.5cmを測る。口縁部を欠失している。外面に青絵を染付している。江戸時代中期と思われる。

6. 磁器碗 高台径4.6cm、高台高6.6cmを測る。素地は灰色を呈する。内外面ともうぐいす色の釉の上になまこ状の白い釉をかけている。

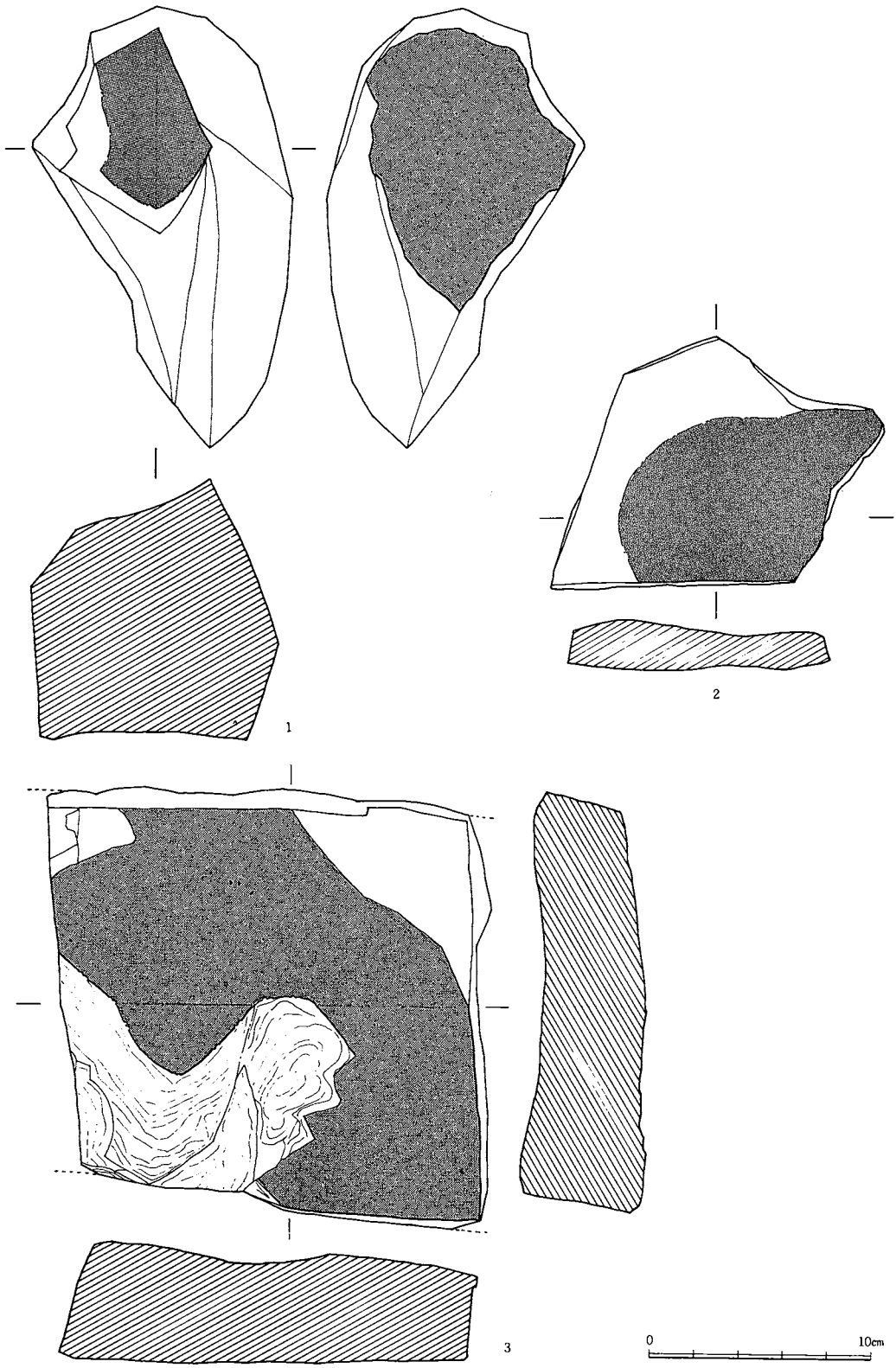
7. 蛇目剥皿 口径12.0cm、器高4.0cm、高台径4.3cm、高台高0.5cmを測る。素地は灰色を呈する。内外面ともうぐいす色の釉になまこ状の釉がかかっている。

8. 古伊万里蛇目剥白磁碗 取上げ番号№35 口径14.8cm器高5.7cm、高台径4.8cm、高台高0.7cmを測る。礫層の下(海拔37.00M)から検出した。高台の畳付け以外は全面に上釉が0.7かかっている。

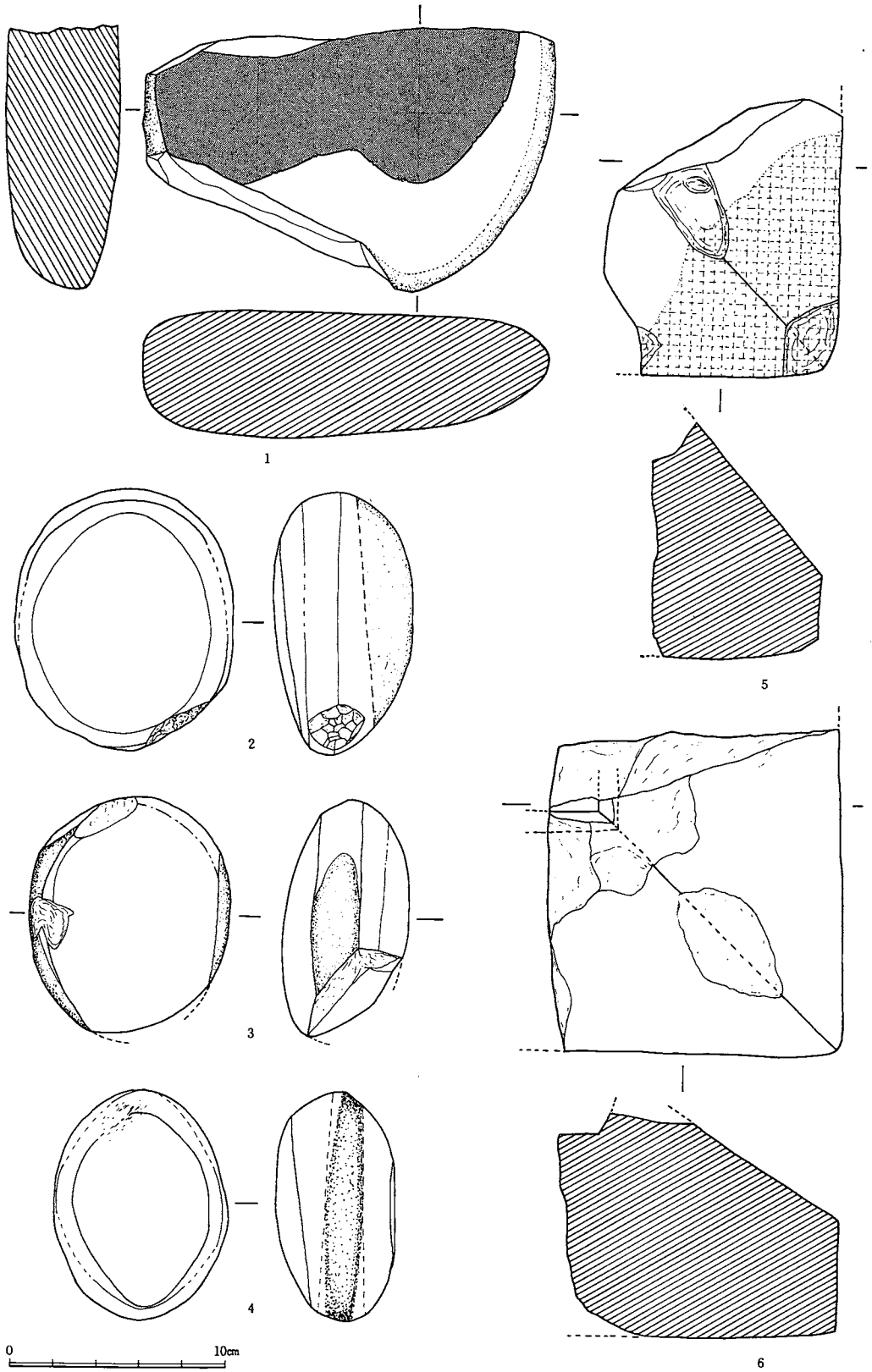
9. 磁器瓶 取上げ番号№10 高台径4.6cm、高台高1.6cmを測る。高台内面は外部より深く削



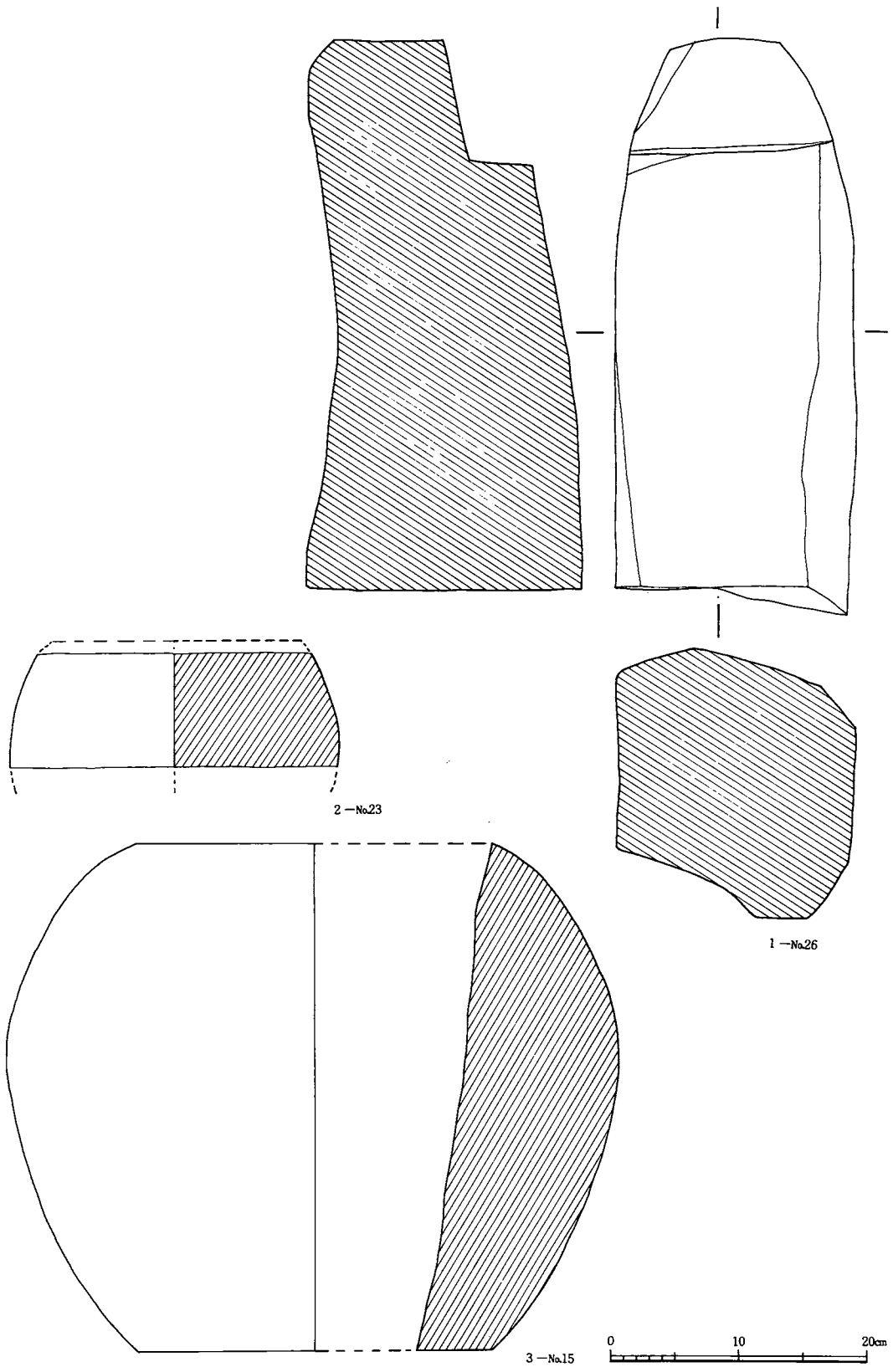
第72図 井戸状遺構出土遺物(砥石)



第73図 井戸状遺構出土遺物(砥石)



第74図 井戸状遺構出土遺物(砥石・磨石・五輪塔)



第75図 井戸状遺構出土遺物(石製品)

って作り出されている。内面には釉はかかっていない。外面には透明度の悪いうぐいす色の釉がかかり、梨の實の肌を思わせる状態を呈する。江戸時代中期と思われる。

10. 古伊万里染付瑠璃碗 復元高台高4.3cm、高台高0.6cmを測る。畳付には離れ砂が付着している。内面には青色の染付があるが何の文様かわからない。外面は深い青色一色になるように上等な呉須を一面にかけている。上釉も透明度が良いものを厚くかけている。素地は白く良質である。江戸時代中期あるいは前期の製品と考えられる。

11. 皿 口径11.8cmを測る。内面になまこ状の釉が、外面に半透明の釉（灰釉と思われる）がかかっている。素地は灰色を呈する。古唐津の製品に類似する。

12. 白磁片 器形不明 内面には上釉がかかっていない。外面には透明な釉がかかっている。現在使用されている磁器の醤油差しに類似した形態が想像される。古伊万里の白磁と思われる。

13. 白磁皿 復元口径17.2cmを測る。素地は白い。口唇部の上端はほぼ水平になる。中国福建省産の白磁と推測される。

14. 白磁皿 口唇部に釉がけがなく素地が露出している。口禿を有する白磁皿である。

（村井）

第72図 井戸状遺構出土遺物

1. 砥石 取上げ番号 $\text{A}621$ 長さ110cm、巾9.9cm、厚さ9.8cmを測る。黄褐色の砂岩製で岩石の色、粒子の様子から天草砥石層から採収された可能性が考えられる。石片が多面体になっているために水平な面を選んで研面としたと思われる。研面は3面持つ。

2. 砥石 取上げ番号 $\text{A}62$ 長さ14.5cm、巾15.8cm、厚さ7.5cmを測る。上記1と同類の岩石である。表裏2面に研面がある。

3. 砥石 取上げ番号 $\text{A}612$ 長さ17.3cm、巾12.2cm、厚さ4.2cmを測る。研面は3面あり、1面には錐状のものを研いだ跡が残る。天草陶石（硫紋岩）の中でも鉄分の多い岩石である。この種の岩石は天草の各島々の外八代市に日奈久嶋山附近や龍峰山南麓（猫谷、水無川中流）にも露頭が存在する。

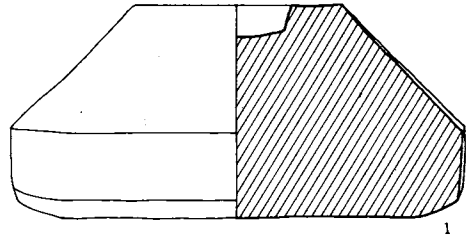
（村井）

第73図 井戸状遺構出土遺物

1. 砥石 取上げ番号 $\text{A}629$ 長さ20.5cm、巾11.5cm、厚さ12.0cmを測る。礫岩製で、研面が二面ある。本遺物の本来の大きさ現状よりはもっと大きかったと思われるが、何かの目的で割られたと思われる。また研面の窪みの様子から一面は石皿の可能性も考えられる。

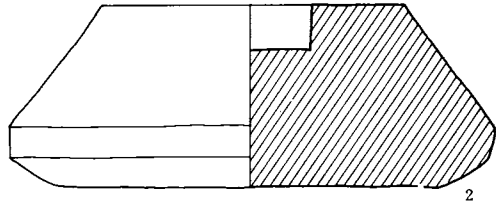
2. 砥石 取上げ番号 $\text{A}618$ 長さ11.4cm、巾12.7cm、厚さ2.4cmを測る。板状の砂岩の中央部が凹形になるように研ぎ減っている。裏面は節理にそって剥落した面である。

3. 砥石 取上げ番号 №19 長さ 19.0 cm、巾 19.0 cm、厚さ 5.0 cm を測る。板状の節理が発達した風化しやすい変成岩（千板岩？）である。研面の一部も剥落している。図の裏面側は踏石の表として利用されたために、少し凹形の窪みが見られる。（村井）

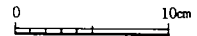
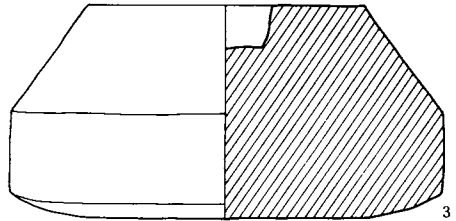


第74図 井戸状遺構出土遺物

1. 砥石 取上げ番号 №30 長さ 19.5 cm、巾 12.3 cm、厚さ 5.3 cm を測る。円板状の礫（礫岩）を砥石として利用したのであろう。上面は研面になっているが下面は自然のままである。



2. 磨石 取上げ番号 №28 長径 12.3 cm、短径 10.2 cm、厚さ 6.6 cm、重さ 1.30 kg を測る。斑晶の大きい安山岩の円礫を少し整形して使用したと思われる。表面はなめらかに磨れているが裏面や側面はさほどではない。一部に破損した部分がある。



第76図 井戸状遺構出土遺物(五輪塔)

3. 磨石 取上げ番号 №28 長径 11.3 cm、短径 9.4 cm、厚さ 5.9 cm、重さ 0.78 kg を測る。砂岩製であり、表裏両面ともになめらかに磨り減っている。側面には打痕が残る。全体のきを欠く。

4. 磨石 取上番号 №28 長径 10.8 cm、短径 8.1 cm、厚さ 5.6 cm、重さ 0.69 kg を測る。砂岩の円礫をそのまま利用したものらしく、整形はさほどされていない。表面はなめらかに磨り減っていて、削痕も一部に見られる。側面と裏面には打痕が明瞭に残る。

5. 五輪塔の火輪 取上げ番号 №16 本来の大きさは不明であるが図の約 4 倍の大きさと推測する。阿蘇溶結凝灰岩の軽石を多く含む岩石で作られている。屋根の傾きは大きい。図中において十字で示した部分は火を受けて変質していると思われる部分を示している。

6. 五輪塔の火輪 取上げ番号 №6 本来の大きさは不明であるが図の約 4 倍の大きさと推測する。阿蘇溶結凝灰岩の軽石を多く含む軟らかい岩石で作られている。屋根の頂部には風輪を乗せるための穴の一部が残る。

第75図 井戸状遺構出土遺物

1. 凝灰岩石製品 取上げ番号№26 灯籠の竿の破片と思われるが、さだかではない。一端には、高さ8.8cm・巾15.8cm・奥行5.0cmの『L』字状の切り込みが残る。残存している大きさは43.2×18.0×21.2cmを測る。全体の約半分は火をうけて、変色している。

2. 五輪塔の水輪 取上げ番号№23 軽石を多く含む凝灰岩で製作されていて、円板状に剥離している。径25.6cm、厚さ9.0cmを測る。

3. 五輪塔の水輪 取上げ番号№15 たてに剥離したと思われる。外面には凡字が彫刻されたと思われる痕跡が見られる。風化が進み、みるかげもなく変形している。推定最大部径48.2cm、高さ40.0cmを測る。 (村井)

第76図 井戸状遺構出土遺物

1. 五輪塔の火輪 取上げ番号№1 巾29.8cm、高さ14.0cmを測る。凝灰岩製であり、ほぼ完形に近い形を残す。

2. 五輪塔の火輪 取上げ番号№4 巾32.0cm、高さ12.0cmを測る。軽石を多く含む凝灰岩製であり、風化して、原形をそこなっている。

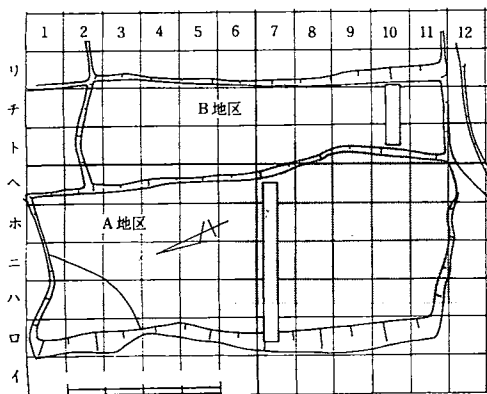
3. 五輪塔の火輪 取上げ番号№14 巾28.4cm、高さ14.0cmを測る。凝灰岩製であり、ほぼ原形を残す。

以上第73・74・75・76 図に示した石製品以外に、図示しなかった石製品がある。取上げ番号№3は砂岩であり、五輪塔の地輪の一部のような形をしていて、砥石に利用されたとも考えられる。25×27×14cmを測る。取上げ番号№5は円柱状の凝灰岩であり、径15cm、長さ30cmを測る。取上げ番号20は一部に面取りしたあとが残る凝灰岩片である。強く火をうげた部分が見られる。22×17×15cmを測る。 (村井)

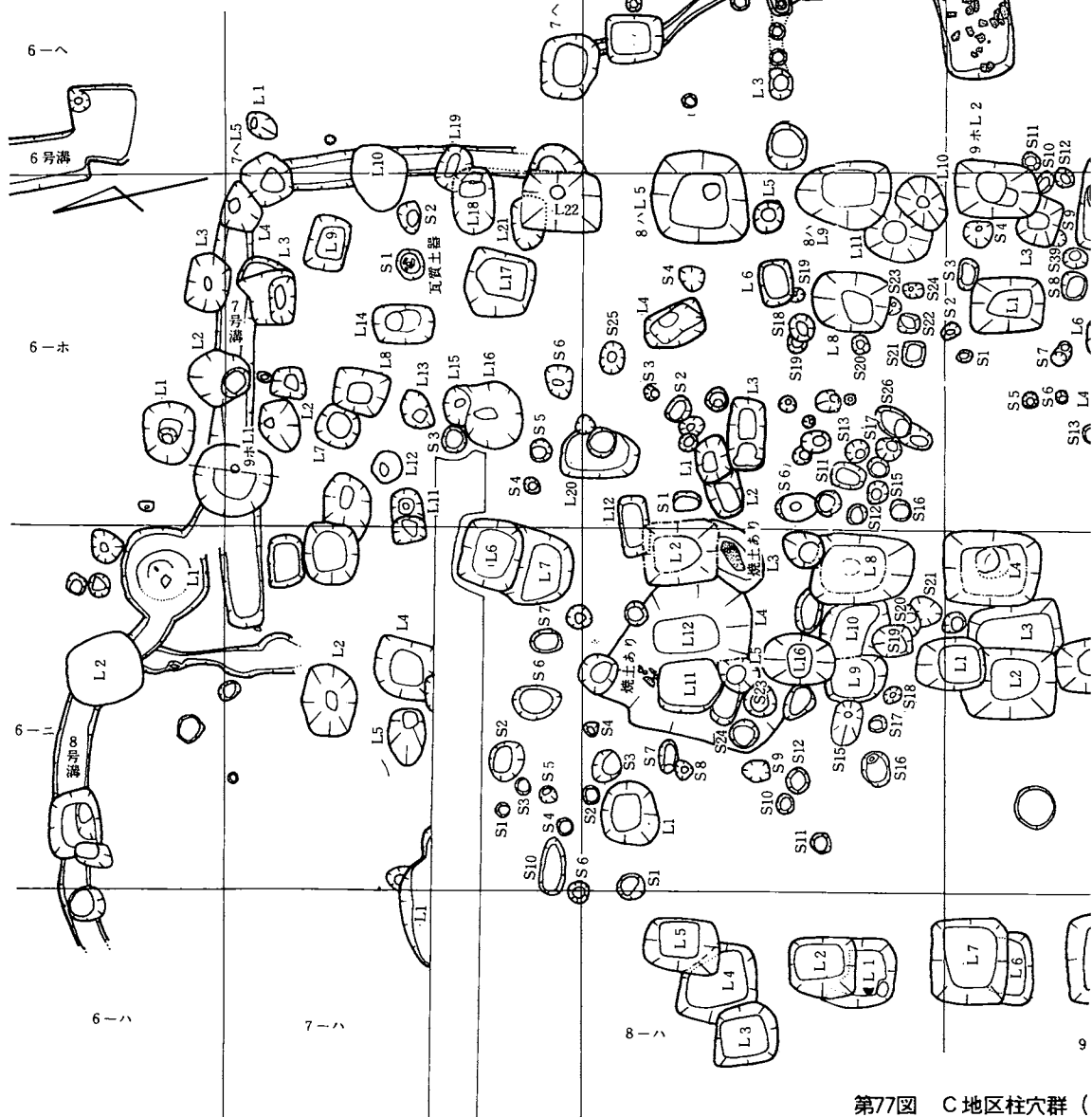
7. C地区柱穴群

1) 遺 構

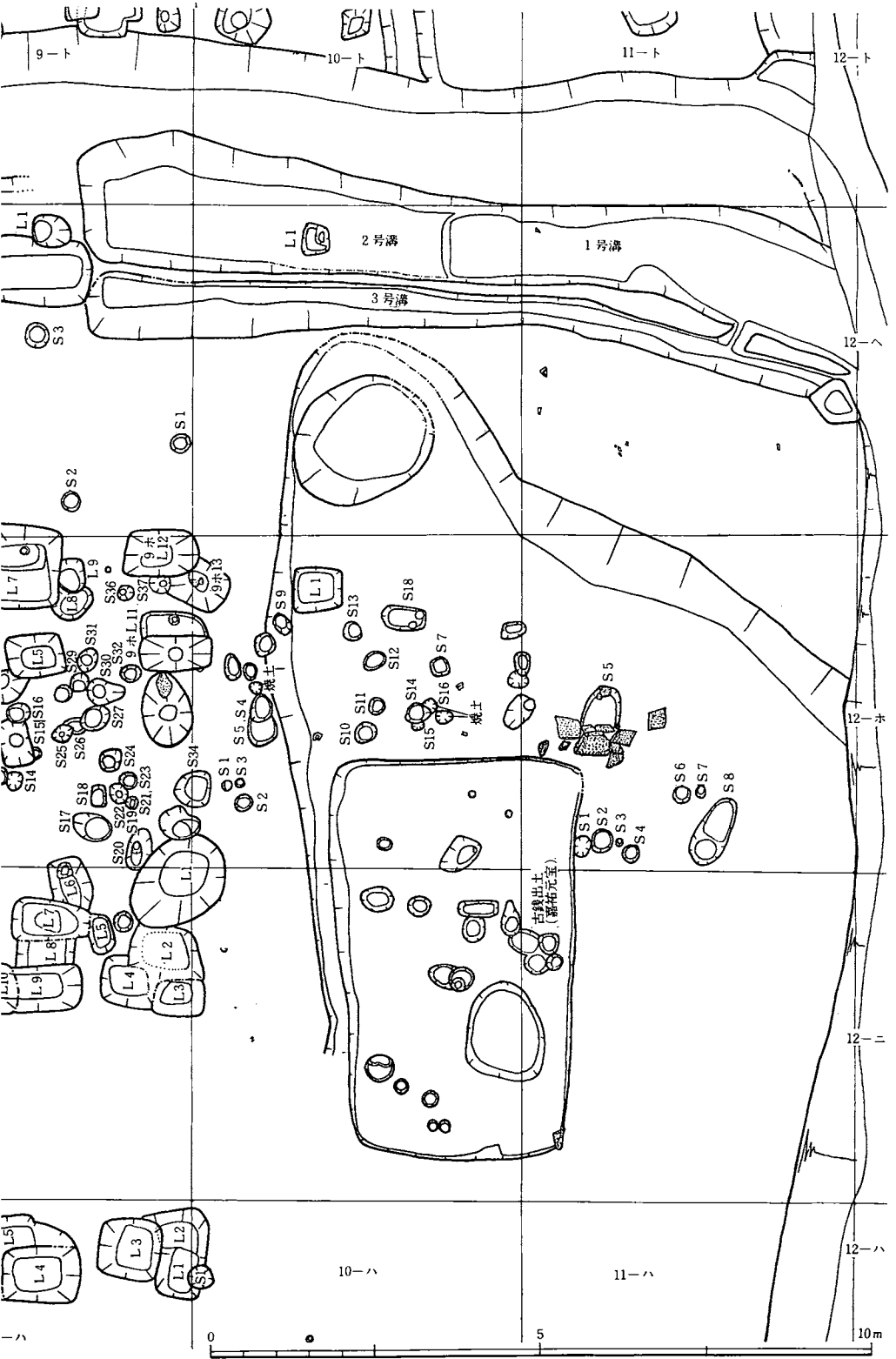
発掘前のC地区は2枚の水田であった。水田の耕作土(第I層)と鉄分集積層(第II層)の一部を排除したところ、第77~79図に示すような柱穴群が検出された。柱穴群はC地区の南側半分に密集しており、北側半分には見られなかった。古老に話しによると、北側半分の地域は明治時代頃までは発掘開始当時よりもいくぶん高く、水田ではなかったとのことである。畑地であり、平坦でなかったと想像される。明治時代になり、削平して水田化したと思われる。南側半分の柱穴群の密集して検出された一帯は、水田であったとのことである。このことか



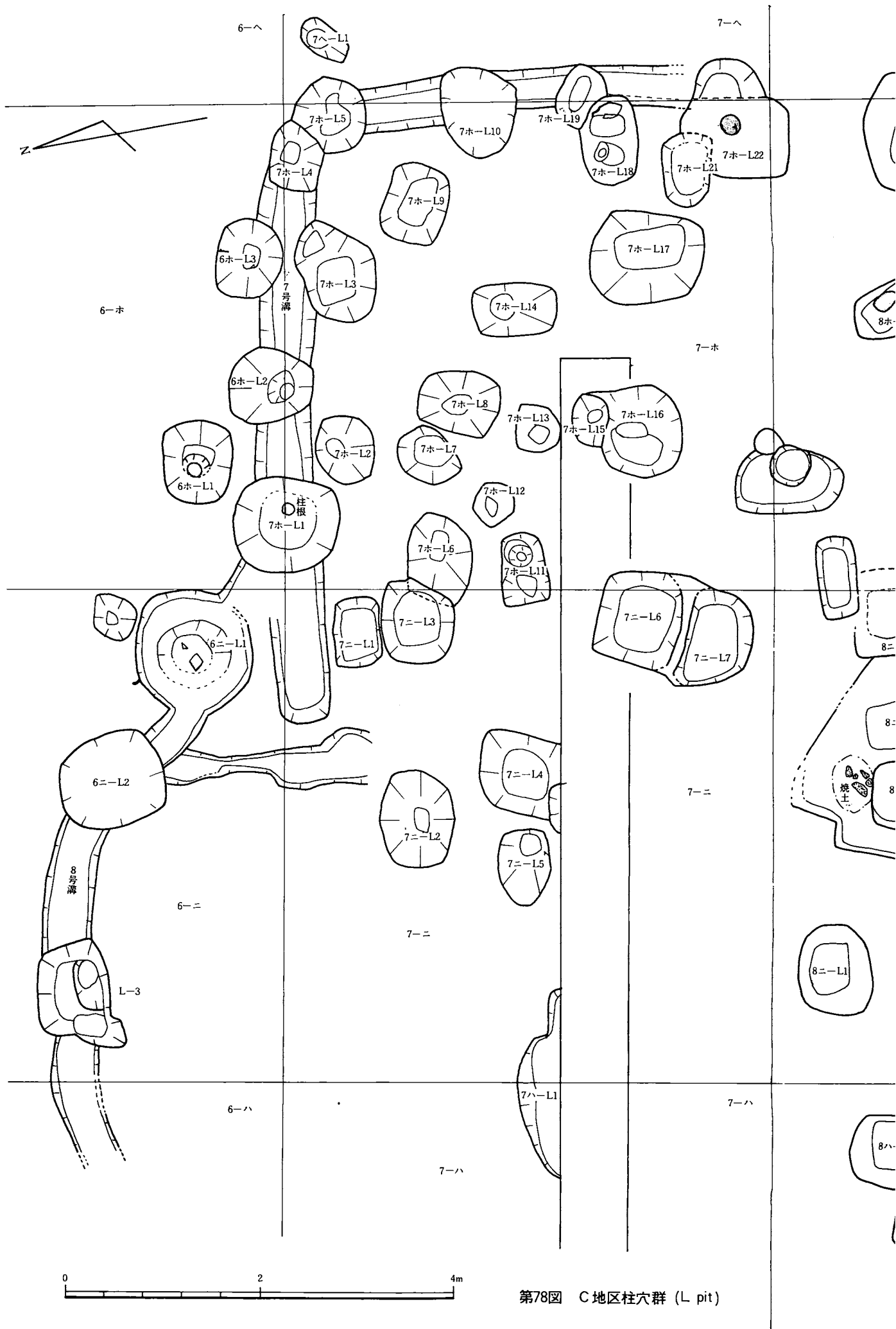
位置図



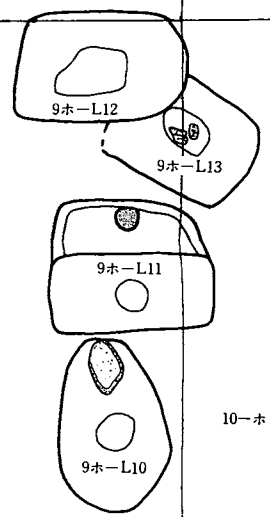
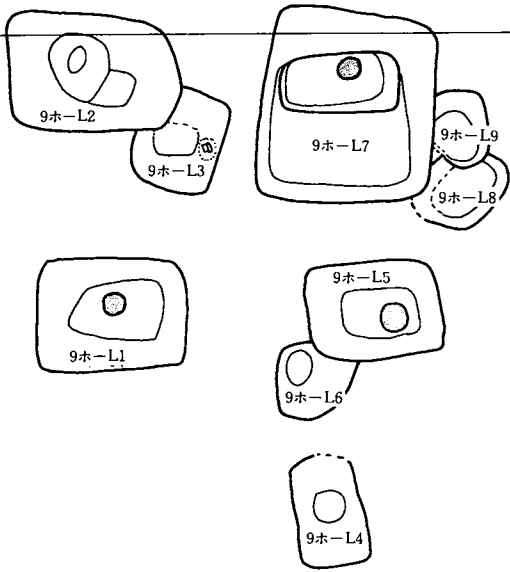
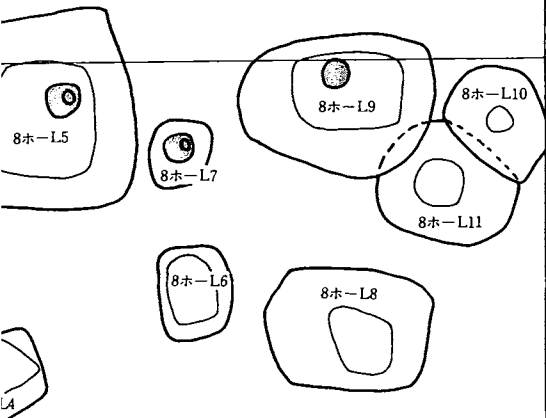
第77図 C地区柱穴群



L pit · S pit)

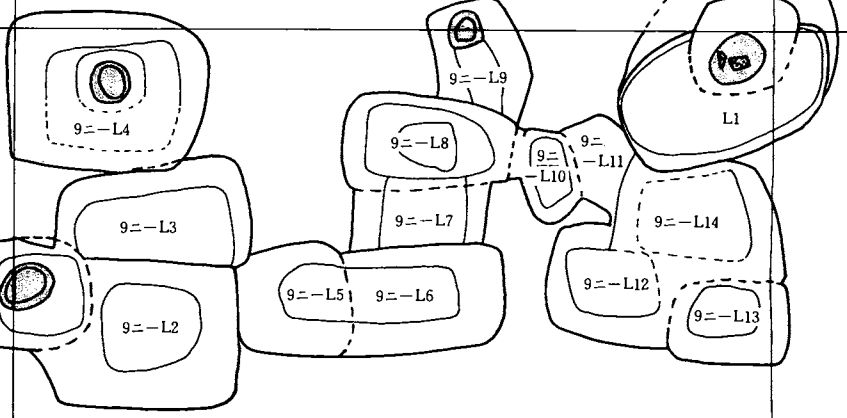
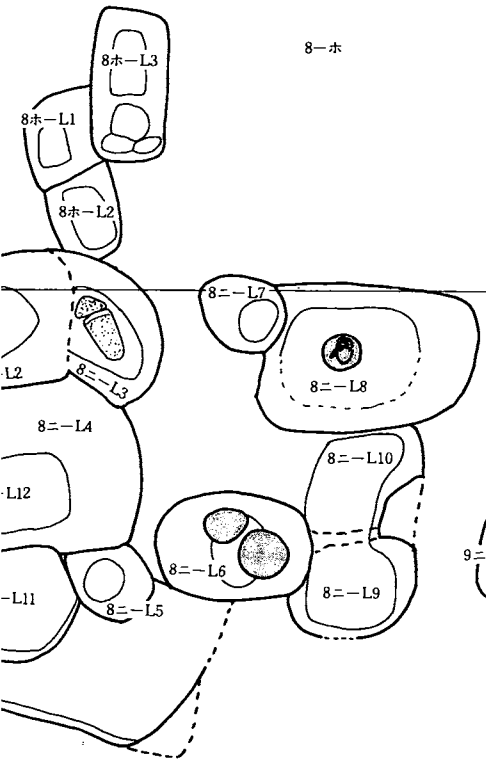


第78図 C地区柱穴群 (L pit)



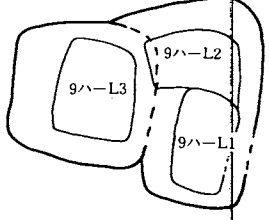
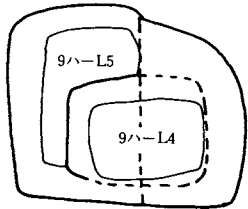
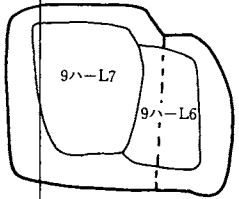
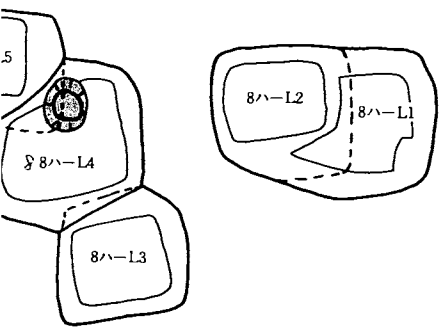
8-ホ

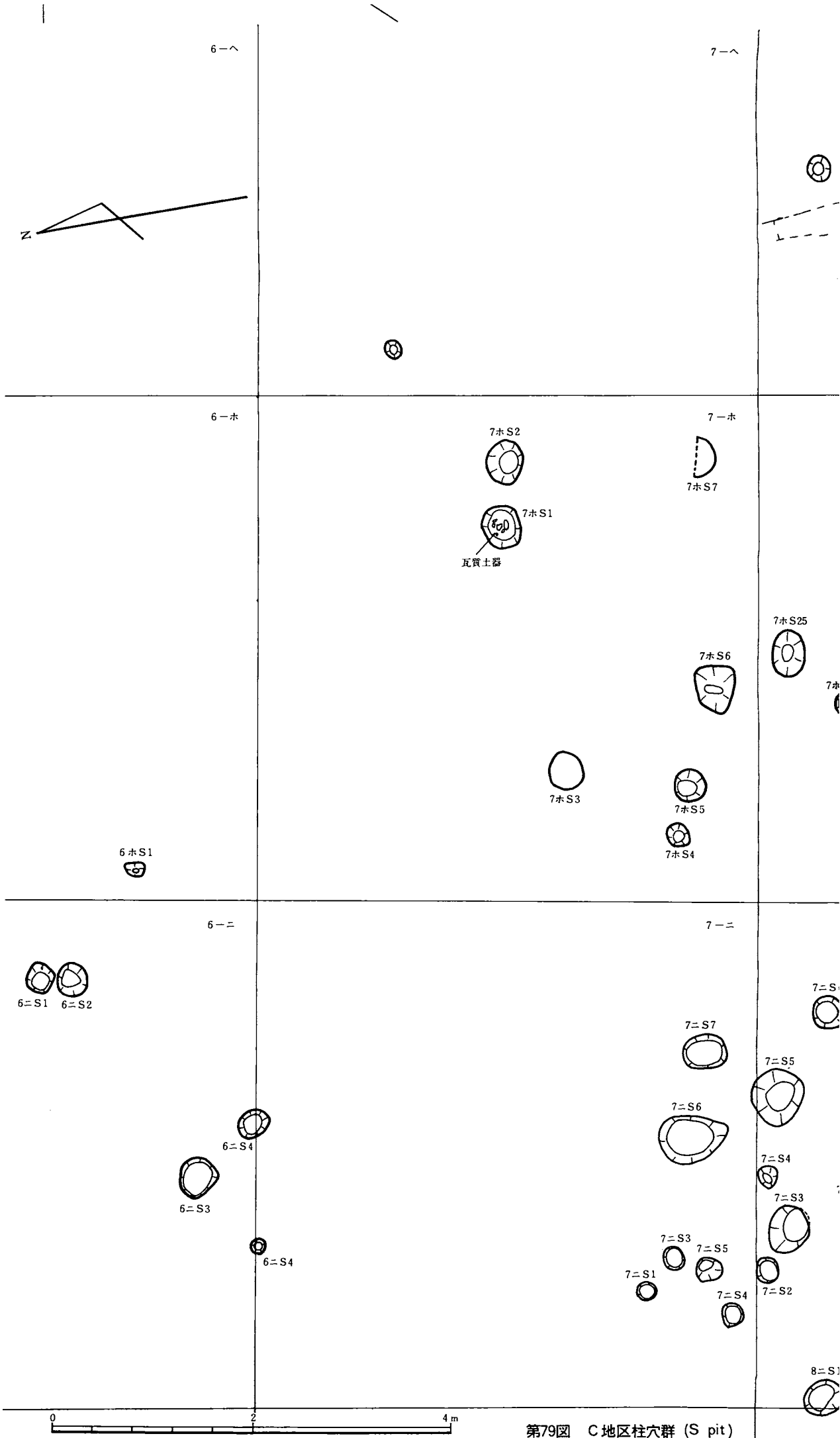
9-ホ



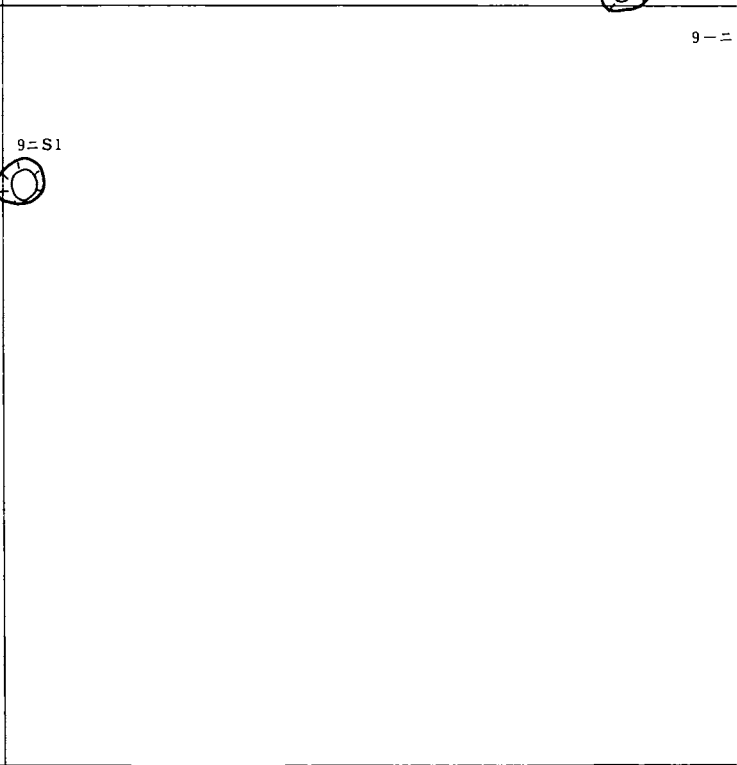
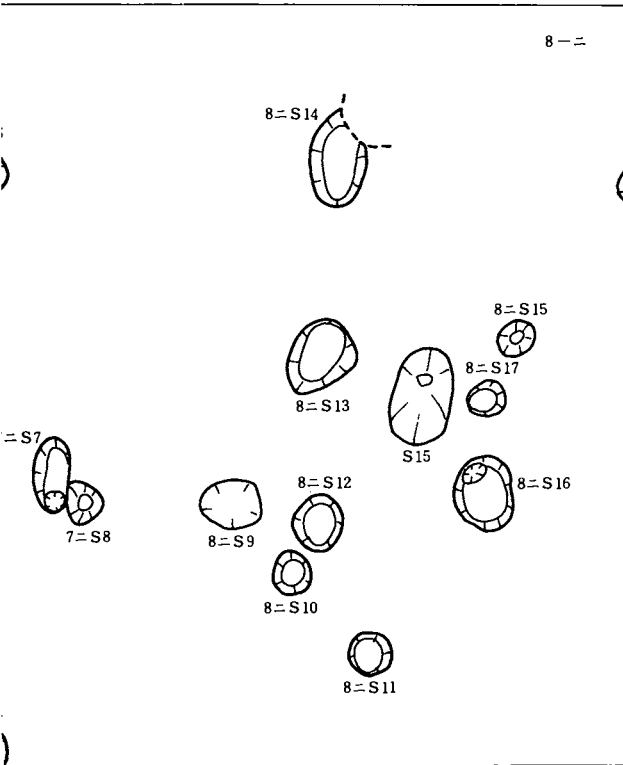
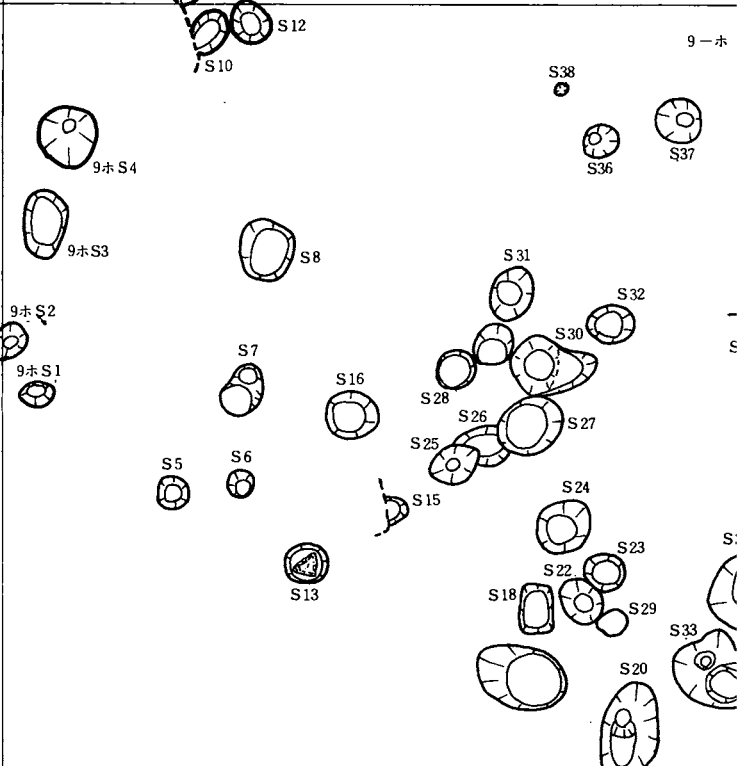
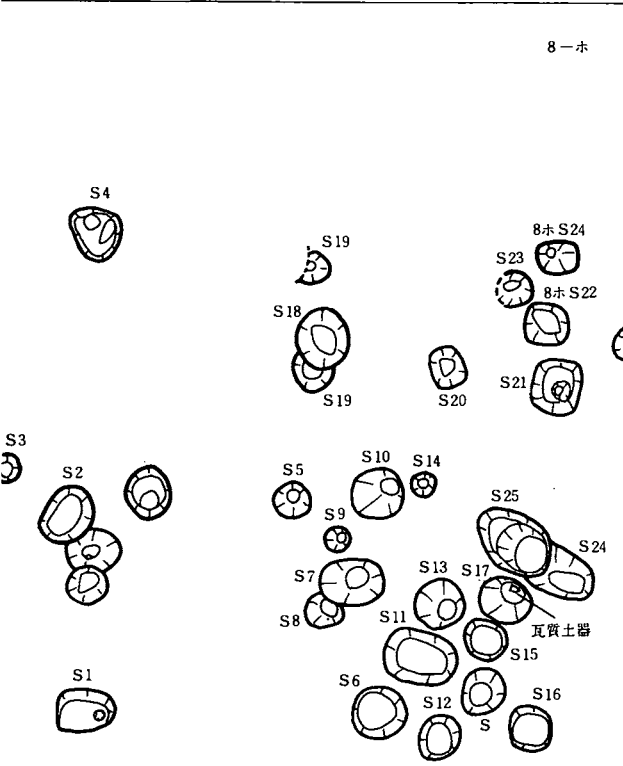
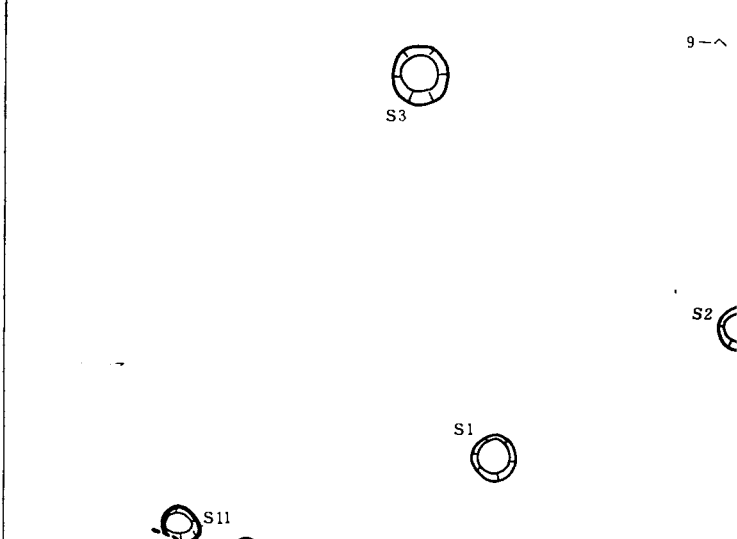
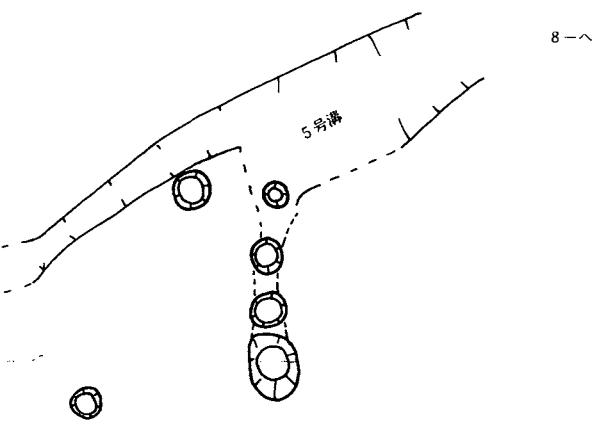
8-ニ

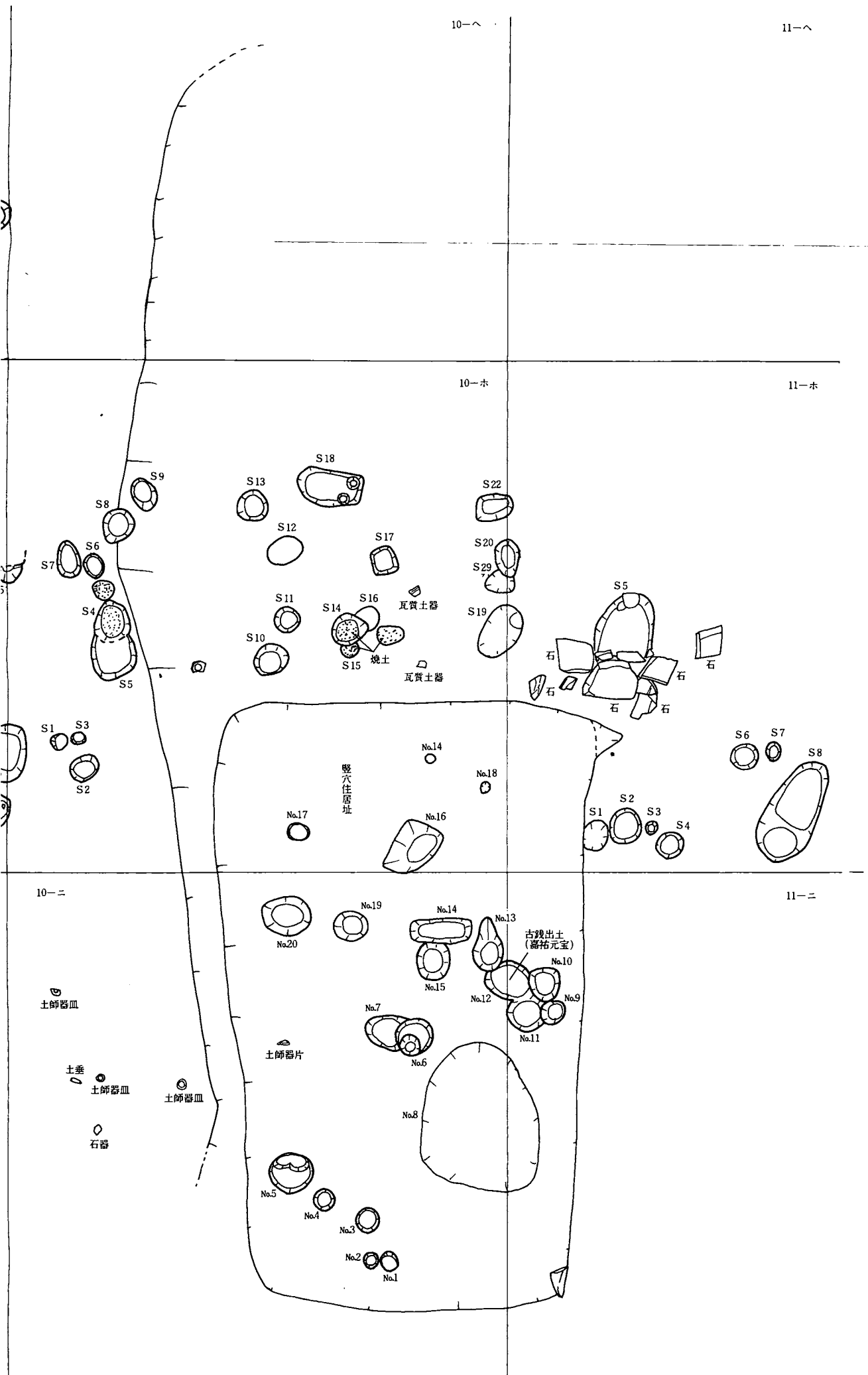
9-ニ





第79図 C地区柱穴群 (S pit)





ら、この部分は明治以前から、平坦であったと推定される。

第77図に示すように、柱穴群は方形に近いプランを持つ大型の柱穴と円形に近いプランを持つ小形の柱穴から成り立っているため、前者をLピット、後者をSピットと呼ぶことにした。LピットはSピットを切っていることから、SピットよりLピットが新しいことがわかった。たとえば、9-ホグリッドのS-10、S-15、S-35ピットがその良い例である。Sピットの埋土は有機物を含むような黒褐色を呈し、土師器の細片（主に糸切り底の皿の破片）を含む。Lピットの埋土は基盤となっている土を強く突き固めており、大地が乾燥するとひび割れを生じて、平面プランが確認されることがあった。埋土に含まれる遺物は近世陶磁器片が主である。LピットとSピットが重複しているため、第78図と第79図を作成して、両柱穴群を切りはなした形で提示することにした。

第78図はLピットの配列を示す。柱穴の中にスクリントンをかけた部分は、柱根の残存したもののまたは、柱根が腐蝕してそのあとが残っていた状態を示す。柱穴と柱穴の間隔から建物の柱と柱の間隔は1.8~2.1mと推定される。8-ハ・ニ・ホ、9-ハ・ニ・ホグリッドには2軒以上の建物が復元できるようなものである。各柱穴の深さは約1mを測る。柱の建つ位置は柱穴の掘り方の一方の壁ぎわである。柱の根もとには10-ニグリッドL-1ピットのように石をひいたものがあつた。

第79図にはほぼ円形のプランを持つ小形の柱穴群を示す。埋土は前述したように黒褐色を呈する。埋土中に糸切り底の細片を含むことから、中世の柱穴と推定したが、近世の陶磁器を出土する柱穴も存在することから、それぞれの時代の柱穴があるようだ。一般的に言うところの円形の小型の柱穴の方が方形の大型の柱穴より古いことは前述した理由から明らかである。第79図に示した柱穴群からの建物の復元は柱の間隔が一定しないため、不可能である。

各柱穴の検出面と柱穴底面の海拔高は第13表に提示する。

柱穴群の周辺部から8本の溝が検出された。溝を柱穴が切っていることからわかるように、この地区の建物が拡充するに従って、溝が外の方（東の方）に掘られていったとことが推測される。

（村井）

2) 遺物

発掘した地域が水田であるため、耕作土（第I層）には遺物は含まれない。遺物が検出されるのは、鉄分集積層（第II層）の下方、埋め立てて広げた土（埋土）中および柱穴の中からである。表採された遺物の大部分は、大型の土木建設機械による排土ののちに採集されたものであり、第II層からの出土品と見なされる。C地区から検出した遺物は、土師器、須恵器、瓦質

土器、青磁、白磁、近世陶磁器が主である。第11表に柱穴からの出土遺物を例示する。

柱穴中に旧状を保って検出された柱根のC¹⁴の測定結果は7ーホLー10ピットの柱根(計測番号N3050) 270±75 YB. P. (265±70)、7ーホLー1の柱根(計測番号N3051) 535±80 YB. P. (520±80)である。(村井)

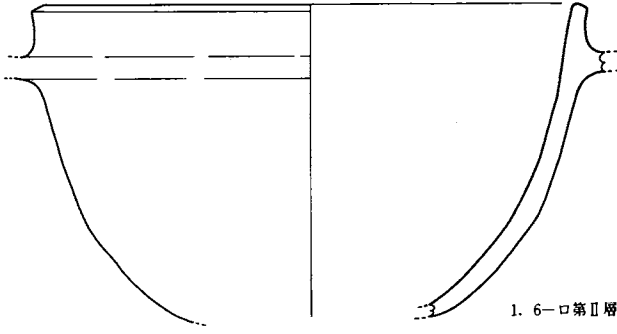
第11表 柱穴からの出土遺物の一例

グリッド	柱穴名	出土遺物 () 内は出土点数
8 ニ	L-8	嬉野焼内野山窯製銅釉皿(1)
	S-1	焼けた壁土、土師器細片、青磁皿(1) 古伊万里染付片(1)
	S-3	青磁碗(1)
	S-15	唐津焼?(1)
7 ホ	L-2	嬉野焼内野山窯製銅釉皿②・銅釉碗(1)
		庭木窯製器種不明(1) 唐津焼皿(2)、碗(4)、黒牟田窯製壺(3)
		古伊万里染付碗(1)
	L-4	嬉野焼内野山窯製銅釉皿(1) 唐津焼皿(1)
	S-9	嬉野焼内野山窯製皿(1)、明窯不化粧瓶(1)、鉢(1) 古伊万里染付皿(1)、青磁片(7)

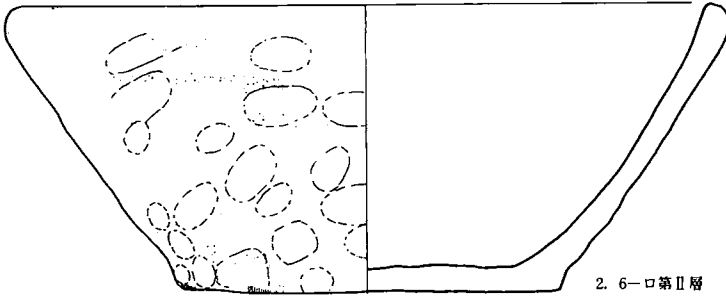
(村井)

第80図 境遺跡(C地区)出土遺物

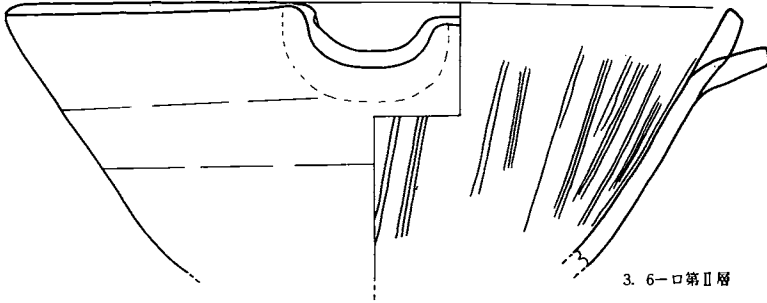
1. 瓦質土器土製鍋 6ーログリッドII層より出土する。鏝と底部を欠失する。口径21.2cm、推定器高12.5cmを測る。
2. 瓦質土器搦鉢 6ーログリッドII層より出土する。外面には指の押圧による整形痕が残る。内面はよく使用されたと見えて磨り減っているが、6条を1単位とする搦鉢の目が残っている。口径27.6cm、器高31.3cmを測る。
3. 瓦質土器搦鉢 6ーログリッドII層より出土する。底部のみを欠失する。口縁は片口となっている。内面はよく使用されたようであり、磨り減っている。口径28.3cmを測る。
4. 瓦質土器火舎 8ーログリッドII層より出土する。口縁には巾4.3cm、高さ1.1cm、厚さ1.5cmの突起を有する。口縁から1.0cmと2.3cm下方には巾0.5~0.6cm、高さ0.3cmの2条の突帯が廻る。2条の突帯の間には菊花を模した印花を付す。復元口径32.2cm、器厚1.2cmを測る。
5. 土師器皿 7ーログリッドII層より出土する。糸切り底となっている。口径10.7cm、底径7.8cm、器高3.0cmを測る。
6. 皿 5ーハグリッドからの表採品である。内外面に灰釉がかかり、見込みに目跡が残る。高台径5.0cm、高台高0.2cmを測る。唐津焼と思われる。
7. 白磁碗 5ーハグリッドからの表採品である。高台部の小片である。宋白磁碗の高台



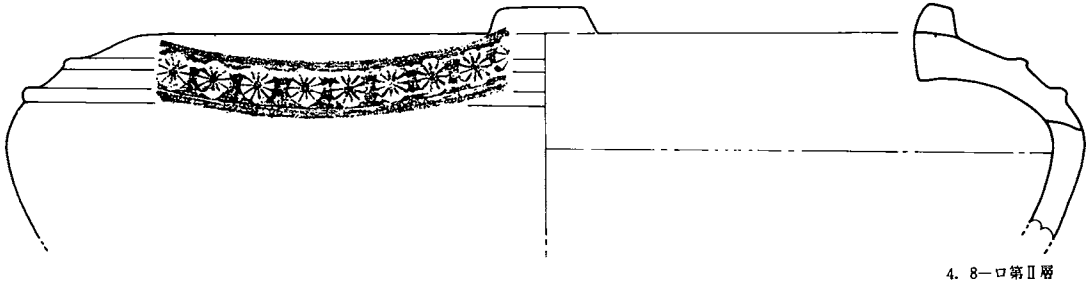
1. 6-口第Ⅱ層



2. 6-口第Ⅱ層



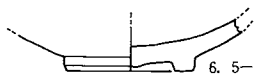
3. 6-口第Ⅱ層



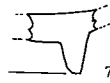
4. 8-口第Ⅱ層



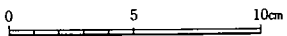
5. 7-口第Ⅲ層



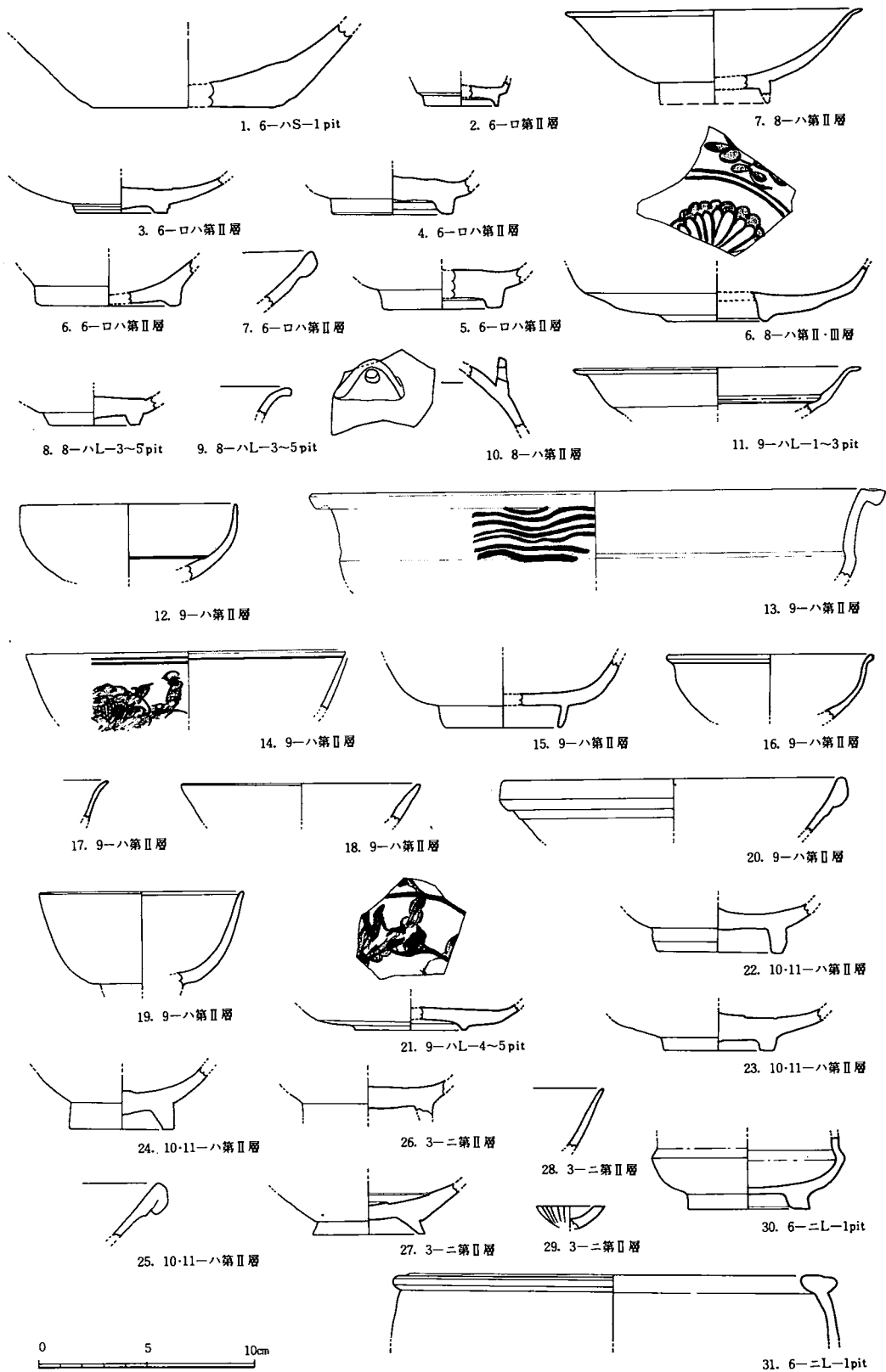
6. 5-ハ表探



7. 5-ハ表探



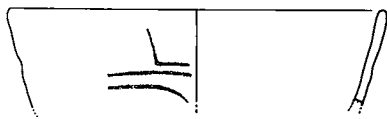
第80図 境遺跡 (C地区) 出土遺物 (6-口~5-ハグリッド)



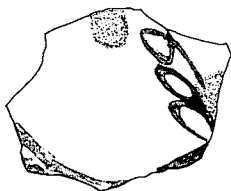
第81図 境遺跡 (C地区) 出土物 (6-ハ~6-ニグリッド)



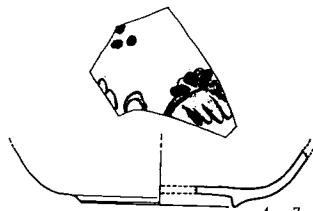
1. 7-ニL-7pit



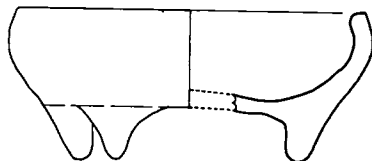
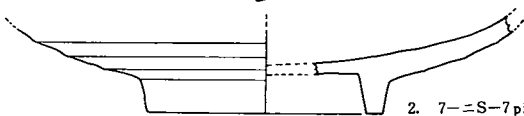
3. 7-ニS-9pit



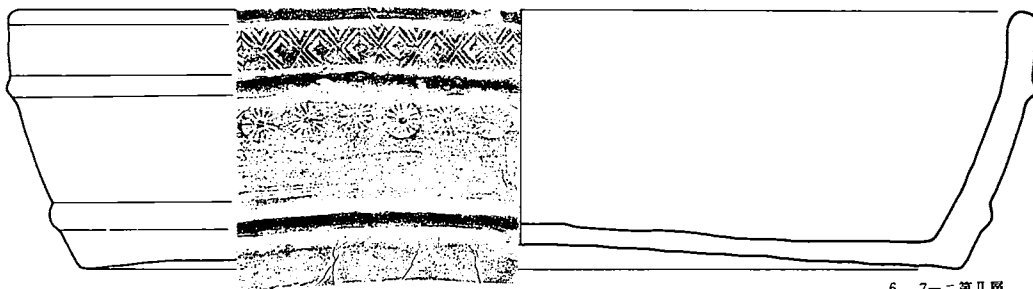
2. 7-ニS-7pit



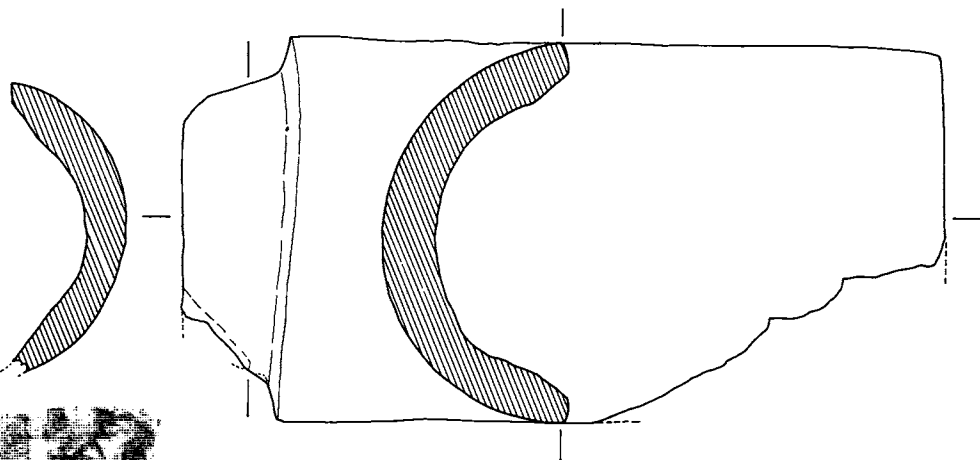
4. 7-ニS-9pit



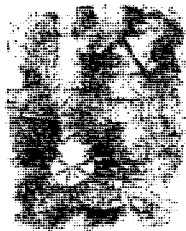
5. 9-ニ第II層



6. 7-ニ第II層

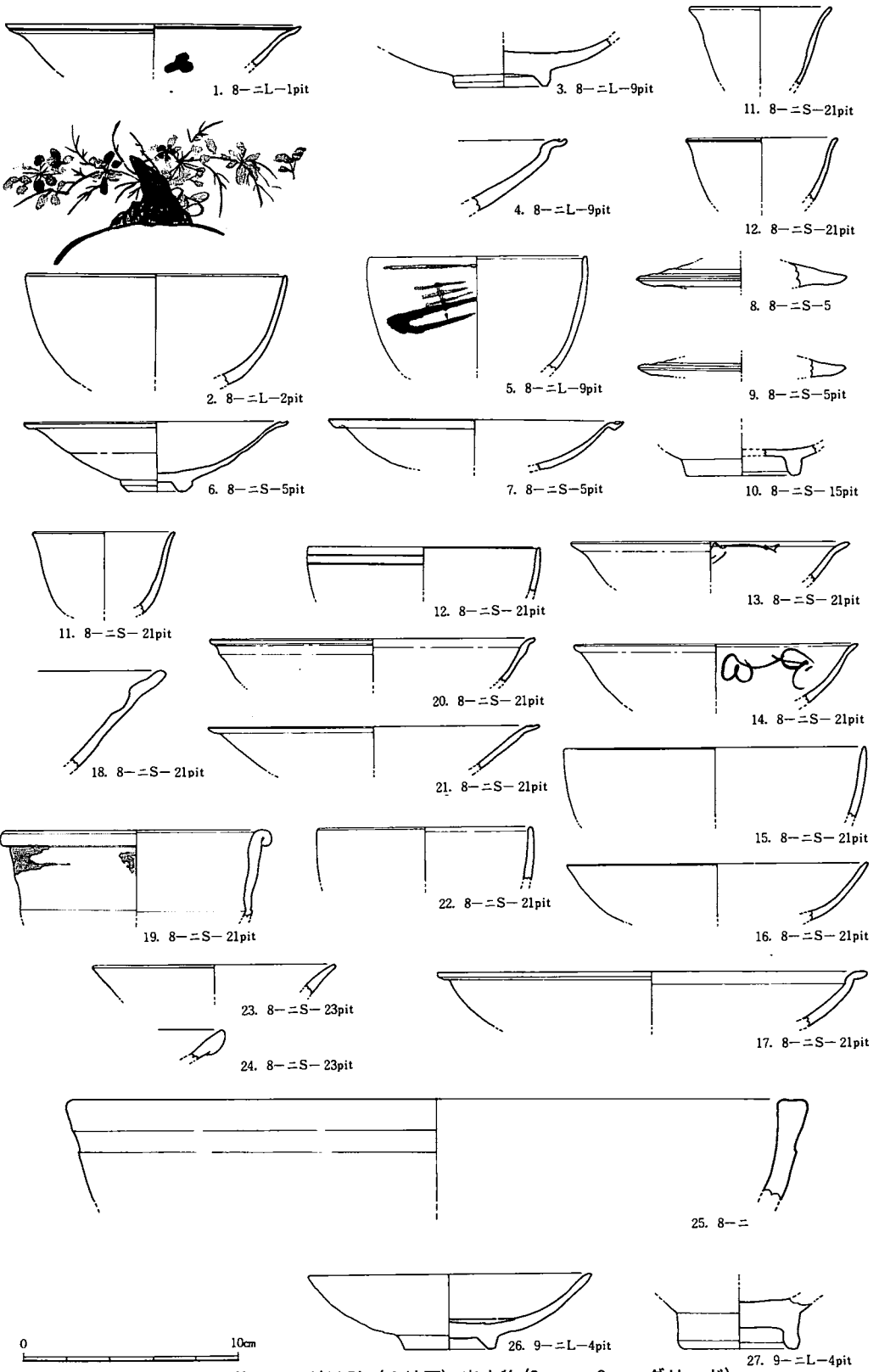


7. 8-ハ第II層



0 5 10cm

第82図 境遺跡 (C地区) 出土遺物(7-ニ~8-ハグリッド)



第83図 境遺跡 (C地区) 出土物 (8-ニ~9-ニグリッド)

部である。

第81図 境遺跡（C地区）出土遺物

1. 播鉢 6ーハ グリッドS-1ピットより出土する。復元底径8.8cmを測る。
2. 古伊万里白磁酒盃 6ーロ ハ グリッドII層より出土する。復元高台径3.4cm、高台高0.3cmを測る。見込みの中央が周辺よりわずかに高くなっている。
3. 蛇目剥皿 6ーロ・ハグリッドII層より出土する。銅釉がかかる。高台径4.1cm、高台高0.2cmを測る。嬉野焼内野山窯の製品である。
4. 青磁碗 6ーロ・ハ グリッドII層より出土する。高台径5.6cm、高台高0.7cmを測る。竜泉窯の製品と思われる。
6. 染付草花文皿 8ーハ グリッドII・III層の一括資料である。見込みに菊花を染付している。復元高台径4.7cm、高台高0.9cmを測る。半磁器であり、焼成温度が低かったと思われる。木原窯の製品である。
8. 青磁碗 8ーハ グリッドL-3～5ピットの一括資料である。復元高台径6.5cm、高台高0.1cmを測る。竜泉窯の製品である。
9. 青磁片 8ーハ グリッドL-3～5ピットの一括資料である。皿の口縁部と思われる。
10. 青土瓶 8ーハ グリッドのII層より出土する。外面に緑釉（銅釉）がかかる。つり手の基部のみ残る。嬉野焼内野山窯の製品である。
11. 皿 9ーハ グリッドL-1～3ピットの一括資料である。内外面に灰釉がかかる。季朝の高麗青磁によく似ている。唐津焼と思われる。口径1.3cmを測る。
12. 古伊万里染付碗 9ーニ グリッド第II層より出土する。口径9.9cmを測る。内面の立ち上がり部に1条の横線を染付している。
13. 白化粧描色釉流し鉢 9ーハ グリッドII層より出土する。口径26.8cmを測る。9ーハグリッドII層より出土する。庭木窯の製品である。
14. 古伊万里染付草花文碗 9ーハ グリッドII層から出土する。外面においては、口縁近くに2条の横線、胴部に草花を染付している。内面においては、口縁部近くに1条の横線を染付している。口径15.1cmを測る。
15. 古伊万里白磁碗 9ーハ グリッドII層から出土する。復元高台径5.5cm、高台高1.0cmを測る。
16. 碗 9ーハ グリッドII層より出土する。口唇部は胴部に対して大きく外反する。口径9.5cmを測る。内外面に灰釉がかかる。唐津系の製品と思われる。

17. 古伊万里白磁酒盃 9ーハ グリッドⅡ層より出土する。外面を花卉状に彫刻している。

18. 青磁皿 9ーハ グリッドⅡ層より出土する。口径11.1cmを測る。竜泉窯の製品と思われる。

19. 青磁碗 9ーハ グリッドⅡ層より出土する。口径9.4cmを測る貫入が大きい。竜泉窯の製品と思われる。

20. 白磁玉縁碗 9ーハ グリッドⅡ層から出土する。口径15.8cmを測る。宋の白磁である。

21. 古伊万里染付草花文皿 9ーハ グリッドLー4・5ピットより出土する。復元高台径5.2cm、高台高0.5cmを測る。

22. 器種不明 10・11ーハ グリッドⅡ層より出土する。内面に土釉がかかる。高台径5.8cm、高台高1.1cmを測る。皿または鉢と思われる。窯は不明である。

23. 蛇目剥皿 10・11ーハ グリッドⅡ層より出土する。内外面ともに銅釉がかかる。高台径5.1cm、高台高0.4cmを測る。嬉野焼内野山窯の製品である。

24. 碗 10・11ーハ グリッドⅡ層より出土する。外面に銅釉、内面に鉄釉がかかる。高台径4.8cm、高台高0.7cmを測る。嬉野焼内野山窯の製品である。

25. 白磁玉縁碗 10・11ーハ グリッドⅡ層より出土する。宋の白磁である。

26. 白磁碗 3ーニ グリッドⅡ層より出土する。見込みのみを残す。宋の白磁である。

27. 古伊万里蛇目剥白磁皿 3ーニ グリッドⅡ層より出土する。高台径0.7cmを測る。

28. 青磁碗 3ーニ グリッドⅡ層より出土する。竜泉窯の製品と思われる。

29. 白磁紅皿 3ーニ グリッドⅡ層より出土する。外面は菊花を形ち取っている。口径3.2cm、推定器高1.2cmを測る。平戸焼である。

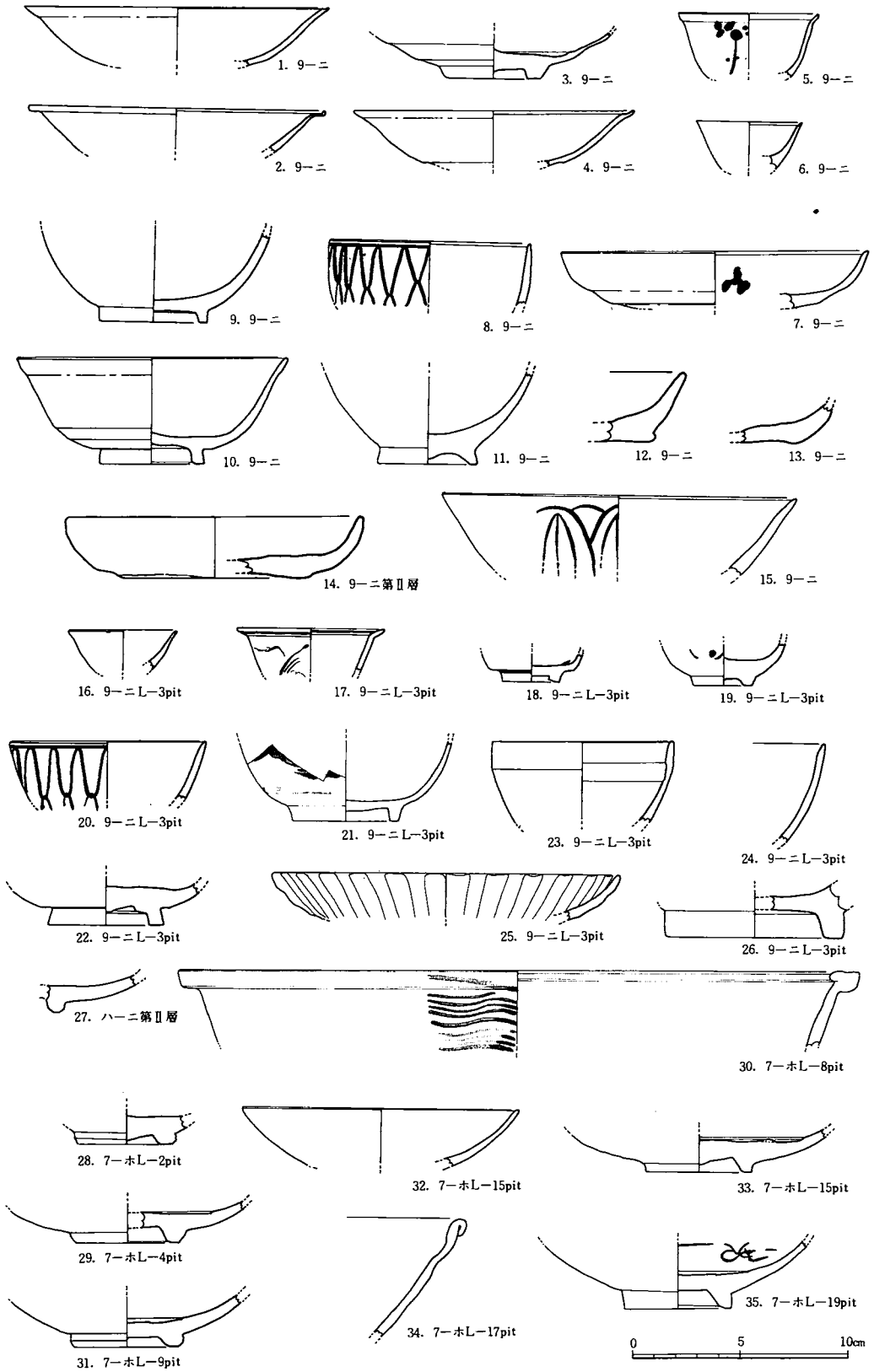
30. 香立て 6ーニ グリッドLー1ピットから出土する。高台径5.7cmを測る。武雄南部系黒牟田窯の製品である。

31. 甕 6ーニ グリッドLー1ピットから出土する。口径17.3cmを測る。外面に鉄釉がかかる。窯は不明である。 (村井)

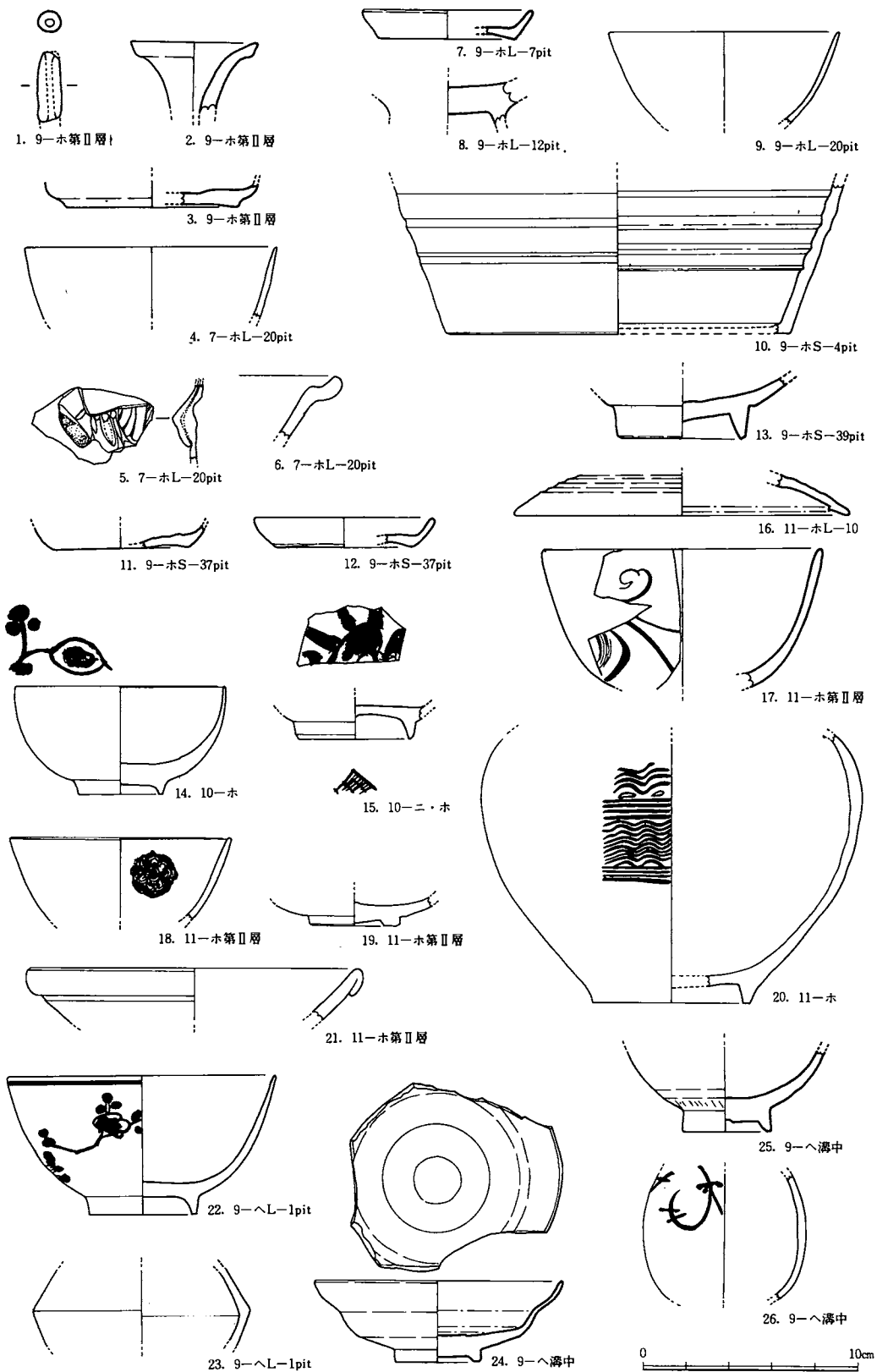
第82図 境遺跡(C地区)出土遺物

1. 皿 7ーニ グリッドLー7ピットから出土する。口径14.8cmを測る。口縁部を一部残すのみである。内外面に灰釉がかかる。唐津焼の可能性が高い。

2. 鉄絵大皿 7ーニ グリッドSー7ピットから出土する。復元高台径9.3cm、高台高1.5cmを測る。見込みに鉄絵と目跡が残る。こね鉢とも考えられる。武雄南部系弓野窯の製品である。



第84図 境遺跡 (C地区) 出土物 (9-ニ~7-ホグリッド)



第85図 境遺跡(C地区)出土遺物(9-ホ~9-へグリッド)

3. 青磁碗 7ーニ グリッドSー9ピットより出土する。外面に雷文と思われる劃文が見える。口径14.9cmを測る。明代の竜泉窯の製品と考えられる。

4. 古伊万里染付草花文碗 7ーニ グリッドSー9ピットより出土する。見込みに草花文の染付がなされている。復元高台径6.1cm、高台高0.4cmを測る。

5. 瓦質土器香立て 7ーニ グリッドII層から出土する。全体の $\frac{1}{2}$ を欠失しているが、3本の脚をもつと推定される。口径13.7cm、胴部最大径14.9cm、器高5.9cm、脚高2.1cmを測る。ヘラとナデによる調整を丁寧に施している。色調は青灰色を呈し、焼成は良好である。胎土中に微砂粒を含む。

6. 瓦質土器火舎 7ーロ ハグリッドII層から出土する。口縁の一部および底部の $\frac{1}{2}$ を残す。復元口径41cm、底径34.8cm、器高10.1cmを測る。脚を有した可能性も考えられるが明らかでない。口唇部は平坦に整形され、内面の立ち上り部から口縁部は横ナデ、見込みには巾広のハケ状工具による整形痕が認められる。外面には2条の突帯が廻る。上方の突帯と口縁の間には釘貫文状の印文、突帯の直下には、菊花状の印文が連続して施文されている。器表には横ナデによる整形痕が残る。底面には木目がわずかに見える。色調を明褐色を呈し、胎土は砂粒を含む。

7. 丸瓦 9ーハ グリッドより出土する。全長30.2cm・巾14.9cm・高さ7.4cm、玉縁の長さ4.4cm・高さ5.0cmを測る。内面(凹面)には布目が残る。外面(凸面)には印花が1つ残る。(村井)

第83図 境遺跡(C地区) 出土遺物

1. 古伊万里染付皿 8ーニ グリッドLー1ピットより出土する。口径13.7cmを測る。外面の口縁部に1条の横線、内面の立ち上がり部に草花文(?)と口縁部に1条の横線を染付する。

2. 古伊万里染付草花文碗 8ーニ グリッドLー2ピットより出土する。口径12.1cmを測る。胴部に草花文を染付する。江戸時代中期の百間窯の製品である。

3. 蛇目剥皿 8ーニ グリッドLー9ピットより出土する。外面に灰釉、内面に銅釉がかかる。嬉野焼内野山窯の製品である。

4. 皿 8ーニグリッドLー9ピットより出土する。内外面に灰釉がかかる。唐津焼である。

5. 古伊万里染付碗 8ーニ グリッドLー9ピットより出土する。胴部に「寿」の字を圖案化したような文様と口縁部に1条の横線を染付している口径10.2cmを測る。

6. 皿 8ーニ グリッドSー9ピットより出土する。内外面に灰釉がかかる。口径12.3cm、器高3.3cm、高台径2.7cm、高台高0.4cmを測る。唐津焼である。

7. 皿 8ーニ グリッドSー5ピットより出土する。外面に鉄釉がかかる。素地は赤褐色

を呈する。武雄南部系の窯の製品と思われる。

10. 碗 8—ニ グリッドS—15ピットより出土する。内面に灰釉がかかる。復元高台径5.3cm、高台高0.9cmを測る。高台内面の削りは深く、縮緬皺が残る。唐津焼である。

11. 古伊万里白磁酒盃 8—ニ グリッドS—21ピットから出土する。口径6.6cmを測る。

12. 古伊万里染付酒盃 8—ニ グリッドS—21ピットから出土する。外面の口縁部近くに2条の横線を染付している。口径10.9cmを測る。

13. 古伊万里染付皿 8—ニ グリッドS—21ピットより出土する。内面口縁部付近に草花文(?)を染付している。口径12.9cmを測る。

14. 古伊万里染付草花文皿 8—ニ グリッドS—21ピットより出土する。口径13.2cmを測る。内面に草花文の染付がある。

15. 古伊万里青磁碗 8—ニ グリッドS—21ピットより出土する。口径14.1cmを測る。波佐見窯の製品である。

16. 皿 8—ニ グリッドS—21より出土する。内面に銅釉、外面に灰釉がかかる。口径14.0cmを測る。嬉野焼内野山窯の製品である。

17. 鉢 8—ニ グリッドS—21ピットより出土する。口径20.1cmを測る。武雄南部系の窯の製品と思われる。

18. 播磨鉢の口縁部片 8—ニ グリッドS—21ピットより出土する。口縁部は少し肥厚する。器厚が薄く、よく焼きしまっている。窯は不明である。

19. 器種不明 8—ニ グリッドS—21ピットより出土する。外面に白化粧描色釉流しによる文様がほどこされている。口径12.0cmを測る。口縁は粒土をおり返して玉縁となっている。器種は香立てと考えられる。武雄南部系庭木窯の製品である。

20.・21. 8—ニ グリッドS—21ピットより出土する。内外面に灰釉がかかる。口径15.3cm、15.6cmを測る。唐津焼と思われる。

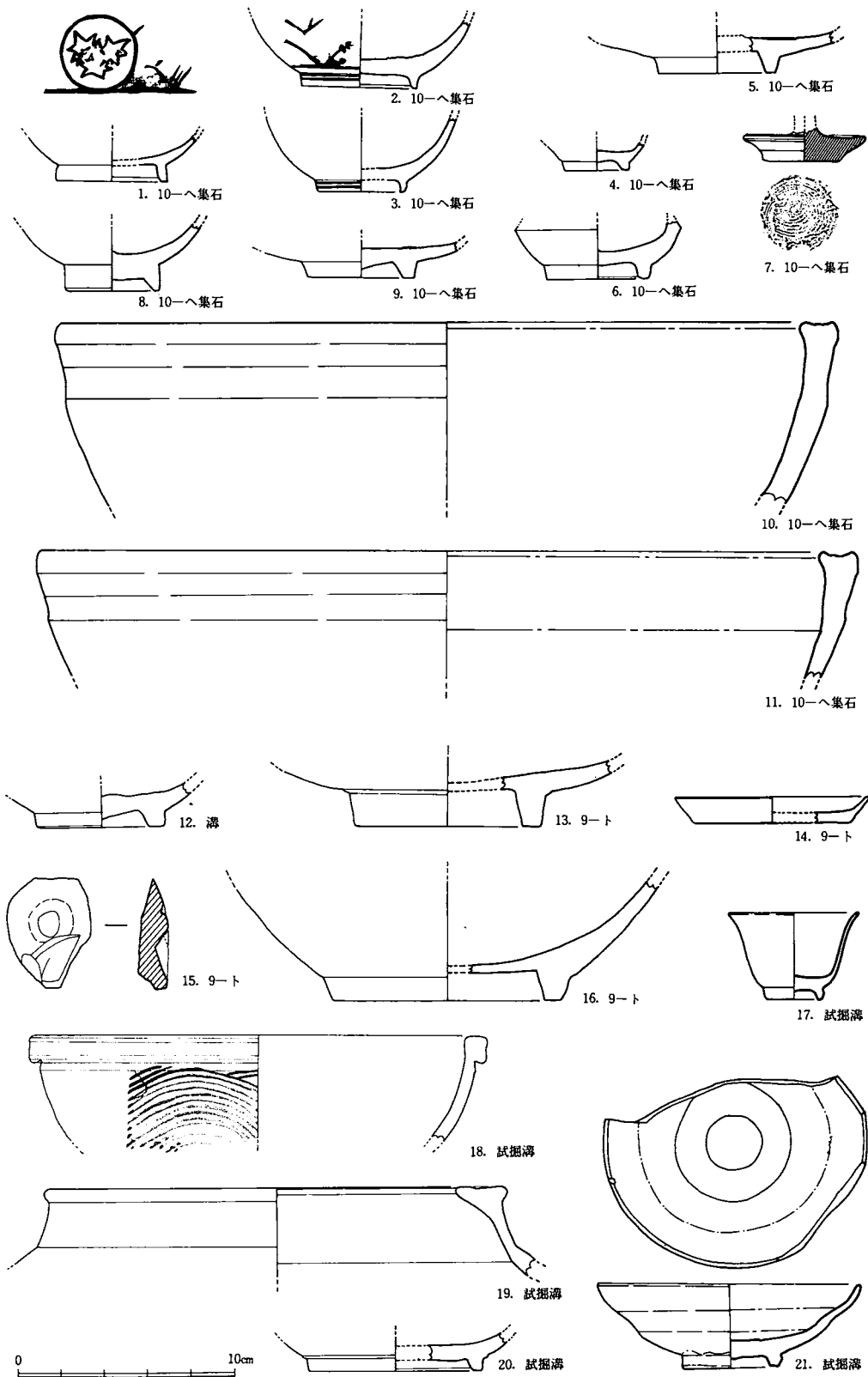
22. 碗 8—ニ グリッドS—21ピットより出土する。口径10.2cmを測る。唐津焼と思われる。

23. 青磁皿 8—ニ グリッドS—23ピットより出土する。復元口径11.3を測る。竜泉窯の製品と思われる。

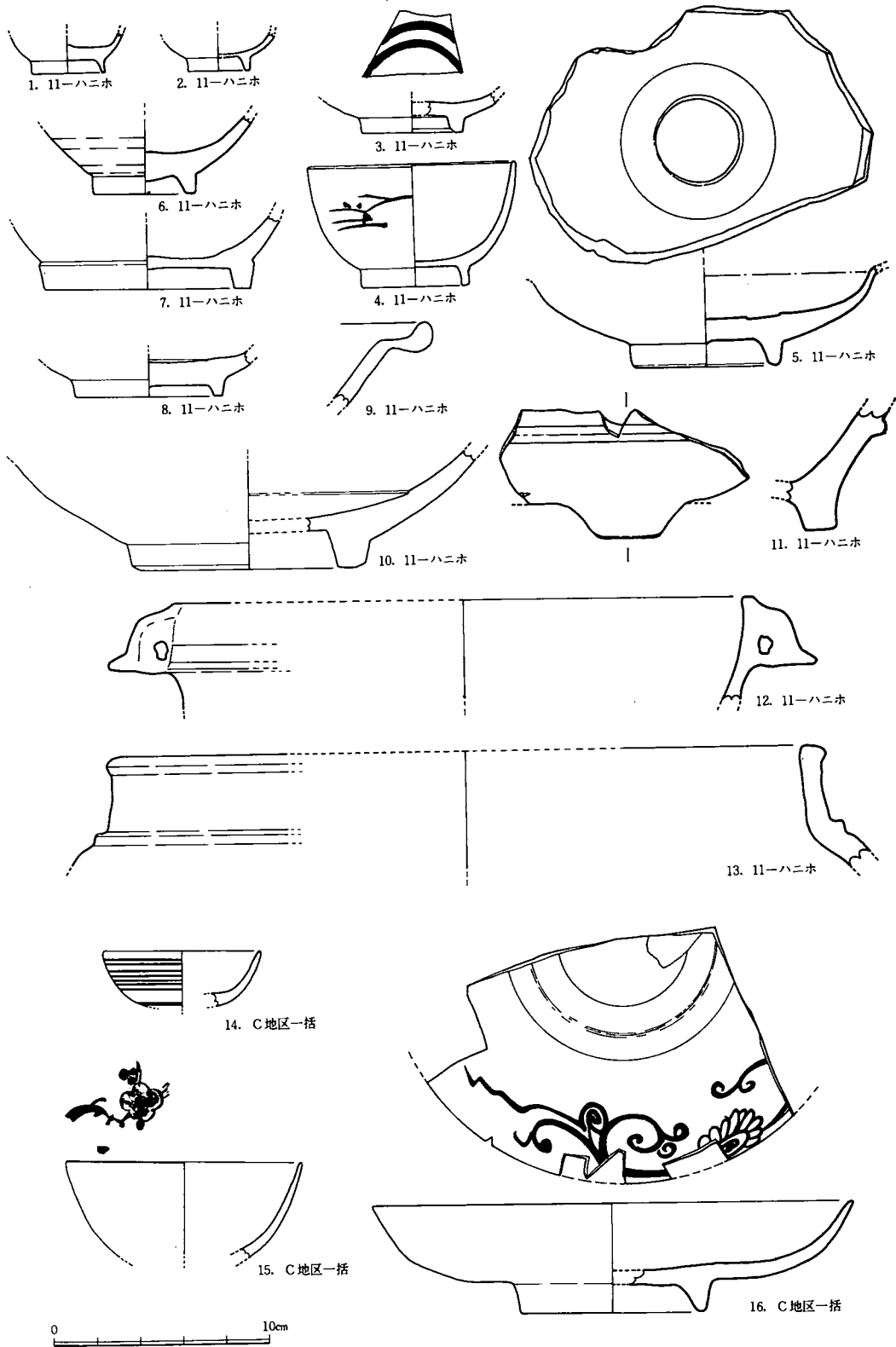
24. 白磁玉縁碗 8—ニ グリッドS—23ピットより出土する。宋の白磁である。

25. 瓦質土器火舎 8—ニ グリッド—括資料である。内外面に水引きのあとが残る。復元口径34.3cmを測る。

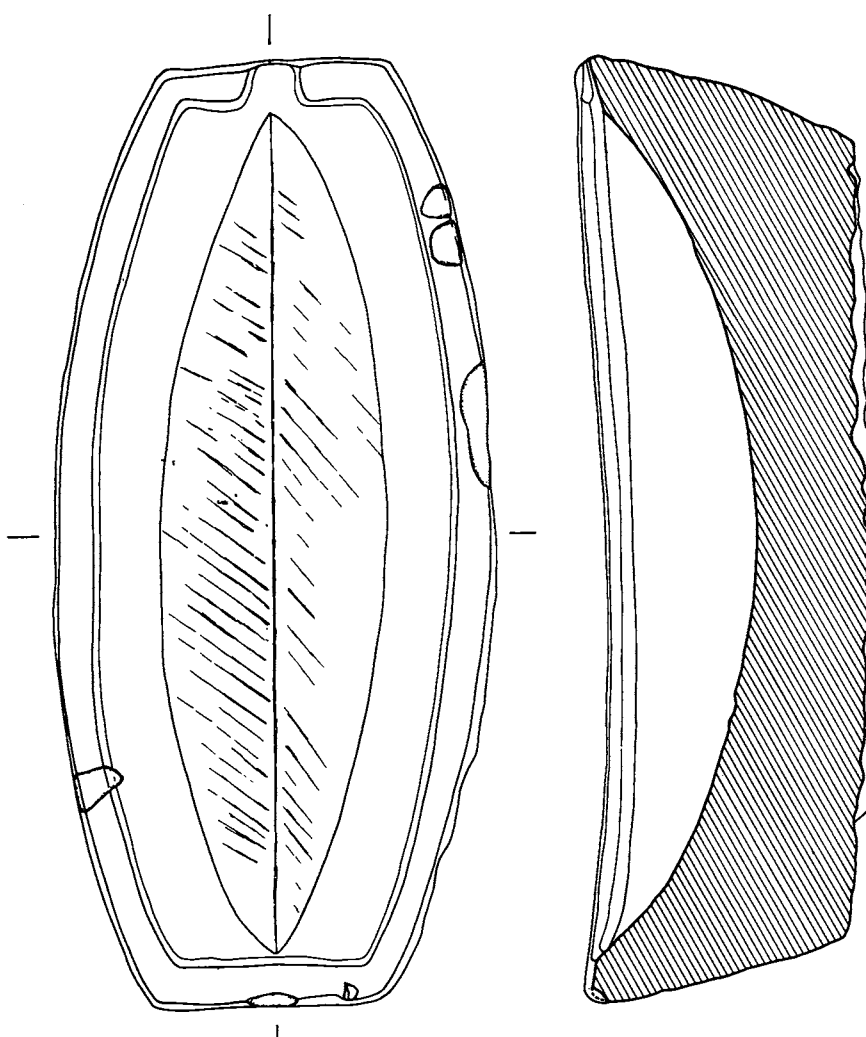
26. 蛇目剥皿 9—ニ グリッドL—4ピットより出土する。口径13.2cm、器高3.6cm、底



第86図 境遺跡 (C地区) 出土遺物(10へ～9へトグリッド、試掘溝)



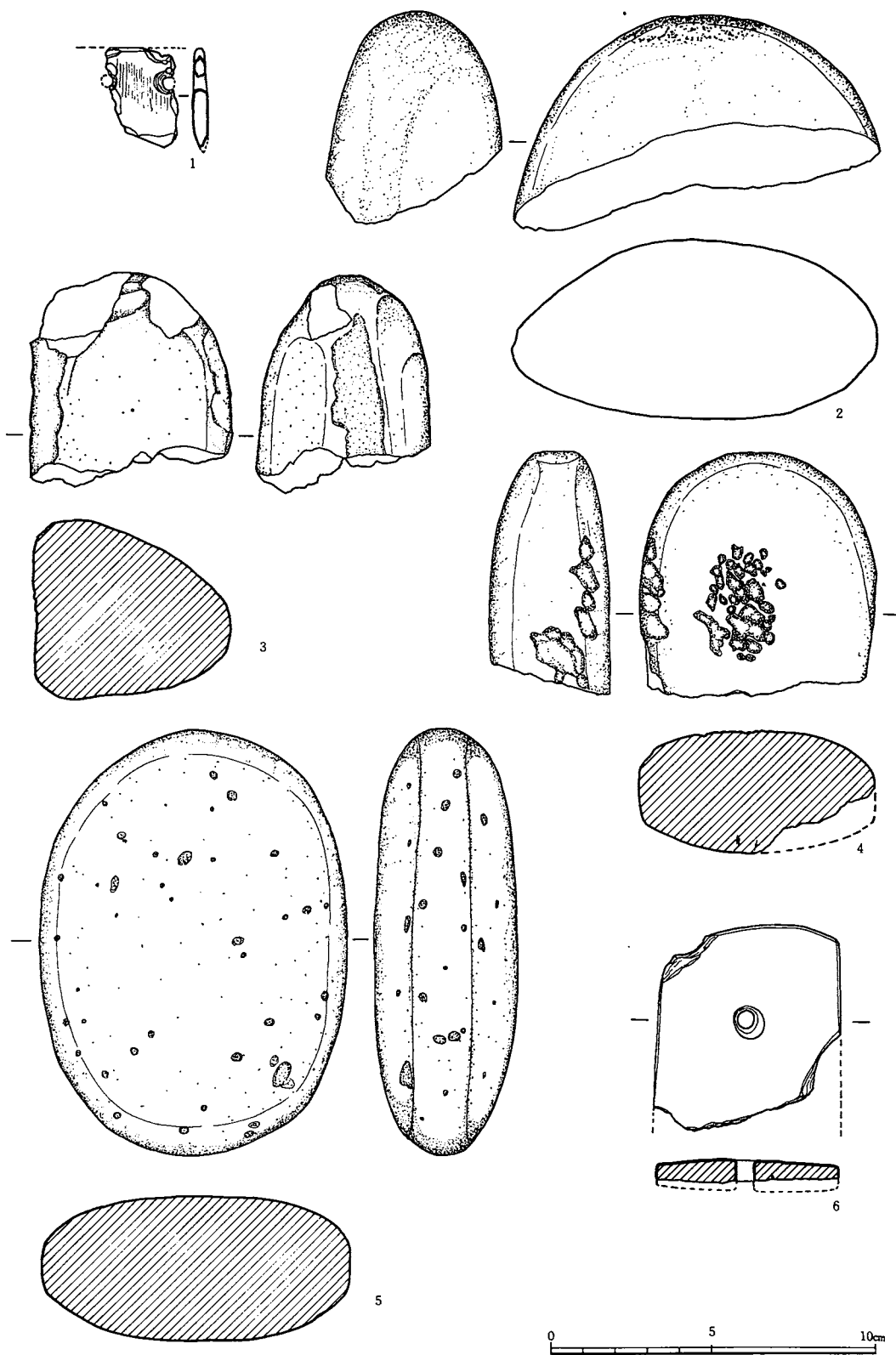
第87図 境遺跡 (C地区) 出土遺物 (11-ハ、ニ、ホグリッド、一括)



6-口第Ⅱ層



第88圖 境遺跡 (C地区) 出土遺物 (藥研)



第89圖 境遺跡 (C地区) 出土遺物 (石器・石製品)

径4.3cm、器高0.6cmを測る。内面に銅釉、外面に灰釉がかかる。嬉野焼内野山窯の製品である。

27. 青磁碗 9ーニ グリッドLー4ピットより出土する。高台径5.3cm、高台高1.0cmを測る。竜泉窯の製品である。 (村井)

第84図 境遺跡(C地区)出土遺物

1. 高麗青磁皿 9ーニ グリッドより出土する。器厚が薄く、軽い。口径14.3cmを測る。唐津焼の皿に器形が類似する。季朝の青磁である。

2. 高麗青磁皿 9ーニ グリッドより出土する。上記1に類似するが釉の発色が悪い。口径14.0cmを測る。

3. 高麗青磁皿 9ーニ グリッドより出土する。季朝の青磁である。高台径4.4cm、高台高0.3cmを測る。

4. 高麗青磁皿 9ーニ グリッドより出土する。口径13.2cmを測る。上記1に類似する。

5. 古伊万里染付草花文酒盃 9ーニ グリッドより出土する。口径6.5cmを測る。外面に草花文を染付している。

6. 古伊万里白磁酒盃 9ーニ グリッドより出土する。口径4.9cmを測る。平戸藩内の窯の製品と思われる。

7. 古伊万里染付皿 9ーニ グリッドより出土する。内面に染付がある。口径14.4cmを測る。素地の陶石は良質でなく、地元の土を使用している。外山の窯の製品である。

8. 古伊万里染付網目文碗 9ーニ グリッドより出土する。外面に染付がある。口径9.6cmを測る。百間窯の製品である。

9. 古伊万里青磁碗 9ーニ グリッドより出土する。高台径5.1cm、高台高0.5cmを測る。江戸時代中期の波佐見窯の製品である。

10. 碗 9ーニ グリッドより出土する。口径12.6cm、器高5.0cm、高台径4.8cm、高台高0.9cmを測る。鉛釉を内外面にかけている。唐津焼の可能性が考えられる。瀬戸焼ではない。

11. 碗 9ーニ グリッドより出土する。土物の作風が残り、高台内に兜巾がある。高台径4.7cm、高台高0.3cmを測る。献上唐津である。椎峰窯または高原窯の製品である。

12・13. 土師器皿 9ーニ グリッドII層より出土する。小片であるため底径・口径は不明である。底面に糸切りのあとが残る。

14. 土師器皿 9ーニ グリッドII層より出土する。復元口径13.9cm、復元底径8.7cm、器高2.9cmを測る。内外面にミズビキ、底面の糸切りのあとが残る。

15. 青磁蓮弁文碗 9ーニ グリッドより出土する。復元口径16.6cmを測る。竜泉窯の製品

である。

16. 古伊万里白磁酒盃 9ーニ グリッドLー3ピットより出土する。口径5.1cmを測る。
17. 古伊万里染付草花文酒盃 9ーニ グリッドLー3ピットより出土する。口唇部は胴部に対して、大きく外反する。口径6.9cmを測る。
18. 古伊万里染付酒盃 9ーニ グリッドLー3ピットより出土する。高台径2.7cm、高台高0.2cmを測る。高台に一条の横線を染付している。見込みには染付の一部が残るが全様は不明である。
19. 古伊万里染付酒盃 9ーニ グリッドLー3ピットより出土する。高台径2.7cm、高台高0.3cmを測る。外面の立ち上がり部に草花文と思われる染付を施している。
20. 古伊万里染付網目文碗 9ーニ グリッドLー3ピットより出土する。口径9.1cmを測る。百間窯の製品である。
21. 古伊万里染付碗 9ーニ グリッドLー3ピットより出土する。胴部に染付があるが、文様は不明である。高台径5.1cm、高台高0.5cmを測る。
22. 古伊万里青磁碗 9ーニ グリッドLー3ピットより出土する。高台径5.4cm、高台高0.6cmを測る。波佐見窯の製品である。
23. 古伊万里碗 9ーニ グリッドLー3ピットより出土する。外面に黒褐色の釉（鉄釉）を厚くかける。内面は古伊万里青磁によく似ている。口径8.5cmを測る。
24. 碗 9ーニ グリッドLー3ピットより出土する。素地は黄褐色を呈し、透明な釉をかける。小片であり、口径は不明である。
25. 青磁輪花皿 9ーニ グリッドLー3ピットより出土する。復元口径16.4cmを測る。菊花の大輪を模したような器形を呈する。高麗青磁（季朝）または古伊万里青磁と思われるが、断定し難い。
26. 蛇目剥鉢 9ーニ グリッドLー3ピットより出土する。内面に鉄釉がかかる。復元高台径8.1cm、高台高1.3cmを測る。
27. 蛇目剥皿 11ーニ グリッドII層より出土する。銅釉がかかる。嬉野焼内野山窯の製品である。
28. 蛇目剥皿 7ーホ グリッドLー2ピットより出土する。銅釉がかかる。高台径4.4cm、高台高0.2cmを測る。嬉野焼内野山窯の製品である。
29. 皿 7ーホ グリッドLー4ピットより出土する。内外面に灰釉がかかる。見込みには目跡が残る。復元高台径4.8cm、高台高0.7cmを測る。唐津焼と思われる。
30. 白化粧櫛描色釉流し鉢 7ーホ グリッドLー8ピットより出土する。口径31.9cmを測る。

る。庭木窯の製品である。

31. 蛇目剥皿 7ーホ グリッドLー9ピットより出土する。内面に銅釉、外面に反釉がかかる。高台径4.8cm、高台高0.3cmを測る。嬉野焼内野山窯の製品である。

32. 皿 7ーホ グリッドLー15ピットより出土する。内面に銅釉、外面に灰釉がかかる。口径13.0cmを測る。嬉野焼内野山窯の製品である。

33. 皿 7ーホ グリッドLー15ピットより出土する。焼けた壁土や糸切り底の土師器皿とともに出土する。見込みに目跡が残る。内外面に灰釉がかかる。高台径4.9cm、高台高0.3cmを測る。

34. 摺鉢口縁部片 7ーホ グリッドLー17ピットより出土する。口唇部は折り返して玉縁状に作られている。小片である。

35. 古伊万里蛇目剥染付皿 7ーホ グリッドLー19ピットより出土する。内面に草花文と思われる文様が染付されている。高台径4.9cm、高台高0.8cmを測る。 (村井)

第85図 境遺跡(C地区)出土遺物

1. 土師器土垂 9ーホ グリッドII層より出土する。一部を欠失しているため長さは不明である。径1.1cm、糸通し穴の径0.4cmを測る。

2. 徳利 9ーホ グリッドII層より出土する。口径5.9cmを測る。江戸時代前期の製品と思われる。

3. 土師器皿 9ーホ グリッドII層より出土する。復元底径8.0cmを測る。底部には糸切り痕が残る。

4. 碗 7ーホ グリッドLー20ピット中より出土する。口径11.7cmを測る。器表には鉄釉がかかる。

5. 赤絵染付片 7ーホ グリッドLー20ピットより出土する。赤い染付が凹部に残る。人形の破片と推定される。

6. 鉢 7ーホ グリッドLー20ピットより出土する。庭木窯製の鉢の口縁の破片である。

7. 土師器皿 9ーホ グリッドLー7ピットより出土する。復元口径8.0cm、復元底径6.5cm、器高1.3cmを測る。底部には糸切り痕が残る。

8. 青磁碗 9ーホ グリッドLー12ピットより出土する。見込みの部分のみを残す。竜泉窯の製品と思われる。

9. 古伊万里白磁碗 9ーホ グリッドLー20ピットより出土する。口径10.7cmを測る。

10. 壺または甕の破片 9ーホ グリッドSー4ピットより出土する。復元底径16.2cmを測る。立ち上り部の一部のみを残す。武雄南部系黒牟田窯の製品と思われる。

- 11.・12. 土師器皿 9ーホ グリッドS-37ピットより出土する。11の底径6.4cmを測る。12の口径8.4cm、底径6.5cm、器高1.4cmを測る。底面に糸切り痕が残る。
13. 碗 9ーホ グリッドS-39ピットより出土する。灰釉が内外面にかかる。高台径6.0cm、高台高0.8cmを測る。唐津焼である。
14. 古伊万里蛇目剥染付草花文碗 10ーホ グリッドより出土する。口径10.2cm、器高5.0cm、高台径3.9cm、高台高0.5cmを測る。外面に草花文を染付している。大外山波佐見窯の製品である。
15. 古伊万里染付草花文皿 10ーニ ホグリッド堅穴住居址の埋土中より出土する。見込みと高台内部に染付がある。高台径5.2cm・高台高1.0cmを測る。
16. 須恵器杯の蓋 11ーホ グリッドL-10ピットより出土する。口径15.7cmを測る。外面にはカキ目と横位に沈線が残る。内面および口縁部にはミズビキのあとが見られる。返りがわずかに残る。7世紀中葉頃に比定できるであろう。
17. 古伊万里染付碗 11ーホ グリッドII層より出土する。口径11.1cmを測る。小片であるため文様の全様は推定し難い。外面に染付を施す。
18. 古伊万里染付草花文碗 11ーホ グリッドII層より出土する。内面にハート形をした4枚の花弁を持つ花を染付している。口径10.2cmを測る。
19. 皿 11ーホ グリッドII層より出土する。白色の釉（灰釉）がかかる。高台径4.2cm、高台高0.2cmを測る。唐津焼と思われる。
20. 櫛描文色釉流し化粧徳利 11ーホ グリッドより出土する。胴部中央から肩部にかけて櫛描文を施す。復元最大胴部径17.8cm、復元高台径7.3cm、高台高0.8cmを測る。武雄南部系の窯の製品である。
21. 玉縁碗 11ーホ グリッドII層より出土する。復元口径15.4cmを測る。宋代の白磁である。
22. 古伊万里染付草花文碗 7ーヘ グリッドL-1ピットより出土する。口縁部に1条の横線と胴部に草花文を染付している。口径12.4cm、器高6.5cm、高台径5.0cm、高台高0.8cmを測る。有田内山窯（窯は限定できない）の製品である。
23. 古伊万里瓶 7ーヘ グリッドL-1ピットより出土する。肩部より上方と底部を欠失する。最大胴部径10.1cmを測る。百間窯の製品である。
24. 蛇目剥皿 9ーヘ グリッドの溝の中より出土する。内外面に灰釉がかかる。口径11.6cm、器高13.9cm、高台径4.0cm、高台高0.2cmを測る。嬉野焼内野山窯の製品と思われる。
25. 碗 9ーヘ グリッドの溝の中より出土する。内面に灰白色の釉（灰釉）、外面に緑灰

色の釉（銅釉）がかかる。高台径4.2cm、高台高0.5cmを測る。嬉野焼内野山窯の製品である。

26. 古伊万里染付瓶 9ーへグリッドの溝のより出土する。胴部最大径7.6cmを測る。胴部（上半分）に文字を文様化したような染付が見られる。（村井）

第86図 境遺跡（C地区）出土遺物

1. 染付草花文碗 10ーへ グリッドの集石の中から出土した。外面に楓の葉を染付している。復元高台径5.2cm、高台高0.7cmを測る。平戸焼又は唐津焼と思われる。

2. 古伊万里染付草花文碗 10ーへ グリッドの集石の中から出土した。高台から立ち上り部にかけて3条の横線と草花文を染付している。高台径5.4cm、高台高0.6cmを測る。

3. 古伊万里染付碗 10ーへ の集石の中から出土した。高台部に染付している。復元高台径4.2cm、高台高0.5cmを測る。

4. 古伊万里青磁酒盃 10ーへ の集石の中から出土した。高台径3.0cm、高台高0.3cmを測る。波佐見窯の製品と推定される。

5. 古伊万里蛇目剥染付皿 10ーへ の集石の中から出土した。復元高台径5.4cm、高台高0.9cmを測る。

6. 瓶 10ーへ の集石の中から出土した。最大胴部径7.7cm、高台径4.8cm、高台高0.6cmを測る。器表は褐色をおび、梨の実の肌のような状態を示す。古伊万里系の窯の製品と推定する。

7. 灯明皿 10ーへ の集石の中より出土する。灯明皿の下部のみを残す。底部には糸切りのあとが残る。最大径5.6cm、底径3.4cmを測る。

8. 碗 10ーへ の集石の中より出土する。外面に銅釉、内面に灰釉がかかる。高台径4.1cm、高台高0.5cmを測る。嬉野焼内野山製品である。

9. 皿 10ーへ の集石の中より出土する。内外面とも灰釉がかかる。見込みに目跡が残る。

10.・11. 瓦質土器火舎口縁部 10ーへ の集石の中から出土する。内外面にミズビキのあとが残る。口径35.6cm、37. cmを測る。

12. 皿 溝中より出土する。高台径6.0cm、高台高0.4cmを測る。

13. 鉢 9ートグリッド（取り上げ番号№4）より出土する。高台内面は深く削られている。復元高台径8.7cmを測る。庭木窯の製品の可能性がある。

14. 土師器皿 9ート グリッド（取り上げ番号№4）より出土する。復元口径8.8cm、復元底径7.1cm、器高1.2cmを測る。底部に糸切りのあとが残る。

15. 瓦質土器の脚部 9ート グリッド（取り上げ番号№4）より出土する。火舎の脚部と推定される。胴部から剥がれている。

16. 鉢 9ート グリッド（取り上げ番号№4）より出土する。鉄釉がかかる。武雄南部系

黒牟田窯の製品と推定される。

17. 白磁酒盃 C地区試掘溝より出土する。口径5.9cm、器高4.0cm、高台径2.5cm、高台高0.4cmを測る。平戸藩の窯の製品と思われる。

18. 白化粧櫛描文色釉流し鉢 C地区試掘溝より出土する。口径20.4cmを測る。庭木窯の製品である。

19. 甕 C地区試掘溝より出土する。色調は暗褐色を呈する。口径21.0cmを測る。黒牟田窯の製品である。

20. 青磁皿 C地区試掘溝より出土する。高台径8.0、高台高0.5cmを測る。

21. 蛇目剥皿 C地区試掘溝より出土する。口径11.9cm、器高3.9cm、高台径4.4cm、高台高0.4cmを測る。内外面に灰釉がかかる。嬉野焼内野山窯の製品と推定される。 (村井)

第87図 境遺跡(C地区)出土遺物

1. 古伊万里白磁酒盃 11-ハ・ニ・ホ グリッドより出土する。高台径3.3cm、高台高0.6cmを測る。

2. 古伊万里染付酒盃 11-ハ・ニ・ホ グリッドより出土する。高台径2.8cm、高台高0.6cmを測る。

3. 古伊万里染付碗 11-ハ・ニ・ホ グリッドより出土する。高台径4.7cm、高台高0.8cm、を測る。見込みに2条の円弧を染付している。

4. 古伊万里染付草花文碗 11-ヘ・ニ・ホ グリッドより出土する。口径9.6cm、高台径4.9cm、器高5.6cm、高台高0.8cmを測る。器表には貫入が認められる。

5. 蛇目剥皿 11-ヘ・ニ・ホ グリッドより出土する。高台径6.7cm、高台高1.1cmを測る。灰釉がかかる。武雄南部系嬉野焼である。

6. 碗 11-ヘ・ニ・ホ グリッドより出土する。緑釉(銅釉)がかかる。高台径4.6cm、高台高0.6cmを測る。嬉野焼内野山窯製と思われる。

7. 徳利 11-ヘ・ニ・ホ グリッドより出土する。外面に褐色の釉(鉄釉)がかかる。内面は無釉である。高台は内外面ともよく削り出されている。高台径9.5cm、高台高0.9cmを測る。

8. 青磁碗 11-ヘ・ニ・ホ グリッドより出土する。高台径は6.8cm、高台高は0.4cmを測る。見込みは円板状に釉がかかっていない。

9. 10. 鉢 11-ヘ・ニ・ホ グリッドより出土する。内面に白色の象眼がある。江戸時代中期の庭木窯の製品である。復元高台径9.9cm、高台高1.2cmを測る。

11. 瓦質土器火舎脚部 11-ヘ・ニ・ホ グリッドより出土する。逆台形で丸味を帯び下部

は平坦である。脚台際には3条の陵を有する突帯を有する。内外面に横ナデの整形痕が残る。胎土中に微砂粒を含む。

12. 瓦質土器土製鍋 11-ヘ・ニ・ホ グリッドの造成土中から出土する。把手部のみを残す。内外面にナデによる調整痕が残る。復元口径27.5cmを測る。把手は口縁部直下に付く。色調は灰褐色を呈する。鏝の下面から胴部にかけては煤が付着する。

13. 瓦質土器甕 11-ヘ・ニ・ホ グリッドの造成土中より出土する。口径32.5cm、頸部径33.7cmを測る。

14. 古伊万里染付酒盃 C地区一括資料である。外面に8条の横線を染付している。口径7.3cmを測る。

15. 古伊万里染付梅花文碗 C地区一括資料である。外面に梅花を染付している。口径10.9cmを測る。

16. 古伊万里蛇目剥染付唐草文皿 C地区一括資料である。復元口径22.4cm、復元高台径8.5cm、器高5.1cm、高台高1.3cmを測る。

(村井・丸山)

第88図 境遺跡(C地区)出土遺物

葉研 硬い阿蘇溶結凝灰岩製であり、中央部で折損している。底面は舟底形になっている。口縁はていねいに掘り出され、巾1.7cmの注口も作り出されている。中央部には『V』字形に葉研の溝を掘っている。溝のノミの跡はほとんど磨れていないのであまり使用されなかったと思われる。各部の計測値は、長さ37.0cm、巾17.5cm、高さ11.0cm、溝の長さ32.8cm、溝の巾11.5cm、深さ4.9cmである。

(村井・丸山)

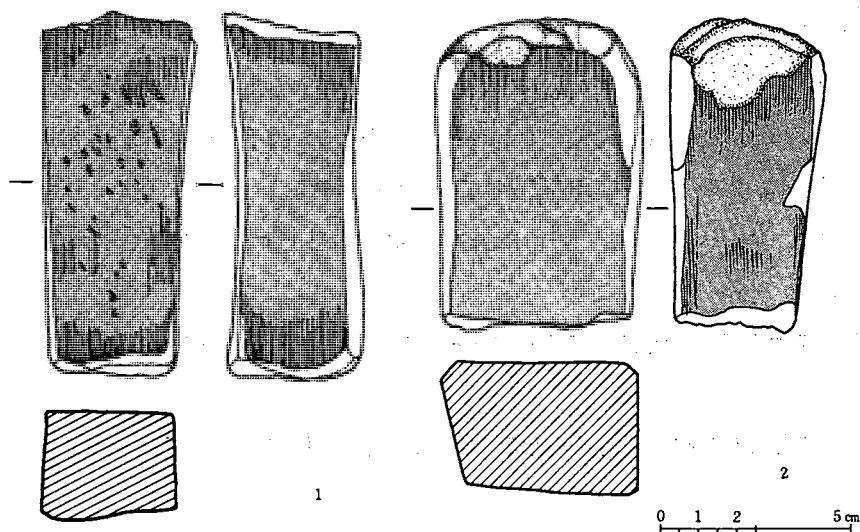
第89図 境遺跡(C地区)出土遺物

1. 表採品である。長さ2.2cm、巾3.2cm、厚さ0.5cmの石包丁の破片である。両端に穿孔があることから、石包丁の中央部の破片であると推測される。石材は粘板岩であり両面とも研磨されている。両刃と思われるが、刃部を欠いているので断言はできない。

2. 砂岩製であり、全面が研磨されている。頭部には敲打痕が見られる。全体の弱を欠損している。現存の大きさは、長さ6.5cm、巾11.3cm、厚さ5.5cmを測る。

3. 6-ハ・ロ グリッドのⅡ層から出土した。陵が円くなった三角柱状の磨石である。2面が研磨されており、この2面の合わさる陵の部に敲打が見られる。一部が欠損しているため長さは、明らかでないが、現存長5.5cm、断面の各辺5.5cm、6.5cmを測る。

4. 8-ハ グリッドのⅡ層から出土した。安山岩製であり、両面および側面全体が研磨され、上面および側面に敲打痕が見られる。全体の強を欠損していると見られる。現存長7.5



第90図 境遺跡（C地区）出土遺物（砥石）

cm、巾7.8cm、厚さ3.8cmを測る。

5. 安山岩の礫である。表面は強く風化しており、火を受けた可能性も考えられる。研磨された状態は観察されないが、形状から磨石と推定される。長さ13.3cm、巾9.5cm、厚さ4.5cmを測る。

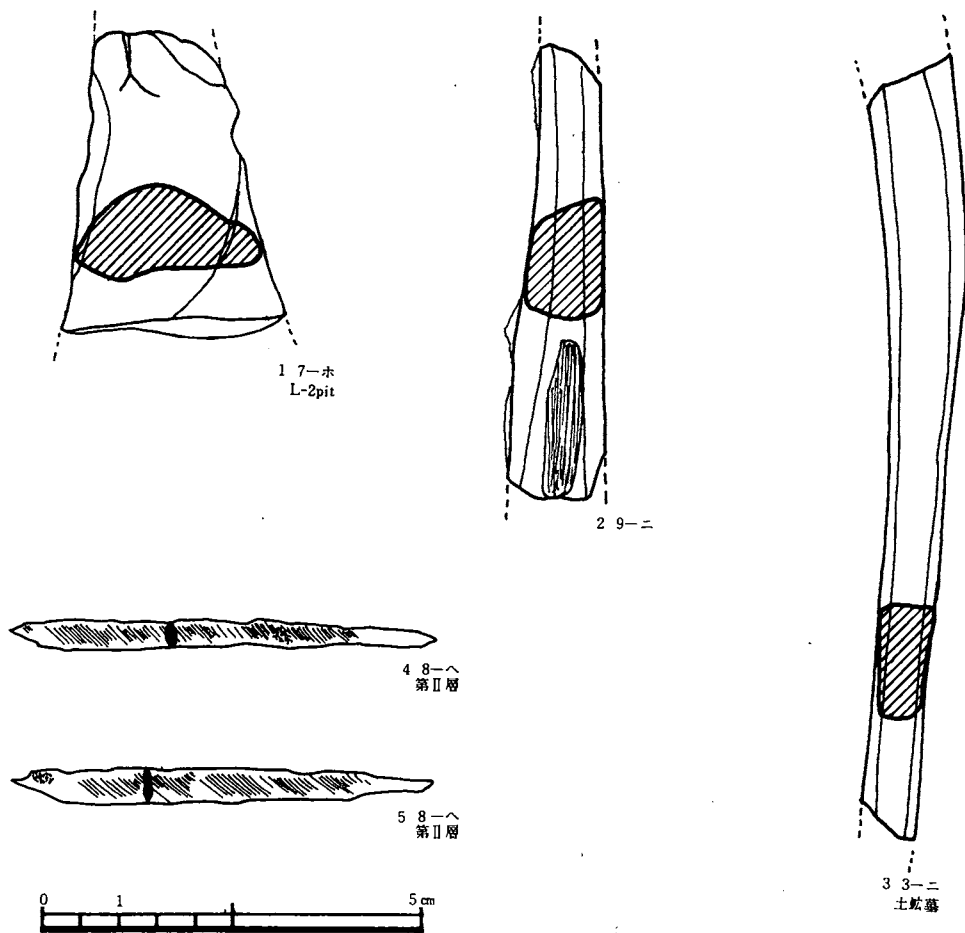
6. 10—ニ グリッドのⅡ層より検出した。絹雲母片岩製の有孔方形板石器である。穿孔は管切法ではなく敲打によってあけられたものと思われる。図の左辺、右辺、上辺および上面は研磨されている。現存長6.4cm、巾5.7cm、現存の厚さ0.7cm、孔の径0.5cmを測る。周辺部から糸切り底の土師器皿や瓦質土器片等の中址の遺物が検出されているので中址の遺物と考えられる。しかしⅡ層には古伊万里および古唐津等の陶磁器が含まれるので断定は避けたい。（村井・下村）

第90図 境遺跡（C地区）出土遺物

1. 砂岩製砥石 9—トグリッドの2号溝から検出された。4面とも研面として使用しているが、特に3面はよくすり減っている。長さ8.5cm、巾3.6cm、厚さ2.9cmを測る四角柱状を呈する。

2. 砂岩製砥石 11—ニ・ハ・ホ グリッドの埋土中から近世陶磁器に混って出土した。長さ8.2cm、巾5.3cm、厚さ3.3cmを測る。四面とも研面として使用している。左右の縁部は面取りしたように使用されている。（村井）

第91図 境遺跡（C地区）出土遺物



第91図 境遺跡（C地区）出土遺跡物（金属器）

1. 鉄片 7-ホ グリッドL-2ピットから出土する。長さ4.1cm、巾1.6~3.0cm、厚さ1.2cmを測る。断面は二等辺三角形形状を呈する。器種は不明である。

2. 鉄片 9-ニ グリッドから出土する。長さ6.0cm、巾0.~1.3cm、厚さ1.1cmを測る。基部に木片が付着することから、柄を付けてあったと考えられる。器種は不明である。

3. 鉄片 3-ニ グリッドの土壌墓より出土する。長さ10.2cm、巾0.7~1.2cm、厚さ1.5cmを測り、少し反りがある。器種不明である。

4.・5. 8-ヘ グリッドの第Ⅱ層から出土する。2点とも銅製品であり、錆により密着した状態で出土した。長さ5.6cm、巾0.3~0.5cm、厚さ0.1cmを測る。器表にはヤスリの跡が残る。形状は刃物（刀子や刀）を模造したように見える。器種不明である。

第12表 B・C地区出土遺物一覧表（井戸状遺構をのぞく）

出土地点 (グリッド 番号)	種類	口縁部	頸部	胴部	底部	坏部	脚部	蓋縁	蓋天井部	つまみ	部位不明	備考
3 1 イ	須恵器	甕			5							15 竜泉窯 6 宋白磁
		高台付坏				1						
		不明			7							
	土師器	皿				6						
		不明										
	瓦質土器	鉢	1									
		土鍋			1							
青磁	碗	1										
磁器	不明										6	
	碗	1			3							
	碗	1										宋白磁
小計			4	0	16	7	0	0	0	0	0	21
6 ロ （Ⅱ層）	須恵器	甕	1		5							口縁から肩部 底部…へら切 糸切底4 1 脚部…三足部 口縁部…竜泉窯、胴部…同安窯 胴部…肩部1 口縁部のうち2つは染付 染付
		高坏					2					
		不明			1							
	土師器	皿				1						
		壺	2									
		皿	2			10						
		碗	1									
		甕				1						
		不明			13							
	瓦質土器	鉢	2		5	2						
		土鍋	2									
		不明	1			3						
		火舎				2		1				
	瓦質土器	碗	1									
	青磁	碗	1		1							
陶器	擂鉢	1		2	1							
	甕				6	1						
磁器	碗	5		10	1							
	皿	1										
	不明	1			1							
弥生	碗	1										

出土地点 (グリッド 番号)	種類		口 縁 部	頸部	胴部	底部	坏部	脚部	蓋 縁	口 蓋 井 部	つま み	部位 不明	備 考
	滑石 チャート 頁岩	石鍋	1										チップ1 破片1
小計			21	0	50	16	0	3	0	0	0	1	
7 ロ (II層)	土師器	坏 皿				1 3 1						2	
	瓦質土器	不明 土鍋	1		1								
		不明 土鍋			2								
	青磁	碗	1		1								口縁部…竜皇窯
小計			2	0	4	5	0	0	0	0	0	2	
3 ハ	須恵器	甗 壺	1		3 1								
		坏 皿	1		1								
	土師器	不明 皿	1		5							16	
	瓦質土器	不明 土鍋			1								つば
		不明 土鍋			3								
	青磁 陶器	碗	1		1								口縁部…竜泉窯、胴部…同 安窯
		不明 擂鉢				1						6	
	甗 碗	1		1									
	磁器 黒曜石 土錘	碗	1		8	2							底部染付、底部…高台部1 黒曜石2 土錘1
小計			5	0	18	9	0	0	0	0	0	22	
4 ハ	須恵器	不明甗			6							3	
	土師器	高坏					3						
		甗	3		8								
		壺	1		10								
		甗 皿	3	1	16		8						
	不明			16								74 細片26 破片1のみ残存	

出土地点 (グリッド ド番号)	種類		口 縁 部	頸部	胴部	底部	坏部	脚部	蓋 縁	口 蓋 天 井 部	つま み	部位 不明	備 考		
4 — ハ	瓦質土器	土 錘										2			
		碗	1			2									
	青 磁 陶 器	摺 鉢			1								1	竜泉窯	
		摺 鉢	3			1									
		深 鉢				3									
	弥 生	碗	1			7									
		不 明											3	破片	
		甕	2			8		2							
		壺				2									
	滑 石 チャート 片 黒曜石片	甕	1			2									
石 鍋					2										
													チャート片1 黒曜石片2		
小 計			15	1	82	9	3	3	2	0	0	83			
5 — ハ	(表採)	瓦質土器	鍋	1											
	小 計			1	0	0	0	0	0	0	0	0			
	(第II層)	須恵器	甕			5									
			壺	1		1								胴部	
		土師器	皿	3		5	3								
			不 明			2								42	不明… $\frac{1}{2}$ 残存1、 $\frac{1}{4}$ 残存2
		瓦質土器	火 舎				1								
			不 明			1									
		青 磁 陶 器	碗			1								同安窯	
			碗	1		4	1								
		甕			1										
磁 器	摺 鉢			1											
	碗	4		7	1										
	高 坏	1													
	皿	1			1										
白 磁	碗	1										宋白磁			
小 計			12	0	28	35	0	0	0	0	0	42			
(Pit中)	スラグ												スラグ2		

出土地点 (グリッド 番号)	種類		口縁部	頸部	胴部	底部	坏部	脚部	蓋縁	口蓋	天井	まみ	部位不明	備考
6	Pit S-1	陶器 播鉢			1	1								
		小計	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	
1 ハ	(II 層)	須恵器 甕			2									
		坏			1									
		不明			1								1	
		土師器 甕		1										
		皿				1								6 破片
		不明												
		瓦質土器 甕				2								
		鍋		1										
		不明				6								2
		陶器 播鉢				1	1							
甕					1									
不明			1											
磁器 不明												3 細片		
小計			2	1	14	2	0	0	0	0	0	0	12	
7 ハ	Pit L-1													スラグ、焼土塊、カーボン 数十点
8 1 ハ	(第II層)	土師器 皿				1								4 細片
		不明												
		瓦質土器 鉢		1										
		陶器 不明												1
		磁器 皿		2		1								
小計			3	0	1	1	0	0	0	0	0	0	5	
(II、III層)	須恵器	甕	1		8									
		壺	1		1									
		坏									1			ふた
		不明			1									
		高台付坏				1								
		土師器 壺				2								
		皿					1							枝切底
土 錘												一部欠損		
甕				5									同一個体	

出地点 (グリッド 番号)	種 類	口縁部	頸部	胴部	底部	坏部	脚部	蓋縁	蓋天井部	つまみ	部位不明	備 考
8 ハ	瓦質土器	火舎			1							口縁…竜泉窯1、胴部…い ずれも同安窯 1 石良片…同安窯 11 破片11…同一個体 細片 不明銅製品
		拵鉢	3									
		鉢				1						
		不明			6							
	青磁	碗	2		4							
		皿										
	陶器	鉢	1		4							
	磁器	皿				1						
	磁器	碗	10		11							
	滑石銅片	鍋			1							
小 計		19	0	43	5	0	0	0	1	0	12	
Pit2	瓦質土器	鉢			1							染付
	磁器	碗			1							
小 計		0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	
Pit L- 3,4,5	土師器	皿			1							糸切底
	青磁	碗	1		1							
	磁器	碗			1							
	弥生	甕	1									
小 計		2	0	1	3	0	0	0	0	0	0	
9 ハ	Pit L- 1,2,3	土師器	皿			3						1 破片… $\frac{1}{4}$ 残存、糸切底 3 口縁…竜泉窯、胴部…同安窯
		不明										
	瓦質土器	鍋			1							
	青磁	碗	1		1							
	磁器	皿	1									
		碗	1									
	小 計		3	0	2	3	0	0	0	0	0	
Pit L- 4,5	須恵器	甕			1							へら切り
		高坏				1			1			
	土師器	不明			1							
	土師器	皿				1						

出土地点 (グリッド ド番号)	種	類	口縁部	頸部	胴部	底部	坏部	脚部	蓋縁	蓋天井部	つまみ	部位不明	備	考
	青磁	碗			2								同安窯1	
	磁器	碗	2		1	1							胴部、底部…染付	
	小計		2	0	5	2	1	0	0	1	0	0		
10 ー ハ	土師器	皿	1			2							ほぼ完形1、糸切底2	
		土錘											土錘片	
		不明			1							1		
	小計		1	0	1	2	0	0	0	0	0	1		
10 ・ 11 ー ハ (Ⅱ層)	須恵器	甕			2									
	土師器	高坏					1							
		皿	1		1	15							1 破片1…も残存、糸切底	
		坏						2	1				2 糸切底	
		高壺	1											
		不明			6									
	瓦質土器	不明			4									
	青磁	碗	1		3								口縁部…同安窯1、胴部の ちう1つ同安窯	
	陶器	摺鉢	1		1									
		甕			2	1								
		碗			1									
	磁器	碗	5		11	2							2	
		不明			3									
	白磁	碗	1										宋白磁	
	小計		10	0	34	18	3	1	0	0	0	5		
6 ー ロ ・ ハ (Ⅱ層)	須恵器	甕	1		10									
		高坏					2							
	土師器	甕			1									
		皿				8							糸切底8	
		壺	1											
	土師器か 弥生	不明										1		
	瓦質土器	摺鉢	1			1								
		鉢	1		2	1								
	青磁	碗	2		1	1							高台部1、口縁部のうち1 つ竜泉窯	
	陶器	鉢	1											

出土地点 (グリッド 番号)	種類	口縁部	頸部	胴部	底部	坏部	脚部	蓋縁	蓋天井部	つまみ	部位不明	備考
	磁器 碗			4	1							
	小計	7	0	18	12	2	0	0	0	0	1	
	須恵器 甕			2								
	土師器 坏蓋										1	
	土師器 皿				4							
	不明土錘			6							1	
	青磁 碗			2	2							胴部のうち1つが同安窯
	不明陶器 播鉢	1									1	
	不明陶器 甕	4			1							
	不明陶器 土錘			1							1	※残存
	磁器 碗	5		1	3							口縁部のうち2つが染付
	不明磁器 鉢	1										
	不明磁器 皿			3								
	不明磁器 皿				1							
	小計	11	0	16	11	0	0	0	0	0	4	
6?ワ ー ロ ・ ハ (II層)	須恵器 甕	1		3								
	土師器 坏蓋										1	
	土師器 坏	2										
	土師器 坏	4			1						36	破片
	土師器 皿				2							
	瓦質土器 鉢	1										
	不明土器 播鉢			2								
	不明土器 鍋			4								
	不明土器 火舎					1						
	不明土器 不明										4	
青磁 三足土器(?)										1	破片…口縁から脚を含む	
不明青磁 不明										4	細片	
陶器 皿				2								
磁器 不明											9	破片
小計		8	0	11	4	0	0	0	0	0	55	

出土地点 (グリッド 番号)	種	類	口縁 部	頸部	胴部	底部	坏部	脚部	蓋縁	口蓋 井部	つま み	部位 不明	備	考
3 ニ	(第 II 層)	須恵器	甕		6								16 不明1 宋白磁	
		土師器	壺	1	1	1								
		皿		1	2									
		坏			1									
		不明												
	瓦質土器	搦鉢		1										
		不明			1									
	青磁	碗	2		3									
	陶器	搦鉢	1		6									
		甕			1									
	磁器	碗	3		9	2								
		皿				1								
		深鉢			1									
		不明			1									
	不明鉄器	鉄片												
	白磁	碗	2											
小計			9	0	31	7	0	0	0	0	0	16		
(T 1)	土師器	皿				1								
	磁器	碗	1											染付
小計			1	0	0	1	0	0	0	0	0	0		
5 ニ	土師器	甕	3		4	1							1 10 弥生か、土師器	肩部1 頸部から胴部 破片
		短頸壺		1										
		皿												
		不明			8									
	磁器	深鉢			2									
		不明	1											
	弥生	甕	2		1									
	土器片	不明			8									
小計			6	1	23	1	0	0	0	0	0	11		
6 ニ	(第 II 層)	須恵器	不明		1									
		土師器	坏	2										
			皿			5								
		不明	1											

出土地点 (グリッド ド番号)		種類		口縁部	頸部	胴部	底部	坏部	脚部	蓋縁	蓋井部	つまみ	部位不明	備考
6 ニ	(第II層)	瓦質土器	擂鉢	1										
		青磁陶器	碗				1						3	破片
			甕				1						7	
			破片				1						6	
		磁器	碗	3			3							
	磁器か?				1									
	滑石製品	石鍋				1								
	焼土	壁土												えつり竹の型あり
小計				7	0	8	5	0	0	0	0	0	16	
Pit L-1	土師器	皿				1							1	細片
		不明												
	陶器	甕	2		2									
		皿				1								
		碗				1								
小計				1	0	1	3	0	0	0	0	0	1	
Pit L-2	土師器	皿	1			3								細片柱底部のうち、2つが同一個体根残存す
	磁器	不明											1	細片
小計				1	0	0	3	0	0	0	0	0	1	
7 ニ	(II層)	須恵器	甕			1								破片
		土師器	皿				3							
			不明	2										10 破片10
		瓦質土器	擂鉢			1								
小計				2	0	2	3	0	0	0	0	10		
Pit L-7	須恵器	甕				1								
		不明				1								
		甕		1		1								
		坏	1											
	土師器	皿	1		1	9								底部のうち糸切底3
		不明				4								
	青磁磁器	碗	3			2								口縁部…同安窯、胴部のうち一つが竜泉窯
	碗	1			1	1							胴部染付	
	不明					2								

出土地点 (グリッド 番号)	種類		口縁 部	頸部	胴部	底部	坏部	脚部	蓋縁	蓋井部	つま み	部位 不明	備考	
7 ニ	チャート	壁土											破片1 えつり竹の型有り、10塊	
	焼土													
	小計			6	1	13	10	0	0	0	0	0	1	
	(Pit S-9)	須恵器 土師器	不明 皿			1								
			不明			1	6							
		青磁 チャート	碗	3		2								口縁部…同安窯、胴部の内 1つ竜泉窯 チップ1
	小計			3	0	7	6	0	0	0	0	0	0	
	(Pit S-7)	土師器 陶器	坏 不明 皿				1							5 細片
小計			0	0	0	2	0	0	0	0	0	5		
(Pit S-5)	土師器 カーボン	坏 不明	1										2 細片 埋土に、炭化物を含む	
小計			1	0	0	0	0	0	0	0	0	2		
(Pit S-6)	土師器 陶器	皿 不明 碗				8							破片	
小計			0	0	0	4	0	0	0	0	0	6		
(溝 中)	須恵器	坏 不明	1											
	土師器	皿			2									
	瓦質土器	土鍋	1			3								
	磁器	不明 皿 碗										1		
小計			2	0	4	5	0	0	0	0	0	1		
7 ニ	(第II層) 土師器	不明 皿			4									
小計						12								

出土地点 (グリッド ト番号)	種 類	口縁部	頸部	胴部	底部	坏部	脚部	蓋縁	蓋天井部	つまみ	部位不明	備 考		
7 ニ	(第II層)	瓦質土器	壺	1										
			高坏甕			2								
			不明			13								
			鉢	3										
			土鍋	1										
			搦鉢			1								
			火舎			2								
			不明			6								
			青磁皿	2										1 印花有り
			皿(?)											
			陶器 碗	1		5	1							
			陶器 甕	1	1	6	1							
			搦鉢			6								
			陶器 碗				1							チップ1
不明			1											
磁器 チャート														
磁器 深鉢			2											
須恵器 碗	7		9	1										
須恵器 甕		1	5											
須恵器 壺			1											
総 計		16	2	69	16	1	0	0	0	0	1			
8 ニ	(L-6)	土師器 小型壺			1									
		土師器 皿	1			1								
		陶器 不明			6							内3点同一個体		
		陶器 鉢	1											
磁器 甕			1											
磁器 碗	1										染付			
焼土 不明			1											
焼土 壁土											15塊、えつり竹の型有り			
小 計		3	0	9	1	0	0	0	0	0	0			
(L-3)	須恵器 甕			3										
	土師器 皿	5			18							底部…糸切底、ヘラ切		

出土地点 (グリッド 番号)		種類		口縁部	頸部	胴部	底部	坏部	脚部	蓋縁	口蓋部	つまみ	部位不明	備	考	
8 1 ニ	(L-6)	瓦質土器	不明 火舎	1									20	細片		
		陶器	深鉢			1										
		磁器	碗	2												
		鉄片	皿	2												不明
	小計				10	0	4	18	0	0	0	0	0	20		
	(L-1)	土師器	皿	1			1								糸切底	
		青磁	碗				1								同安窯	
陶器		壺			1											
磁器		碗	1			1								染付		
小計				2	1	2	1	0	0	0	0	0	0	6塊、えつり竹の型有り		
(Pit S-3)	土師器	皿 坏					2 2							6 細片		
	青磁	碗				1								サンプリングをした。		
	焼土	壁土														
小計				0	0	1	4	0	0	0	0	0	6			
(Pit SL-14)	土師器	皿												1 破片…も残存		
	焼土	不明 壁土												4 細片		
小計				0	0	0	0	0	0	0	0	0	5	えつり竹の型有り 埋土に炭化物を含む		
(Pit S-15)	土師器	不明	1											6 細片6		
	磁器	碗				1										
小計				1	0	0	1	0	0	0	0	0	6			
(Pit S-23)	土師器	皿 坏					3 1									
	磁器	不明	2													
	白磁	碗	1													

出土地点 (グリッド 番号)	種 類	口縁部	頸部	胴部	底部	坏部	脚部	蓋縁	口蓋井	つまみ	部位不明	備 考
8 1 =	焼土 壁土											6塊、えつり竹の型有り
	小 計	3	0	0	3	0	0	0	0	0	0	
	(Pit S-17) 須恵器 土師器	甕 甕		1 1								6 細片5
		不明 坏 皿	1			1						
	焼土 壁土											2塊、えつり竹の型有り
	小 計	1	0	2	1	0	0	0	0	0	0	
	(Pit L-9) 土師器 陶器 磁器 カーボン	不明 鉢 皿 碗	1			1						3 細片
			7		1							埋土に炭化物を含む
	小 計	8	0	1	1	0	0	0	0	0	3	
	(Pit S-5) 須恵器 土師器 陶器 磁器 滑石製品 焼土	甕 皿 不明 壺の蓋 皿 石鍋 壁土			1 1		1					
小 計	6	0	4	1	0	0	0	0	0	2		
(Pit L-8) 磁器	碗	1										
小 計	1											
(Pit S-1) 磁器 焼土	碗 壁土	1		1							10 破片10 えつり竹の型有り	
小 計	1	0	1	0	0	0	0	0	0	10		
(Pit S-16) 土師器	皿	5			2						19 部位不明 (も残存1細片18)	
小 計	5	0	0	2	0	0	0	0	0	19		

出土地点 (グリッド D細号)	種類		口縁部	頸部	胴部	底部	坏部	脚部	蓋縁	蓋天井部	つまみ	部位不明	備考	
8 ニ	Pit L-11	土師器	皿			4							1 えつり竹の型有り	
		銅器 焼土	不明 壁土											
小計			0	0	0	4	0	0	0	0	0	1		
9 一 ニ	II 層	土師器	皿			14							1 へら切、糸切底、破片…も 残存	
			不明			5								
			甕			1								
		瓦質土器	不明			1								
		青磁 磁器	碗 碗	1			1							
小計			1	0	8	14	0	0	0	0	0	1		
◎		土師器	皿			1							1 糸切底、破片…へら切、も 残存 質土器 口縁部…竜泉窯、底部…同 安窯 器種不明3	
			不明		1									
		瓦質土器	鉢											
			甕											
			不明		1									
		青磁 磁器	碗 皿 碗			1	1	1	1					
小計			22	0	11	5	0	0	0	0	0	1		
Pit L-3		瓦質土器	甕			1							4	
		陶器	不明			1								
			皿			1								
		磁器	碗 不明	1			1							
小計			5	0	1	5	0	0	0	0	0	4		
Pit L-4		須恵器	甕			2							4 細片 5	
		土師器	皿			1								
			不明											
		青磁 陶磁器	碗 不明			1								

出土地点 (グリッド ド番号)	種 類	口縁 部	頸部	胴部	底部	坏部	脚部	蓋縁	蓋天 井部	つま み	部位 不明	備 考
9 ニ	チャート											チップ(1)
	小 計	0	0	3	1	0	0	0	0	0	9	
	④ 土師器 皿 不明			1	3							口縁部のうち2つ同一個体
	磁器 碗	3		1								
小 計	3	0	2	4	0	0	0	0	0	0		
10 ニ (II層)	須恵器 土師器	甕 皿 不明		2								③ 3 1つは は 残存、1つは は 残存 6 1つは、口縁部を若干欠く 細片
小 計	0	0	2	0	0	0	0	0	0	9		
5 ホ (II層)	須恵器 土師器 陶磁器 チャート	甕 不明 甕 壺 皿 不明 皿 碗	1	1 3 5 1 11 1 5	1 3 1 1 1 5	1						肩部1 肩部1 チップ1
小 計	3	0	27	1	0	0	0	0	0	0		
7 ホ	L-2 Pit 須恵器	甕		1								5片、一部欠失
	L-4 Pit 磁器	皿			1							
	L-8 Pit 陶器	甕	1									
	L-9 Pit 陶器	皿			1							
	L-13 Pit 磁器	碗				1						
	L-17 Pit 磁器	皿				1						
	L-20 Pit 須恵器	高坏					1					
	L-15 Pit 瓦質土器	火舎	1									
L-18 Pit 陶器	甕	3									同一個体	
小 計	5	0	1	3	0	1	0	0	0	0		

出土地点 (グリッド 番号)	種類		口縁部	頸部	胴部	底部	坏部	脚部	蓋縁	蓋天部	つまみ	部位不明	備考
7 ホ	L-1	瓦質土器	不明		1								} 柱根の残存の穴より
		陶器	擂鉢		1								
		磁器	碗		1								
		白磁	碗	1									
小計			1	0	3	0	0	0	0	0	0	0	
L-19	須恵器	甕			1								近世
	瓦質土器	不明			1								
	陶器	擂鉢	1										
	磁器	碗	1			1							
小計			2	0	2	1	0	0	0	0	0	0	
II 層	須恵器	不明										1	破片1
	土師器	不明										12	細片9
		皿										1	破片
	瓦質土器	擂鉢			1								
		碗	2		1								
	陶磁器	擂鉢	1		3								
		甕			5								
		皿	1		10	1							
		碗	8		2								
	像破片												破片1
	白磁	不明	1									1	器種不明1、人形か？赤絵染付
	鉄片												鎖状金具1
小計			13	0	22	1	0	0	0	0	0	15	
8 ホ	Pit L-2	土師器	壺	1									
			皿	1		4							
			坏	1									
	焼土	不明 壁土										6	細片6 13塊、えつり竹の型有り
小計			3	0	0	4	0	0	0	0	0	6	
Pit S-17	土師器	高坏						1					
	瓦質土器	土鍋	1										

出土地点 (グリッド 番号)	種 類	口縁 部	頸部	胴部	底部	坏部	脚部	蓋縁	蓋天 井部	つま み	部位 不明	備 考	
	鉢			1									
	小 計	1	0	1	0	0	1	0	0	0	0		
9 ホ	Pit S-30 土師器	坏			2								
		不明										4 細片	
	Pit S-3 土師器	皿			1							糸切底	
	Pit L-13 土師器	皿	1		8								
		坏	2										
		不明										12 細片	
Pit S-24 土師器	皿	6		4	17							26 細片	
	不明												
	甕 器	甕		1									
	小 計	9	0	5	28	0	0	0	0	0	42		
10 ホ	2 層	須恵器	甕		1								
			壺			1							
			不明			1							
		土師器	高坏	4		2							
			不明			27							3
			皿	6		5	21						7
		坏				1							
		壺	1										
	瓦質土器	火舎			1							1	
		不明			2								
		鉢	2		1								
	磁 器	碗	7		14	1						1	
	擂鉢			1								破片… $\frac{1}{2}$ 残存	
	鉢											口縁部染付4 胴部染付7	
	甕			1									
	小 計	22	0	56	24	0	0	0	0	0	12		
堅穴住居址	須恵器	不明		3									
	土師器	坏	1										
		皿			5								
		壺	1										
	不明			8									

出土地点 (グリッド 番号)	種 類	口縁部	頸部	胴部	底部	坏部	脚部	蓋縁	口蓋天井部	つまみ	部位不明	備 考	
10 ー ホ	瓦質土器	襷鉢			1								
	青磁	碗			1								
	陶器	不明			1								
	磁器	碗			2								
	小 計		2	0	16	4	0	0	0	0	0		
10 ー ニ、 ホ (竪穴住居址)	須恵器	甕		1	4								
	土師器	不明	1									5 細片4	
	瓦質土器	皿				1							
		鍋鉢				1							
	青磁	不明										2 細片	
		碗	3			1						口縁部のうち2つが竜泉窯、 1つが同安窯	
	陶器	皿				1							
		碗	2			3							
	磁器	皿				1							
		襷鉢	1			2							
チャート	碗	3			8	1						底部染付、胴部のうち、1 つが染付	
	不明				1							剥片1	
小 計		10	1	22	3	0	0	0	0	0	7		
境 竹 ノ ハ、 ニ、 ホ 7 ー へ	須恵器	甕			2								
	土師器	高坏					1						
		不明			2								
	瓦質土器	襷鉢	1		1	1							口縁部…片口
		鉢				1							
	青磁	不明				3							
		甕				2							
	陶器	碗					1						2 次焼成
鉢					1	2						5 破片…同一個体	
磁器	襷鉢				1								
	不明				4								
不明	碗	3			4	4						口縁部のうち1つ染付	
	不明											1 破片1… $\frac{1}{2}$ 残存、染付	

出土地点 (グリッド D番号)	種	類	口縁部	頸部	胴部	底部	坏部	脚部	蓋縁	蓋天井部	つまみ	部位不明	備	考
小	計		4	0	21	8	0	1	0	0	0	6		
7 └ Pit L-1	土師器	不明										2	破片	
	瓦質土器	不明										1	破片	
	陶器	皿 壺			1								ほぼ完形	
	磁器	碗 不明										1	破片… $\frac{1}{2}$ 残存	
小	計		0	0	1	0	0	0	0	0	0	7		
8 └ 第1溝	2層 陶器	播鉢			1									
	須恵器 瓦質土器 磁器	甕 火舎 碗			1									
				1		3	2							底部のうち1つは染付
小	計		1	0	5	2	0	0	0	0	0	0		
10 └ 土 └ 墓	須恵器	高坏 甕 坏						1						
		壺	1		4	1								
	土師器	高坏 坏			1									
		不明 碗				7	2						16	破片
		不明 播鉢				7	2							
	瓦質土器	不明 碗				7								
		不明 播鉢				2								
	陶器	不明											4	破片
		不明											10	破片
		不明												器種不明2、鉄釘(?) 2、丸玉1
小	計		1	1	22	4	0	1	0	0	0	30		
集石遺構	須恵器	壺 不明			1									
		皿			1									
	土師器	不明 播鉢				4							4	細片
		瓦質土器	不明 播鉢			3								

出土地点 (グリッド 番号)	種類	口縁部	頸部	胴部	底部	坏部	脚部	蓋縁	口蓋井部	つまみ	部位不明	備考
10 ー へ	集石遺構				1					1		蓋…つまみ欠損、他は完形
	陶器	不明			3							3 破片
	磁器	鉢	1									
	チャート	碗	9		7	7						
		皿			1	1						
		壺		1								チップ1
小計			10	1	12	8	0	0	0	1	0	3
第II ト レン チ	須恵器	甕			1							
		壺		1	2							
		坏							1			
	土師器	皿				2						糸切底
		不明			1							6 細片
		坏							1			蓋
	瓦質土器	鉢	1									
	青磁	碗			3	1						胴部のうち1つは同安窯
		皿				1						底部のうち1つは同安窯
	陶器	鉢	1									
		碗	1									
		甕	1		1							
	壺			1								
	摺鉢			1								
	不明										2 細片	
磁器	碗	5		8	2						口縁部のうち1つ、胴部のうち5つ、底部のうち1つ染、付染付	
	皿				1							
	壺	1										
	黒曜石											チップ2
小計			10	1	18	7	0	0	0	2	0	8
溝	土師器	皿			4	2						
		不明										2 破片
	陶器	皿			1							
	鉢					1						
	不明											2 破片2

出土地点 (グリット ト番号)		種 類	口縁部	頸部	胴部	底部	坏部	脚部	蓋縁	蓋井部	つまみ	部位不明	備 考	
溝	磁 器	甕	1										宋白磁	
		皿	1											
		碗	3		6	2								
		白磁碗	2		2									
小 計			7	0	13	5	0	0	0	0	0	4		
一 括 資 料	須恵器	壺		1	2								底部…糸切底、ヘラ切 円塗 口縁部…竜泉窯 3 破片3…同一個体 細片であり風化が激しく識別できない(47) チップ1 11塊、えつり竹の型有り 破片 1	
		甕		1	6									
		不明			1	1								
		土師器	皿	1			9							
		坏	1											
		壺	1											
		甕	2	1	1									
		不明				19								
		高坏						1						
	瓦質土器	搦鉢						1						
		鉢						1						
		火舎						1						
		不明				1								
	青磁	碗	1		2	1								
		鉢	1											
	磁器	碗	1		6	2								3
皿					1	1								
	壺				1									
	不明				1									
弥生 土師器 か弥生	甕				4									
	不明													
チャート	壁土													
	土石鍋											1		
	鉄片											1		
小 計			8	3	47	17	1	0	0	0	0	5		
B地区	3号溝中	須恵器			4									
		不明			1								1	

部土地点 (グリット ト番号)	種	類	口縁 部	頸部	胴部	底部	坏部	脚部	蓋縁 口	蓋天 井部	つま み	部位 不明	備	考	
B地区 3号溝中	土師器	甕			4										
		坏	1												
	瓦質土器	不明			7								7	細片	
		皿											1	破片	
		甕	1												
青磁 陶器	不明			1								1	破片		
	碗	3													
		不明										3	破片		
		碗	2												
小計			7	0	17	0	0	0	0	0	0	13			
一括	須恵器 土師器	甕		1											
		皿				2									
	瓦質土器	不明											8	細片	
		鉢	1												
		碗	1												同安窯
青磁 磁器	碗	2													
	不明											2	細片		
小計			4	1	0	2	0	0	0	0	0	10			
総計			379	16	866	400	9	11	0	5	0	605			

(丸山)

第13表 柱穴一覧表 (B・C地区)

グリッド号	柱番 穴号	柱穴周辺 部海拔高 (m)	柱穴底面 海拔高 (m)	柱穴の 深さ (m)	グリッド号	柱番 穴号	柱穴周辺 部海拔高 (m)	柱穴底面 海拔高 (m)	柱穴の 深さ (m)
6-ハ	S-1	36.57	36.22	0.35		S-8	36.59	36.36	0.23
	7-ハ	L-1	36.16	—		S-9	36.55	36.17	0.38
						S-10	36.55	—	—
8-ハ	L-1	36.24	36.07	0.17	8-ニ	L-1	36.55	35.99	0.56
	L-2	36.24	35.73	0.51		L-2	36.59	35.75	0.84
	L-3	36.27	35.94	0.33		L-3	36.65	36.02	0.63
	L-4	36.29	35.92	0.37		L-4	36.57	35.90	0.67
	L-5	36.29	35.74	0.55		L-5	36.64	36.15	0.49
9-ハ	L-1	36.23	35.98	0.25		L-6	36.64	35.79	0.85
	L-2	36.23	36.06	0.17		L-7	36.65	36.20	0.45
	L-3	36.23	35.67	0.56		L-8	36.62	36.46	0.16
	L-4	36.24	35.27	0.97		L-9	36.62	36.21	0.41
	L-5	36.24	35.73	0.51		L-10	36.62	36.26	0.36
	L-6	36.24	35.89	0.35		L-11	36.59	35.93	0.66
	L-7	36.24	35.62	0.62		L-12	36.59	35.9	0.69
6-ニ	L-1	36.41	36.23	0.18	8-ニ	S-1	36.55	36.25	0.30
	L-2	36.55	35.69	0.86		S-2	36.62	36.51	0.11
7-ニ	L-1	36.53	36.43	0.10		S-3	36.62	36.03	0.59
	L-2	36.42	35.78	0.64		S-4	36.62	—	—
	L-3	36.53	36.20	0.33		S-5	36.59	36.34	0.25
	L-4	36.42	—	—		S-6	36.59	36.36	0.23
	L-5	36.42	—	—		S-7	36.57	36.23	0.34
	L-6	36.64	36.07	0.57		S-8	36.57	36.32	0.25
	L-7	36.64	36.13	0.51		S-9	36.55	35.96	0.59
7-ニ	S-1	36.64	36.49	0.15		S-10	36.55	36.29	0.26
	S-2	36.64	36.42	0.22	S-11	36.55	36.37	0.18	
	S-3	36.64	36.49	0.15	S-12	36.55	36.47	0.08	
	S-4	36.62	36.39	0.23	S-13	36.55	36.35	0.20	
	S-5	36.62	36.37	0.25	S-14	36.64	36.52	0.12	
	S-6	36.64	36.32	0.32	S-15	36.62	36.26	0.36	
	S-7	36.64	36.54	0.10	S-16	36.56	36.27	0.29	
				S-17	36.62	36.50	0.12		
				S-18	36.62	36.37	0.25		

グリッド号	柱番 穴号	柱穴周辺 部海拔高 (m)	柱穴底面 海拔高 (m)	柱穴の 深さ (m)	グリッド号	柱番 穴号	柱穴周辺 部海拔高 (m)	柱穴底面 海拔高 (m)	柱穴の 深さ (m)	
8-ニ	S-19	36.62	—	—	7-ホ	L-10	36.59	36.37	0.22	
	S-20	36.62	—	—		L-11	36.48	36.27	0.21	
	S-21	36.62	—	—		L-12	36.48	36.31	0.17	
	S-22	36.59	35.92	0.67		L-13	36.48	36.23	0.25	
	S-23	36.59	36.0	0.59		L-14	36.59	36.03	0.56	
9-ニ	L-1	36.62	35.50	1.12		L-15	36.65	36.34	0.31	
	L-2	36.57	35.47	1.10		L-16	36.65	36.24	0.41	
	L-3	36.62	36.22	0.40		L-17	36.64	36.15	0.49	
	L-4	36.62	35.72	0.90		L-18	36.63	36.32	0.31	
	L-5	36.39	35.78	0.61		L-19	36.63	36.37	0.26	
	L-6	36.54	35.74	1.07		L-20	36.65	36.37	0.28	
	L-7	36.55	36.32	0.23		L-21	36.63	36.44	0.19	
	L-8	36.49	35.99	0.50		7-ホ	S-1	36.59	—	—
	L-9	36.51	36.03	0.48			S-2	36.59	36.43	0.16
	L-10	36.55	36.35	0.20			S-3	36.65	36.46	0.19
	L-11	36.55	36.08	0.47	S-4		36.65	36.45	0.20	
	L-12	36.58	36.17	0.41	S-5		36.65	36.49	0.16	
	L-13	36.58	36.03	0.55	S-6		36.65	36.49	0.16	
	L-14	36.58	—	—	S-7		36.63	—	—	
9-ニ	S-1	36.62	—	—	8-ホ	L-1	36.66	36.42	0.24	
6-ホ	L-1	36.65	36.15	0.50		L-2	36.66	36.44	0.22	
	L-2	36.61	36.10	0.51		L-3	36.66	36.05	0.61	
	L-3	36.67	36.19	0.48		L-4	36.67	36.09	0.58	
7-ホ	L-1	36.57	35.9	0.67		L-5	36.67	35.7	0.97	
	L-2	36.57	36.28	0.29		L-6	36.65	36.57	0.08	
	L-3	36.66	36.38	0.28	L-7	36.66	—	—		
	L-4	36.56	36.38	0.18	L-8	36.65	35.96	0.69		
	L-5	36.61	36.39	0.22	L-9	36.66	35.9	0.76		
	L-6	36.48	36.17	0.31	L-10	36.68	36.04	0.64		
	L-7	36.36	36.21	0.15	L-11	36.66	—	—		
	L-8	36.36	36.08	0.28	L-12	36.65	36.39	0.26		
	L-9	36.59	36.37	0.22	8-ホ	S-1	36.65	36.51	0.14	
				S-2		36.65	36.49	0.16		

グリッド 番号	柱 番	穴 号	柱穴周 辺海抜 高(m)	柱穴底 面海抜 高(m)	柱穴の 深さ (m)	グリッド 番号	柱 番	号 穴	柱穴周 辺海抜 高(m)	柱穴底 面海抜 高(m)	柱穴の 深さ (m)
8-ホ	S-3	S-3	36.65	36.51	40.1	9-ホ	L-10	L-10	36.66	36.03	0.63
		S-4	36.67	—	—			L-11	36.68	35.88	0.8
		S-5	36.66	36.49	0.17			L-12	36.67	35.76	0.91
		S-6	36.65	36.40	0.25			L-13	36.69	36.35	0.34
		S-7	36.65	36.37	0.28			9-ホ	S-1	36.67	36.55
	S-8	36.65	36.55	0.10	S-2	36.67	36.58		0.09		
	S-6	36.65	36.88	-0.23	S-3	36.67	36.47		0.20		
	S-10	36.65	36.38	0.27	S-4	36.68	—		—		
	S-11	36.65	36.47	0.18	S-5	36.64	36.48		0.16		
	S-12	36.65	36.55	0.10	S-6	36.64	36.46		0.18		
	S-13	36.65	36.32	0.33	S-7	36.68	36.47		0.21		
	S-14	36.65	36.57	0.08	S-8	36.68	36.58		0.10		
	S-15	36.65	36.44	0.21	S-9	36.68	—		—		
	S-16	36.64	36.50	0.14	S-10	36.68	36.59		0.09		
	S-17	36.65	36.39	0.26	S-11	36.68	36.50		0.18		
	S-18	36.65	36.43	0.22	S-12	36.68	36.47		0.21		
	S-18	36.65	36.57	0.08	S-13	36.68	36.59		0.09		
	S-20	36.65	36.56	0.09	S-14	36.68	36.34		0.34		
	S-21	36.65	36.27	0.38	S-15	36.67	—		—		
	S-22	36.65	36.56	0.90	S-16	36.68	36.47		0.21		
	S-23	36.65	36.50	0.15	S-17	36.65	36.41		0.24		
	S-24	36.65	36.38	0.27	S-18	36.65	36.60		0.05		
	S-25	36.65	36.17	0.48	S-19	36.65	36.55		0.10		
	S-26	36.65	36.46	0.19	S-20	36.66	36.19		0.47		
	S-27	36.65	—	—	S-21	36.65	36.59	0.06			
	9-ホ	L-1	L-1	36.68	35.83	0.85	S-22	36.65	36.55	0.10	
			L-2	36.68	35.71	0.97	S-23	36.65	36.52	0.13	
L-3			36.68	—	—	S-24	36.65	36.16	0.49		
L-4			36.68	36.33	0.35	S-25	36.67	36.31	0.36		
L-5			36.68	35.91	0.77	S-26	36.67	36.55	0.12		
L-6			36.68	35.95	0.73	S-27	36.67	36.40	0.27		
L-7			36.69	35.54	1.15	S-28	36.67	36.54	0.13		
L-8			36.69	—	—	S-29	36.67	36.34	0.33		
L-9			36.69	—	—	S-30	36.67	36.45	0.22		

グリッド号	柱番	穴号	柱穴周辺 部海拔高 (m)	柱穴底面 海拔高 (m)	柱穴の 深さ (m)	グリッド号	柱番	穴号	柱穴周辺 部海拔高 (m)	柱穴底面 海拔高 (m)	柱穴の 深さ (m)		
8-ホ	S	S-31	36.68	36.50	0.38	11-ホ	S	S-3	36.59	—	—		
		S-32	36.68	36.54	0.14			S-4	36.59	36.30	0.29		
		S-33	36.66	36.17	0.49			S-5	36.53	36.34	0.19		
		S-34	36.66	36.49	0.17			S-6	36.46	36.46	0		
		S-35	36.68	—	—			S-7	36.46	36.49	-0.03		
		S-36	36.68	36.36	0.32			S-8	36.46	36.36	0.10		
		S-37	36.67	36.24	0.43			3-へ	L	L-1	37.61	37.07	0.54
		S-38	36.67	—	—					L-2	37.45	37.15	0.30
10-ホ	L	L-1	36.52	36.24	0.28	3-へ	S	S-1	37.44	37.13	0.31		
10-ホ	S	S-1	36.63	36.52	0.11			S-2	37.67	37.43	0.24		
		S-2	36.63	36.38	0.25	4-へ	L	L-1	37.68	37.35	0.33		
		S-3	36.63	—	—			L-2	37.63	37.29	0.34		
		S-4	36.64	36.37	0.27			L-3	37.66	37.25	0.41		
		S-5	36.64	36.35	0.29			L-4	37.66	37.4	0.26		
		S-6	36.64	36.58	0.06			L-5	37.65	37.23	0.24		
		S-7	36.64	36.50	0.14	4-へ	S	S-1	37.67	37.44	0.23		
		S-8	36.64	36.50	0.14			S-2	37.67	37.55	0.12		
		S-9	36.53	36.34	0.19			S-3	37.67	37.45	0.22		
		S-10	36.54	36.34	0.20			S-4	37.68	37.41	0.27		
		S-11	36.54	36.42	0.12			S-5	37.63	73.38	0.25		
		S-12	36.53	36.47	0.06			S-6	37.65	37.63	0.02		
		S-13	36.53	36.47	0.06			S-7	37.63	37.36	0.27		
		S-14	36.54	36.39	0.15			S-8	37.58	37.41	0.17		
		S-15	36.55	—	—			S-9	37.66	37.52	0.14		
		S-16	36.55	—	—			S-10	37.64	37.29	0.35		
		S-17	36.55	36.40	0.15			S-11	37.66	37.48	0.18		
		S-18	36.53	36.44	0.09	5-へ	L	L-1	37.61	—	—		
		S-19	36.52	—	—			5-へ	S	S-1	37.61	—	—
		S-20	36.52	36.57	-0.05	S-2	37.61			—	—		
		S-21	36.52	—	—	S-3	37.61			—	—		
		S-22	36.52	36.45	0.07	S-4	37.61			37.52	0.09		
11-ホ	S	S-1	36.59	—	—								
		S-2	36.59	36.26	0.33								

グリッド号	柱番	穴号	柱穴周辺 部海拔高 (m)	柱穴底面 海拔高 (m)	柱穴の 深さ (m)	グリッド号	柱番	穴号	柱穴周辺 部海拔高 (m)	柱穴底面 海拔高 (m)	柱穴の 深さ (m)	
6-ヘ	S	5	37.61	-	-	4-ト	L	2	37.75	37.49	0.26	
		6	37.61	37.34	0.27			3	37.75	36.45	1.30	
		7	37.62	37.48	0.14			4	37.75	36.75	1.00	
		8	37.62	37.41	0.21			5	37.77	36.97	0.80	
		9	37.62	37.48	0.14			6	37.76	37.17	0.59	
		10	37.61	37.08	0.53			7	37.72	37.21	0.51	
8-ヘ	L	1	36.70	36.41	0.29			4-ト	S	1	37.70	37.50
		2	36.71	36.22	0.49	2	37.69			37.24	0.45	
		3	36.68	36.57	0.11	3	37.71			37.48	0.23	
		4	36.70	36.52	0.18	4	37.71			37.59	0.12	
		5	36.69	36.44	0.25	5	37.79			37.62	0.17	
		6	36.69	36.28	0.41	6	37.76			37.65	0.11	
2-ト	L	1	-	-	-	S	7			37.72	-	-
		2	-	-	-		8			37.72	-	-
		3	-	-	-		9			37.77	-	-
2-ト	S	1	-	-	-	5-ト	L	1	37.67	36.89	0.78	
3-ト	L	1	37.68	37.24	0.44			2	37.70	37.03	0.67	
		2	37.69	36.79	0.90			3	37.71	36.62	0.09	
		3	37.72	36.84	0.88			4	37.73	37.44	0.29	
		4	37.70	37.53	0.17			5	37.72	36.65	1.07	
		5	37.57	37.46	0.11			6	37.73	37.47	0.26	
		6	37.72	37.15	0.57			7	37.68	37.45	0.23	
3-ト	S	1	37.68	-	-			8	37.70	37.42	0.28	
		2	37.67	37.49	0.18			9	37.69	37.25	0.44	
		3	37.67	37.58	-			10	37.82	37.37	0.45	
		4	37.67	-	-			11	37.83	37.54	0.29	
		5	37.67	37.47	0.20			12	37.75	-	-	
		6	37.67	37.41	0.26	5-ト	S	1	37.74	37.57	0.17	
		7	37.70	37.58	0.12			2	37.74	37.60	0.14	
		8	37.72	37.57	0.15			3	37.74	-	-	
4-ト	L	1	37.70	37.49	0.21			4	37.68	-	-	
								5	37.68	37.50	0.18	

グリッド 番	グリッド 号	柱 番	穴 号	柱穴周辺 部 海抜高 (m)	柱穴底面 海抜高 (m)	柱穴の 深 (m)	グリッド 番	グリッド 号	柱 番	穴 号	柱穴周辺 部 海抜高 (m)	柱穴底面 海抜高 (m)	柱穴の 深 (m)		
6-ト		L-1		37.81	—	—	9-ト		S-3		37.52	—	—		
		L-2		37.79	37.34	0.45			S-4		37.52	—	—		
		L-3		37.79	37.19	0.60			S-5		37.58	—	—		
		6-ト		L-4		37.73	37.45	0.28	9-ト		L-1		37.56	36.59	0.97
				L-5		37.75	37.63	0.12			L-2		37.52	37.16	0.36
				L-6		37.73	37.60	0.13			L-3		37.52	37.12	0.40
				L-7		37.73	37.37	0.36			L-4		37.22	37.16	0.06
S-1				37.81	—	—	L-5				37.52	—	—		
S-2				37.79	37.46	0.33	L-6				37.52	—	—		
S-3				37.67	37.40	0.27	L-7				37.52	—	—		
S-4		37.75	37.53	0.22	L-8		37.52	—			—				
S-5		37.68	37.57	0.11	L-9		37.52	—			—				
S-6		37.64	—	—	L-10		37.56	—			—				
7-ト		L-1		37.57	—	—	L-11				37.56	—	—		
		L-2		37.57	—	—	L-12				37.30	36.92	0.38		
		L-3		37.57	—	—	L-13				37.57	36.67	0.90		
		L-4		37.59	37.48	0.11	L-14				37.57	—	—		
		L-5		37.59	—	—	L-15				37.57	—	—		
		L-6		37.59	—	—	L-16				37.57	—	—		
7-ト		S-1		37.57	—	—	L-17				37.57	—	—		
		S-2		37.57	—	—	L-18				37.51	36.85	0.66		
8-ト		L-1		37.57	37.46	0.11	9-ト				S-1		37.51	—	—
		L-2		37.54	37.28	0.26			S-2		37.51	—	—		
		L-3		37.52	36.81	0.71			S-3		37.51	—	—		
		L-4		37.53	37.05	0.50			S-4		37.57	—	—		
		L-5		57.58	36.77	0.81			S-5		37.56	—	—		
		L-6		37.56	37.09	0.47			S-6		37.51	—	—		
		L-7		37.57	37.47	0.10			S-7		36.59	—	—		
		L-8		37.52	37.23	0.29	10-ト		L-1		37.45	37.20	0.25		
		L-9		37.36	—	—			L-2		37.41	36.87	0.54		
8-ト		S-1		37.57	—	—	L-3		37.41	37.35	0.06				
		S-2		37.56	—	—	L-4		37.27	36.86	0.41				

グリッド 番	グリッド 号	柱 番	穴 号	柱穴周辺 部 海抜高 (m)	柱穴底面 海抜高 (m)	柱穴の 深さ (m)	グリッド 番	グリッド 号	柱 番	穴 号	柱穴周辺 部 海抜高 (m)	柱穴底面 海抜高 (m)	柱穴の 深さ (m)		
10-ト		L-5		37.45	—	—	3-チ		S-13		37.81	37.65	0.16		
		L-6		37.45	—	—			S-14		37.84	—	—		
		L-7		37.27	—	—			S-15		37.84	—	—		
		L-8		37.27	—	—			S-16		37.86	—	—		
10-ト		S-1		37.51	—	—			S-17		37.86	—	—		
		S-2		37.45	—	—			S-18		37.84	—	—		
									S-19		37.84	—	—		
2-チ		L-1		37.70	37.17	0.53	4-チ		L-1		37.78	37.44	0.34		
		L-2		37.83	37.79	0.04			L-2		37.78	37.46	0.32		
3-チ		L-1		37.81	37.61	0.20			L-3		37.90	37.40	0.50		
		L-2		37.82	37.57	0.25			L-4		37.85	37.82	0.03		
		L-3		37.84	37.41	0.43			L-5		37.70	37.57	0.13		
		L-4		37.90	37.61	0.29			L-6		37.70	—	—		
		L-5		37.90	37.82	0.08			L-7		37.65	37.05	0.60		
		L-6		37.83	37.67	0.16			L-8		37.89	37.80	0.09		
		L-7		37.83	37.77	0.06			L-9		37.90	37.64	0.26		
		L-8		37.88	37.13	0.75			L-10		37.93	37.52	0.41		
		L-9		37.93	37.75	0.18			L-11		37.93	—	—		
		L-10		37.89	37.84	0.05			L-12		37.92	—	—		
		L-11		37.86	37.78	0.08			L-13		37.92	37.79	0.13		
		L-12		37.87	37.79	0.08			L-14		37.88	37.79	0.09		
3-チ		S-1		37.84	—	—			L-15		37.91	—	—		
		S-2		37.85	37.60	0.25			L-16		37.90	37.88	0.02		
		S-3		37.85	37.84	0.01			L-17		37.90	37.87	0.03		
		S-4		37.86	—	—			L-18		37.95	37.87	0.08		
		S-5		37.85	37.65	0.20			L-19		37.95	37.89	0.06		
		S-6		37.85	37.46	0.39			5-チ		L-1		37.99	37.88	0.11
		S-7		37.85	37.66	0.19					L-2		37.95	37.88	0.07
		S-8		37.82	37.60	0.22					L-3		37.96	37.91	0.05
		S-9		37.83	37.68	0.15					L-4		37.85	37.88	0.07
		S-10		37.81	37.63	0.18					L-5		37.86	37.42	0.44
		S-11		37.81	37.67	0.14					L-6		37.88	37.81	0.07
		S-12		37.81	37.43	0.38			L-7		37.87	37.44	0.43		
							L-8		37.88	37.55	0.33				

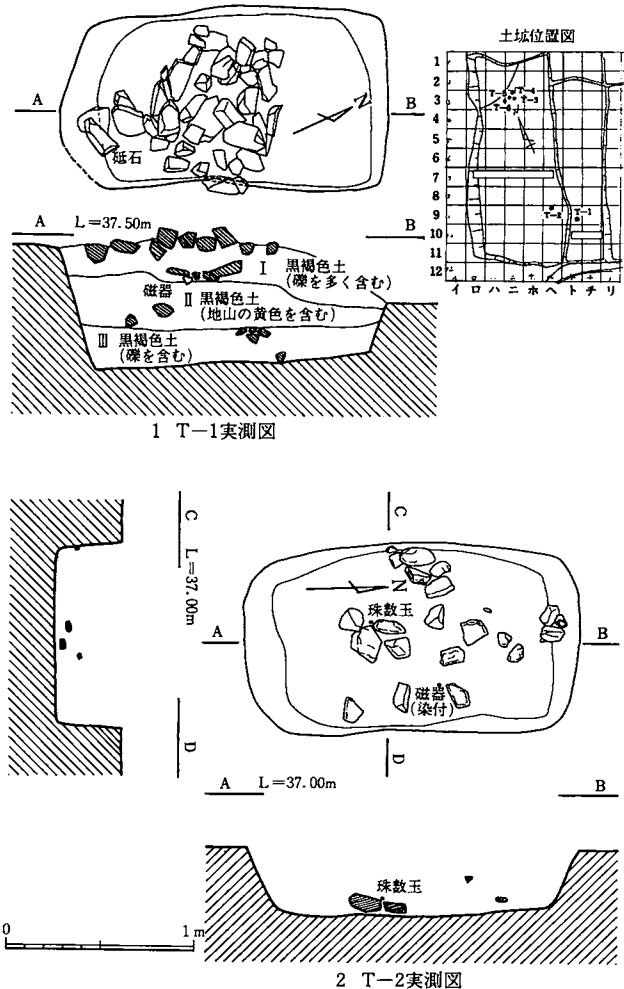
グリッド号	柱番	穴号	柱穴周辺 部海拔高 (m)	柱穴底面 海拔高 (m)	柱穴の 深さ (m)	グリッド号	柱番	穴号	柱穴周辺 部海拔高 (m)	柱穴底面 海拔高 (m)	柱穴の 深さ (m)
5-チ		S-1	37.80	37.69	0.11	9-チ		L-4	37.30	—	—
		S-2	37.85	37.63	0.22			L-5	37.30	—	—
		S-3	37.84	37.55	0.29			L-6	37.45	—	—
		S-4	37.85	37.72	0.13			L-7	37.50	—	—
6-チ		L-1	37.82	37.47	0.35	9-チ		S-1	37.57	—	—
		L-2	37.83	—	—			S-2	37.57	—	—
		L-3	37.83	37.42	0.41			S-3	37.57	—	—
		L-4	37.88	37.77	0.11	10-チ		L-1	37.50	36.92	0.58
		L-5	37.77	37.62	0.15			L-2	37.50	36.84	0.66
		L-6	37.84	37.30	0.54			L-3	37.50	36.86	0.64
		L-7	37.84	37.13	0.71	10-チ		S-1	37.50	—	—
		L-8	37.92	37.80	0.12			3-リ		L-1	37.86
		L-9	37.86	37.83	0.03	L-2	37.90			37.82	0.08
		L-10	37.89	37.80	0.09	5-リ		L-1	37.89	37.83	0.06
		L-11	37.90	37.73	0.17			L-2	38.02	37.85	0.17
		L-12	37.89	37.83	0.06	6 住 址 号 居 内		No. 1	36.39	36.21	0.18
		L-13	37.84	37.74	0.10			No. 2	36.39	36.17	0.22
		L-14	37.84	—	—			No. 3	36.39	36.28	0.11
6-チ		S-1	37.85	37.73	0.12			No. 4	36.39	36.09	0.30
		S-2	37.71	—	—			No. 5	36.39	36.20	0.19
S-3	37.66	—	—	No. 6	36.40			36.21	0.19		
S-4	37.66	—	—	No. 7	36.40			36.31	0.09		
7-チ		S-1	37.57	—	—			No. 8	36.40	36.29	0.11
		8-チ		L-1	37.58	—	—	11-ニ		No. 9	36.44
L-2	37.58			—	—	No. 10	36.44			36.29	0.15
8-チ		S-1	37.59	—	—	6 住 址 号 居 内		No. 11	36.42	36.32	0.10
		S-2	37.59	—	—			No. 12	36.42	36.32	0.10
		S-3	37.57	—	—			9-チ		L-1	37.45
L-2	37.30	—	—	L-2	37.30	—	—				
L-3	37.30	—	—	L-3	37.30	—	—				

8. B・C地区検出の土壙墓

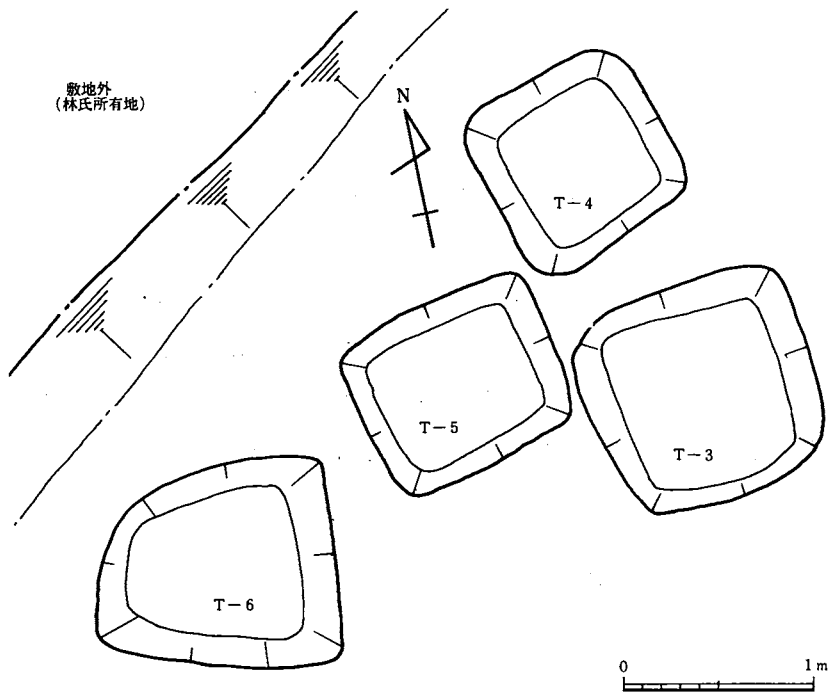
第92図3に6基の土壙墓の位置を示す。第1土壙墓はB地区9ーートグリッドから検出した。A地区からは9ーへグリッドにおいて第2土壙墓、3ーニグリッドにおいてTー3～6の計5墓が検出された。第3～6土壙墓については土地の古老も記憶しており、隣接した2枚の畑地を開田する時削平したとのことであった。削平したのは、話の様子からして、明治時代の終り頃のようなのである。第3～6土壙墓と同種の墓がC地区の西側、グリッドイ列より西にも存在したと同古老は語った。しかし、この部分については、耕地化する以前に墓と思われるものは全て発掘して改葬したとのことである。今回の発掘においては、排土の投棄場所の確保、排土の流出防止、農業用水路の保全等の諸般の事情から調査を断念した。

① 第1土壙墓（第92図1）

B地区の柱穴群中に上面に角礫をひいた状態で掘り方が9ーートグリッドから検出された。上部は開墾およびバックフォによる表土の排除作業により削平されたために明らかでない。土壙は長軸を北北東に向け、上辺1.1m、下辺1.0m、右辺0.9m、左辺0.9m、現況における深さ0.7mを測る。掘り方の平面形はほぼ長方形であるが左辺がふくらみ、歪んでいる。床面はほぼ平であり右辺の方がいくぶん高くなっている。埋土は黒褐色土であるが、礫と地山の黄褐色土の含み方から第I～III層に区分した。第I層は黒褐色土で円礫や角礫を多く含む。礫の中に磁器片と砥石（砂岩製）が含まれていた。おそらくこれ等の礫群は墓標を建てるための基礎部分と思われる。



第92図 境遺跡第1・2号土壙墓実測図



第93図 第3・4・5・6土墳墓配置図

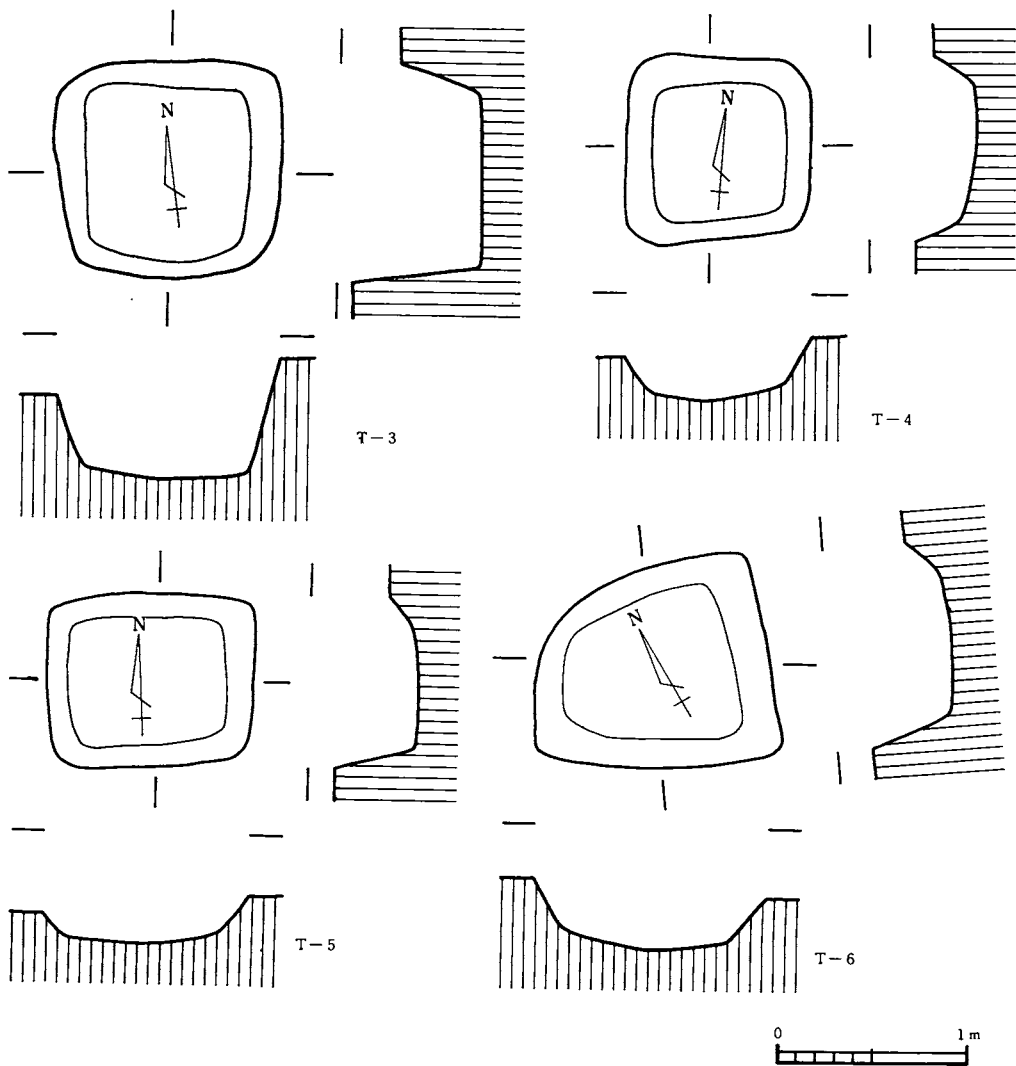
第Ⅱは黒褐色土に地山の黄褐色土を含む埋土である。第Ⅲ層は黒褐色土に地山に含まれている自然礫を含む埋土である。掘方の床面および第Ⅱ、Ⅲ層の埋土中からは何等遺物は検出されなかった。

② 第2土墳墓 (第92図2)

C地区ではあるが第1土墳墓を検出したグリッドと隣接したヘー9グリッドから検出した。掘り方の平面形は隅丸の長方形を呈し、長軸はほぼ北を向き、長軸1.76m、石軸0.97m、現況における深さ0.35mを測る。埋土は地山と同じ黄褐色土であり、円礫や角礫がまじる。床面はほぼ平であるが少し北側が高い。掘り方の上部は強く削平をうけているため上部構造は明らかでない。出土遺物として珠数玉と磁器(染付)がある。

③ 第3・4・5・6土墳墓 (第93・94図)

第3～5土墳墓は3ーニグリッド、第6土墳墓は3ーハと3ーニグリッドにまたいだ形で検出した。当遺構の上部は前述したように、明治の末頃に削平されたようである。各遺構ともほぼ方形の平面形を呈し、第3土墳墓は1.1×1.1×0.4m、第4土墳墓は1.0×1.0×0.15m、第5土墳墓は1.0×1.0×0.2m、第6土墳墓は歪が大きいけれど1.2×0.5×0.2mを測る。土墳中からの出土遺物としては、第5土墳墓から鉄片(器種不明1点)、第3土墳墓から鉄製の角釘



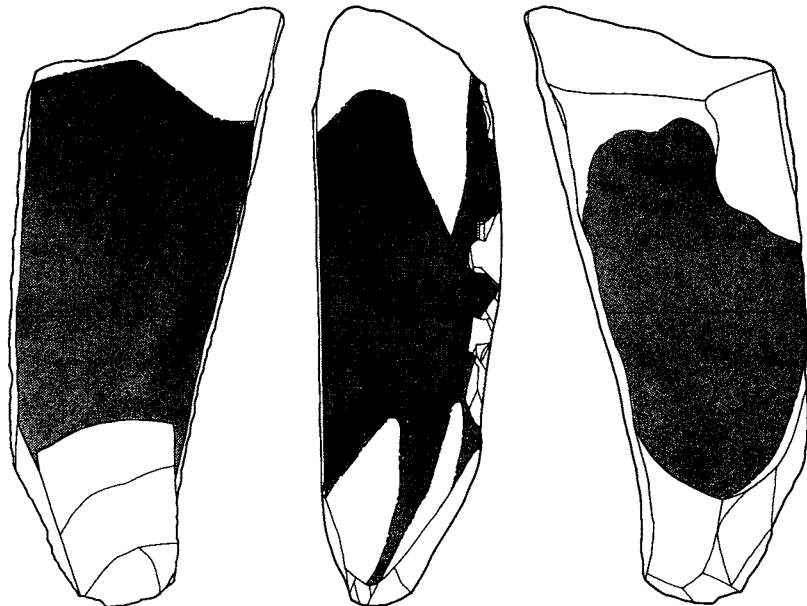
第94図 第3・4・5・6号土塚墓実測図 水系Level 36,700m

(1点)が検出された。

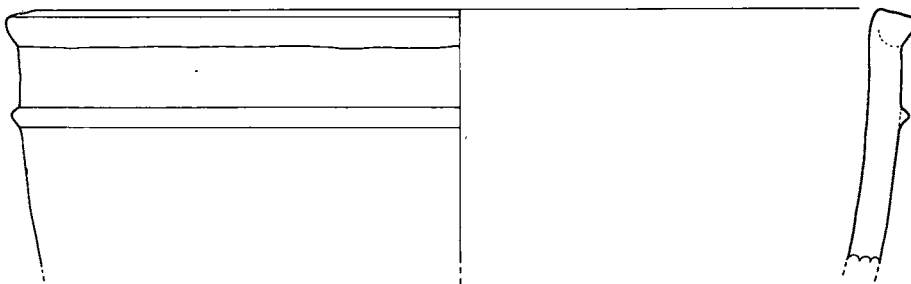
第95図 境遺跡(土塚墓)出土遺物

1. 砥石 第1土塚墓(B地区)の上面に乗っていた集石中から出土した。砂岩(長さ24cm)で断面はほぼ方形状(1辺が7~8cm)を呈する。3面に研面が残る。

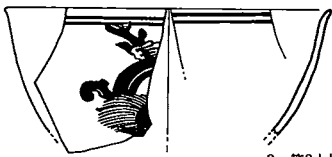
2. 瓦質土器火舎口縁部片 第2土塚墓(C地区9-ヘグリッド)の一括資料である。復元口径36.1cm、器厚1.3cmを測る。口唇部は折り曲って突帯状に整形され、上端は平坦になっている。口縁より下方4.0cmに巾0.8cm、高さ0.4cmの張り付け突帯が廻る。この突帯と口唇部との間に印文を施す。胎土中に微砂粒を含む。色調は灰白色を呈し、内面は2次焼成(投棄後と



1. 第1土坟墓



2. 第2土坟墓



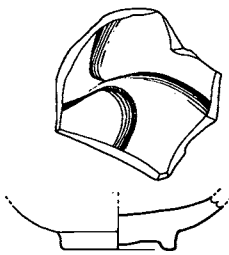
3. 第2土坟墓



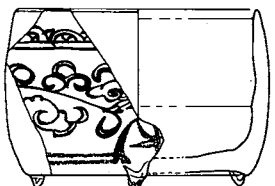
6. 第2土坟墓



7. 第2土坟墓



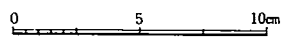
4. 第2土坟墓



5. 第2土坟墓



8. 第3-6土坟墓群上面



第95图 境遺跡(土坟墓)出土遺物

思われる)を受けており、煤が付着する。

3. 古伊万里染付碗 第2土壙墓より出土する。復元口径12.8cmを測る。外面には口縁近くに2条の線と胴部に亀もしくは竜の絵を染付している。

4. 青磁碗 見込みの部分のみ残る。高台径4.6cm、高台高0.2cmを測る。竜泉窯産の青磁碗である。

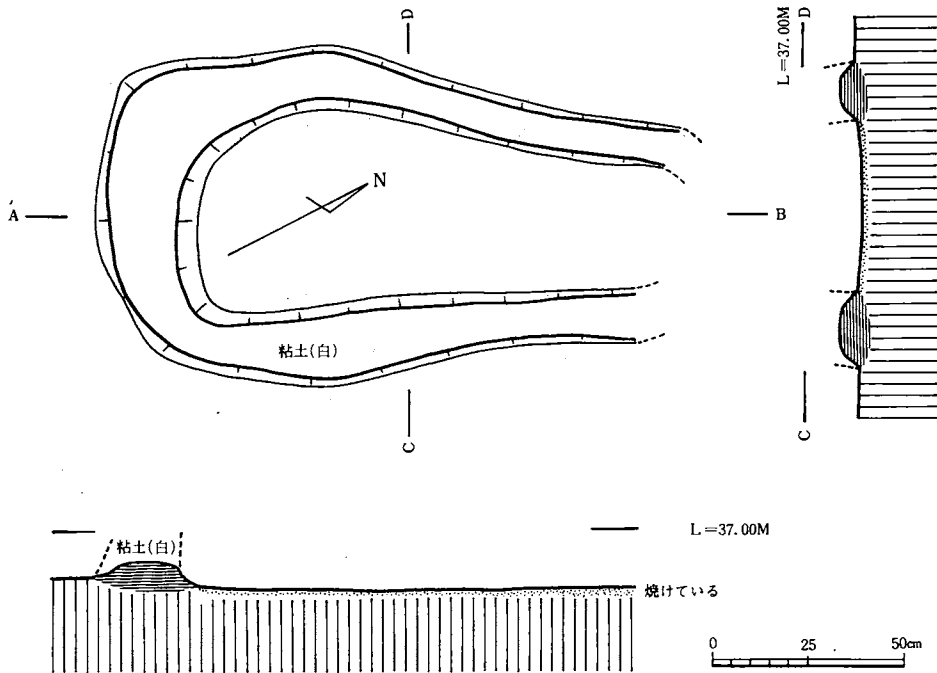
5. 明染付唐草文香炉 第2土壙墓より出土する。明代嘉靖以前の染付である。三足を持ち器表に良質の呉須でくっきりと唐草文を描いている。素地もまた良質である。復元口径9.7cm、器高6.1cmを測る。

6. 須恵器杯の身 第2土壙墓より出土する。底部はヘラ削り、胴部から立ち上り部にかけては横ナデが施されている。内面は横ナデによる整形がなされている。復元口径11.7cm、復元器高4.2cmを測る。

7. 須恵器杯の身 第2土壙墓より出土する。底部はヘラ削り、胴部および内面は横ナデによる整形がなされている。口径9.1cm、器高3.6cmを測る。

8. 古伊万里染付碗 3-ホグリッドII層(第3~6土壙墓の上面)から出土する。外面に3条の横線と草花文を染付している。

(村井)



第96図 製鉄遺構(炉址)

9. 製鉄遺構

6一ハグリッドの耕作土の下に焼土が存在することに、表土の排除直後気付いた。水田面下の鉄分集積層をうすくはぎとると周囲の土と異なる土（他所より持ってきた粘土）で西洋梨形に囲った部分が第96図に示すような形で表われた。粘土の厚さは5～7cm、幅12～30cmであり上部は完全に削平されている。粘土が焼けて、固くなっていることから炉と考えられる。

内部床面は幅30～50cm、奥行125cmを測る。床面は外壁の基部と思われる粘土ほどには焼けていない。床面はほぼ平坦であり、内と外とでは内側がわずか（3cm程度）に低い。A側（北側）が現状では開口しているので炉の口と考えるが削平されているので明らかでない。粘土を築きあげた下部には何等工事をしたようには見えなかった。

この炉の築かれている基盤は水田の耕作土の下層の鉄分集積層である。この層は乾燥するとひびわれがひどく、包含される遺物は中世から近世と思われる瓦質土器片・土師器片・陶磁器片等である。また炉の周辺（3m以内）から2個のスラグが検出されているので近世の初め頃の小鍛冶場の跡と推定される。 (村井)

10. ま と め

前述したように、境古墳群の調査中にA地区から住居址群を検出したことから、当遺跡の存在が明らかになった。A地区から検出された遺構は縄文時代の集石遺構・竪穴住居址群、B地区から検出された遺構は柱穴群・井戸状遺構・土壙墓・竪穴住居址・C地区から検出された遺構は柱穴群・土師器土器溜・炉址・土壙墓群・竪穴住居址である。以下、各遺構の推定される時代について述べたい。

1) A地区

縄文時代の遺物および遺構は第Ⅲ層から検出された。第Ⅰ層は水田耕作土、第Ⅱ層は水田の耕作土下に形成した鉄分集積層である。第Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ層ともに同質の岩石が風化してできた土と思われるが耕作や鉄分の集積がなされたために各層に分離されたのだと推測される。第Ⅲ層は黒褐色を呈する粘性の強い土から成る。この層に含まれる主な遺物は貝殻腹縁による刺突文を施した円筒状を呈する土器である。遺構としては第38図に示すような集石が検出されている。以上のことから、第Ⅲ層は縄文早期の遺物包含層と推定される。

6基の竪穴住居址の内 4基の竪穴住居址がA地区から検出されている。4基の中で1基は中世（瓦質土器・青磁を出土）、2基は古墳時代（土師器を出土）、1基は弥生時代（脚台付甕、石庖丁、免田式土器片を出土）の住居址である。B・C地区から検出された竪穴住居址の

時代は不明である。

2) B 地区

B地区は北半分が蜜柑園、南半分が水田であったため、遺構の説明は南北にわけて行ったが、両地区とも遺構の年代的差異は考えられない。方形状のプランを持つ大型の柱穴は近世、円形状のプランを持つ小型の柱穴は近世と中世のものが存在すると考えられる。

井戸状遺構はB地区の南端部に位置する。この遺構上をおおっていた石材は、井戸の北側を保護していた石垣がくずれたものと推定される。井戸の中から出土した主な遺物は瓦質土器、近世陶磁器、砥石、五輪塔等である。井戸の使用された時代は、遺跡一帯の柱穴群と同じと推定される。この遺構は江戸時代初期から中期において拡充され、使用されていたと思われるが、何かの理由により、短期間のうちに埋没したと推測される。

3) C 地区

柱穴の形状はB地区と類似している。方形状のプランを持つ大型の柱穴は江戸時代初期から中期の遺構と推定される。この柱穴の並び方から12坪から30坪程度の数基の建物が推定されるが、柱と柱の間隔が対応する部分と対応しない部分があるので、建物の復元形を決定しがたい。円形状のプランを持つ小型の柱穴は中世、近世の両時代のものが存在する。

B・C地区から検出された6基の土壙墓の中で、長方形プランを有する第1・2土壙墓は、出土遺物から、江戸時代初期と推定される。第3～6土壙墓は江戸時代中期から後期と思われる。明治時代にこの土地は水田化したのであるから、明治時代以前の墓と推定される。

製鉄遺構と称したのは製鉄用の炉址である。炉が築かれている基盤の土中から中世から近世の遺物が検出されていることから、C地区一帯から検出された柱穴群と同時代のものと推定される。

以上1)、2)、3)、4)に各遺構遺物の推定される時代について述べた。今回の調査で縄文時代早期、弥生時代の遺構を検出したことは、竜峰山山腹において今後、これ等の時代の遺跡を新しく発見できることを示すと思われる。

柱穴群の大部分は江戸時代初期から中期にかけての遺構であることが解った。建物の復元については、建築に明るい方々の御教示を得れば幸いです。

4) 境古墳群・境遺跡から出土した近世陶磁器

2・3号墳から多量の近世陶磁器と中世の遺物が検出された。古墳から検出した陶磁器と柱穴群から検出した陶磁器を比較してみても、器種・器形ともに類似するものが大部分である。特に多量に出土した古伊万里染付と銅釉も灰釉をかけた嬉野焼の碗や皿は時代決定の良い指標

となつて思われる。馬場氏の御教示によるとこれ等は全て、江戸時代前期から中期のものであるとのことである。古墳から出土した近世陶磁器は、今回検出された柱穴群一帯の村落で使用されたものであろう。破損又は不用になったものを投棄したものと考えられる。江戸中期の陶磁器については不明なものも有つたので、今後熊本県内における窯の製品と比較検討する必要がある。ところで、7-ホグリッドL-10ピット検出の柱根のC¹⁴ の測定結果が、 270 ± 75 Y B.P. (265 ± 70) であることは、方形状の大型のピットの年代を推定する上でも、近世の陶磁器の年代を推定する上でも、大きな意味があると思われる。 (村井)

参 考 文 献

- 東京国立博物館 日本出土の中国陶磁器 昭和53年6月
三 上 次 男 有田天狗谷古窯 昭和47年8月 有田町教育委員会
佐賀県立博物館 古唐津(肥前陶器の歴史と美を探る) 昭和53年10月
吉 田 光 邦 やきもの(増補版) 昭和48年5月 日本放送出版協会
田賀井 秀 夫 入門やきものの科学 昭和49年12月 共立出版株式会社
社団法人 鹿児島県共済会南風病院 壱野(冷水)窯址(薩摩焼古窯) 昭和53年8月
後 藤 茂 樹 世界陶磁器全集2・3 昭和52年12月 小学館

付論 年の神2号墳

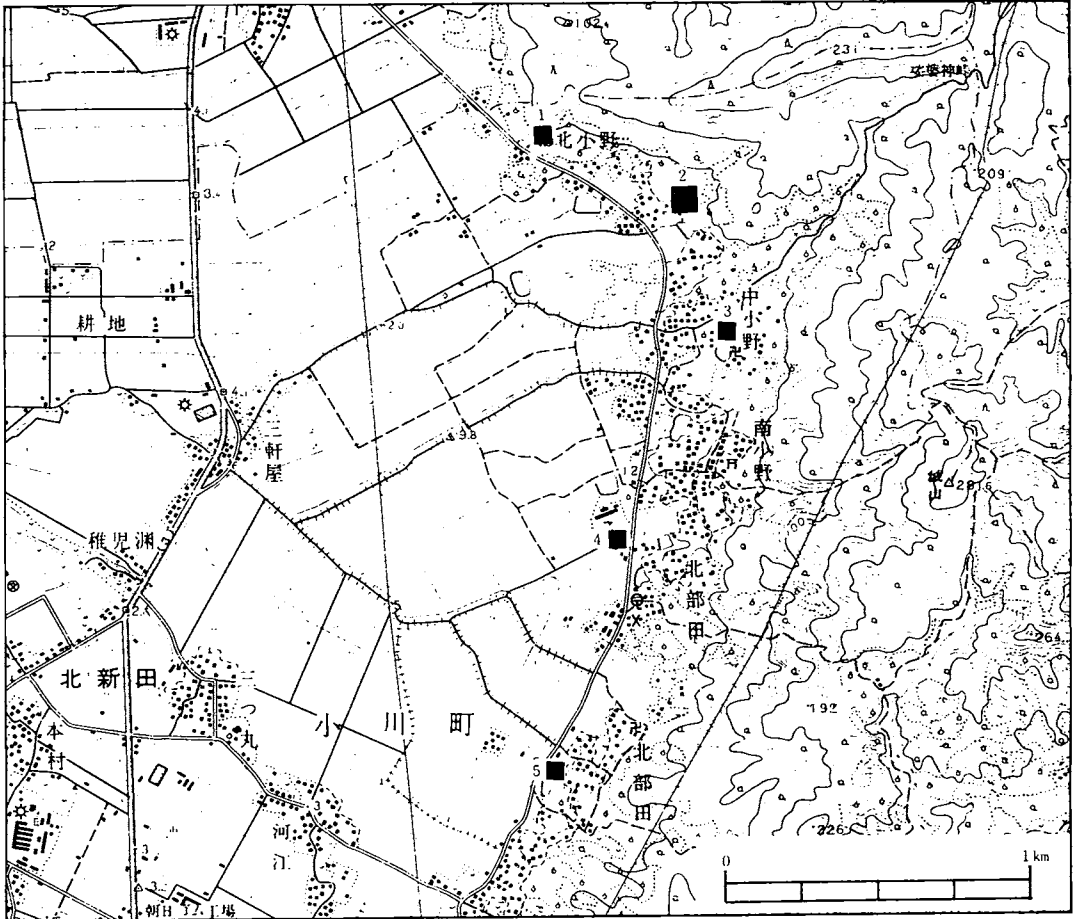
熊本県下益城郡小川町北小野

松 本 健 郎

勢 田 広 行

年の神 2号墳

1. 年の神遺跡群の位置と概要 (第1・2図)



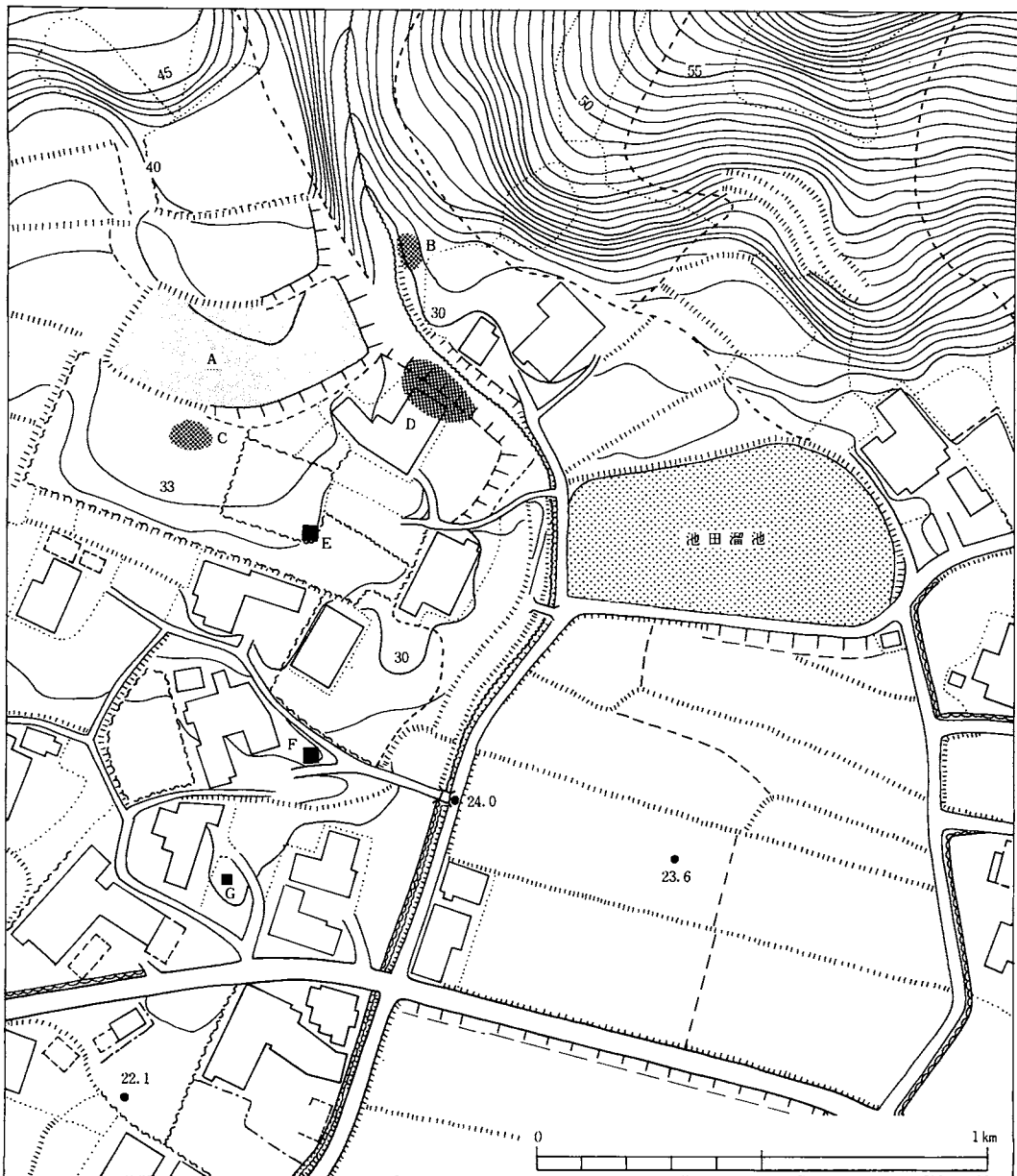
付論第1図 遺跡位置図

1.西平古墳 2.年の神遺跡群 3.中小野遺跡(A地区) 4.立田遺跡 5.高倉遺跡

年の神遺跡群は、熊本県下益城郡小川町北小野字年の神に所在し、遺跡地一帯は俗に『陣』と呼ばれている。

第1図に示すとおり、平野部と山塊との接点にあたる丘陵部に遺跡が点在し、現在の集落もこの山麓線に沿って形成されている。年の神遺跡群の立地する丘陵は、ほぼ南北にのびる標高30m前後の舌状を呈し、この丘陵の東側を中心に古墳～近世の遺跡が残されている。

九州縦貫自動車道建設に伴う事前踏査において小規模な貝塚の存在することが確認され、昭和49年5月～10月、熊本県教育委員会が発掘調査を実施した。



付論第2図 年の神遺跡群地形図 A古代～近世遺構群、B～D貝塚、E2号墳、F1号墳、G布目瓦出土地

この自動車道路線内の調査では、貝塚（古墳時代・中世・近世）、土壙（墓）、溝、柱穴等
 を検出したが、その南側に隣接して年の神2号墳、同1号墳、布目瓦出土地等があり（第2図）
 これらを総括して年の神遺跡群と呼ぶことにした。

ここでは、その中の年の神2号墳について紹介する。

2. 年の神 2 号墳の調査

年の神 2 号墳はかなり古くからその存在を知られており、昭和33年の松本雅明・富樫卯三郎氏らによる 1 号墳の調査時にもその存在が確認されている^{註1}。

昭和49年 5 月、自動車道路線内文化財調査に関連して記録作成を行ったが、土地所有者・吉田忠雄氏および小川町教育委員会から多大な援助を受けた。記して謝意を表するとともに、成果の公表が遅延したことをお詫びしたい。

(1) 現況および墳丘

古墳は開墾等によって著しく改変されており、墳丘は完全に削平されている。古墳の北側の自動車道路線にトレンチを設定して墳丘や周溝に関する観察を行ったが、何ら所見を得ることはできなかった。ただし、仮りに墳丘や周溝が遺存していると想定しても、石室と路線側端までは約20m離れており、その中間点に上述の所見が埋没している可能性が強い。その間はミカンが植えられており、発掘は行っていない。

石室はミカン園の端の高さ約1mの崖際にある。石材の一部は地上に露出し、現況でも古墳の石室であることが確認できた。

(2) 石室（第3図）

石室は大きく破壊されており、奥壁と側壁が各一枚、コの字形死床の一部が遺存するにすぎない。

玄室の幅は1.8m前後を測るが、長さは不明である。遺存部での長さは約2.1mを測り、長方形プランであったことは明らかである。奥壁と側壁には各1枚の巨石が腰石として使用されており、それと同じような石材が石室南側に転がっている。これらはすべて石灰岩である。

床面にはコの字形死床が設けられ、仕切り石には凝灰岩の切石が用いられている。奥および左右の死床は幅50～60cmとやや広く、中央の通路は40cm前後である。

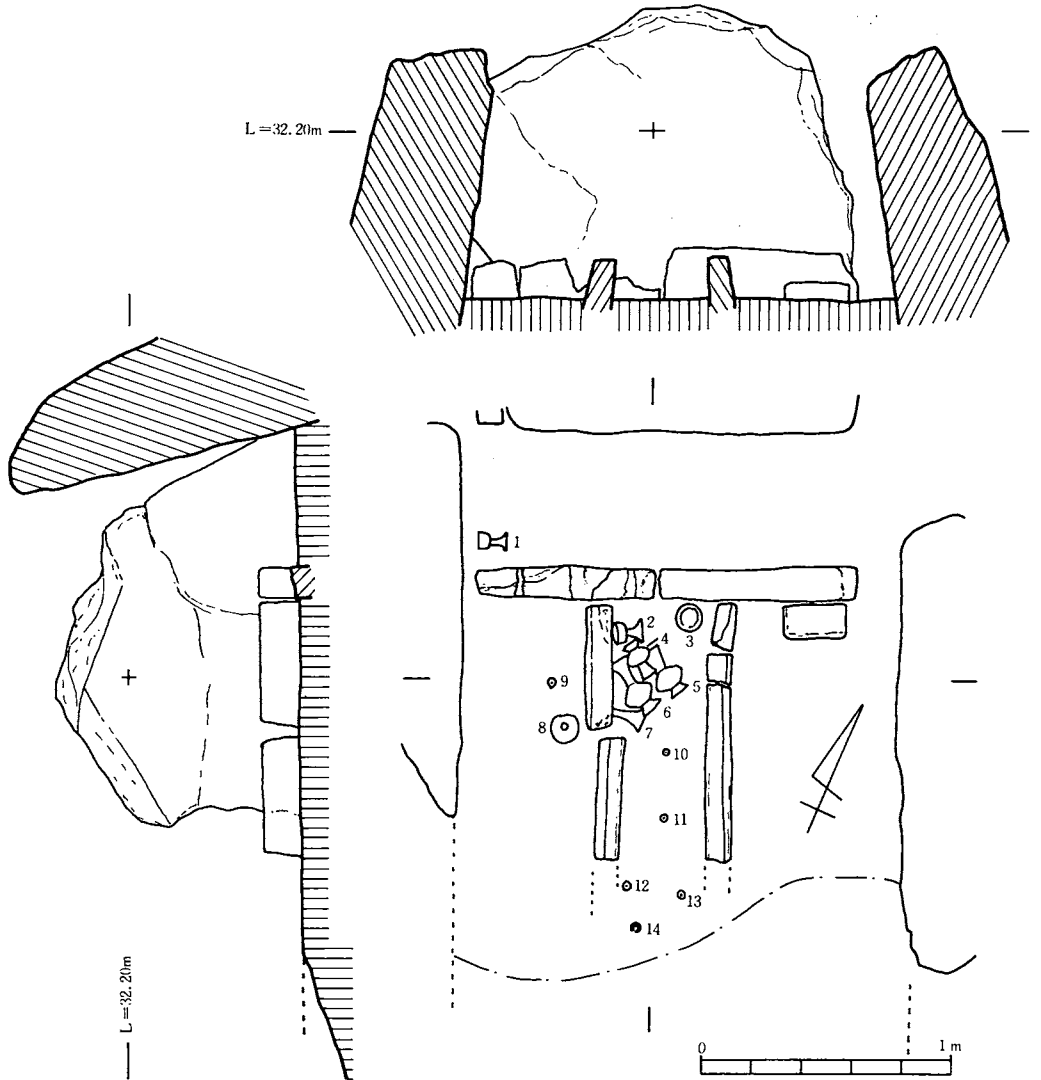
床面には礫や粘土等はみられないが、東側死床の北端には石枕状の切石（凝灰岩）が置かれている。

玄室の南側は攪乱、削平されており、仕切り石も抜き去られている。側壁や羨道の石も残らず、石室の規模や構造は不明である。

遺物は中央の通路奥を中心に須恵器・耳環・ガラス玉が出土したが、東側死床は無遺物である。北および西側死床から、粉状の人骨片と歯（2点）を検出したが、土地所有者の強い要望で直ちに中小野の正寿寺に無縁仏として納骨した。

これらの遺物はほぼ床面に密着した状態であったが、玉類のいくつか（第3図10～14）はわずかに浮いた状態であった。

(3) 遺物

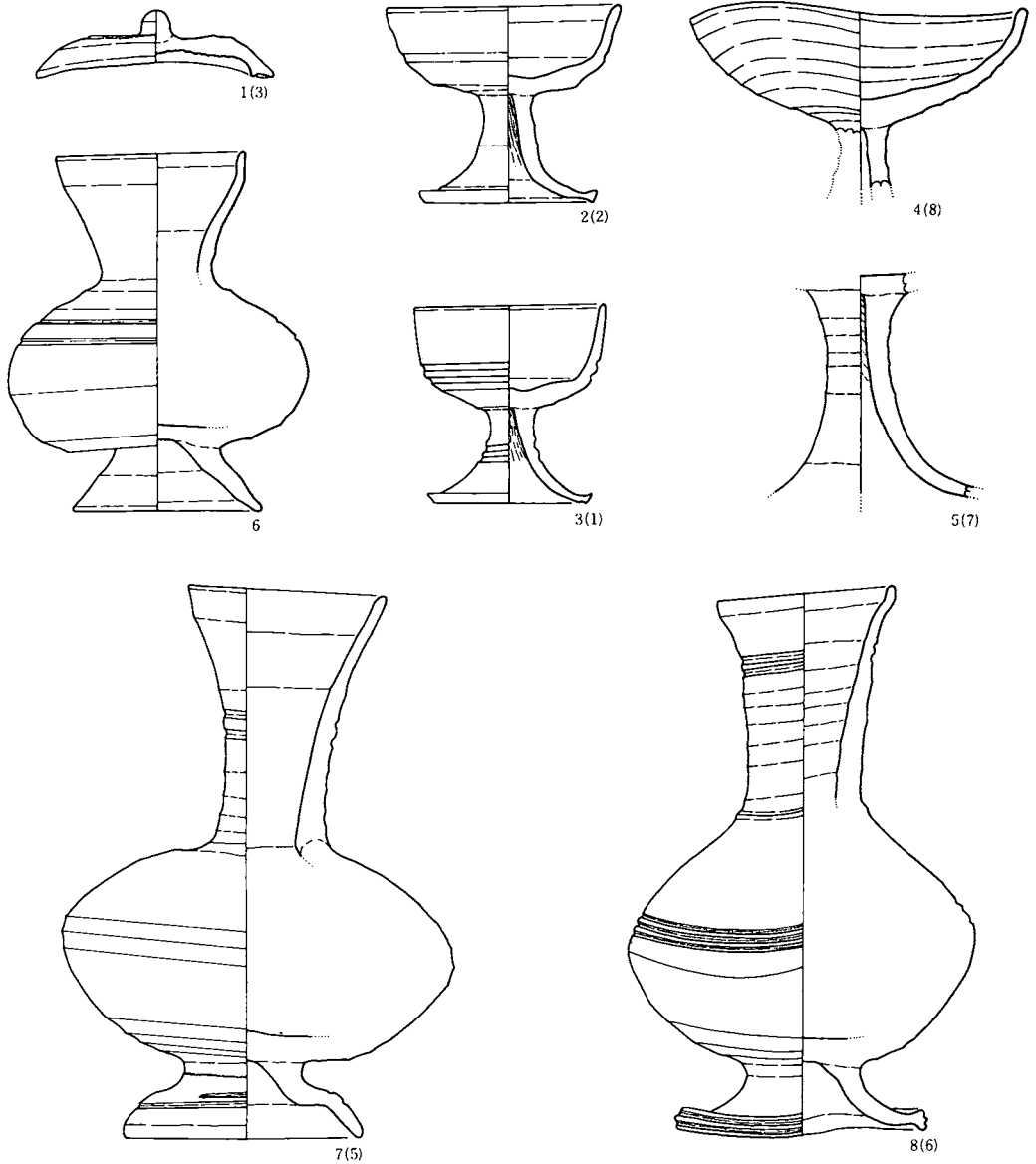


付論第3図 年の神2号墳石室実測図

須恵器（第4図）蓋・高坏・台付壺があり、出土総数は8個体である。4・5の高坏を除けば、他は完形品が多い（8の口縁部と脚端部がわずかに欠失）。

蓋（1）は焼成時のひずみがあるが、口径9.4cm、器高2.4cmを測る。天井部は偏平で、先端の丸いつまみを有する。口縁部内面には断面三角形のかえりがある。口縁部から体部にかけては横ナデ、天井部はヘラ削りが施されている。

高坏（2～5）には2種の形態があるが、いずれも無蓋のものである。2・3は小型の高坏で、器形の細部には差異がある。2は口径9.3cm、底径6.7cm、器高7.8cmを測る。3は口径7.6cm、底径6.1cm、器高7.8cmを測り、器高を除いて2よりわずかに小さい。2は坏部に1条の、3は2条の凹線を巡らす。3には脚部中位にも2条の凹線がある。

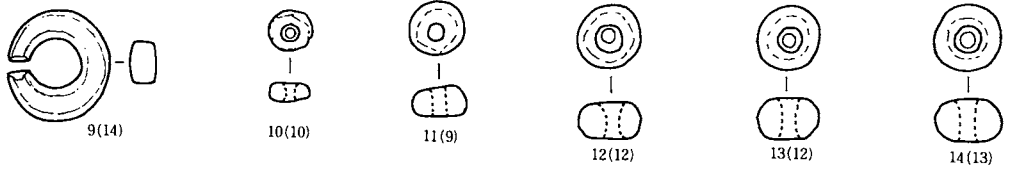


付論第4図 年の神2号墳出土遺物実測図 ()は出土地点番号、第3図参照

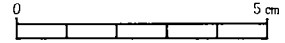
4は脚部を失っているが、坏部は内彎気味で丸味をもつ。焼成時のひずみが著しく、内面に自然釉が付着している。脚部上端は細く、棒状を呈する。

台付長頸壺(6~8)は3点あるが、それぞれ変化に富む。6は他に比べると頸部が短かく、底部の形態も異なる。わずかにひずみがあるが、口径7.4cm、底径7.3cm、器高14.1cmを測る。胴部の最大径は11.8cmを測り、扁球形を呈する。肩部には2条の浅い凹線を巡らす。

7は口径7.6cm、底径9.2cm前後、器高21.4~21.7cmを測る。頸部は長く、中位に2条の凹線



付論第5図 年の神2号墳出土遺物実測図
()は出土地点番号 第3図対照



を巡らす。胴部最大径は15.6cmを測り、胴部の中位にある。脚部は中位で変化するが、基本的にはハの字形に開く。胴部中位および下端はヘラ削りされている。

8は口径6.9cm、底径9.5cm、器高21.5cmを測る。7とは口頸部・胴部・脚部ともに異なる。

装身具(第5図) 金銅環(9)は小型のもので、断面は長楕円形を呈する。遺存状態は良く、かなりの光沢がある。

ガラス玉(10~14)はいずれも腐蝕し、表面は多孔質、色調は乳濁色を呈する。10は直径8~9mm、厚さ4mm前後であるが、他はやや大きく、直径11~13mm、厚さ6~9mmを測る。

3. 小 結

年の神2号墳の墳丘・石室は大きく破壊されており、墳丘の形態・規模、石室の構造等については不明な点も多い。

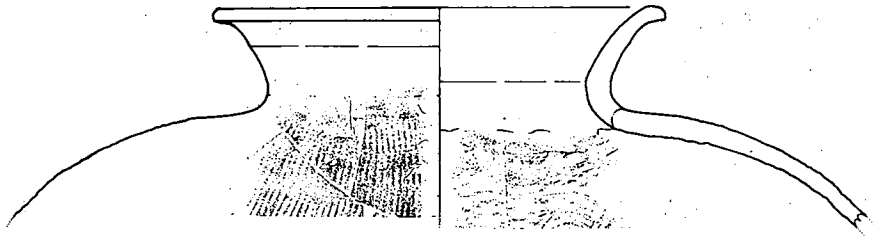
石室は横穴式であることは疑う余地がないが、羨道部構造等の詳細は不明である。隣接する1号墳は特異な構造(図版1)を呈しているが、2号墳の場合は判断の材料がない。ただ、石室全体をみた場合、共通点は指摘することができる。腰石の使用状態、死床の配置がそれで、壁材が石灰岩、仕切り石が凝灰岩という点も一致している。したがって、2号墳の全体像復原には1号墳が参考となる。

2号墳の年代を、出土須恵器を中心に検討してみたい。先に述べたように、2号墳からは8点の須恵器が出土しており、出土状態や形態の比較から一括遺物とみなされる。蓋・高坏・台付長頸壺のセット関係は一般によくみられるもので、7世紀前半に位置づけられよう。

1号墳の調査においても須恵器(4点)、金銅環(3点)、小玉(5点)、刀子、夥しい量の^{註2}人骨が出土している。

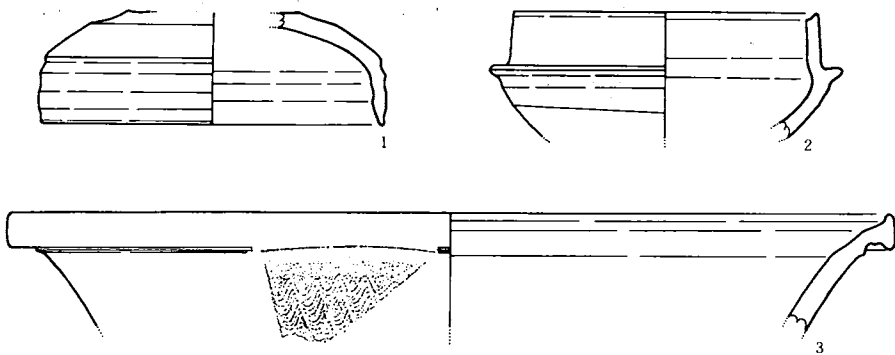
1・2号墳の須恵器を比較してみると、2号墳にやや古い要素が認められる。しかし、それは型式差というのではなく、両者の時期はきわめて近接したものと考えられる。

1号墳からは確認されたものだけでも13~14体、推定で20体以上の人骨が出土しており、上下に層をなしていたという。須恵器も上・下の層から出土しており、報告には7世紀後半~8世紀中葉の時間差を示してあるが、須恵器でみるかぎりには7世紀代に収まると考える。いずれにしても、2号墳においては夥しい人骨が出土し、追葬が行われているが、2号墳においてはどうかであろうか。



付論第6図 西平古墳出土須恵器実測図

0 10cm



付論第7図 年の神貝塚(上層)出土須恵器実測図

0 10cm

2号墳から出土した須恵器には時間差は認め難く、出土状態も一括理納を考えさせる。ただし、断片的にはあるが、奥及び西側の死床にそれぞれ人骨片が認められ、追葬の可能性も否定できない。その場合も、前後の幅はさほど考えられない。

周辺の遺跡に目を転じると、北西約500mに西平古墳がある。年の神古墳より高所に位置するが、ミカン園造成によって潰滅状態である。わずかに奥壁・側壁の一部が残るのみで、遺存状態は年の神2号墳より悪い。石室内から採集した須恵器を第6図に示しておく。西平古墳は年の神古墳に先行する可能性が強い。

第1図に示した範囲内での古墳は西平古墳と年の神1・2号墳の3基である。これに対応して生活遺跡もやや稀薄な感がある。

しかし、年の神古墳の北側には、年の神古墳と並行する時期の貝塚(第2図D)があり、多量の土師器・須恵器が出土している。この貝塚は丘陵斜面に形成されており、それに伴う集落はすでに削平され実態は不明であるが、年の神古墳に直結する集落と考えるとよからう。また、この貝塚の上層からは、層位が逆転して古式の須恵器(第7図)が出土している。南方約500mの中小野遺跡^{註3}A地区では6世紀代の住居跡が確認されている。さらにその前段階の遺跡としてさらに南方に立田遺跡^{註4}と高倉遺跡^{註5}が知られている。

この地域は全体的に弥生～古墳の遺跡は少なく、宇土半島基部、八代の古墳群地帯の中間に

位置する緩衝地帯の感はぬぐい去れない。しかし、上述の遺跡の資料を体系化することによって、この地域の歴史はより具体相をおびてくる。その視点からみると、年の神2号墳の占める位置は大きいといわざるを得ない。

また、年の神2号墳の須恵器は、一括資料と認定され、窯跡資料の空白を埋める好資料であることを付記する。

- 註 1. 富樫卯三郎・松本雅明「小川町年ノ神古墳—20体近くの人骨の出土」、『熊本史学』第15・16合併号、昭和34年
2. 註1に同じ。
3. 江本直「中小野遺跡」、『中小野・矢ノ下・目抜・アケサン』、熊本県文化財調査報告第39集、昭和55年。
4. 佐藤伸二「中九州に於ける弥生終末期土器の諸問題」、『熊本史学』第35・36合併号、昭和45年。
5. 註4に同じ。

〔付記〕 本古墳の調査・資料整理は松本が担当し、執筆は松本と勢田が共同。

版 图



1. 東方より見る
柿の木の近くに
に石室あり。



2. 西方より見る。



3. 北方より見る。



1. 南方より見る。



2. 西方より見る。



3. 東方より見る。

図版2 境2号墳



1. 玄門部



2. 西側周溝



1. 東側周溝上面検出



2. 東側周溝発掘終了



1. 東側周溝中



2. 前庭部



1. 裁代採後



2. 発掘当初



3. 発掘後
北方より見る。



4. 発掘後
東方より見る。



1. 発掘当初



2. 発掘終了後



1. 北側半分



1. 南側半分
(縄文時代
遺物包含
層発掘)



2. 縄文時代
遺物出土
状態



1. 1号竖穴住居址



2. 2号竖穴住居址



3. 1·2号竖穴住居址



1. 3号竖穴住居
址石包丁出土
状态



2. 4号竖穴住居
址遺物出土状
態



3. 3・4号竖穴
住居址



1. 南方より見る
(表土排除直後)



2. 東方より見る
(表土排除直後)



3. プラン検出

4. 西方より見る
(発掘終了)



1. 南側半分
(東より見る)



2. 北側半分
(東より見る)

3. B地区全体
(北より見る)



図版12 B地区検出の柱穴群



1. 3号溝
北側より見る



4. 5号溝遺物
出土状態



2. 3号溝



5. 5号溝末端



3. 3号溝
南側より見る



6. 7号溝

1. 遺構検出状態
東方より見る



2. 井戸4

3. 井戸7



4. 井戸8

図版14 井戸状遺構



1. 井戸4石組

2. 洗場3
遺物出土状態



3. 洗場5

4. 井戸9
井戸状遺構末端部



図版15 井戸状遺構



1. 調査前



2. 表土排除中



3. 発掘調査終了後



1. 東方より見た柱穴群



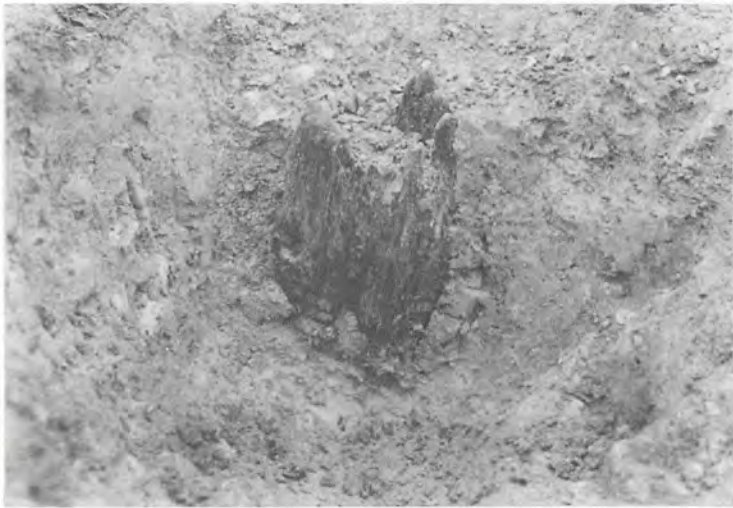
2. 西方より見た柱穴群

図版17 C地区検出の柱穴群



1. 7-ホ、L-1ピット
柱根のC¹⁴測定結果
535±80Y.B.P.
(520±80)
(測定番号N3051)

2. 7-ホ・S-1ピット
瓦質土器出土



3. 7-ホ・L-10ピット
柱根のC¹⁴測定結果
270±75Y B.P.
(265±70)
(測定番号N3050)

1. 第1号
土塚墓



2. 第2土塚墓



3. 製鉄遺構



図版19 土塚墓・製鉄遺構



1. 土師器土器溜



2. 葉研・瓦質土器出土状態



図版20 C地区発掘状態

3. 第1・3号溝



1. 7-ハ・ニ
グリッド
炉址近く



2. 7-ハ・ニ・ホ
グリッド
上記1の反対
側を見る



3. 11-ハ・ニ・ホ
グリッド



1



2



3



4



5



6



7

图版22 境2号墳出土遺物（須恵器）



× 1/2

図版23 境2号墳出土遺物 (須恵器)



1



2

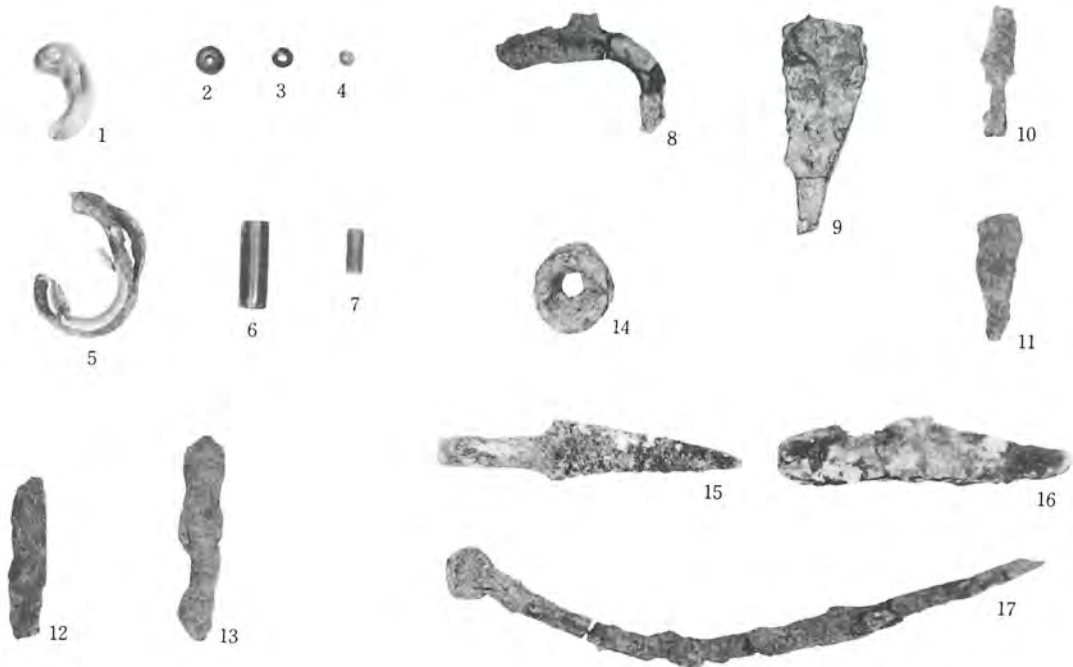


3

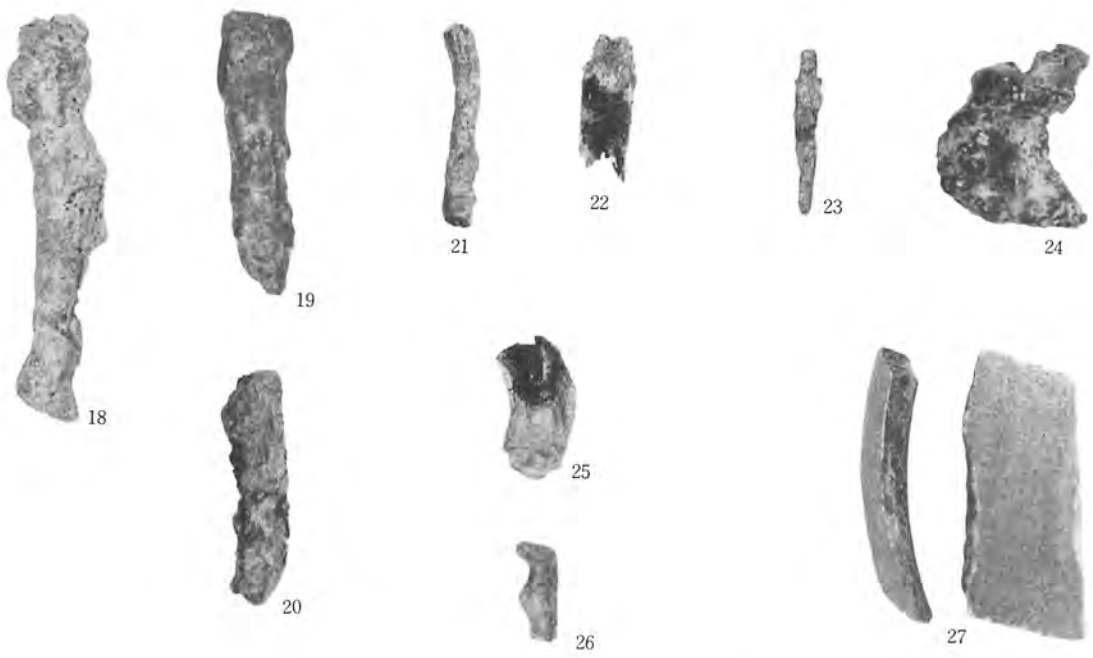


4

1~3 高杯2号墳出土
4 台付壺4号墳出土



1～7 飾飾身具・2号墳出土 8 馬具2号墳出土
 9～16 武具2号墳出土 17 不明2号墳出土
 18～26 鉄片境遺跡出土 27 銅釉陶器片境遺跡B地区出土



図版25 境2号墳・境遺跡出土遺物（飾身具・武具・鉄器）



1



2



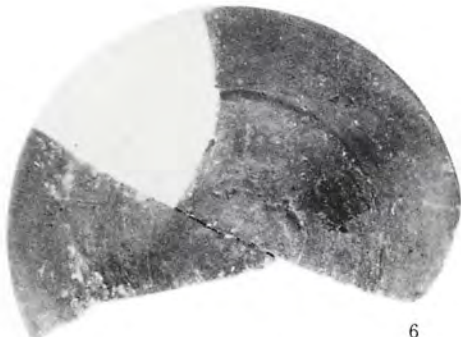
3



4



5



6



7



8



9



10



11



12



13



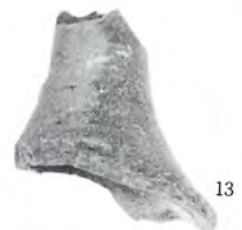
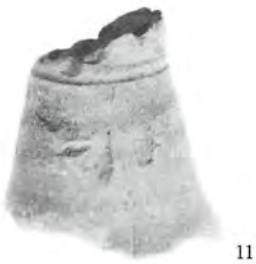
14



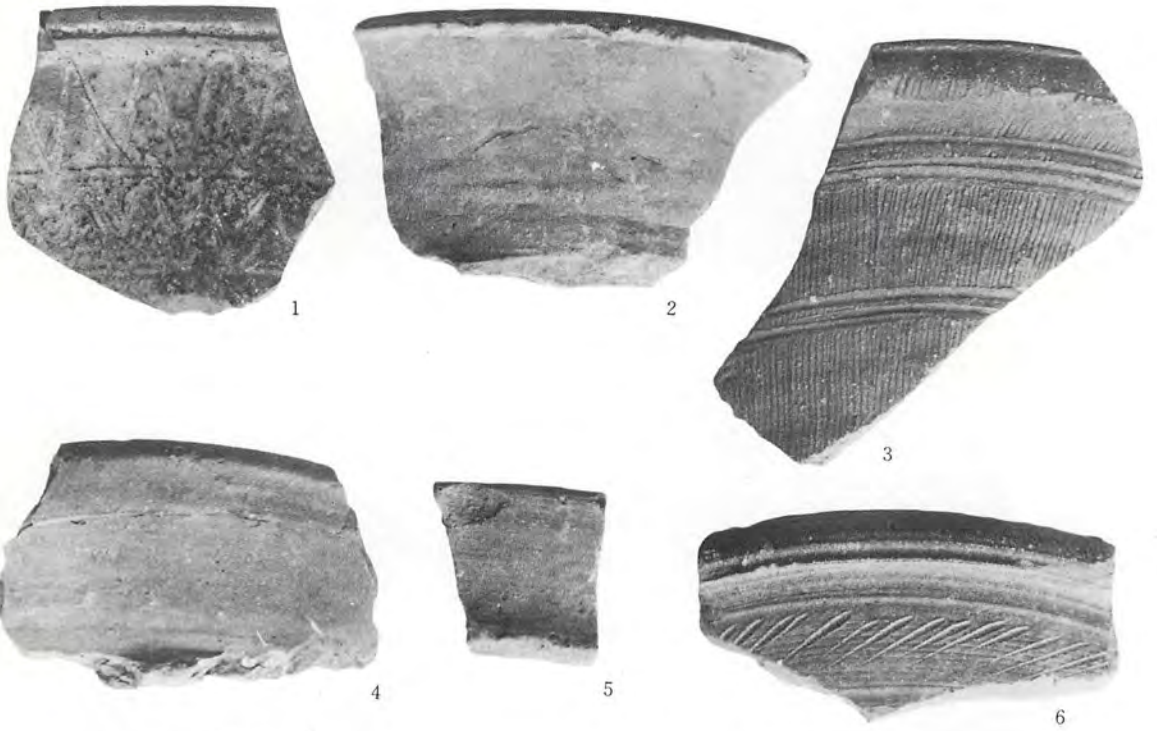
15

1~14 坏盖 15 壶盖

图版26 境3号墳出土遺物(須惠器)



图版27 境3号填出土遺物(須惠器)



- 1~6 須恵器甕
- 7 須恵器提瓶
- 8~10 土師器高坏
- 11 土師器長頸壺

図版28 境3号墳出土遺物（須恵器・土師器）

× 1/2



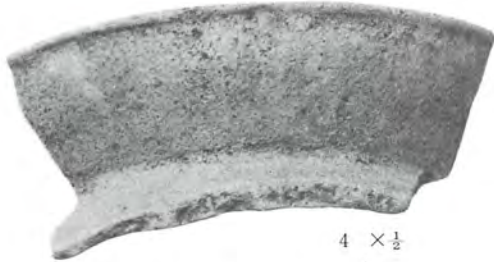
1 × ½



2 × ½



3 × ¼



4 × ½



5 × ½

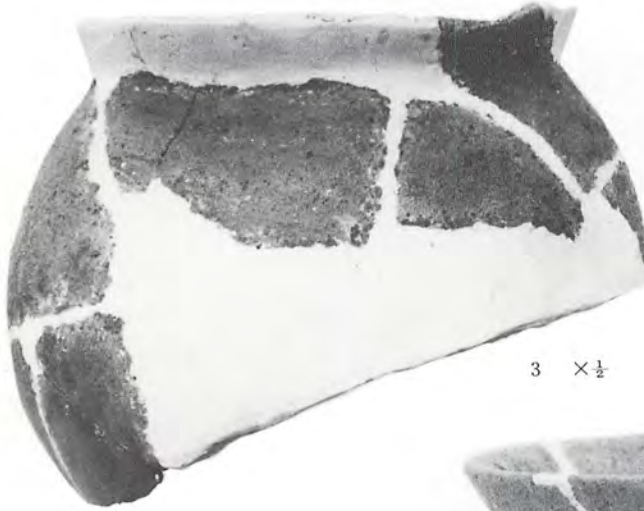
1.2 3号竖穴住居址出土
3.4.5 4号竖穴住居址出土



1 × 1/2



2 × 1/2



3 × 1/2



4 × 1/2



5 × 1/2

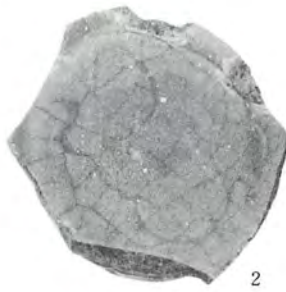


6 × 1/2

図版30 土師器土器溜出土遺物



1



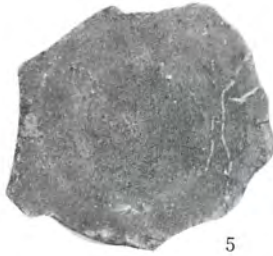
2



3



4



5



6



7



8



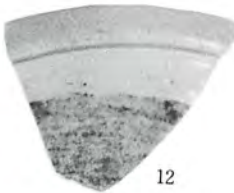
9



10



11



12



13



14



15

1~10 青磁
11~18 白磁



16



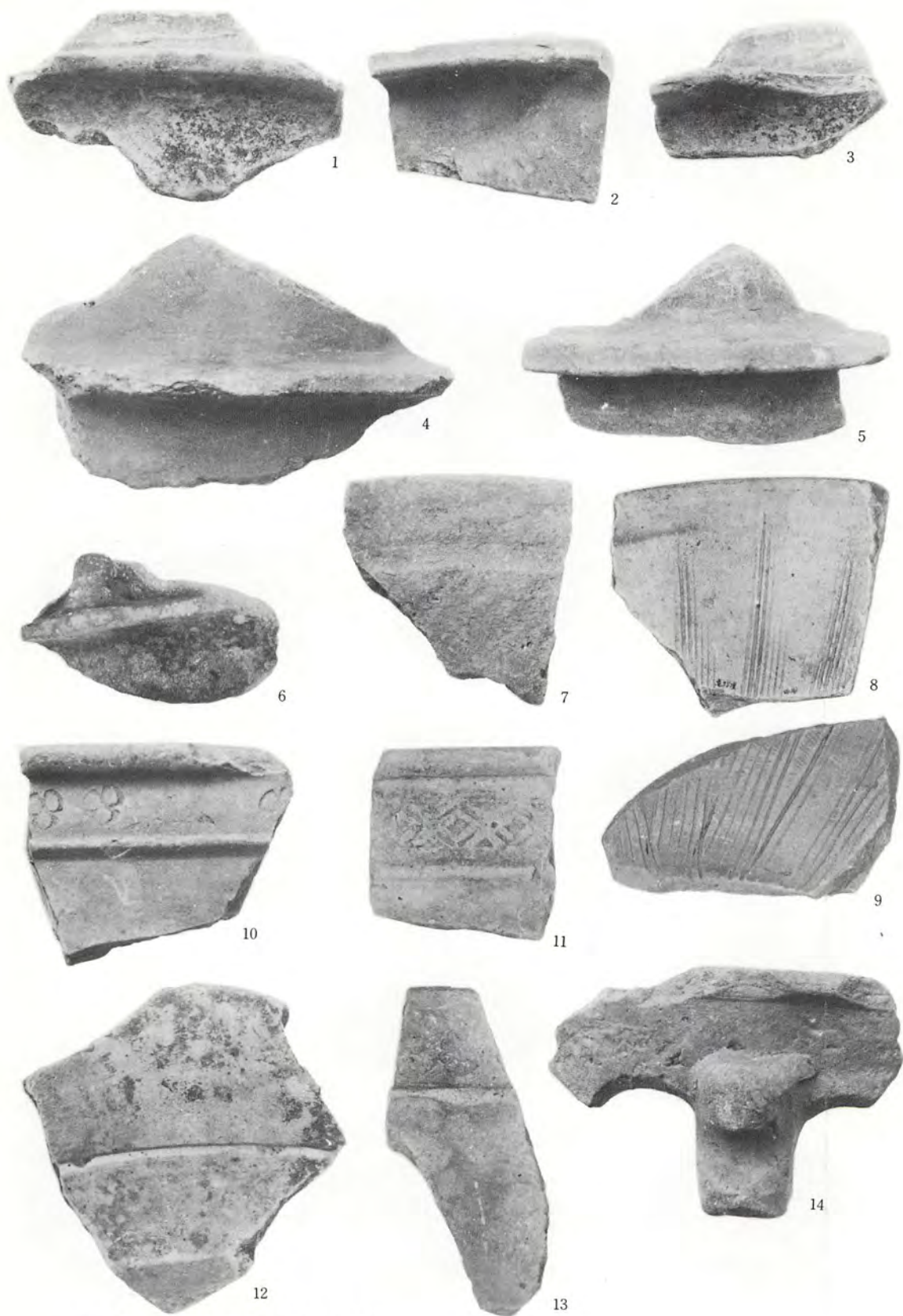
17



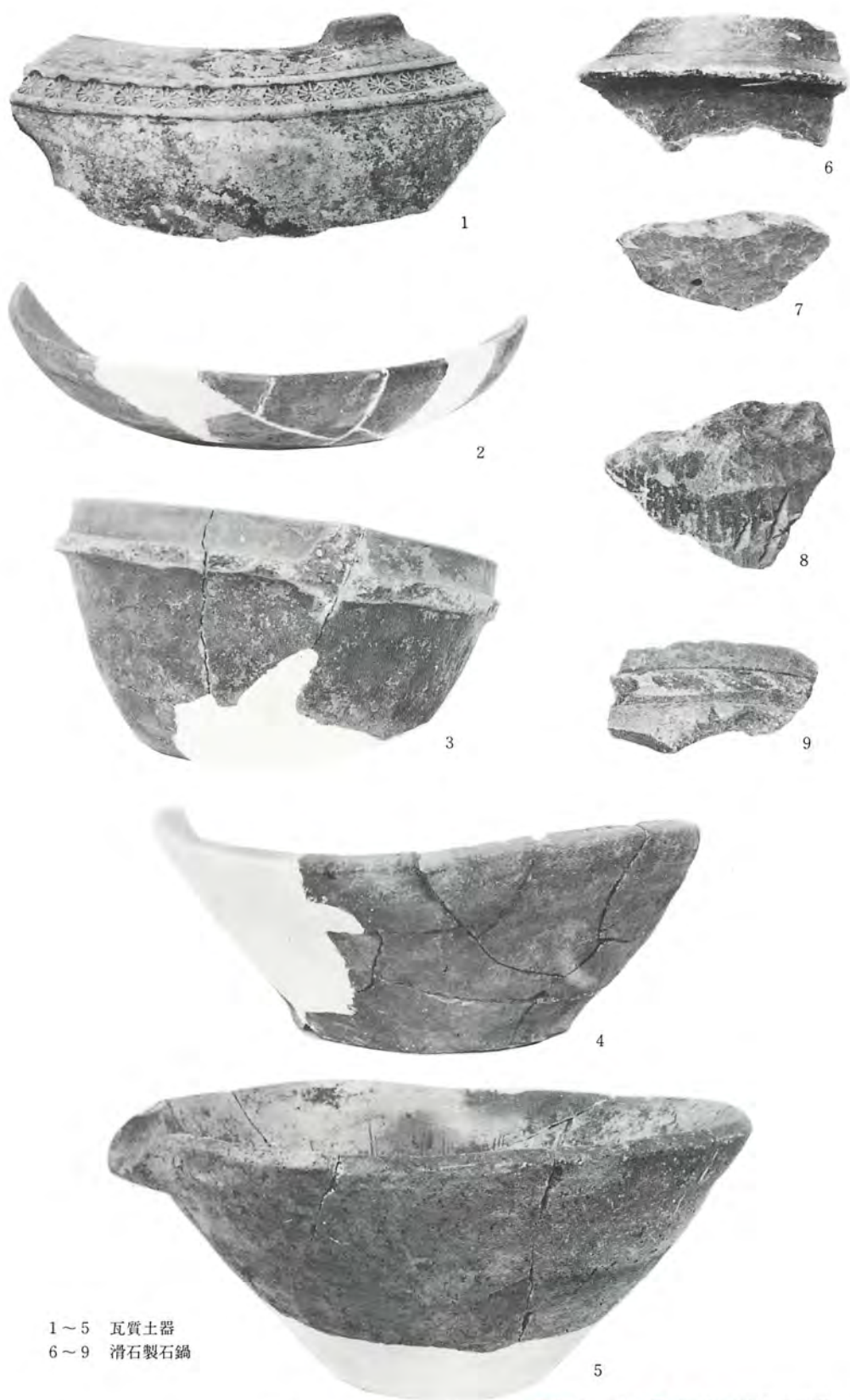
× $\frac{1}{2}$

18

图版31 境3号墳出土遺物（青磁・白磁）



図版32 境3号墳出土遺物 (瓦質土器)



1~5 瓦質土器
6~9 滑石製石鍋

× 1/2

図版33 境3号墳、境遺跡出土遺物



図版34 境遺跡(A・C地区)出土遺物(縄文土器)



1



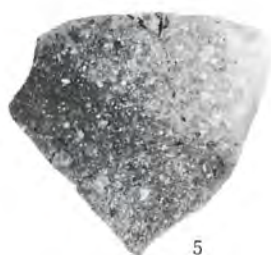
2



3



4



5



6



7



8



9

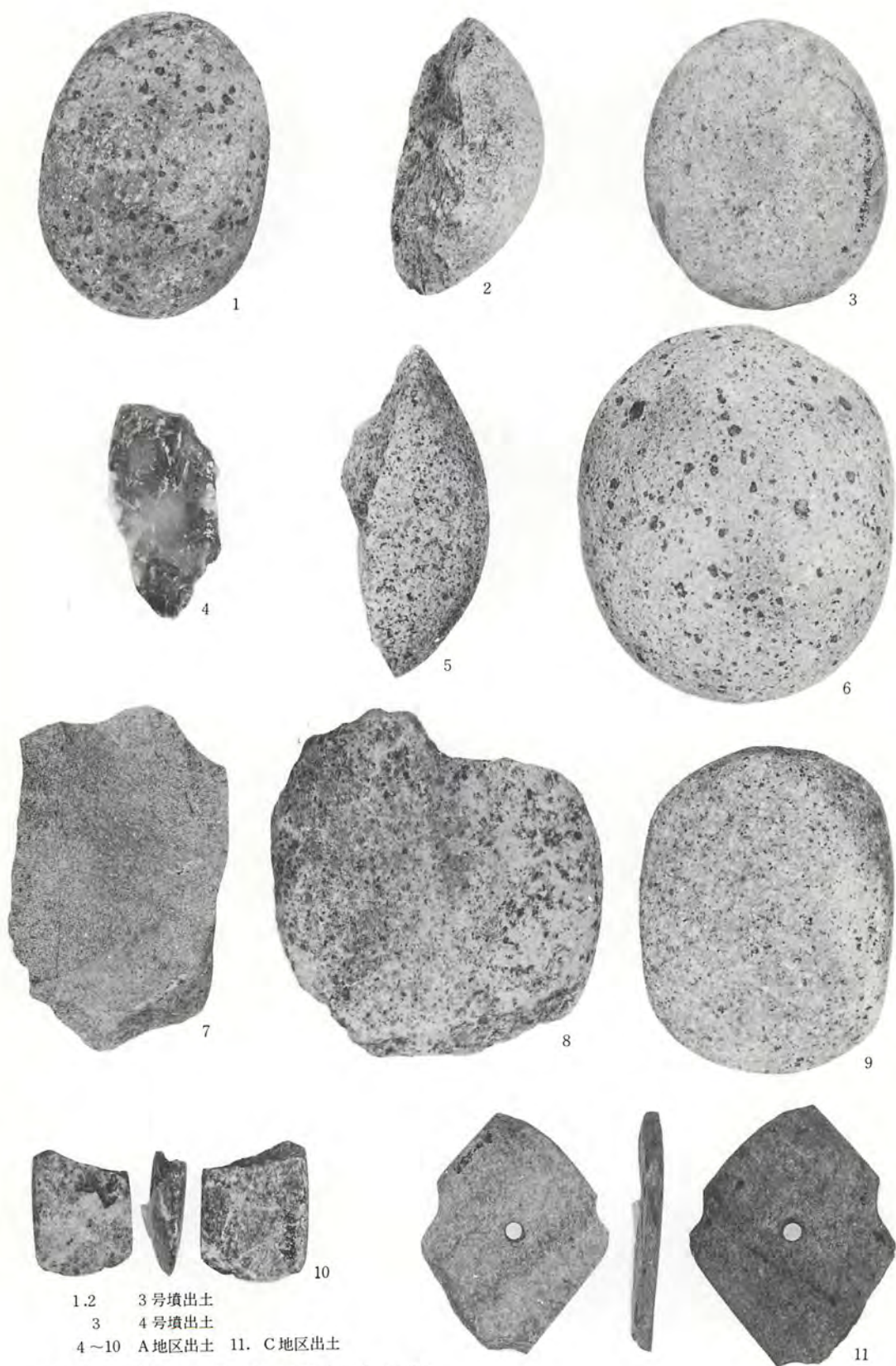


10



11

図版35 境遺跡(A・C地区)出土遺物(縄文土器)



1.2 3号墳出土
 3 4号墳出土
 4~10 A地区出土 11. C地区出土

図版36 境3・4号墳、境遺跡出土遺物(石器)



1~5 C地区出土
6~8 井戸状遺構出土

図版37 境遺跡出土遺物(磨石・砥石)



1

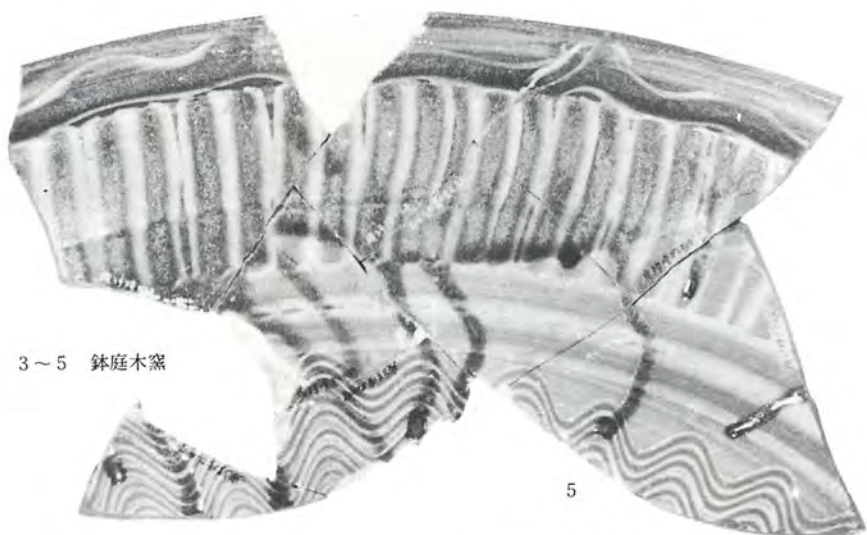
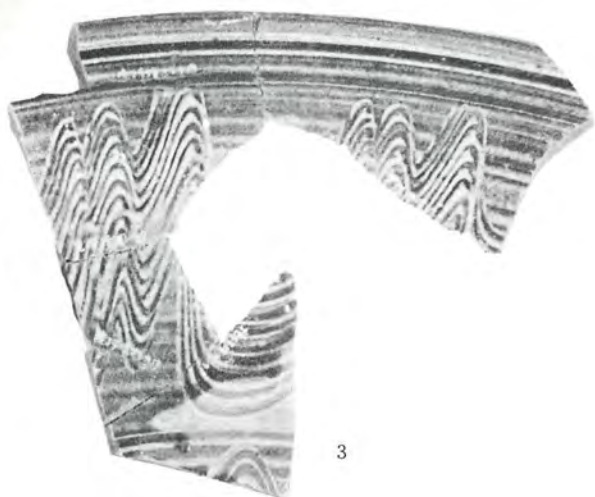
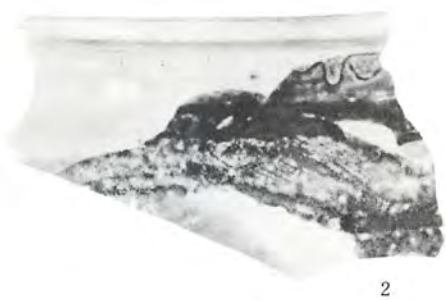


2



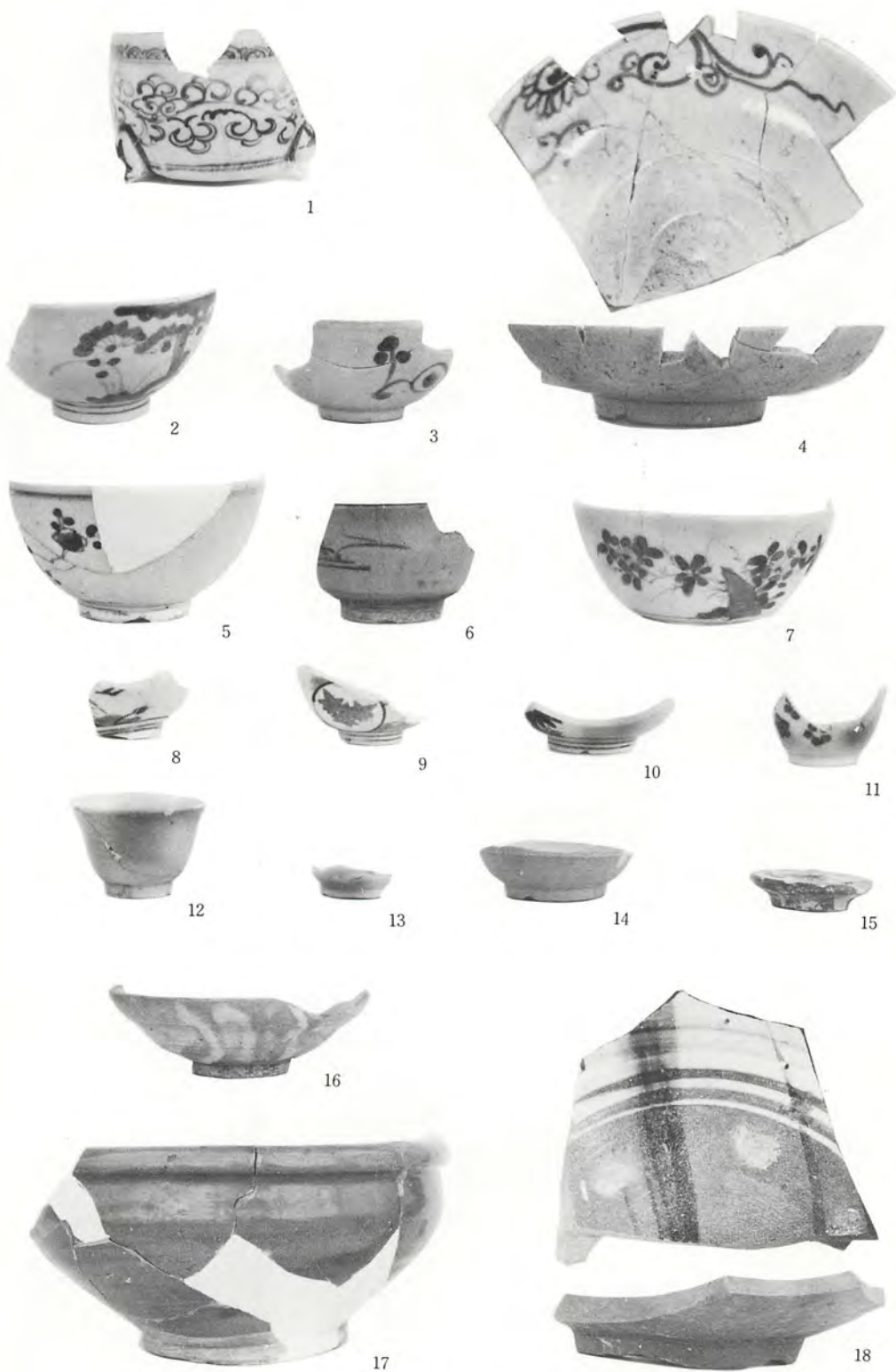
3

图版38 境遺跡出土遺物

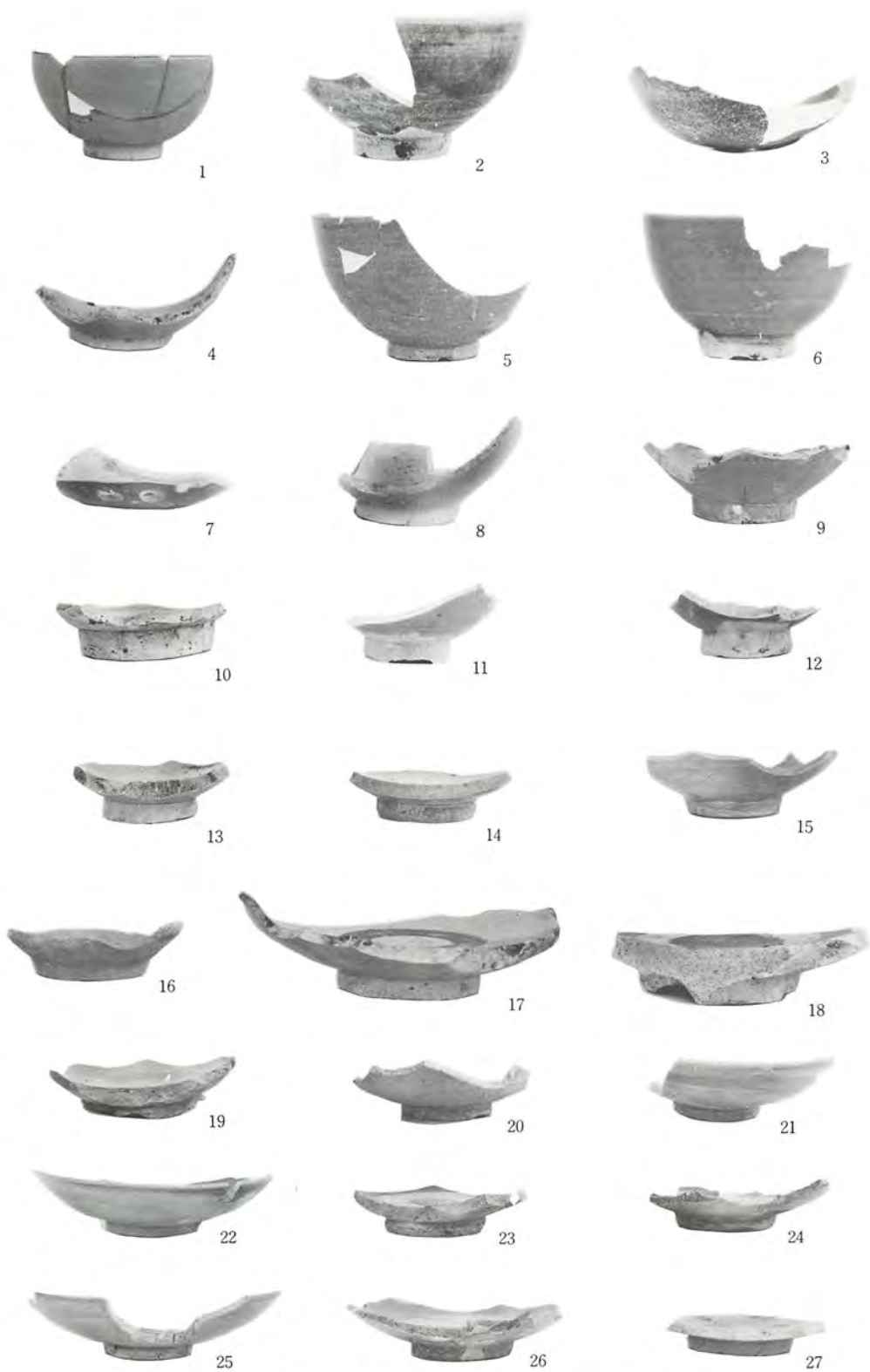


1.2 斐庭木窰 3~5 鉢庭木窰

× $\frac{1}{2}$



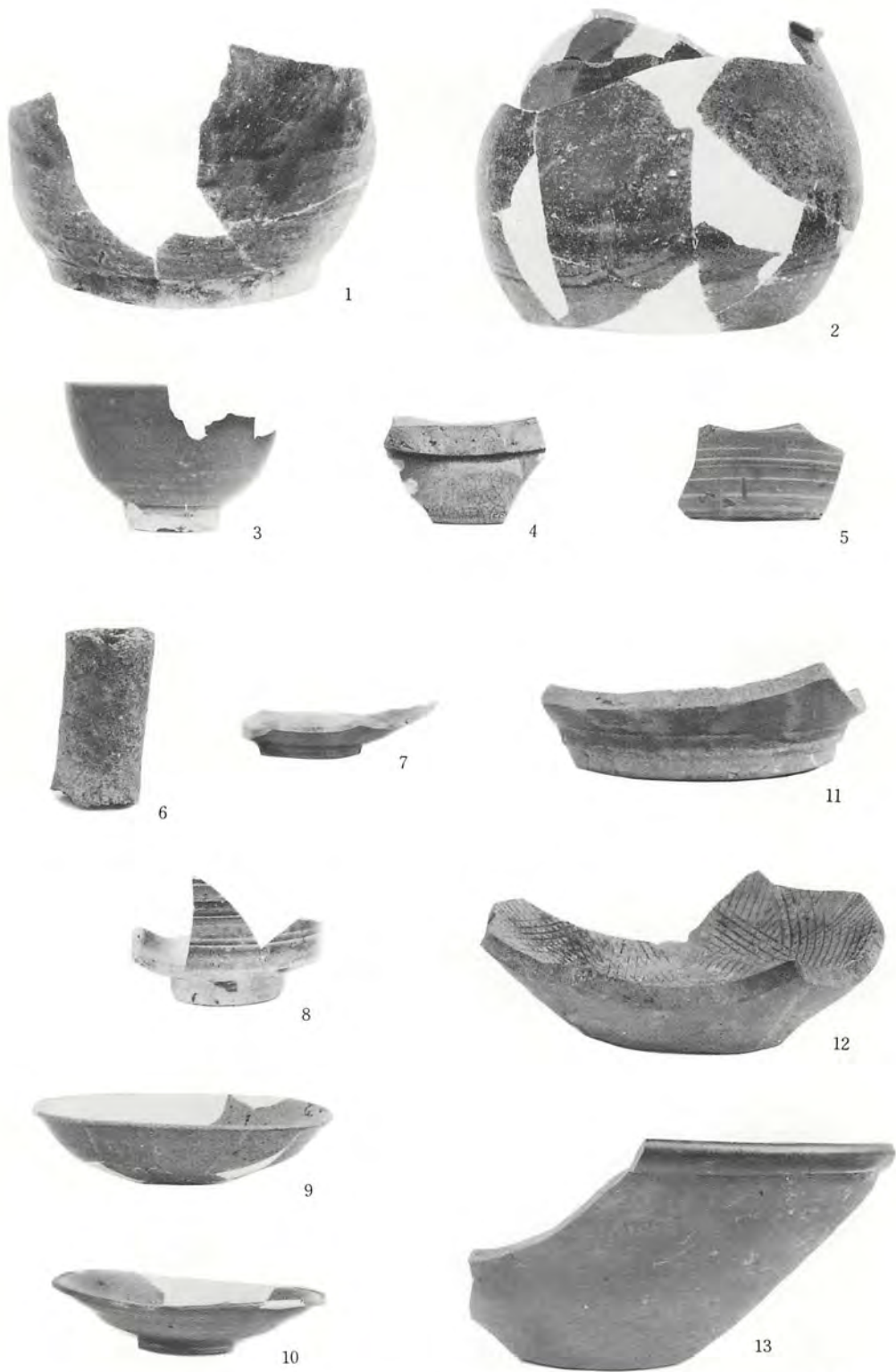
1. 明代の染付、第2土坑墓出土 2~11. 古伊万里染付 12・13. 白磁・平土焼 14. 瓶・窯不明
15. 灯明皿 16. 唐津? 17. 片口・窯不明 18. 鉢



1. くらわんか茶碗・外山窯? 2. 嬉野焼・内野山窯鉄釉 3~26. 嬉野焼・内野山窯・銅釉と灰釉
27. 唐津?

× $\frac{1}{3}$

図版41 境遺跡出土遺物 (近世陶磁器)



1. 植木鉢・小岱焼?・2号墳出土 2~13. 3号墳出土 2. 壺・黒牟田窯 3. 嬉野焼・内野山窯
 4. 台鉢・献上唐津 5. 化粧徳利 6. 窯道具 7. 唐津 8. 香立て 9・10. 高麗青磁(季朝)
 11~13. 播鉢

図版42 境2・3号墳出土遺物(近世陶磁器)



付論図版1 年の神遺跡群全景(上)・年の神1号墳(下)



付論図版2 年の神2号墳石室



付論図版3 年の神2号墳石室



付論図版4 年の神2号墳出土遺物

境古墳群・境遺跡

熊本県文化財調査報告—42集—

昭和55年3月31日

発行 熊本県教育委員会
熊本市水前寺6丁目18番1号

印刷 印刷協業組合サン・カラー
熊本市御領町730 ☎80—8131

この電子書籍は、熊本県文化財調査報告第 42 集を底本として作成しました。閲覧を目的としていますので、精確な図版などが必要な場合には底本から引用してください。

底本は、熊本県内の市町村教育委員会と図書館、都道府県の教育委員会と図書館、考古学を教える大学、国立国会図書館などにあります。所蔵状況や利用方法は、直接、各施設にお問い合わせください。

書名：境古墳群 境遺跡

発行：熊本県教育委員会

〒862-8609 熊本市中央区水前寺 6 丁目 18 番 1 号

電話： 096-383-1111

URL： <http://www.pref.kumamoto.jp/>

電子書籍制作日：2016 年 3 月 31 日